

2020年度  
社会健康医学系専攻シラバス

京都大学大学院医学研究科

## 2020年度 京都大学アカデミックカレンダー

前期始まり	◇ 4月1日（水）
年度当初調整期間	◇ 4月2日（木）～7日（火）
前期授業	◇ 4月8日（水）～7月22日（水）
創立記念日	◇ 6月18日（木）
試験・フィードバック期間	◇ 7月23日（木）～8月5日（水）
夏季休業	◇ 8月6日（木）～9月30日（水）
前期終わり	◇ 9月30日（水）
後期始まり	◇ 10月 1日（木）
後期授業	◇ 10月 1日（木）～1月25日（月）
11月祭	◇ 11月下旬 授業休止（予定）：11月19日（木）・20日（金）
冬季休業	◇ 12月29日（火）～1月3日（日）
試験・フィードバック期間	◇ 1月26日（火）～2月8日（月）
修士・博士学位授与式	◇ 3月23日（火）
卒業式	◇ 3月24日（水）
後期終わり	◇ 3月31日（水）

注：調整期間は原則として次の内容を考慮する。

年度当初調整期間：ガイダンス等を行う。

### ※学部入試に伴う授業休止について

前期日程試験

準備日：2021年2月24日（水）

試験日：2021年2月25日（木）～27日（土）

◇目 次◇

社会健康医学系専攻について	1
社会健康医学系専攻専門職学位課程 全授業科目一覧表	4
専門職学位課程特別コース及び特別プログラムについて	
〈特別コース〉	
I. 臨床研究者養成（MCR）コース	8
臨床研究者養成（MCR）コース 授業科目一覧表	9
II. 遺伝カウンセラーコース	10
遺伝カウンセラーコース 授業科目一覧表	11
III. 臨床統計家育成（CB）コース	12
臨床統計家育成コース 授業科目一覧表	13
〈特別プログラム〉	
I. 知的財産経営学プログラム	14
知的財産経営学プログラム 授業科目一覧表	15
II. 医療経営ヤングリーダー・プログラム	16
III. ゲノムインフォマティシャンプログラム	16
社会健康医学系専攻 前期時間割 全教科	17
社会健康医学系専攻 後期時間割 全教科	18
 社会健康医学系専攻 授業科目内容	19
【MPHコア】	
疫学 I （疫学入門）	20
疫学 II （研究デザイン）	20
医療統計学	21
感染症疫学	21
産業・環境衛生学	21
医療制度・政策	22
社会健康医学と健康政策	22
医薬政策・行政	23
保健・医療の経済評価	23
世界における医療制度・政策	24
行動科学	24
基礎医療倫理学	25
医学コミュニケーション・基礎	25
【MPH必修】	
医学基礎 I 「生理学 I」	26
医学基礎 I 「解剖学」	26
医学基礎 I 「神経生理学 I」	27
医学基礎 II	27
臨床医学概論	27
【MPH選択】	
医療統計学実習	28
観察研究の統計的方法	28
文献検索法	29

文献評価法	29
ヘルスサイエンス研究の進め方	30
医療の質評価	30
毒性学入門	31
医療社会学・基礎	31
統計遺伝学 I	32
臨床試験	33
統計家の行動基準	34
健康デザイン論	34
統計的推測の基礎	35
生存時間解析	35
統計モデルとその応用	36
行政医学・産業医学	36
多重性の考え方	37
遺伝医療と倫理・社会	37
基礎人類遺伝学	38
臨床遺伝学・遺伝カウンセリング	38
遺伝医学特論（集中講義）	39
社会疫学 II	39
人間生態学	40
交絡調整の方法	40
解析計画実習	41
地域保健医療福祉論	41
国際保健学	42
毒性学	42
ベンチトレーニングコース	42
医薬品・医療機器の開発計画、薬事と審査	43
医薬品の開発と評価	43
ゲノム科学と医療	44
医療倫理学各論	44
統計遺伝学 II	45
健康情報学 I	46
健康情報学 II	47
医学コミュニケーション演習	47
エビデンスユーザ入門	48
質的研究入門	48
環境・感染症論	49
行動経済学と健康医療介護	49
臨床試験の統計的方法	50
フィールドワーク	50
社会健康医学課外実習	51
【限定】	
医療経営特別カリキュラム I	51
医療経営特別カリキュラム II	52
医療経営ケーススタディ	52

<b>臨床研究者養成（MCR）コース 授業科目内容</b>	53
<b>【MCR必修】</b>	
臨床研究計画法 I	54
臨床研究計画法演習 I	54
医療技術の経済評価	55
臨床研究計画法 II	55
<b>【MCR選択】</b>	
臨床研究計画法演習 II	56
EBM・診療ガイドライン特論	56
臨床研究データ管理学	57
臨床研究特論	57
系統的レビュー	57
データ解析法特論	58
<b>遺伝カウンセラーコース 授業科目内容</b>	59
<b>【GC必修】</b>	
基礎人類遺伝学演習	60
臨床遺伝学演習	60
遺伝カウンセラーコミュニケーション概論	61
遺伝カウンセリング演習 1	62
遺伝カウンセリング演習 2	62
遺伝カウンセリング実習 1	63
遺伝カウンセリング実習 2	64
<b>臨床統計家育成（CB）コース 授業科目内容</b>	65
<b>【CB必修】</b>	
臨床研究実地研修 I	66
臨床研究実地研修 II	67
<b>【CB選択】</b>	
臨床統計家の実務スキル	67
統計的推測の基礎・演習	68
メタアナリシス	68
<b>知的財産経営学プログラム 授業科目内容</b>	69
<b>【知財必修】</b>	
アントレプレナーシップ	70
メディカル分野技術経営学概論	70
特許法特論・演習（前期）	71
特許法特論・演習（後期）	72
契約実務演習	72
知的財産法演習	73

<b>【知財選択】</b>	
知的財産経営学 基礎 · · · · ·	73
アントレプレナーシップ特論 · · · · ·	74
 <b>FY 2020 Syllabi for Master Course · · · · ·</b>	 <b>75</b>
Mission and educational program of the Kyoto University School of Public Health · · · · ·	76
Curriculum for Master Course in the fiscal year of FY2020 · · · · ·	80
 Epidemiology I · · · · ·	88
Epidemiology II · · · · ·	88
Fundamentals of Biostatistics · · · · ·	89
Infectious Disease Epidemiology · · · · ·	89
Occupational health and environmental health sciences · · · · ·	89
Healthcare System and Policy · · · · ·	90
Health Policy and Academia · · · · ·	90
Drug Policy and Regulation · · · · ·	91
Economic Evaluation in Health Care · · · · ·	91
Healthcare Systems and Policies around the World · · · · ·	92
Behavioral Science · · · · ·	92
Basic Medical Ethics · · · · ·	93
Medical Communication: Introduction · · · · ·	93
Basic Medicine I (Anatomy) · · · · ·	94
Basic Medicine I (Physiology I) · · · · ·	94
Basic Medicine I (Neurophysiology I) · · · · ·	94
Basic Medicine II · · · · ·	95
Introduction to Clinical Medicine · · · · ·	95
Introduction to Statistical Computing and Data Management · · · · ·	96
Statistical Methods for Observational Studies · · · · ·	96
Literature Research · · · · ·	97
Critical Appraisal · · · · ·	97
Methods of Health Science Research · · · · ·	98
Evaluation of Quality in Health Care · · · · ·	98
Introduction to Toxicology · · · · ·	99
Medical Sociology · · · · ·	99
Statistical Genetics I · · · · ·	100
Clinical Trial · · · · ·	100
Statisticians Standard of Conducts · · · · ·	101
Designing Health communication · · · · ·	101
Fundamentals of Statistical Inference · · · · ·	102
Survival Analysis · · · · ·	102
Statistical Modeling and Applications · · · · ·	103
Medical Doctors in Government and Occupational Settings · · · · ·	103
Multiplicity in clinical trials · · · · ·	104
Genetic Medicine, Ethics and Society · · · · ·	104
Introduction to Human Genetics · · · · ·	105
Clinical Genetics and Genetic Counseling · · · · ·	106

Special Seminar for Genetic Medicine	106
Socio-epidemiology II	107
Field Medicine	107
Intermediate Biostatistics	108
Health Data Processing Laboratory	108
Health, Medical and Welfare System	109
International Health	109
Toxicology	110
On the Bench Training Course	110
Development strategy, plan, and regulatory affairs of drugs and medical devices	111
Drug Development, Evaluation and Regulatory Sciences	111
Genome Science and Medicine	112
Practicum for Clinical Genetics	112
Statistical Genetics II	113
Health informatics I	114
Health informatics II	114
Applied Medical Communication	115
Introduction to EBM: How to use evidence in your daily life	115
Introduction to Qualitative Research	116
Environment and Infection	116
Behavioral Economics in Health and Care	117
Statistical Methods in Clinical Trials	117
Fieldwork	118
Field Training for Public Health Practice	118
Healthcare management Special Curriculum I	118
Healthcare management Special Curriculum II	119
Case Studies in Healthcare Management	119
Seminar in Study Design I	120
Special Seminar in Study Design I	120
Economic Evaluation of Medical Technologies	121
Seminar in Study Design II	121
Special Seminar in Study Design II	122
Special Lectures on EBM and clinical practice guidelines	122
Data Management for Clinical Research	123
Clinical research advanced	123
Systematic Reviews	124
Special Seminar of Data Analysis	124
Fundamental Human Genetics, exercise	125
Clinical Genetics,Exercise	125
Communication for Genetic Counselors	126
Genetic Counselling, Exercise 1	127
Genetic Counselling, Exercise 2	127
Genetic Counselling, Practice 1	128
Genetic Counselling, Practice 2	129
Practical Skills for Clinical Biostatisticians	130
Clinical Research Training I	130
Clinical Research Training II	131
Practicum in Fundamentals of Statistical Inference	132

Meta-analysis	133
Entrepreneurship	133
Introduction to Technology Management in Medical Science	134
Special Lecture and Practicum for the Patent Law I	134
Special lecture and practicum for the Patent Law II	135
Business Contract Practice	135
Practicum for Intellectual Properties Protection Law	136
Intellectual Property Management in Medical Science	136
Special Lecture for Entrepreneurship	137
<b>2020年度人間健康科学系専攻科目及び他部局開講科目（公共政策大学院科目）における 社会健康医学系専攻学生の受講について</b>	<b>139</b>
<b>科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」推進事業 「公共圏における科学技術・教育研究拠点」</b>	
<b>教育プログラム 授業科目</b>	<b>141</b>
現代社会と科学技術A	142
現代社会と科学技術B	142
科学技術イノベーション政策総合演習	143
研究プロジェクト	143
政策のための研究方法論（政策）	143
「医療政策の ELSI」[ELSI イシュー科目群]（政策）	144
科学技術コミュニケーション演習	144
<b>「グローバルヘルス学際融合ユニット」教育プログラム 授業科目</b>	<b>145</b>
グローバルヘルス通論	146



## ◆社会健康医学系専攻について

(<http://sph.med.kyoto-u.ac.jp/>)

### 1. 本専攻の概要

社会健康医学系専攻の使命は、医学・医療と社会・環境とのインターフェースを機軸とし以下の活動とその相互作用を通じて、人々の健康と福祉を向上させることである。

#### ○教育 (Teaching)

社会健康医学に関わる実務、政策、研究、教育において専門的かつ指導的役割を身につける幅広い教育を行う。

#### ○研究 (Research)

人々の健康に関わる経済、環境、行動、社会的要因についての知識を深め、新しい知識と技術を生み出す。

#### ○成果の還元 (Translating Research into Practice and Policy)

その成果を健康・医療に関わる現実社会の実践方策と政策に還元する。

#### ○専門的貢献 (Professional Practice)

専門の知識と技術を持って、個人・組織・地域・国・世界レベルで貢献する。

健康に関する問題は非常に広い範囲にわたっており、本専攻の教員、学生のテーマや専門性も多岐に渡っている。本専攻には、定量的評価に不可欠な疫学、統計に関する基礎領域から、ゲノムや環境とのかかわり、医療の質の評価や経済的評価、倫理的側面、社会への健康情報の発信、健康増進と行動変容、社会とエイズ、健康新政策と国際社会との関わりなど、さまざまな教育・研究を推進する分野が設置されている。

### 2. 教育課程

本専攻は、専門職学位課程（実務者レベル）2年と博士後期課程（研究者、教育者レベル）3年に区分され、専門職学位課程は、さらに、基幹課程である2年制 MPH コースをはじめ、1年制 MPH コース、臨床研究者養成 (MCR) コース（1年制）、遺伝カウンセラーコース（2年制）、臨床統計家育成コース（2年制）を含めて5コースに分かれている。

教育内容として、下記のコア5領域が定められており、これらの領域を構成する科目を、必修（コア領域1、2）、選択必修（コア領域3、4、5）と指定している。いずれのコースでも5領域から最低1科目（コア領域1は2科目）の履修を必要とする。

区分		科目コード	科目名	責任者	単位	備考
MPH コア 5 領域	コア領域 1	H118000	疫学 I (疫学入門)	中山	1	必修
		H119000	疫学 II (研究デザイン)	福原	1	必修
	コア領域 2	H001000	医療統計学	佐藤	2	必修
		H070000	感染症疫学	古川	1	
	コア領域 4	H124000	産業・環境衛生学	原田	1	
		H125000	医療制度・政策	今中	1	
		H128000	世界における医療制度・政策	今中	1	
		H126000	保健・医療の経済評価	今中	1	MCR コース 受講不可
		H127000	社会健康医学と健康新政策	健新政策の 運営委員会	2	
	コア領域 5	H109000	医薬政策・行政	川上	1	後期
		H075000	行動科学	渡辺	1	
		H076000	基礎医療倫理学	小杉	1	
		H077000	医学コミュニケーション基礎	岩隈	1	

※前年度以前開講科目の科目変更については、「(別表) 科目変更対応表」を確認すること。

医学研究科人間健康科学系専攻、公共政策大学院、経営管理大学院、法学研究科、アジア・アフリカ地域研究研究科、工学研究科、「グローバル生存学大学院連携プログラム」、「政策のための科学プログラム」の予め定められた科目の履修・単位取得が可能。ただし、修了に必要な単位とはならない。具体的にはシラバス巻末およびホームページを参照。

URL: <http://sph.med.kyoto-u.ac.jp/syllabus.html>

## (1) 専門職学位課程

専門職学位課程に2年以上(2年制コース)もしくは1年以上(1年制コース)在学し、下記の30単位以上を修得し、本専攻が定める教育課程を修了することが「社会健康医学修士(専門職)」取得の要件である。

なお、1年間に履修科目として登録することができる単位数の上限は、原則42単位とする。ただし、特別コース・特別プログラム(1年制MPHコース、臨床研究者養成(MCR)コース、遺伝カウンセラーコース、臨床統計家育成コース、知的財産経営学プログラム)の履修者が、特別コース・特別プログラムにおける必修科目等を履修する場合は超過を認める。その他、やむを得ない事情により履修登録上限単位数を緩和する必要がある場合には、指導教員の申し出により超過を認めることがある。

### [2年制MPHコース]

科目	「医療系」出身者*	「医療系」以外出身者
MPH コア5領域(コア領域1～5のすべての領域を含む)(注1)	10	10
MPH 必修(医学基礎I(注3)・II、臨床医学概論)(注2)	—	6
課題研究	4	4
選択(特別プログラムで指定されるものを含む)	16	10
計	30	30

\*「医療系」出身者：医学部・看護学部・歯学部・薬学部(6年制)などの医療系学部の出身者

上記以外(生物系等学部、医療系の短期大学及び医療系の専門学校出身者)で「医療系」出身者として認定を希望する場合は、入学時に申請が必要である。

(注1) MPHコア科目を10単位を超えて取得した場合は、選択科目として算入する。

(注2) MPH必修を、「医療系」出身者の学生が取得した場合、学位取得に必要な30単位に算入することはできない。

(注3) 2020年度以降はMPH必修の「医学基礎I」は開講されないため、「医学基礎I(生理学I)」「医学基礎I(神経生理学I)」あるいは「医学基礎I(解剖学)」のいずれかを取得することで「医学基礎I」に読み替えるものとする。

課題研究：専門職学位課程共通。テーマ毎に、最も適切な研究室に配属し、研究アイデアから研究プロトコールの作成、データ収集と解析、結果の考察などを経験し、プレゼンテーションを行う。プレゼンテーションを行う者は、プレゼンテーションを行う当該年度に修了見込みの者に限られる。

既修得単位の認定：本専攻では上記コア領域科目の受講を推奨しているが、他大学院における取得単位について、コア領域1～5に相当する科目を対象に最大10単位以内を既修得単位として認定する場合がある。認定を希望する場合は、入学時に申請が必要である。

### [専門職学位課程特別コース・特別プログラム]

本専攻は、下記の特別コースを有する。これらの特別コースは入試枠が異なり、入学後にコース間の移動はできない。加えて、下記の如く、本専攻が修了を認める特別プログラムがある。

これらの詳細は、別途、「◇専門職学位課程特別コース及び特別プログラムについて」に後述する。

#### <特別コース>

- 1) 1年制MPHコース (1年で修了しうるが、修了要件は上記の2年制MPHコースと同じ。)
- 2) 臨床研究者養成(MCR)コース
- 3) 遺伝カウンセラーコース
- 4) 臨床統計家育成コース

#### <特別プログラム>

- 1) 知的財産経営学プログラム
- 2) 医療経営ヤングリーダー・プログラム
- 3) ゲノムインフォマティシャンプログラム

## (2) MPH-DrPH 課程について

出願資格：1) 修士相当の学位を有する者 あるいは、2) 医師・歯科医師の内、2 年以上の臨床経験あるいは卒後臨床研修を修了した者。

上記出願資格 1)、2) の条件を満たし、専門職学位課程に引き続き本専攻博士後期課程に進学を希望する者で、学部あるいは修士の履修成績、入学試験および専門職学位課程入学後の成績も優秀であり、意欲と能力のある者は、審査を受け、本専攻博士後期課程の受験資格を認定された場合、専門職学位課程の修了要件を満し、かつ上記の博士後期課程入学試験に合格することにより、1 年次修了時点で博士後期課程に進学できる。

受験資格の認定を希望する者は、前期にコア科目 8 単位以上を取得（見込）したうえで、MPH-DrPH 課程の願書、志望理由書、指導教員の推薦書(注)と、修士相当の者は、1) 修士学位の証明と修士および学部の成績、あるいは医師・歯科医師の者は、2) 臨床経験あるいは卒後臨床研修と在職証明書を添えて 8 月 7 日（金）までに教務課大学院教務掛に提出すること（認定を希望する者は、提出に先立ち、教務課大学院教務掛に事前に相談すること）。

本課程は、あくまで、博士後期課程への進学を前提としたものであり、進学しない場合は、1 年次修了は無効となる。

(注) 課題研究に関する情報(課題名、プロトコール、進捗状況を示す資料等)は必須ではないが、推薦書に添付することができる。

## (3) 博士後期課程

博士後期課程に 3 年以上在学し、研究指導を受け、下記の所定単位を修得し、博士論文の審査および試験に合格することが「博士（社会健康医学）」取得の要件である。なお、1 年間に履修科目として登録することができる単位数の上限は、原則 42 単位とする。

科目	本専攻専門職学位課程修了者以外		本専攻専門職学位課程修了者
	「医療系」出身者※	「医療系」以外出身者	
博士課程セミナー	6	6	6
専門職学位課程 授業科目	MPH コア 5 領域 (コア領域 1-5 のすべての領域を含む)	7 (領域 1 と領域 2 は、それぞれ 2 単位)	7 (領域 1 と領域 2 は、それぞれ 2 単位)
	MPH 必修 (医学基礎 I (注 1)、医学基礎 II、臨床医学概論)	—	6
計	13	19	6

※「医療系」出身者：医学部・看護学部・歯学部・薬学部（6 年制）などの医療系学部の出身者

上記以外（生物系等学部、医療系の短期大学及び医療系の専門学校出身者）で「医療系」出身者として認定を希望する場合は、入学時に申請が必要である。

(注 1) 2020 年度以降は MPH 必修の「医学基礎 I」は開講されないため、「医学基礎 I (生理学 I)」「医学基礎 I (神経生理学 I)」あるいは「医学基礎 I (解剖学)」のいずれかを取得することで「医学基礎 I」に読み替えるものとする。

※既修得単位の認定：本専攻では上記コア領域科目の受講を推奨しているが、他大学院における取得単位について、コア領域 1～5 に相当する科目を対象に最大 7 単位以内を既修得単位として認定する場合がある。認定を希望する場合は、入学時に申請が必要である。

令和2年度 社会健康医学系専攻 専門職学位課程 全授業科目一覧表

区分	科目コード	科目名	期間		主担当教員	単位	備考	レベル
			前期	後期				
MPH コア 必修	H118000	領域1 疫学I (疫学入門)	○*		中山教授	1		基礎
	H119000	領域1 疫学II (研究デザイン)	○前半		福原講師	1		基礎
	H001000	領域2 医療統計学	○		佐藤教授	2		基礎
MPH コア 選択必修	H070000	領域3 感染症疫学	通年・集中		古川教授	1		基礎
	H124000	領域3 産業・環境衛生学	○前半		原田准教授	1		基礎
	H125000	領域4 医療制度・政策	○後半		今中教授	1		基礎
	H127000	領域4 社会健康医学と健康政策	○		健康政策の運営委員会	2		基礎
	H109000	領域4 医薬政策・行政		○前半	川上教授	1		中級
	H126000	領域4 保健・医療の経済評価	○前半		今中教授	1	MCR コース生は受講不可	中級
	H128000	領域4 世界における医療制度・政策	○前半		今中教授	1	non-Japanese OR TOEFL iBT≥100点相当	中級
	H075000	領域5 行動科学	○前半		渡辺准教授	1		基礎
	H076000	領域5 基礎医療倫理学	○前半		小杉教授	1		基礎
	H077000	領域5 医学コミュニケーション基礎	○前半		岩隈准教授	1		基礎
MPH 必修	H154000	医学基礎I (生理学I)	○前半		小杉教授	2	「医療系」以外の出身者のみいずれか一つを選択必修。(医療系は選択)	基礎
	H155000	医学基礎I (神経生理学I)		○前半	小杉教授	2		基礎
	H153000	医学基礎I (解剖学)	○前半		小杉教授	2		基礎
	H007000	医学基礎II		○	上嶋教授・河田講師	2	「医療系」以外の出身者のみ必修。(医療系は選択)	基礎
	H008000	臨床医学概論		○	渡邊講師・千葉講師	2		基礎
	(別表)	課題研究	2年次		所属分野の指導員	4		一
MPH 選択	H009000	社会疫学I	○		古川教授	2	不開講	応用
	H011000	医療統計学実習	○		佐藤教授	2		中級
	H084000	観察研究の統計的方法	○*		佐藤教授	2		応用
	H093000	文献検索法	○前半		高橋准教授	1		基礎
	H094000	文献評価法	○後半		中山教授	1		基礎
	H115000	ヘルスサイエンス研究の進め方	○*		中山教授	1		基礎
	H129000	医療の質評価	○後半		今中教授	1		中級
	H148000	毒性学入門	○		原田准教授	2		基礎
	H103000	医療社会学・基礎	○後半		岩隈准教授	1		基礎
	S004000	統計遺伝学I	集中*		山田教授	2		中級
	H112000	臨床試験	○		田中司朗教授	2		中級
	H134000	統計家の行動基準	○*		佐藤教授	1		応用
	H143000	健康デザイン論	通年・集中*		中山教授	1		応用
	H136000	統計的推測の基礎	○		佐藤教授	2		中級
	H137000	生存時間解析		集中	佐藤教授	1		応用
	H138000	統計モデルとその応用		集中	佐藤教授	1		応用
	H142000	行政医学・産業医学	集中		今中教授	2		応用
	H145000	多重性の考え方	○前半		土居准教授	1		中級
	M001000	アントレプレナーシップ	○		寺西教授	2		基礎
	M026000	メディカル分野技術経営学概論	○		山本教授	2		基礎
	M017000	知的財産経営学基礎	○		早乙女教授	2		基礎
	M021000	アントレプレナーシップ特論	集中		早乙女教授	2		応用
	M024000	特許法特論・演習(前期)	○		藤井講師	2		基礎
	N015000	遺伝医療と倫理・社会	○*		小杉教授	2		基礎
	H040000	基礎人類遺伝学	○		小杉教授	2		基礎
	N021000	臨床遺伝学・遺伝カウンセリング	○*		小杉教授	3		基礎
	N017000	遺伝医学特論(集中講義)	2年次		小杉教授	2		応用
	H019000	社会疫学II		○	古川教授	2	開講保留	応用
	H020000	人間生態学		○	坂本准教授	2		基礎
	H021000	交絡調整の方法		○	土居准教授	2		中級
	H022000	解析計画実習		○	土居准教授	2		応用

区分	科目コード	科目名	期間		主担当教員	単位	備考	レベル
			前期	後期				
MPH 選択	H133000	地域保健医療福祉論		○前半	里村准教授	2		基礎
	H028000	国際保健学		○後半	里村准教授	2		基礎
	H149000	毒性学		○	原田准教授	2		中級
	H032000	ベンチトレーニングコース (On the Bench Training Course)		○	原田准教授	2		応用
	H099000	医薬品・医療機器の開発計画、薬事と審査		○	川上教授	2		応用
	H079000	医薬品の開発と評価		○後半	川上教授	1		中級
	M004000	契約実務演習		○	阿部教授	2		基礎
	M007000	知的財産法演習		○	當麻講師	2		中級
	M025000	特許法特論・演習 (後期)		○	田中順也講師	2		中級
	M022000	ゲノム科学と医療		○	松田教授	2		応用
	N018000	医療倫理学各論		○*	小杉教授	2		応用
	S005000	統計遺伝学II	集中*		山田教授	2		中級
	H130000	健康情報学I		○	中山教授	2		中級
	H151000	健康情報学II		○*	高橋准教授	2		中級
	H098000	医学コミュニケーション演習		○	岩隈准教授	2		中級
	H132000	エビデンスユーザ入門	通年*		古川教授	2		基礎
	H156000	質的研究入門	○後半		中山教授	1		基礎
	H152000	環境・感染症論		○	山崎教授	2		中級
	H150000	行動経済学と健康医療介護	○後半		今中教授	1		応用
	H135000	臨床試験の統計的方法		○前半	田中司朗教授	1		応用
限定 科目	H063000	フィールドワーク	通年・集中*		長浜PRO支援委員会(田原准教授)	2		中級
	H061000	社会健康医学課外実習	集中		所属分野の指導教員等	1-2	インターフィッシュ	-
	Z203000	グローバルヘルス通論		○	中山教授	2	グローバルヘルス学際総合コース	
	H082000	医療経営特別カリキュラムI	集中		今中教授	2	医療経営ヤングリーダー・プログラム 限定	応用
	H083000	医療経営特別カリキュラムII		集中	今中教授	2		応用
	H053000	医療経営ケーススタディ	通年・集中		今中教授	2		応用
	K026000	臨床研究計画法I	○		川上教授	1	MCR限定必修	応用
	K028000	臨床研究計画法演習I	○		山本准教授	1	MCR限定必修	応用
	K030000	医療技術の経済評価	○		今中教授	1	MCR限定必修	応用
	K027000	臨床研究計画法II		○	川上教授	1	MCR限定必修	応用
	K029000	臨床研究計画法演習II		○	山本准教授	1	MCR限定選択	応用
	K020000	EBM・診療ガイドライン特論		○	中山教授	1	MCR限定選択	応用
	K025000	臨床研究データ管理学		○前半	竹内准教授	1	MCR限定選択・CB限定必修	応用
	K034000	臨床研究特論		○	石見教授	2	MCR限定選択	応用
	K016000	系統的レビュー	通年*		渡辺准教授	2	MCR限定選択	応用
	K033000	データ解析法特論	○後半		山本准教授	1	MCR限定選択	中級
	N022000	基礎人類遺伝学演習		1年次	小杉教授	1	GC限定	応用
	N006000	臨床遺伝学演習 (ホールドバイ演習)		1年次*	小杉教授	1	GC限定	応用
	N020000	遺伝カウンセリング概論	通年*		小杉教授	3	GC限定	基礎
	N007000	遺伝カウンセリング演習1	1年次 (隔週)		小杉教授	2	GC限定	基礎
	N008000	遺伝カウンセリング演習2	2年次 (隔週)		小杉教授	2	GC限定	応用
	N009000	遺伝カウンセリング実習1	1年次		小杉教授	2	GC限定	基礎
	N010000	遺伝カウンセリング実習2	2年次		小杉教授	4	GC限定	応用
	H139000	臨床統計家の実務スキル	○		土居准教授	1	CB限定選択	基礎
	H144000	統計的推測の基礎・演習	○*		佐藤教授	1	CB限定選択	中級
	H146000	メタアナリシス	通年・集中		田中司朗教授	1	CB・MCR限定選択	応用
	H140000	臨床研究実地研修I	集中		田中司朗教授	2	CB限定必修	応用
	H147000	臨床研究実地研修II	通年・集中		田中司朗教授	2	CB限定選択	応用

MCR=臨床研究者養成コース、知財=知的財産経営学プログラム、GC=遺伝カウンセーコース、CB=臨床統計家育成コース

限定科目：該当する特別プログラムの者に限り履修可。

※前年度以前開講科目の科目変更については、「(別表) 科目変更対応表」を確認すること。

[期間] \*マークは、開講日注意。 [レベル] 基礎：予備知識を必要としないレベル、中級：一定の予備知識や経験を求めるレベル、応用：社会での実践や研究へ応用できるレベル、空欄：各シラバス参照

(別表) 科目変更対応表

令和2年度開講科目		令和元(平成31)年度以前開講科目
科目コード	科目名(新)	科目名(旧)
H124000	産業・環境衛生学(コア領域3)	環境衛生学(コア領域3)(平成27年度以前開講科目)
H126000	保健・医療の経済評価(コア領域4)	医療評価・経済評価(コア領域4)(平成27年度以前開講科目)
H129000	医療の質評価	
H125000	医療制度・政策(コア4領域)	医療政策・マネジメントI(コア領域4)(平成27年度以前開講科目)
H127000	社会健康医学と健康政策(コア領域4)	健康政策・行政管理学(コア領域4)(平成27年度以前開講科目)
H130000	健康情報学I	健康情報学(平成27年度以前開講科目)
H131000	健康情報学II	Eヘルス概論(平成27年度以前開講科目)
M026000	メディカル分野技術経営学概論	技術経営学概論(平成27年度以前開講科目)
H133000	地域保健医療福祉論	健康政策学(平成27年度以前開講科目)
H118000	疫学I(疫学入門)	疫学(平成26年度以前開講科目)
H119000	疫学II(研究デザイン)	
K026000	臨床研究計画法I	研究プロトコール作成マネジメント法I(平成26年度以前開講科目)
K027000	臨床研究計画法II	研究プロトコール作成マネジメント法II(平成26年度以前開講科目)
S004000	統計遺伝学I	ゲノム疫学のためのインフォマティクスI(平成24年度開講科目) オミックス統計学入門I(平成26年度開講科目) 統計遺伝学基礎I(平成27・29年度開講科目) 統計遺伝学I(平成28年度開講科目)
S005000	統計遺伝学II	ゲノム疫学のためのインフォマティクスII(平成24年度開講科目) オミックス統計学入門II(平成26年度開講科目) 統計遺伝学基礎II(平成27・29年度開講科目) 統計遺伝学II(平成28年度開講科目)
K020000	EBM・診療ガイドライン特論	EBM診療ガイドライン特論(平成29年度以前開講科目)
H153000	医学基礎I(解剖学)	医学基礎I(令和元年度以前開講科目)
H154000	医学基礎I(生理学I)	医学基礎I(令和元年度以前開講科目)
H155000	医学基礎I(神経生理学I)	医学基礎I(令和元年度以前開講科目)
H148000	毒性学入門	中毒学入門(令和元年度以前開講科目)
H149000	毒性学	中毒学(令和元年度以前開講科目)
H152000	環境・感染症論	環境・感染論(平成30年度以前開講科目)

(別表) 課題研究及び博士課程セミナー科目コード

研究分野	科目コード		
	課題研究(専門職学位課程)	[MCR]	博士課程セミナー(博士後期課程)
医療統計学	I001000		J001000
医療疫学	I002000	L002000	J002000
薬剤疫学	I003000	L003000	J003000
ゲノム情報疫学	I004000		J004000
医療経済学	I005000	L005000	J005000
医療倫理学	I006000	L006000	J006000
健康情報学	I007000	L007000	J007000
医学コミュニケーション学	I016000		J016000
環境衛生学	I009000		J009000
健康増進・行動学	I010000	L010000	J010000
予防医療学	I011000	L011000	J011000
社会疫学	I012000		J012000
健康政策・国際保健学	I013000		J013000
環境生態学	I014000		J014000
人間生態学	I015000		J015000
知的財産経営学	M018000		
遺伝医療学(遺伝カウンセラー)	N901000		
臨床統計学	I017000		

## ◇専門職学位課程特別コース及び特別プログラムについて

### <特別コース>

#### I. 臨床研究者養成（MCR）コース

(<http://www.mcrkyoto-u.jp/>)

##### (1) 学習達成目標

- ① 臨床研究を支える種々の基本理論、知識、実践技術に習熟すること。
- ② 自分の臨床上の疑問に基づいた臨床研究を計画し、研究プロトコールの作成、研究の実施・マネジメント、得られたデータの基本的な解析処理、結果の解釈、論文にまとめる、などの一連の作業を独力でできる。
- ③ 自分の臨床研究の計画・実施・解析・解釈の過程で生じる疑問について、適切な時期に、適切な専門家に、適切な相談・照会ができる。

##### (2) 本コースのカリキュラムの特徴

###### ① 集中的な授業・実習

本コースでは、臨床研究の基本（理論、知識、方法、実践）を1年間で体系的に学習できるよう全体のカリキュラムが構成されている。加えて、本コース推奨科目以外にも社会健康医学系専攻が提供する殆ど全ての科目を履修することができる。なお、学生が入学前に取得した科目があり、既修得単位として認められれば履修が免除される。

###### ② 個別指導（メンタリング）の重視

本コースの学生には、入学時に1～2名の個別指導担当教員（メンター）を決定し、この担当教員が責任を持って担当学生の研究プロトコールの作成やデータの解析の指導、および実際の研究計画実施上の指導を行なう。研究の種類にもよるが、必要に応じて2名が指導教員となることもある。この個別指導は、本コース在学期間のみでなく、双方の合意のもとに、修了後も、研究実施、結果解析、論文作成まで継続的に行なうことを念頭につくられている。指導教員の決定にあたっては、学生本人と本コース教員の間で協議を行ない決定する。

###### ③ 修了時の課題研究発表と試問

本コース修了時に、全ての学生は、自分の臨床上の疑問に基づく臨床研究を完成させ（研究プロトコールも認める）、発表会で試問を受け、合格する必要がある。

なお専門職大学院のため、修士論文などは課さない。

##### (3) 修了要件

科目	単位数
MPH コア 5 領域（コア領域 1－5 のすべての領域を含む 7 単位以上*）および MCR 必修科目	1 4
選択科目	1 2
課題研究	4
計	3 0

\*詳細は、「MCR コース授業科目一覧表」を参照。

平成 28 年度以降入学者は、上記を適用する。

照会先：臨床情報疫学分野および各担当分野

令和2年度 社会健康医学系専攻 臨床研究者養成（MCR）コース 授業科目一覧表

区分	科目コード	科目名	期間		主担当教員	単位	備考
			前期	後期			
MCR 必修	K026000	★ 臨床研究計画法 I	○		川上教授	1	MCR 限定
	K027000	★ 臨床研究計画法 II		○	川上教授	1	MCR 限定
	K028000	★ 臨床研究計画法演習 I	○		山本准教授	1	MCR 限定
	H001000	医療統計学	○		佐藤教授	2	【コア領域 2】
	H118000	疫学 I (疫学入門)	○		中山教授	1	【コア領域 1】
	H119000	疫学 II (研究デザイン)	○		福原講師	1	【コア領域 1】
	K030000	★ 医療技術の経済評価	○		今中教授	1	MCR 限定
	H094000	文献評価法	○		中山教授	1	
	H112000	臨床試験	○		田中司朗教授	2	
	-	コア領域 3 の科目を最低 1 単位*				1	【コア領域 3】
	-	コア領域 4 の科目を最低 1 単位**				1	【コア領域 4】
	-	コア領域 5 の科目を最低 1 単位***				1	【コア領域 5】
MCR 推奨 選択	L002000	課題研究：MCR (医療疫学)	通年		指導教員	4	指導教員が開講する課題研究を履修
	L003000	課題研究：MCR (薬剤疫学)					
	L005000	課題研究：MCR (医療経済学)					
	L006000	課題研究：MCR (医療倫理学)					
	L007000	課題研究：MCR (健康情報学)					
	L011000	課題研究：MCR (健康増進・行動学)					
	L010000	課題研究：MCR (予防医療学)					
	K016000	★ 系統的レビュー	通年 †		渡辺准教授	2	MCR 限定選択
MCR 推奨 選択	K033000	★ データ解析法特論	○後半		山本准教授	1	MCR 限定選択
	K020000	★ EBM・診療ガイドライン特論		○	中山教授	1	MCR 限定選択
	K029000	★ 臨床研究計画法演習 II		○	山本准教授	1	MCR 限定選択
	K025000	★ 臨床研究データ管理学		○	竹内准教授	1	MCR 限定選択 CB 限定必修
	K034000	★ 臨床研究特論		○	石見教授	2	MCR 限定選択
	H129000	医療の質評価	○		今中教授	1	
	H009000	社会疫学 I	○		古川教授	2	不開講
	H011000	医療統計学実習	○		佐藤教授	2	
	H076000	基礎医療倫理学	○		小杉教授	1	【コア領域 5】
	H075000	行動科学	○		渡辺准教授	1	【コア領域 5】
	H019000	社会疫学 II		○	古川教授	2	開講保留
	H021000	交絡調整の方法		○	佐藤教授	2	
	H022000	解析計画実習		○	佐藤教授	2	
	H130000	健康情報学 I		○	中山教授	2	
	H109000	医薬政策・行政		○	川上教授	1	【コア領域 4】
	H079000	医薬品の開発と評価		○	川上教授	1	
	H099000	医薬品・医療機器の開発計画、薬事と審査		○	川上教授	2	
	H146000	メタアナリシス	通年・集中		田中司朗教授	1	CB・MCR 限定選択

\* MCR 限定科目は、MCR 専科生および受講生のみ受講可能である。聴講は不可。

\*コア領域 3 の科目とは、感染症疫学および産業・環境衛生学（原田准教授）であり、修了要件としていずれかの科目から 1 以上の単位取得が必要。

\*\*コア領域 4 の科目とは、社会健康医学と健康政策（健康政策の運営委員会）、医薬政策・行政（川上教授）、保健・医療の経済評価、医療制度・政策、世界における医療制度・政策（今中教授）であり、修了要件としていずれかの科目から 1 以上の単位取得が必要。

\*\*\*コア領域 5 の科目とは、行動科学（渡辺准教授）、基礎医療倫理学（小杉教授）および医学コミュニケーション基礎（岩隈准教授）であり、修了要件としていずれかの科目から 1 以上の単位取得が必要。

†開講日注意

※上記以外のシラバスに掲載されている MPH 科目（他のコース等の限定科目を除く）を履修することができる（開講日時が同一の科目を同時に履修登録することは不可）。

## II. 遺伝カウンセラーコース

(<http://sph.med.kyoto-u.ac.jp/class-06.html>)

### (1) 遺伝カウンセラーコースの概要

ゲノム・遺伝情報を利用した医療、遺伝薬理学情報に基づいたテラーメード医療に対応できる高度な専門的知識と技術ならびにコミュニケーション能力をもち、患者・家族の立場を理解して新医療とのインターフェースとなりうる人材を総合的に養成する。

### (2) 遺伝カウンセラーコースの特徴

- ① 充実したスタッフ：この分野でトップレベルの多数の指導者が社会健康医学系専攻の教員とともに充実した専門教育を行う。
- ② 社会健康医学の幅広い素養：社会健康医学コア科目を履修する。修了時には、社会健康医学修士(専門職)(Master of Public Health; MPH)の学位が授けられる。
- ③ 充実した実習：現場での実習に特に重点を置いており、京都大学医学部附属病院遺伝子診療部などでの充実した実習が可能である。
- ④ 資格認定試験受験資格：遺伝カウンセラーコース：コース終了後、「認定遺伝カウンセラー」資格認定試験受験資格が得られる。

### (3) 修了要件

科目	「医療系」出身者*	「医療系」以外出身者
MPH コア 5 領域（コア領域 1－5 のすべての領域を含むこと）	7	7
医学基礎 I <sup>(注1)</sup> 、医学基礎 II、臨床医学概論	—	6
遺伝カウンセラーコース必修	3 0	3 0
課題研究	4	4
合計	4 1	4 7

\* 「医療系」出身者：医学部・看護学部・歯学部・薬学部（6年制）などの医療系学部の出身者

上記以外（生物系等学部、医療系の短期大学及び医療系の専門学校出身者）で「医療系」出身者として認定を希望する場合は、入学時に申請が必要である。

平成 28 年度以降入学者は、上記を適用する。

（注1）2020 年度以降は MPH 必修の「医学基礎 I」は開講されないため、「医学基礎 I（生理学 I）」「医学基礎 I（神経生理学 I）」あるいは「医学基礎 I（解剖学）」のいずれかを取得することで「医学基礎 I」に読み替えるものとする。

#### （参考）課題研究：

初年度の学習や実習経験に基づいて専門領域の発展にふさわしいテーマを見出し、テーマごとにもつとも適切な教員の指導のもと、遺伝医療および遺伝カウンセリングの臨床現場の質の向上に資するとともに、クライエントの QOL の改善につながるような研究を行い、とりまとめを行う。

照会先：遺伝医療学分野

令和2年度 社会健康医学系専攻 遺伝カウンセラーコース 授業科目一覧表

区分	科目コード	科目名	期間		主担当教員	単位	備考
			前期	後期			
コア領域 1	H118000	疫学 I (疫学入門)	○		中山教授	1	必修
	H119000	疫学 II (研究デザイン)	○		福原講師	1	必修
コア領域 2	H001000	医療統計学	○		佐藤教授	2	必修
コア領域 3	H070000	感染症疫学	通年・集中		古川教授	1	選択必修
	H124000	産業・環境衛生学	○		原田准教授	1	選択必修
コア領域 4	H125000	医療制度・政策	○		今中教授	1	選択必修
	H127000	社会健康医学と健康政策	○		健政政策の運営委員会	2	選択必修
	H109000	医薬政策・行政		○	川上教授	1	選択必修
コア領域 5	H075000	行動科学	○		渡辺准教授	1	推奨
	H076000	基礎医療倫理学	○		小杉教授	1	GC 必修
	H077000	医学コミュニケーション基礎	○		岩隈准教授	1	推奨
MPH必修	H154000	医学基礎I (生理学I)	○前半		小杉教授	2	「医療系」以外の出身者のみ必修。 ただし、医学基礎I (生理学I)・医学基礎I(神経生理学I)・医学基礎I(解剖学)についてはいずれか1つを選択必修。
	H155000	医学基礎I (神経生理学I)		○前半	小杉教授	2	
	H153000	医学基礎I (解剖学)	○前半		小杉教授	2	
	H007000	医学基礎II		○	上嶋教授・河田講師	2	
	H008000	臨床医学概論		○	渡畠講師・千葉講師	2	
	N901000	課題研究 (遺伝カウンセラー)	2年次		所属分野の指導教員	4	
GC 必修	H040000	基礎人類遺伝学	1年次		小杉教授	2	
	N015000	遺伝医療と倫理・社会	1年次		小杉教授	2	
	N021000	臨床遺伝学・遺伝カウンセリング	1年次		小杉教授	3	
	N022000	基礎人類遺伝学演習		1年次	小杉教授	1	GC 限定
	N006000	臨床遺伝学演習 (ロールプレイ演習)		1年次	小杉教授	1	GC 限定
	N018000	医療倫理学各論		1年次	小杉教授	2	
	N017000	遺伝医学特論 (集中講義)	2年次		小杉教授	2	
	N020000	遺伝カウンセラーコミュニケーション概論	1年次		小杉教授	3	GC 限定
	N007000	遺伝カウンセリング演習 1	1年次 (隔週)		小杉教授	2	合同カンファレンス
	N008000	遺伝カウンセリング演習 2	2年次 (隔週)		小杉教授	2	合同カンファレンス
	N009000	遺伝カウンセリング実習 1	1年次		小杉教授	2	GC 限定
	N010000	遺伝カウンセリング実習 2	2年次		小杉教授	4	GC 限定
	H093000	文献検索法	○		高橋准教授	1	
	H094000	文献評価法	○		中山教授	1	
	M022000	ゲノム科学と医療		1年次	松田教授	2	
GC 推奨選択	H009000	社会疫学 I	○		古川教授	2	不開講
	H019000	社会疫学 II		○	古川教授	2	開講保留
	H156000	質的研究入門	集中		中山教授	1	
	S004000	統計遺伝学 I	集中		山田教授	2	参考科目
	S005000	統計遺伝学 II		集中	山田教授	2	参考科目

※ GC = 遺伝カウンセラーコース

※前年度以前開講科目の科目変更については、「(別表) 科目変更対応表」を確認すること。

### III. 臨床統計家育成（CB）コース

(<http://www.cbc.med.kyoto-u.ac.jp/>)

#### (1) 学習達成目標

- ① 臨床研究の科学的な質を保つために必要な統計学基礎および臨床統計学を修めること。特に「臨床試験のための統計的原則（ICH E9 ガイドライン）」について十分に理解すること。
- ② 病院での臨床研究に関する実地研修を通じて、統計解析、データマネジメント等の実務を経験し、臨床統計家に求められる技術に習熟すること。
- ③ 臨床研究の倫理的な質を保つために必要な知識・態度を身に着けること。特に日本計量生物学会作成の「統計家の行動基準」について十分に理解すること。

#### (2) 本コースのカリキュラムの特徴

本コースは、臨床統計家の人材供給を求める日本の臨床研究現場からの強いニーズにより設置された2年制の専門職学位課程である。コース修了後は、臨床統計家育成コースを修了したことを証明する修了証とともに社会健康医学修士（専門職）が授与される。本コースでは、臨床統計家に必要な知識、技術、態度を2年間で体系的に学習できるよう、臨床統計関連科目だけではなく、医学、疫学、研究倫理などから全体のカリキュラムが構成されている。これに加えて、臨床試験を実施している京都大学医学部附属病院・国立循環器病研究センターと連携し、on the job trainingによる臨床研究に関する実地研修を提供する（1年次・2年次の夏季集中で行う臨床研究実地研修Ⅰ・Ⅱ）。この実務経験を通じて、計画立案、データマネジメント、解析等、臨床統計学の実践的な技術を学ぶことができる。また、本コース推奨科目以外にも社会健康医学系専攻が提供する多くの科目を履修することができる。

#### (3) 修了要件

科目	「医療系」出身者*	「医療系」以外出身者
MPH コア 5 領域（コア領域 1－5 のすべての領域を含むこと）	10	10
医学基礎 I <sup>(注1)</sup> 、医学基礎 II、臨床医学概論	—	6
臨床統計家育成コース必修	19	19
課題研究	4	4
合計	33	39

\* 「医療系」出身者：医学部・看護学部・歯学部・薬学部（6年制）などの医療系学部の出身者

上記以外（生物系等学部、医療系の短期大学及び医療系の専門学校出身者）で「医療系」出身者として認定を希望する場合は、入学時に申請が必要である。

（注1）2020年度以降は MPH 必修の「医学基礎 I」は開講されないため、「医学基礎 I（生理学 I）」「医学基礎 I（神経生理学 I）」あるいは「医学基礎 I（解剖学）」のいずれかを取得することで「医学基礎 I」に読み替えるものとする。

照会先：医療統計学分野および臨床統計学分野

令和2年度 社会健康医学系専攻 臨床統計家育成コース 授業科目一覧表

区分	科目コード	科目名	期間		主担当教員	単位	備考
			前期	後期			
コア領域 1	H118000	疫学 I (疫学入門)	○		中山教授	1	必修
	H119000	疫学 II (研究デザイン)	○		福原講師	1	必修
コア領域 2	H001000	医療統計学	○		佐藤教授	2	必修
コア領域 3	H070000	感染症疫学	通年・集中		古川教授	1	選択必修
	H124000	産業・環境衛生学	○		原田准教授	1	選択必修
コア領域 4	H125000	医療制度・政策	○		今中教授	1	選択必修
	H127000	社会健康医学と健康政策	○		健康政策の運営委員会	2	選択必修
	H109000	医薬政策・行政		○	川上教授	1	推奨
	H126000	保健・医療の経済評価	○		今中教授	1	推奨
	H128000	世界における医療制度・政策	○前半		今中教授	1	選択必修
コア領域 5	H075000	行動科学	○		渡辺准教授	1	選択必修
	H076000	基礎医療倫理学	○		小杉教授	1	選択必修
	H077000	医学コミュニケーション基礎	○		岩隈准教授	1	選択必修
MPH必修	H154000	医学基礎 I (生理学 I)	○前半		小杉教授	2	「医療系」以外の出身者のみ必修。ただし、医学基礎I (生理学 I)・医学基礎I (神経生理学 I)・医学基礎I (解剖学)についてはいずれか1つを選択必修。
	H155000	医学基礎 I (神経生理学 I)		○前半	小杉教授	2	
	H153000	医学基礎 I (解剖学)	○前半		小杉教授	2	
	H007000	医学基礎 II		○	上嶋教授・河田講師	2	
	H008000	臨床医学概論		○	渡邉講師・千葉講師	2	
	I017000	課題研究 (臨床統計学)	2 年次		各指導教員	4	
CB 必修	H136000	統計的推測の基礎	○		佐藤教授	2	
	H134000	統計家の行動基準	○		佐藤教授	1	
	H011000	医療統計学実習	○		佐藤教授	2	
	H112000	臨床試験	○		田中司朗教授	2	
	H137000	生存時間解析		集中	佐藤教授	1	夏季集中講義
	H138000	統計モデルとその応用		集中	佐藤教授	1	夏季集中講義
	H021000	交絡調整の方法		○	土居准教授	2	
	H022000	解析計画実習		○	土居准教授	2	
	H135000	臨床試験の統計的方法		○	田中司朗教授	1	
	K025000	臨床研究データ管理学		○	竹内准教授	1	MCR 限定選択・CB 限定必修
	H140000	臨床研究実地研修 I	集中		田中司朗教授	2	CB 限定必修 (病院での実習)
	H147000	臨床研究実地研修 II	集中		田中司朗教授	2	CB 限定必修 (病院での実習)
CB 推奨選択	H139000	臨床統計家の実務スキル	○		土居准教授	1	
	H084000	観察研究の統計的方法	○		佐藤教授	2	
	H093000	文献検索法	○		高橋准教授	1	
	H094000	文献評価法	○		中山教授	1	
	H144000	統計的推測の基礎・演習	○			1	CB 限定選択
	H145000	多重性の考え方	○前半		土居准教授	1	
	H079000	医薬品の開発と評価		○	川上教授	1	
	H099000	医薬品・医療機器の開発計画、薬事と審査		○	川上教授	2	
	M022000	ゲノム科学と医療		○	松田教授	2	
	H130000	健康情報学 I		○	中山教授	2	
	H131000	健康情報学 II		○	高橋准教授	2	
	H146000	メタアナリシス	通年・集中		田中司朗教授	1	CB・MCR 限定選択

※ CB = 臨床統計家育成コース

## <特別プログラム>

### I. 知的財産経営学プログラム

#### (1) 知的財産経営学プログラムの概要

大学の研究成果をもとに新規産業を興し経営するには、これまでの日本の企業風土で蓄積された企業文化、経営のノウハウとは異なるものが要求される。その一つが技術経営であり、特に知的財産を最大限に活用する知的財産戦略を担うディレクター（知的財産ディレクター）の仕事である。ここで期待される人材は、複数の異なるベクトルを持つ必要がある。

- ① 自然科学の分野において、医学研究科で先端医学領域の研究を実施している教員や産業界における探索・開発研究の経験が豊富な教員による講義により、トップレベルの科学的な知識とそれの活用に当たっての社会的受容性の知識を習得してもらう。
  - ② 人文・社会健康医学系専攻科学の分野において、知的財産権やその他ビジネスに関する基礎は、各専門分野により選ばれた教員の講義から知識を学ぶと共に、実業界でのキャリアーを持つ講師（ベンチャーキャピタル分野）から、企業会計や知的財産の市場評価・流通の実務的なスキルと知識を学ぶ。
  - ③ 上記により習得した知識をベースとして、実務経験を通した知識の深化と、即戦力としての実務能力の養成を行う。具体的には、京都大学医学領域拠点業務との連携やエクステーンシップの実施も含めて、テーマ毎に適切な指導教員のもとで研究者とも連携し、研究成果の権利化と活用の実務を手伝う。実施項目としては、発明の抽出、周辺特許調査、明細書作成、ビジネスプラン作成、契約実務作業等を経験する。これらにより発明の開示から知的財産としての活用までの全体の流れを把握し、出願妥当性の判断に至る経緯の考察や産業界との連携における問題点と解決法に関する考察などのプレゼンテーションまで実際に経験させる。
- これらにより専門職大学院として問題解決能力、実践・実務能力を身に付け、生命科学分野における知的財産経営、技術経営に関する高度な専門性を有する人材養成のための教育研究を行う。

#### (2) 修了要件

本プログラムの修了要件は、2年以上在学し、下記の30単位を修得し、本プログラムが定めるカリキュラムを修了することである。

	「医学部医学科」出身者	「医学部医学科」以外出身者
MPH コア5領域（コア領域1－5のすべての領域を含む）	7	7
知的財産領域必修	12	12
課題研究（知的財産経営学）	4	4
医学領域選択必修 (学部取得単位の認定も一部可)	3	3
選択	4	4
計	30	30

（参考）課題研究：テーマ毎に最も適切な指導教員のもとで、発明の抽出、特許調査、明細書作成、特許出願、ビジネスプラン作成、契約実務などを行い、プレゼンテーションまで実際に経験させる。

照会先：知的財産経営学分野

令和2年度 社会健康医学系専攻 知的財産経営学プログラム 授業科目一覧表

区分	科目コード	科目名	期間		主担当教員	単位	備考
			前期	後期			
コア領域1	H118000	疫学Ⅰ(疫学入門)	○		中山教授	1	必修
	H119000	疫学Ⅱ(研究デザイン)	○		福原講師	1	必修
コア領域2	H001000	医療統計学	○		佐藤教授	2	必修
コア領域3	H070000	感染症疫学	通年・集中		古川教授	1	選択必修
	H124000	産業・環境衛生学	○		原田准教授	1	
コア領域4	H125000	医療制度・政策	○		今中教授	1	
	H126000	保健・医療の経済評価	○		今中教授	1	
	H128000	世界における医療制度・政策	○前半		今中教授	1	
	H127000	社会健康医学と健康政策	○		健康政策の運営委員会	2	選択必修
	H109000	医薬政策・行政		○	川上教授	1	
コア領域5	H075000	行動科学	○		渡辺准教授	1	
	H076000	基礎医療倫理学	○		小杉教授	1	
	H077000	医学コミュニケーション基礎	○		岩隈准教授	1	
MPH必修	H154000	医学基礎I(生理学I)	○前半		小杉教授	2	「医療系」以外の出身者のみ必修。ただし、医学基礎I(生理学I)・医学基礎I(神経生理学I)・医学基礎I(解剖学)についてはいずれか1つを選択必修。
	H155000	医学基礎I(神経生理学I)		○前半	小杉教授	2	
	H153000	医学基礎I(解剖学)	○前半		小杉教授	2	
	H007000	医学基礎II		○	上嶋教授・河田講師	2	
	H008000	臨床医学概論		○	渡辺講師・千葉講師	2	
	M018000	課題研究(知的財産経営学)	2年次		各指導教員	4	
知的財産領域必修	M001000	アントレプレナーシップ	○		寺西教授	2	一部科目で集中講義や不規則開講の形式をとるものもあり。各シラバスなどを確認すること。
	M026000	メディカル分野技術経営学概論	○		山本教授	2	
	M024000	特許法特論・演習(前期)	○		藤井講師	2	
	M025000	特許法特論・演習(後期)		○	田中順也講師	2	
	M004000	契約実務演習		○	阿部教授	2	
	M007000	知的財産法演習		○	當麻講師	2	
医学領域	M008000	病理学総論(医)	(春学期)		松田(道)教授	2	医学部医学科出身者は、「医薬品の開発と評価」は必修。他の科目は学部取得単位の認定も可能。その他の出身者の取得単位推奨科目は、下表参照。
	M009000	薬理学(医)	(春学期)		林教授	2	
	M011000	生理学(医)		(秋学期)	浅野教授	2	
	M027000	生化学(医)	(春学期)		竹内教授	2	
	M013000	発生学(医)		(秋学期)	篠原教授	2	
	N017000	遺伝医学特論(集中講義)	2年次		小杉教授	2	
	H079000	医薬品の開発と評価		○	川上教授	1	
選択	M017000	知的財産経営学基礎	○		早乙女教授	2	
	M021000	アントレプレナーシップ特論	集中		早乙女教授	2	夏期集中講義
	M022000	ゲノム科学と医療		○	松田(文)教授	2	

注1: (医)は医学部医学科の科目

注2: 選択科目にはこの他にも、経済学研究科、法学研究科の関連科目を個別に単位認定する可能性があるので、指導教員に確認すること。

※前年度以前開講科目の科目変更については、「(別表) 科目変更対応表」を確認すること。

※ 医学領域選択必修 出身別の単位取得推奨科目

○: 取得すべき科目、△: できるだけ取得すべき科目

科目名	生命科学系出身者(注)	その他の出身者
病理学総論	○	△
薬理学	○	△
生理学	△	△
生化学	△	△
発生学	△	△
医薬品の開発と評価	○	○
遺伝医学特論(集中講義)	△	△

(注) 生命科学系の学部学科の例: 理学部生物学科・生化学科、薬学部、歯学部、医学部保健学科、獣医学部、農学部応用生命科学科・食品生物科学科・理工学部生命科学科・生物工学科など

## II. 医療経営ヤングリーダー・プログラム

### (1) 医療経営ヤングリーダー・プログラムの概要

医療経営ヤングリーダー・プログラムは、高度専門職である医療経営幹部候補生およびこの領域の将来のリーダーを育成するためのプログラムであり、財務、会計、経営分析、市場分析、組織論・組織行動、組織文化の把握、質保証・業務改善、情報システム、法と倫理、関連ビジネス、政策・制度などについて学び、新たな教材や教育方法の創造にも参加し、経営実力者的人格と出会い、現場に身を置いて演習、調査、ケーススタディ等を行う。

当プログラムは、面接、審査の上、経営の素養と意欲のある人材、各年若干名を対象に開講する。ケーススタディに加えて、プロジェクト形式で、経営実例に直結する調査、分析、支援活動などを進め、情報収集、分析、妥当な計画立案、説得力ある討議、環境適応、変革・創造、行動の力を高めるべく訓練を行う。これらを通じて現実の医療経営に大いに貢献できる人材の基盤作りを行い、医療機関の将来の経営幹部、そして我が国の医療経営界において将来に主導的役割を担う人材の養成をめざす。

### (2) 医療経営ヤングリーダー・プログラムの修了要件

- ① 社会健康医学系専攻専門職学位課程の修了のための要件を満たすこと
- ② 下記を全て履修すること

区分	科目コード	科目名	単位	時期
コア領域4	H125000	医療制度・政策	1	前期後半
コア領域4	H126000	保健・医療の経済評価	1	前期前半
MPH 選択	H129000	医療の質評価	1	前期後半
限定	H082000	医療経営特別カリキュラムⅠ	2	前期
限定	H083000	医療経営特別カリキュラムⅡ	2	後期
限定	H053000	医療経営ケーススタディ	2	通年
MPH 必修	I005000	課題研究（医療経済学分野）	4	—

※前年度以前開講科目の科目変更については、「(別表) 科目変更対応表」を確認すること。

- 社会健康医学系専攻の多くの科目的選択を自ら設計して積極的に履修することを強く推奨する。
- さらに、経営管理大学院、公共政策大学院、または経済学研究科の科目を履修することを強く推奨する。
- また、当該分野でのセミナーに積極的に参加することが求められる。

- ③ 課題研究で医療経営に関わる課題を取り組むこと

照会先：医療経済学分野

## III. ゲノムインフォマティシャンプログラム

### (1) ゲノムインフォマティシャンプログラムの概要

本プログラムは、専門職学位取得者のうち、一定の内容のコースワークを履修したものに対して、専攻として「ゲノムインフォマティシャン」修了を認めるものである。所属する分野・コースを問わない。

次世代シークエンサなどのゲノム解析技術の爆発的進歩という状況を受けて、膨大な情報を適切に取り扱う「ゲノムインフォマティシャン」としての基本的知識と素養を身につけることを目的とする。社会健康医学系専攻において遺伝カウンセラーを養成している遺伝医療学分野と幅広いゲノム解析を行っているゲノム情報疫学分野（ゲノム医学センター）の協力によるプログラムである。

### (2) ゲノムインフォマティシャンプログラムの修了要件

- ① 選択科目として下記を全て履修すること

科目コード	科目名	主担当教員	単位	時期
S004000	統計遺伝学Ⅰ	山田教授	2	前期
S005000	統計遺伝学Ⅱ	山田教授	2	後期
H040000	基礎人類遺伝学	小杉教授	2	前期
M022000	ゲノム科学と医療	松田教授	2	後期

※前年度以前開講科目の科目変更については、「(別表) 科目変更対応表」を確認すること。

- ② 課題研究については、所属分野で実施すること
- ③ 社会健康医学系専攻専門職学位課程を修了すること

(参考) 関連科目：産業・環境衛生学(コア3)、医薬政策・行政(コア4)、基礎医療倫理学(コア5)、遺伝医療と倫理・社会、遺伝医学特論(2年次)

照会先：遺伝医療学分野およびゲノム情報疫学分野



◇ 社会健康医学系専攻 2020年度 後期時間割 (10~3月) : 全教科

	月	火	水	木	金
1限 8:45~10:15	【MPH選択】 エビテスス入門 (通常、開講日 注意) 古川 [B]	【MCR選定】 推奨選 系統的レビュー (通常、開講日 注意) 渡辺 [B]	【GC限定必修】 传达カウンセラーコミュニケーション概論 (開講日注意) 小杉 [演習]	【MPH選択】 【知財選択必修】 医学生基礎Ⅰ 教務委員会 [先端] 川嶋・河田[A]	【MPH選択】 環境・感染症論 山崎研究室セミナー室(213号室) [東南アジア地域研究研究所セミナー室]
2限 10:30~12:00		【MPH選択】 【MCR推奨選択】 支経調整の方法 土居 [A]	【MPH選択】 【MCR推奨選択】 医政政策(行政) (後期前半) 川上[A]	【MPH選択】 【MCH推奨選 択】 【GC必修】 医業政策(行政) (後期後半) 川上[A]	【MPH選択】 【MCR選定】 EBM・診療ガイドライン特論 中山 [演習] [A]
3限 13:00~14:30		【MPH選択】 【GCR推奨選択】 社会医学Ⅱ [先端] 關貴長智 [演習]	【MPH選択】 【MCR推奨選択】 解説計画実習 土居 [演習]	グローバルヘルス通論 中山 [先端]	【MPH選択】 【MCH推奨】 地域保健医療 政策(後期後半) 里村 [先端]
4限 14:45~16:15	【MPH選択】 人間生態学 坂本 [東南アジア研究所、 東棟 E-202]	【MCR限定選択】 臨床研究計画法演習 II [B] 山本(洋)	【MPH選択】 【MCR推奨選択】 薬事と 薬審査 川上 [演習]	【MPH選択】 【MCH必修】 医療機器 開発計画・薬事と 薬審査 川上 [演習]	【MPH選択】 【MCH推奨】 地域保健医 療(後期前半) 里村 [先端]
5限 16:30~18:00		【MCR限定選択】 臨床研究計画法 川上	【MPH選択】 医学コミュニケーション演習 岩隈 [B]	【MPH選択】 臨床試験の統計 的方法 (後期前半) 田中(司) [B]	【MPH選択】 【GC必修】 臨床医学演習 (年次、開講日注意) 小杉 [演習] [A]
6限 18:15~19:45	【MCR限定選択】 臨床研究計論 石見 [B]	【MPH選択】 【MCH必修】 知財財産法演習 阿部 [MIC]	【MPH選択】 特許討論・演習 田中(順) [MIC]	【MPH選択】 【GC限定必修】 基礎人類学演習 (1年次) 小杉 [演習] [A]	【MPH選択】 【GC必修】 連�カウンセリ ング演習 (通常) 小杉 [演習] [A]

\*(注)これらの科目を医療系の学生が取得した場合は、単位取得に必要な30単位に算入することができない。

\*\*MPHコア科目を1単位を越えて取得した場合は、選択科目として算入する。

【G棟講義室 設備について】	【集中講義など】 【医療経営ヤングリーダープログラム選定】医療経営ケーススタディ 【医療経営ヤングリーダープログラム選定】医療経営特別カリキュラム II 今中 【GC限定】選伝カウンセリング美富・2 小杉 【MPH選択】ワードワーク 【MPH選択】社会健康施設医療外科学演習(集中) 教務委員会 【MPH選択】社会健康施設医療外科学演習(集中) 教務委員会 【MPH選択】健康デザイン論(通常) 中山 【CB-MCR限定】メタ分析アンリーンズ(通常) 中山 【CB-MCR限定】メディカルハイベーションセンター 【MPH選択】G棟3F 演習室 【MIC】
2F セミナー室(A) 2F セミナー室(B) 2F セミナー室(C/D) 3F 演習室	【先端】: 先端科学研究棟1F セミナー室 [A] : G棟2F セミナー室(A) [B] : G棟2F セミナー室(B) [C/D] : G棟2F セミナー室(C/D) [演習] : G棟3F 演習室 [MIC] : メディカルハイベーションセンター

【G棟講義室 設備について】	【集中講義など】 【医療経営ヤングリーダープログラム選定】医療経営ケーススタディ 【医療経営ヤングリーダープログラム選定】医療経営特別カリキュラム II 今中 【GC限定】選伝カウンセリング美富・2 小杉 【MPH選択】ワードワーク 【MPH選択】社会健康施設医療外科学演習(集中) 教務委員会 【MPH選択】健康デザイン論(通常) 中山 【CB-MCR限定】メタ分析アンリーンズ(通常) 中山 【MPH選択】G棟3F 演習室 【MIC】
2F セミナー室(A) 2F セミナー室(B) 2F セミナー室(C/D) 3F 演習室	【先端】: 先端科学研究棟1F セミナー室 [A] : G棟2F セミナー室(A) [B] : G棟2F セミナー室(B) [C/D] : G棟2F セミナー室(C/D) [演習] : G棟3F 演習室 [MIC] : メディカルハイベーションセンター





## **社会健康医学系専攻授業科目内容**

科目ナンバリング		P-PUB01 8H118 LB90								
授業科目名 <英訳>	疫学 I (疫学入門) 【領域 1】 Epidemiology I				担当者所属・職名・氏名	医学研究科 教授 中山 健夫 医学研究科 教授 佐藤 俊哉 滋賀医科大学 教授 三浦 克之 滋賀県立老人長寿医療センター 石崎 達郎 医学研究科 准教授 田原 康玄 環境安全保障機関 助教 岡林 里枝 環境安全保障機関 助教 松崎 慶一				
	配当学年	専門職	単位数	I	開講年度・開講期	2020・前期不定	曜時限	金3・4	授業形態	講義
<b>[授業の概要・目的]</b>										
<p>・本コースは医学研究科社会健康医学系専攻の必須科目の一つです。</p> <p>・臨床研究を含む社会健康医学（パブリックヘルス）領域において、最も基本となる疫学の考え方、方法論についての入門的な講義を行います。</p> <p>・原則として金曜3限ですが、3限と4限の2コマ連続で講義をおこなう場合があります。</p>										
<b>[到達目標]</b>										
<p>・疫学の基本的考え方、用語、概念、方法論を説明できる。</p> <p>・疫学の発展的な知識を学ぶための基礎を身に付ける。</p>										
<b>[授業計画と内容]</b>										
<p>第1回 4月10日 (3限) イントロダクション (中山)</p> <p>第2回 4月10日 (4限) コホート研究・症例対照研究 (中山)</p> <p>第3回 4月17日 (3限) 歴史と事例から学ぶ疫学 (佐藤)</p> <p>第4回 4月24日 (3限) 介入研究 (岡林)</p> <p>第5回 4月24日 (4限) 追跡型研究 (松崎)</p> <p>第6回 5月 8日 (3限) 疫学をめぐる最近の話題 (中山)</p> <p>第7回 5月 8日 (4限) 記述疫学・高齢者の疫学研究 (石崎)</p> <p>第8回 5月15日 (3限) 視聴覚教材「大いなる航海」 (中山)</p> <p>5月22日 (3限) テスト</p> <p>特別講義予定あり (三浦・田原)</p>										
<b>[履修要件]</b>										
特になし										
<b>[成績評価の方法・観点]</b>										
テスト (80%)、毎回の小レポート提出 (20%)										
疫学 I (疫学入門) 【領域 1】(2)へ続く↓↓↓										

疫学 I (疫学入門) 【領域 1】(2)										
[教科書]										
講義資料は配布										
<b>[参考書等]</b>										
<p>(参考書)</p> <p>川村孝「エビデンスをつくる」(医学書院)</p> <p>中山健夫・津谷喜一郎『臨床研究と疫学研究のための国際ルール集』(ライフサイエンス出版)</p> <p>矢野栄二・橋本英樹『ロスマンの疫学』(篠原出版新社)</p> <p>厚生統計協会編集『図説・国民衛生の動向』(厚生統計協会)</p> <p>ロドルフ・サラッタ著『読んでわかる！疫学入門』(大修館書店)</p>										
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b>										
予習は特に必要でないが、講義の復習には十分時間をあててください。										
<b>(その他（オフィスアワー等）)</b>										
<p>・症例研究や基礎的研究と異なる「人間集団を対象とする」という疫学研究の意義と可能性を理解してもらわないと願っています。</p> <p>・本コースの内容の多様性と一貫性を保つために、担当教員はシラバス作成時、学期中、終了後など、適宜、意見交換を行い、講義資料を共有して連携を図っています。</p> <p>・留学生対応として、講義資料の事前提供、Key termの日英併記を進めます。</p> <p>・特別講義の予定は初回の講義で説明します。</p>										
人間健康科学系専攻学生の受講可否：可										
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。										

科目ナンバリング		P-PUB01 8H119 LB90								
授業科目名 <英訳>	疫学 II (研究デザイン) 【領域 1】 Epidemiology II				担当者所属・職名・氏名	非常勤講師 福原 俊一				
配当学年	専門職	単位数	I	開講年度・開講期	2020・前期前半	曜時限	金1,2	授業形態	講義	使用言語
<b>[授業の概要・目的]</b>										
社会健康医学領域の研究の「基本設計図」を作成するための研究デザインに必要な理論や基本的知識を、7つのステップに分けて学ぶ。質的な研究は含まれない。										
<b>[到達目標]</b>										
<p>・自分の疑問を構造化抄録形式にまとめ、最終的に「研究の基本設計図」を完成できる</p> <p>1)自分の疑問を、リサーチ・クエスチョンに構造化できる</p> <p>2)概念および概念の変数化を理解している</p> <p>3)RQを概念モデルの形にできる</p> <p>4)変数測定の理論と実際を理解している</p> <p>5)第3の因子について理解している</p> <p>6)比較の質を落とす原因、および比較の質を高める方法を理解している</p>										
<b>[授業計画と内容]</b>										
<p>第1回 4月17日 (1限) 研究デザイン7つのステップ (福原)</p> <p>第2回 4月17日 (2限) 疑問の構造化とモデル化(福原)</p> <p>第3回 4月24日 (1限) 疑問の構造化 グループ学習 (自由参加)</p> <p>第4回 4月24日 (2限) 疑問のモデル化 グループ実習 (自由参加)</p> <p>第5回 5月22日 (1限) 研究デザインの「型」の種類と特徴(大西)</p> <p>第6回 5月22日 (2限) 存在・発生・効果の指標 (福原)</p> <p>第7回 6月 5日 (1限) 比較の質を落とす原因(福原)</p> <p>第8回 6月 5日 (2限) 測定をデザインする (福原)</p> <p>第9回 6月12日 (1限) 比較の質を高める方法 (福原)</p> <p>第10回 6月12日 (2限) 実験</p>										
<b>[履修要件]</b>										
<p>・MPHコア（必修）MCR必修科目</p> <p>・「疫学 I」を履修中あるいは履修済であることが履修要件です。</p>										
<b>[成績評価の方法・観点]</b>										
<p>・講義平常点(出席を含む) 40%</p> <p>・筆記試験 60%</p>										
<b>[教科書]</b>										
授業中に指示する										
疫学 II (研究デザイン) 【領域 1】(2)へ続く↓↓↓										

疫学 II (研究デザイン) 【領域 1】(2)										
[参考書等]										
<p>(参考書)</p> <p>福原 俊一「臨床研究の道標：7つのステップで学ぶ研究デザイン」(認定NPO法人 健康医療評価研究機構)</p> <p>Hulley S 「Designing Clinical Research 2nd ed.」(William &amp; Wilkins) (和訳：「臨床研究のデザイン」医学書院/MYW)</p> <p>福原俊一 「リサーチクエスチョンの作り方」(認定NPO法人 健康医療評価研究機構)</p> <p>松村 真司「概念モデルをつくる」(認定NPO法人 健康医療評価研究機構)</p>										
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b>										
<p>講義および討論</p> <p>講義前・後の学習</p>										
<b>(その他（オフィスアワー等）)</b>										
・人間健康科学系専攻学生の受講可否： 不可										
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。										

科目ナンバリング P-PUB01 8H001 LJ90											
授業科目名 医療統計学 【領域2】 <英訳> Fundamentals of Biostatistics				担当者所属・職名・氏名	医学研究科 教授 佐藤 俊哉						
配当学年	専門職	単位数	2	開講年度・開講期	2020・前期	曜時限	火2	授業形態	講義	使用言語	日本語
<b>【授業の概要・目的】</b>											
医療統計学は社会健康医学の実務・研究に必須であることは広く認識されています。が、医療統計の教科書には怪しげな数式ばかりでてきてどっつきにくく、一部の爱好者以外には敬遠されています。											
しかし、しかし、本当は医療統計学っておもしろいのです。											
「医療統計学はおもしろい」ということをみなさんに伝えたいと、医療統計学では、数学的、技術的な問題に立ち入ることなく、平易なことばで医療統計学の考え方を解説しています。											
予習は必要ありません。ともかく授業にきて、話を聞き、スライドをみて、一緒に考えてください。講義終了時にスライド資料を配りますので、ノートなんかどちらくても結構です。											
その代わり、必ず復習をしてください。講義中にはわかった気分になりますが、それが自分のものとなるためには、自分の中で何度も確認する必要があります。毎回、講義の始めに前回のおさらいをしますので、復習してわからなかったことはそこでどんどん質問してください。技術的な内容については、午後の医療統計学実習で補います。											
【パワーポイントスライドによる講義形式】											
<b>【到達目標】</b>											
・医療統計アレルギーの改善 ・因果関係とコントロール（対照）について理解を深める ・疫学研究、臨床試験の代表的なデザインを学ぶ ・医療統計の基礎的な考え方を自分なりに説明できる											
<b>【授業計画と内容】</b>											
第1回 4月14日 コントロールの重要性 第2回 4月21日 ピロリ菌と胃がん 第3回 4月28日 疫学研究デザイン概論 第4回 5月12日 骨粗鬆症治療薬市販後臨床試験 第5回 5月19日 臨床試験デザイン概論 第6回 5月26日 曲露効果、治療効果の指標 第7回 6月 2日 統計的仮説検定の考え方 第8回 6月 9日 検定と信頼区間の関係 第9回 6月16日 ASA声明と「P<0.05の向こう側」 第10回 6月23日 研究に必要なサンプルサイズ 第11回 6月30日 コホート研究の妥当性 7月7日 休講 第12回 7月14日 ケース・コントロール研究の妥当性 第13回 7月21日 新しい疫学研究デザイン 第14回 7月28日 交換とはなにか											
<b>【履修要件】</b>											
・人間健康科学系専攻の学生さんの受け入れはしていません ・医科学専攻、医学博士課程の受講希望者は事前に必ずメールで連絡してください											
医療統計学 (コア) 【領域2】(2)へ続く↓↓↓											

医療統計学 (コア) 【領域2】(2)									
・受講者は単位不要でも必ずミニテストを受け、レポートを提出してください ・医療統計学を履修していないと後期「交換調整の方法」は履修できません									
<b>【成績評価の方法・観点】</b>									
ミニテスト (30%) とレポート (70%) ・6月末に一度ミニテストを実施 ・複数のテーマ（7月はじめに提示します）から一つを選び、指定された関連文献をレビューして自分の意見をレポートにまとめる									
<b>【教科書】</b>									
講義終了後にスライド資料を配布します。									
<b>【参考書等】</b>									
(参考書) 佐藤俊哉『宇宙怪人します 医療統計を学ぶ』(岩波科学ライブラリー-114) ISBN:978-4-00-007454-7 佐藤俊哉『宇宙怪人します 医療統計を学ぶ 検定の巻』(岩波科学ライブラリー-194) ISBN:978-4-00-029594-9 椿広計、藤田利治、佐藤俊哉『これからの臨床試験』(朝倉書店) ISBN:978-4-254-32185-6 ロスマン、KJ『ロスマンの疫学、第2版』(篠原出版新社) ISBN:978-4-8841-2372-7									
<b>【関連URL】</b>									
http://www.kbs.med.kyoto-u.ac.jp/(医療統計ホームページ)									
<b>【授業外学修（予習・復習）等】</b>									
前回の復習を忘れずに。									
<b>(その他（オフィスアワー等）)</b>									
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。									

科目ナンバリング P-PUB01 8H070 LB90												
授業科目名 感染症疫学 【領域3】 <英訳> Infectious Disease Epidemiology				担当者所属・職名・氏名	医学研究科 教授 古川 壽亮							
配当学年	専門職	単位数	1	開講年度・開講期	2020・通年集中	曜時限	前期後半	木2	授業形態	講義	使用言語	日本語及び英語
<b>【授業の概要・目的】</b>												
※ 詳細未定（告知を確認のこと）												
<b>【到達目標】</b>												
※ 詳細未定（告知を確認のこと）												
<b>【授業計画と内容】</b>												
8月または9月の2日間（予定：集中講義形式）												
※ 詳細未定（告知を確認のこと）												
<b>【履修要件】</b>												
MPHコア（選択必修）												
<b>【成績評価の方法・観点】</b>												
※ 詳細未定（告知を確認のこと）												
<b>【教科書】</b>												
※ 詳細未定（告知を確認のこと）												
<b>【参考書等】</b>												
(参考書) ※ 詳細未定（告知を確認のこと）												
<b>【授業外学修（予習・復習）等】</b>												
※ 詳細未定（告知を確認のこと）												
<b>(その他（オフィスアワー等）)</b>												
※ 詳細未定（告知を確認のこと）												
※ オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。												

科目ナンバリング P-PUB01 8H124 LB90											
授業科目名 産業・環境衛生学 【領域3】 <英訳> Occupational health and environmental health sciences				担当者所属・職名・氏名	医学研究科 准教授 原田 浩二						
配当学年	専門職	単位数	1	開講年度・開講期	2020・前期前半	曜時限	木2	授業形態	講義	使用言語	日本語及び英語
<b>【授業の概要・目的】</b>											
現代の環境問題、産業衛生について概説し、毒性学を基礎にした健康影響評価について講義する。											
<b>【到達目標】</b>											
・現代の環境問題、産業衛生について述べることができます。 ・用量反応関係、閾値、種差および毒性学の基礎的事項について述べることができます。 ・リスクアセスメントについて述べることができます。 ・化学物質の規制の種類について述べることができます。 ・代表的な化学物質の代謝過程、作用機序を推測できます。											
<b>【授業計画と内容】</b>											
コース予定・内容 第1回 Guidance and general principle Environmental Health Sciences 第2回 Climate 第3回 Water pollution 第4回 Air pollution 第5回 Occupational health 第6回 Gene and environment 第7回 Examination 第8回 講義内容未定											
<b>【履修要件】</b>											
MPHコア選択											
<b>【成績評価の方法・観点】</b>											
平常点（出席を含む）50%、試験50%											
<b>【教科書】</b>											
講義中の配布資料											
<b>【参考書等】</b>											
(参考書) 分子予防環境医学研究会『改訂分子予防環境医学』（本の泉社）											
<b>【授業外学修（予習・復習）等】</b>											
化学などの知識は必ず必要ではありませんが、適宜、復習で補うことを勧めます。											
<b>(その他（オフィスアワー等）)</b>											
人間健康科学系専攻学生の受講可否： 上限10人まで可能 後期の「中毒学」および「ベンチトレーニングコース」を受講するためには、この講義を受講することが必須です											
※ オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング P-PUB01 8H125 LJ90									
授業科目名 <英訳>	医療制度・政策 【領域4】 Healthcare System and Policy			担当者所属・職名・氏名	医学研究科 教授 今中 雄一 医学研究科 特定准教授 佐々木 典子 医学研究科 准教授 國澤 進 医学研究科 特定講師 大坪 徹也				
	配当年	専門職	単位数	1		開講年度・開講期	2020・前期集中	曜時限 X2 (前半後半)	
<b>【授業の概要・目的】</b> 日本の医療に関する政策・制度に関して、国・地方自治体から医療施設に至る諸々の場における重要課題を扱い、基本的事項を理解する。 <内容> ・医療・福祉に関する政策、制度、事業、その沿革 ・医療の財源 ・医療制度（提供・保険・支払）と医療費 ・医療の質・安全・効率におけるマネジメントシステムと政策 ・医療の評価 ・地域医療構想・計画など諸々の医療関連計画 ・医療マネジメントの骨格：組織、財務									
<b>【到達目標】</b> ・医療の領域の政策・制度とマネジメントに関する沿革、現状、理論・概念、研究・評価手法、課題と対策について、重要事項を理解し、他者に説明できるようになること。 ・基本的な研究や社会制度の意義を系統的、批判的に解釈できるようになること。 ・社会健康医学の研究及び実務上の問題解決に、関連しうる知識等を活用できるようになること。									
<b>【授業計画と内容】</b> 第1回 6月17日 医療政策：国の財政と医療 第2回 6月24日 医療と財源：保険制度 第3回 7月1日 政策と経営：医療の質と安全 第4回 7月8日 保健政策：健康の決定要因 第5回 7月15日 医療政策の構築プロセス-地域医療構想について- 第6回 7月22日 Evidence-Based Policyと制度全体を把握する枠組み 第7回 7月29日 諸外国と日本の医療の経済評価・HTAの利用  * 外部講師他の諸状況により日程変更あります。初回に予定を説明します。									
医療制度・政策 【領域4】(2)へ続く↓↓↓									

医療制度・政策 【領域4】(2)								
<b>【履修要件】</b> 社会健康医学系専攻の院生 原則、出席80%以上を前提とする								
<b>【成績評価の方法・観点】</b> 1. レポート 60% 2. 日々の講義へのコミットメント 40%								
<b>【教科書】</b> 適宜、資料を講義にて配布する								
<b>【参考書等】</b> (参考書) ・医療制度・医療政策・医療経済（丸善出版,2013） ・Handbook of Health Services Research (Springer Science+Business Media) ・病院の教科書（医学書院,2010） ・医療安全のエビデンス 患者を守る実践方策（医学書院,2005） ・医療の原価計算（社会保険研究所,2003） ・「NEW予防医学・公衆衛生学 改訂第4版」（編集:小泉昭夫/馬場園明/今中雄一/武林亨）南江堂, 2018.								
<b>【授業外学修（予習・復習）等】</b> 予習・復習は必要								
<b>【その他（オフィスアワー等）】</b> 当分野では、医療政策、医療経営、医療の質・安全・コスト研究に深く関わりたい人を募っています（医療経済学分野： <a href="http://med-econ.umin.ac.jp">http://med-econ.umin.ac.jp</a> ） ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。								

科目ナンバリング P-PUB01 8H127 LB90									
授業科目名 <英訳>	社会健康医学と健康政策 【領域4】 Health Policy and Academia			担当者所属・職名・氏名	医学研究科 教授 今中 雄一 医学研究科 教授 川上 浩司 医学研究科 教授 佐藤 俊哉 医学研究科 准教授 和田 敏仁 医学研究科 教授 中山 健夫 医学研究科 准教授 渡辺 範雄 医学研究科 准教授 岩隈 美穂 医学研究科 准教授 早乙女 周子 附属病院 特定准教授 山田 崇弘 附属病院 特定准教授 坂本 龍太 医学研究科 准教授 原田 浩二 医学研究科 准教授 山本 洋介				
	配当年	専門職	単位数	2		開講年度・開講期	2020・前期	曜時限 木3	
<b>【授業の概要・目的】</b> 社会健康医学（Public Health）における、健康・医療に関わる制度・政策、ならびにそれらに貢献・関連する研究、人材育成、その他の専門的活動について学ぶ。 社会健康医学系専攻を構成する各分野から、担当している研究・教育等領域の視点・見識・経験などに基づき、健康・医療に関連する制度・政策や社会の仕組みがどのようにになっているか、また、健康・医療に関連する制度・政策や社会の仕組みに、研究、人材育成、その他の専門的活動がどのように関わり貢献しているかを、講義する。									
<b>【到達目標】</b> 各分野による講義の全体を通して、健康や医療に係る制度・政策の全貌を多角的に把握できるようになる。									
<b>【授業計画と内容】</b> 第1回 4月9日 社会健康医学と健康政策：総論（今中） 第2回 4月16日 環境保健の制度と政策（原田） 第3回 4月23日 大気環境基準の作り方（佐藤） 第4回 4月30日 社会健康医学と知的財産（早乙女） 第5回 5月7日 健康政策の近現代史（小泉） 第6回 5月14日 産業保健に関する政策（小泉） 第7回 5月21日 ヘルスコミュニケーションと健康政策（岩隈） 第8回 5月28日 学校保健や母子保健情報の利活用による地域健康政策（川上） 第9回 6月4日 実地に基づく健康政策（坂本） 第10回 6月11日 母子保健と制度・政策（和田・山田） 第11回 6月25日 成人における疾病予防：特定健診とがん検診（中山） 第12回 7月2日 健康政策におけるQOL評価（山本） 第13回 7月9日 グローバルメンタルヘルス（渡辺） 第14回 7月16日 地域保健医療行政（今中） 第15回 7月30日 健康医療介護政策とエビデンス（今中）  社会健康医学と健康政策 【領域4】(2)へ続く↓↓↓									

社会健康医学と健康政策 【領域4】(2)								
*予定は変更となることがあります。初回に予定を説明します。								
<b>【履修要件】</b> 社会健康医学系専攻の院生 原則、出席80%以上を前提とする								
<b>【成績評価の方法・観点】</b> 1. レポート（配点比重 40%） 2. 日々の講義へのコミットメント（配点比重 60%）								
<b>【教科書】</b> 適宜、資料を講義にて配布する								
<b>【参考書等】</b> (参考書) 適宜、資料を講義にて配布する ・「NEW予防医学・公衆衛生学 改訂第4版」（編集:小泉昭夫/馬場園明/今中雄一/武林亨）南江堂, 2018.								
<b>【授業外学修（予習・復習）等】</b> 予習・復習は必要								
<b>【その他（オフィスアワー等）】</b> 健康政策学に関わる領域の教育を、専攻全体でカバーする。 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。								

科目ナンバリング P-PUB01 8H109 LB90								
授業科目名 医薬政策・行政 【領域4】 <英訳> Drug Policy and Regulation				担当者所属・職名・氏名	医学研究科 教授 川上 浩司			
配当学年	専門職	単位数	1	開講年度・開講期	2020・後期前半	曜時限	水2	授業形態 講義 使用言語 日本語及び英語
<b>【授業の概要・目的】</b> 本コースは医学研究科社会健康医学系専攻のMPHコア科目の一つです。医薬品、医療機器を軸に、日本および海外の健康新政、産業政策と行政を俯瞰します。社会福祉、財務、食品衛生、医薬経済の観点から、国際的な医薬品認可行政、経済性との整合、ライフサイエンス研究とトランスレーショナルリサーチの実際についても学びます。 【講義担当者】川上浩司（薬剤疫学・教授）、鉄橋正志（厚生労働省）、西嶋康弘（厚生労働省）、松林恵介（薬剤疫学・特定助教）								
<b>【到達目標】</b> ・医薬政策・行政、食品衛生行政、社会福祉に関連した政策の基本的考え方、方法論を理解している。 ・医薬経済、トランスレーショナルリサーチの政策上の取組の基本的考え方、方法論を理解している。								
<b>【授業計画と内容】</b> 第1回 10月 7日 医薬政策、行政の潮流 (川上) 第2回 10月 14日 米国連邦政府における医薬行政 (川上) 第3回 10月 21日 医療機器の行政、研究開発と課題 (川上) 第4回 10月 28日 日本における医薬行政と最近の動向 (鉄橋) 第5回 11月 11日 食品衛生行政 (西嶋) 第6回 11月 18日 医療保険制度と医薬品の評価 (松林)								
<b>【履修要件】</b> 本コース終了の翌週から継続して講義が行われるH079「医薬品の開発と評価」と連続、一括した内容となっており、原則として通じて受講できない方は受け入れ不可とします。また、同日3・4限のH099「医薬品・医療機器の開発計画、薬事と審査」も本講義の内容を掘り下げたもので、合わせて受講することを推奨します。								
<b>【成績評価の方法・観点】</b> 講義の場への参加 (50%) 、レポート (50%)								
<b>【教科書】</b> 使用しない								
<b>【参考書等】</b> <b>(参考書)</b> 安生紗枝子ら『新薬創製への招待：開発から市販後の監視まで』（共立出版、2006.）								

医薬政策・行政 【領域4】(2)								
川上浩司, 漆原尚巳, 田中司朗 (監修) 「ストロムの薬剤疫学」 (南山堂, 2019.)								
<b>【授業外学修（予習・復習）等】</b> 予習は特に不要であるが、復習については十分に行うこと期待する。								
<b>(その他（オフィスアワー等）)</b> 川上浩司 G棟3階・内線: 9469 (代表) 面談希望は必ずメールでご連絡下さい。 kawakami.koji.4e@kyoto-u.ac.jp 人間健康科学系専攻学生の受講可否： 可 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。								

科目ナンバリング P-PUB01 8H126 LB90								
授業科目名 保健・医療の経済評価 【領域4】 <英訳> Economic Evaluation in Health Care				担当者所属・職名・氏名	医学研究科 教授 今中 雄一 医学研究科 特定准教授 佐々木 典子 医学研究科 准教授 國澤 進 医学研究科 特定講師 大坪 徹也			
配当学年	専門職	単位数	1	開講年度・開講期	2020・前期前半	曜時限	水3	授業形態 講義 使用言語 日本語及び英語
<b>【授業の概要・目的】</b> ・保健・医療における経済評価を支える理論・フレームワークについての講義を行い、保健・医療の経済性評価のための主な研究手法を学習します。 ・保健・医療の経済評価は、通常、現実的な制約の中で評価をすることになりますが、その際の研究のあり方についても学習します。 ・保健・医療に関する幅広いテーマの経済評価の検討を行います。								
<b>【到達目標】</b> ・保健・医療における経済評価を支える理論・フレームワークや研究方法等について、重要事項を説明できる。 ・医療の経済評価研究に関するバイアスについて理解している。 ・治療技術・薬剤・医療材料・検査・健康新政プログラムなどに関する経済分析に用いられる主な研究手法として、費用分析・費用効果分析・費用効用分析・費用便益分析の違いやそれぞれの適応、費用算定・アウトカム測定・時間の概念・割引率・感度分析・増分費用効果比といった中心的な概念を理解して説明でき、分析結果の適切な解釈ができる。 ・上記を踏まえてこの領域の研究文献を批判的にレビューし、その意義を説明できる。研究プロトコールの作成や研究実施時に、習得した知識・技術を活用できる。								
<b>【授業計画と内容】</b> 第1回 4月8日 保健・医療における経済性の評価（1） 第2回 4月15日 保健・医療における経済性の評価（2） 第3回 4月22日 医療経済評価研究の評価法 第4回 5月13日 経済評価のモダリティ 第5回 5月20日 費用効果/効用分析の方法論1 第6回 5月27日 費用効果/効用分析の方法論2 第7回 6月3日 保健・医療の経済評価：論文レビュー&討議1 第8回 6月10日 保健・医療の経済評価：論文レビュー&討議2 * 初回に予定を説明します。								

保健・医療の経済評価 【領域4】(2)								
<b>【履修要件】</b> 非MCR限定 人間健康科学系専攻学生の受講可否： 否 原則、出席80%以上を前提とする								
<b>【成績評価の方法・観点】</b> 講義・討論・グループワーク・発表におけるコミットメント（配分40%）、課題レポート・期末などのレポート（配分60%）により、総合的に評価する。								
<b>【教科書】</b> 適宜、資料を講義にて配布する								
<b>【参考書等】</b> <b>(参考書)</b> • Drummond MF, et al. Methods for the Economic Evaluation of Health Care Programmes, 4th Ed. Oxford, 2015. • Myriam Hunink. Decision Making in Health and Medicine: Integrating Evidence and Values. Cambridge, 2001. • 医療制度・医療政策・医療経済（丸善出版,2013） • Handbook of Health Services Research (Springer Science+Business Media) • 「NEW予防医学・公衆衛生学 改訂第4版」（編集:小泉昭夫/馬場園明/今中雄一/武林亨） 南江堂, 2018.								
<b>【授業外学修（予習・復習）等】</b> 予習・復習は必要								
<b>(その他（オフィスアワー等）)</b> 経済学の学習経験は問いません。								
当分野では医療の経済性、質・安全・原価の実証研究政策研究、医療の政策や経営に深く関わりたい人を募っています。（医療経済学分野： <a href="http://med-econ.umin.ac.jp">http://med-econ.umin.ac.jp</a> ）								
注) 医療のプロセス、アウトカム等の質指標、診療のばらつき、医療の質の評価・改善、医療機能								
保健・医療の経済評価 【領域4】(3)へ続く↓↓								

保健・医療の経済評価 【領域4】(3)
評価、医療の質・安全に係わる制度・政策については、水曜3限「医療の質評価」(前期後半) (1単位)(MCR推奨選択・コア選択必修)を選択してください。
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		P-PUB01 8H128 LB90									
授業科目名 <英訳>	世界における医療制度・政策 【領域4】 Healthcare Systems and Policies around the World										担当者所属・職名・氏名
配当学年	専門職	単位数	1	開講年度・開講期	2020・前期集中	曜時限	K2 (前期前半)	授業形態	講義	使用言語	英語
【授業の概要・目的】											
Through studies of various healthcare systems, the students will learn mechanisms how they work and strategic options how to improve them. A healthcare system is a social system with multiple functions, multiple players and multiple drivers to change.											
【到達目標】											
1 ) To understand frameworks to grasp and assess healthcare systems 2 ) To understand and assess various healthcare systems around the world 3 ) To understand strategic options how to improve them											
【授業計画と内容】											
1 Apr 08 Universal Health Coverage & Health Care System in Japan 2 Apr 15 International Comparative Analyses of Health Systems 3 Apr 22* Community Based Integrated Care System 4 May 13* Health Insurance in Japan 5 May 20* To Strengthen Health System for Safe and Quality Care toward Universal Health Coverage (UHC) 6 May 27* The next step of the global health system 7 Jun 03* Health Informatics and (Health) Policy 8 Jun 10 Group work & Presentation *Includes students' short presentations about the healthcare system of their own country Note: This schedule is subject to change.											
【履修要件】											
• non-Japanese speakers • Japanese with TOEFL iBT score $\geq 100$ • Attendance rate 80% or more											
<hr/> <hr/> <hr/> 世界における医療制度・政策 【領域4】(2)へ続く↓↓											

世界における医療制度・政策 【領域4】(2)
<b>【成績評価の方法・観点】</b>
Classroom participation (40%) Presentation (30%) Report (30%)
<b>【教科書】</b>
Reading materials will be distributed as needed.
<b>【参考書等】</b>
(参考書) • Tracking Universal Health Coverage - First Global Monitoring Report - (WHO,2015) • The World Health Report 2000- Health Systems: Improving Performance (WHO,2000) • 「NEW予防医学・公衆衛生学 改訂第4版」(編集:小泉昭夫/馬場園明/今中雄一/武林亭) 南江堂。2018.
<b>【授業外学修（予習・復習）等】</b>
Good preparation and review are necessary.
<b>（その他（オフィスアワー等））</b>
Our department has been accepting graduate students who are interested in research related to health care policies, health care management, and health care quality/safety/cost. ( <a href="http://med-econ.umin.ac.jp/int/">http://med-econ.umin.ac.jp/int/</a> )
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		P-PUB01 8H075 LB90									
授業科目名 <英訳>	行動科学 【領域5】 Behavioral Science										担当者所属・職名・氏名
配当学年	専門職	単位数	1	開講年度・開講期	2020・前期前半	曜時限	火1	授業形態	講義	使用言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
I. コースの概要 人間行動に関する理論の基礎について学習する。特に実践的に有用であることが示されている理論を中心に学習する。  II. 教育・学習方法 パワーポイントスライドによる講義、グループディスカッション、筆記試験											
【到達目標】											
・主な行動理論について説明することができる。 ・行動理論の応用・適用を考えることができる。											
【授業計画と内容】											
第1回 4/14 イントロダクション、ヘルスピリーフモデル 第2回 4/21 トランセセオレティカルモデル、計画的行動理論 第3回 5/12 認知行動理論、認知行動療法 第4回 5/19 社会的認知理論 第5回 5/26 ストレスとコーピング 第6回 6/2 メンタルヘルス（精神および行動の障害） 第7回 6/9 まとめ（1） 第8回 6/23 まとめ（2）、試験 予備日 6月30日											
【履修要件】											
MPHコア (選択必修)											
【成績評価の方法・観点】											
平常点(出席を含む)50点、試験50点(単位取得のためには、合計で60点以上が必要。)											
【教科書】											
毎回、講義資料を配布する。											
【参考書等】											
(参考書) 必須テキスト：なし  推奨テキスト： • Glanz et al. Health Behavior and Health Education-theory, research and practice. 4th edition. Jossey-Bass.											
<hr/> <hr/> <hr/> 行動科学 【領域5】(2)へ続く↓↓											

<b>行動科学 【領域5】(2)</b>
2008年行動科学の定番的教科書です。部分訳が出版されています「健康行動と健康教育－理論、研究、実践」(曾根智史ら、医学書院、2006年)) ・松本千明・医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎、医歯薬出版、2002 (簡略に要領よく行動科学の種々の理論がまとめられています)
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b> 毎回復習をしてください。
<b>(その他（オフィスアワー等）)</b> その他メッセージ 人間健康科学系専攻学生の受講可否：不可 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

<b>科目ナンバリング</b>	P-PUB01 8H076 LB90										
<b>授業科目名</b>	基礎医療倫理学 【領域5】 <英訳> Basic Medical Ethics										
<b>担当者所属・職名・氏名</b>	医学研究科 教授 小杉 真司										
<b>配当学年</b>	専門職	<b>単位数</b>	1	<b>開講年度・開講期</b>	2020・前期前半	<b>曜時限</b>	木5	<b>授業形態</b>	講義	<b>使用言語</b>	日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
【基本情報】 授業日時：木曜5限（前期前半） 教室：G棟セミナー室A レベル：基礎 担当者：小杉真司・和田敬仁・山田崇弘・竹之内沙弥香・大守伊織（岡山大学）											
【コースの概要】 社会健康医学における研究と実践の基礎となる医療倫理の考え方、研究倫理申請などについて、その骨子を学ぶ											
<b>[到達目標]</b>											
・社会健康医学における研究と実践の基礎となる医療倫理上の問題に適切に対応できる。 ・主な医療倫理理論について説明できる。 ・自身の研究倫理申請が適切にできる。 ・産婦人科医療・小児医療・終末期医療などにおける医療倫理上の問題を説明できる。											
<b>[授業計画と内容]</b>											
【第1回】 4/16 <小杉> 医療倫理学総論・医療倫理における考え方 【第2回】 4/23 <和田> 新生児・小児医療と倫理など(1) 【第3回】 4/30 <山田> 産婦人科医療と倫理 【第4回】 5/7 <竹之内> 終末期医療の倫理 【第5回】 5/14 <大守> 生命倫理学の歴史 【第6回】 5/21 <小杉> 研究倫理・倫理審査委員会 【第7回】 6/4 <和田> 新生児・小児医療と倫理など(2) (変更の可能性があるので開講日に確認してください)											
<b>[履修要件]</b>											
MPHコア科目（選択必修） 自身の研究計画を倫理申請する予定がある場合は必ず履修すること（MCR含む） 人間健康科学系専攻学生の受講可否：要事前連絡											
<b>[成績評価の方法・観点]</b>											
平常点（出席を含む）（約40%）、レポート（約60%）などを総合的に判定する。 <レポート提出期限> ・中間レポート締切：5月20日 ・最終レポート締切：6月30日 メールで提出。 受領確認メールはいたしません。											
----- 基礎医療倫理学【領域5】(2)へ続く↓↓											

<b>基礎医療倫理学 【領域 5】(2)</b>
<b>[教科書]</b> 講義中の配布資料
<b>[参考書等]</b> (参考書)
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b> 適宜指示する
<b>(その他（オフィスアワー等）)</b> ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

<b>科目ナンバリング</b>	P-PUB01 8H077 LB90										
<b>授業科目名</b>	医学コミュニケーション・基礎 【領域 5】 <英訳> Medical Communication: Introduction										
<b>担当者所属・職名・氏名</b>	医学研究科 准教授 岩隈 美穂										
<b>配当学年</b>	専門職	<b>単位数</b>	1	<b>開講年度・開講期</b>	2020・前期前半	<b>曜時限</b>	火5	<b>授業形態</b>	講義	<b>使用言語</b>	日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
コースの概要 本コースは医学研究科社会健康医学系専攻のMPHコア科目の一つです。 医学コミュニケーションの基礎講座として、さまざまなバックグラウンド、専門、興味を持つ学生への対応を目的とした基本的事項を網羅し理解、検討を行います。											
<b>[到達目標]</b>											
学習到達目標（このコース終了時までに習得が期待できること） 医学コミュニケーションの基本的枠組み、コンセプトを理解する。 社会学・コミュニケーション学を手掛かりに、臨床におけるコミュニケーションについて理解する。											
<b>[授業計画と内容]</b>											
1) 4/14 イントロダクション 2) 4/2 医療と社会とコミュニケーション 3) 4/28 「病棟の子供たちに遊びを通じた日常を届ける」（高谷恵美氏 京大病院「にこにこトマト」代表） 4) 5/1 医療と社会とコミュニケーション 5) 5/19 コミュニケーション学の基本の「き」： 非言語 x 言語 x チャネル 6) 5/26 医療と時間と空間： 統一・非言語コミュニケーション 7) 6/2 まとめ											
<b>[履修要件]</b>											
選択必修											
<b>[成績評価の方法・観点]</b>											
平常点（授業参加度も含む） 50 % レポート 50 % 「一言宣言」 5 % + タイトル 10 % + 最終版 35 %											
----- 医学コミュニケーション・基礎【領域5】(2)へ続く↓↓											

医学コミュニケーション・基礎 【領域5】(2)
<b>[教科書]</b> ハンドアウトを配布する。
<b>[参考書等]</b> (参考書)
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b> コミュニケーション学の中で興味のあるリーディングを読むことを推奨する。
<b>(その他（オフィスアワー等）)</b> 「授業参加・貢献」を重視しているため、自発的発言を求める。 医療・医学への社会科学的アプローチに興味のある学生向け。 障害があり、授業あるいは課題への取り組みに配慮（Accommodation）が必要な場合、早めに相談に来ること。 講師の都合により日程変更の可能性あり。 留学生がいる場合、授業使用言語を英語にする可能性あり。 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング
授業科目名 医学基礎 I 「生理学 I」 <英訳> Physiology I
担当者所属・職名・氏名 医学研究科 教授 小杉 真司 医学研究科 教授 山田 重人
配当学年 専門職 単位数 2 開講年度・開講期 2020・前期 曜時限 授業形態 講義 使用言語 日本語
<b>[授業の概要・目的]</b> ※ 詳細未定（告知を確認のこと）
<b>[到達目標]</b> ※ 詳細未定（告知を確認のこと）
<b>[授業計画と内容]</b> 生理学I 月曜3, 4限 <開講日> 4/13,4/20,4/27,5/11,5/18,5/25,6/1 ※ 詳細未定（告知を確認のこと）
<b>[履修要件]</b> 特になし
<b>[成績評価の方法・観点]</b> 社会健康医学系専攻においては、平常点30%とレポート70%
<b>[教科書]</b> ※ 詳細未定（告知を確認のこと）
<b>[参考書等]</b> (参考書) ※ 詳細未定（告知を確認のこと）
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b> ※ 詳細未定（告知を確認のこと）
<b>(その他（オフィスアワー等）)</b> ※ 詳細未定（告知を確認のこと）
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング
授業科目名 医学基礎 I 「解剖学」 <英訳> Anatomy
担当者所属・職名・氏名 医学研究科 教授 小杉 真司 医学研究科 教授 山田 重人
配当学年 専門職 単位数 2 開講年度・開講期 2020・前期 曜時限 授業形態 講義 使用言語 日本語
<b>[授業の概要・目的]</b> 人体は様々な細胞から組織、器官が構成されており、それらが協調して働くことで一個体として機能している。人体の構造と機能に関する総合的的理解を目指し、特に、その構造異常や機能異常によって起こる「疾患」を念頭において概説する。学生諸君の知的好奇心を刺激する一方で、臨床に有益な関連事項を織り交ぜて解説したい。
<b>[到達目標]</b> ・人体の構造及び機能の基本を理解する。 ・異常により引き起こされる疾患の病態について解剖学的に説明できる。
<b>[授業計画と内容]</b> 解剖学 水曜3, 4限 <開講日> 4/8,4/15,4/22,5/13,5/20,5/27,6/3  1. Chapter1 Introduction to the Body ; Chapter2 Chemistry of Life 2. Chapter3 Cells ; Chapter4 Tissues 3. Chapter5 Organ Systems ; Chapter6 Skin and Membranes 4. Chapter7 Skeletal System 5. Chapter8 Muscular System 6. Chapter9 Nervous System 7. Chapter9 Nervous system(cont'd) 8. Chapter10 Senses ; Chapter11 Endocrine System 9. Chapter12 Blood ; Chapter13 Cardiovascular System 10. Chapter13 Cardiovascular System (cont'd) 11. Chapter14 Lymphatic System and Immunity ; Chapter15 Respiratory System 12. Chapter16 Digestive System ; Chapter17 Nutrition and Metabolism 13. Chapter18 Urinary System ; Chapter21 Reproductive System 14. Chapter22 Growth, Development, and Aging 15. 試験およびフィードバック
<b>[履修要件]</b> 特になし
<b>[成績評価の方法・観点]</b> 社会健康医学系専攻においては、平常点30%とレポート70%

医学基礎 I 「解剖学」(2)
<b>[教科書]</b> K.T.Patton, G.A. Thibodeau 「Structure & Function of the Body, 16th ed., Paperback」 (ELSEVIER) ISBN: 978-0323597791 (2019年11月発売の新刊を使用する。)
<b>[参考書等]</b> (参考書) K.T.Patton, G.A. Thibodeau 「Structure & Function of the Body, 16th ed., Paperback」 (ELSEVIER) ISBN: 978-0323597791 (2019年11月発売の新刊を使用する。) 【参考書】 塙田浩平「グレイ解剖学 原著第3版」(エルゼビア・ジャパン) ISBN:978-4860343064 (必要に応じて参照のこと。重いので毎回の講義に持参しなくてもよい。解剖実習では必要か。) 藤田恒夫「入門人体解剖学 改訂第5版」(南江堂) ISBN:978-4-524-24237-5 (英語がどうしても辛くなった時に参照するのに適切。)
<b>(関連URL)</b> <a href="https://evolve.elsevier.com/cs/">https://evolve.elsevier.com/cs/</a> (教科書を購入すると、ウェブサイトへのアクセス方法が入手できます。)
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b> ・ 講義前には、教科書の該当範囲を通読してくることが望ましい。 ・ 講義後には付録してある演習問題を解き、講義事項を確認する。
<b>(その他（オフィスアワー等）)</b> 初回講義より教科書を使用するので購入して持参すること。 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		P-PUB01 8H007 LB87									
授業科目名 -英訳>	医学基礎 II Basic Medicine II			担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 附属病院 佛教大学保健医療技術学部教授	教授 特定教授 河田 光博	小杉 真司 上嶋 健治 河田 光博				
配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020 後期	曜時限	木2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
担当教員 上嶋 健治(京都大学医学部附属病院相談支援センター長 特定教授) 循環 河田 光博(佛教大学 保健医療技術学部 教授) 神経内分泌学、脳科学、解剖学											
コースの概要 生活習慣病などの疾病を学ぶために必要な医学的基礎知識として、循環系の器官・器官系の生理機能と調節機構に加えて、医学基礎I(前期)で扱わなかった運動器系(骨と筋)、神経系、感覺器系(皮膚を含む)の基本的な構造と機能、およびその病態形成のメカニズムなどについて講義を行う。											
学習到達目標 (このコース終了時までに習得が期待できること) <ul style="list-style-type: none"> <li>・循環系について理解する</li> <li>・運動器系の構成と機能および頻度の高い疾患について理解する</li> <li>・神経系と感觉器系および頻度の高い疾患について理解する</li> </ul>											
教育・学習方法 講義形式 (一部、解剖センターでの見学)											
<b>[到達目標]</b> 医療系学部等での該当する教育を受けていない学生向けに開講している科目である。社会健康医学系専攻における多様な研究活動を行っていくための基礎的な学びを得る											
<b>[授業計画と内容]</b>											
第1回 10月 1日 循環器総論 ポンプとしての構造と機能を知る											
第2回 10月 8日 循環器各論 1 構造的異常を知る:弁膜症・先天性心疾患と血管疾患の理解のために											
第3回 10月 15日 循環器各論 2 構造的異常を知る:虚血性心疾患・救急医療の理解のために											
第4回 10月 22日 循環器各論 3 機能的異常を知る:高血圧・不整脈の理解のために											
第5回 10月 29日 運動器系:骨格系 1 (骨・軟骨組織の構造と軸骨格)について											
第6回 11月 5日 運動器系:骨格系 2 (上肢・下肢の骨・関節)について(解剖センターでの見学あり)											
第7回 11月 12日 運動器系:筋系 1 (筋組織の構造と運動)について											
第8回 11月 19日 運動器系:筋系 2 (上肢・下肢・体幹)について											
第9回 11月 26日 神経系:神経細胞の構造と機能について											
第10回 12月 3日 神経系:中枢神経系の構造と機能について(解剖センターでの見学あり)											
第11回 12月 10日 神経系:末梢神経系および自律神経系について											
第12回 12月 17日 神経系:代表的な脳・脊髄疾患の病態について											
第13回 12月 24日 感覚器系:視覚系の構造と機能について											
第14回 1月 7日 感覚器系:聴覚系・嗅覚系・味覚系について											

医学基礎 II(2)
第15回 1月 14日 感覚器系：体性感覚と皮膚について ※1回～4回：上嶋 健治、5回～15回：河田 光博
<b>[履修要件]</b> 特になし
<b>[成績評価の方法・観点]</b> 平常点30%とレポート70%
<b>[教科書]</b> ・カラーで学ぶ解剖生理学（第2版）（コメディカルサポート研究会）メディカル・サイエンス・インターナショナル（ELSEVIER）2017
<b>[参考書等]</b> <b>(参考書)</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・佐藤昭夫、佐伯由香編. 人体の構造と機能. 医歯薬出版, 2006.</li><li>・ティボドー、バットン(コメディカルサポート研究会訳). カラーで学ぶ解剖生理学. 医学書院, 2002.</li><li>・A.シェフラー、S.シュミット(三木明徳、井上貴央訳). からだの構造と機能. 西村書店, 2002.</li><li>・クロスマン、ネアリー(野村義、水野昇訳)神経解剖カラーテキスト第2版. 医学書院, 2008</li><li>・生理学テキスト 大地陸男(著) 文光堂, 2013</li><li>・標準生理学 福田康一郎(監修) 医学書院, 2014</li><li>・Eric Kandel, James Schwartz 他 Principles of Neural Science, McGraw-Hill Professional; 5版, 2012 (日本語版) 金澤一郎, 宮下保司(監修), カンデル神経科学、メディカルサイエンスインターナショナル、2014</li><li>・泰羅雅登、中村克樹(監修, 翻訳)カールソン神経科学テキスト脳と行動、丸善出版、2013</li><li>・人体の正常構造と機能 (改訂第3版) 全10巻縮刷版、日本医事新報社、2017</li><li>・プロメテウス解剖学コアアトラス 第2版、医学書院、2014</li><li>・絵でみる脳と神経：しくみと障害のメカニズム 第4版、2017</li></ul>
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b> 適宜予習復習を求める。
<b>(その他 (オフィスアワー等))</b> 人間健康科学系専攻学生の受講可否：可
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

臨床医学概論(2)	
<b>[履修要件]</b> 特になし	
<b>[成績評価の方法・観点]</b> 平常点(出席を含む) 50%、レポート 50%	
<b>[教科書]</b> 講義時に配布される資料あるいは紹介される文献。 推薦テキスト(購入は必須ではない) ・河田光博、武田英二編. 臨床医学入門人体の構造と機能及び疾病の成り立ち 第2版(栄養科学シリーズNEXT). 講談社サイエンティフィク, 2009. ・渡辺 決、勝見泰和、山村義治編. チーム医療従事者のための臨床医学全科. 金芳堂, 2006	
<b>[参考書等]</b> (参考書) (参考書) ・Harrison's Internal Medicine 19th edition, McGraw Hill Education ・Goldman-Cecil, Medicine, 25th edition, Elsevier ・ガイドン 生理学、エルセヴィアジャパン ・ハーパー 生化学、丸善 ・渡辺決 検診で見つかるがんの8割は良性がんである一過性診断時代の予防がん学一、晶文社、2019	
<b>[授業外学修(予習・復習)等]</b> 適宜予習復習を求める。	
<b>(その他(オフィスアワー等))</b> 必修である非医療系学部出身者はもちろん、医師はじめ医療系学部出身者の受講も歓迎します。 人間健康科学系専攻学生: 可 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

科目ナンバリング		P-PUB01 8H011 PJ90									
授業科目名 <英訳>	医療統計学実習 Introduction to Statistical Computing and Data Management					担当者所属・職名・氏名	医学研究科 准教授 土居 正明	教授 佐藤 俊哉	佐藤 俊哉	医学研究科 助教 大宮 将義	医学研究科 助教 大宮 将義
配当学年	専門職	単位数	2	開講年度・開講期	2020・前期	曜時限	火3,4	授業形態	実習	使用言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b> 医療統計学実習では、医療統計学講義で学んだ医療統計の考え方を実際に目で見て、体験することを目的とします。医療統計学の理解を深めるためにはお勧めの実習です。統計ソフトJMPによる簡単な集計、解析、プログラミングを実習します。実習のレポートはワープロソフトWordで作成してもらいます。図表などは表計算ソフトExcelを使って作成します。プレゼンテーションはプレゼンテーションソフトPowerPointを用いて行います。これらのソフトの使い方も学びます。 統計ソフトJMPは京都大学でライセンス契約しています。医学研究科の学生さんは医学研究科ホームページの、 <a href="http://www.med.kyoto-u.ac.jp/software/JMP/">http://www.med.kyoto-u.ac.jp/software/JMP/</a> から、実習で使用するノートパソコンにJMPをダウンドロード・インストールしてください。みんなさんの個人のパソコンにもインストールできますので、ノートパソコンなどにインストールして実習に持ってきてください。											
<b>[到達目標]</b> ・データチェック、データマネジメントの重要性を理解する ・ワープロ、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトを使って、すばらしい図表を作成し、すばらしい発表をし、すばらしいレポートを作成する ・統計ソフトを使って集計と簡単な統計計算を行うことで、医療統計の基礎的な考え方の理解を深める											
<b>[授業計画と内容]</b> 第1回 4月14日 イントロダクション、表計算ソフトを使う 第2回 4月21日 統計ソフトJMPを使う 第3回 4月28日 グループ実習1: テーマ選択・データ収集 第4回 5月12日 グループ実習2: データ収集 第5回 5月19日 グループ実習3: 集計・解析 第6回 5月26日 グループ実習4: プrezentation 第7回 6月2日 ランダムにわけてみよう 第8回 6月9日 リスク比、リスク差、オッズ比の不思議 第9回 6月16日 割合の差の検定と帰無仮説のほんとうの意味 第10回 6月23日 「95%信頼区間は95%の確率で真の値を含む」わけではない 第11回 6月30日 2×2表を解析する 7月7日 休講 第12回 7月14日 サンプルサイズを計算していくに多くの対象者が必要かをしる 第13回 7月21日 ランダムサンプリングしてみる 第14回 9月15日 発表会1(セミナー室A、10:30開始) 第15回 9月16日 発表会2(セミナー室A、10:30開始)											
----- 医療統計学実習(2)へ続く ↓↓↓											

医療統計学実習(2)	
<b>[履修要件]</b> ・演習室のスペースが32名までですので、社会健康医学系専攻の履修者を優先します ・毎年スペース以上の履修希望者がいて、希望通りに受け入れられない状況ですが、例年、途中から「参加できなくなった」という学生さんがいます。参加できなくなる可能性のある場合は受講を遠慮してください ・人間健康科学系専攻の学生さんの受け入れはしていません ・医科学修士、医学博士課程の受講希望者は事前に連絡してください ・レポートを書いたことのない人は、レポートの書き方に関する書籍などを読んでおいてください	
注 この実習は9月に発表があります	
<b>[成績評価の方法・観点]</b> レポートとプレゼンテーション ・毎回レポートを提出してもらいます ・班ごとのプレゼンテーション ・個人ごとのプレゼンテーション(9月)	
<b>[教科書]</b> 必須ソフト: JMP 毎回「実習の手引き」を配布します	
<b>[参考書等]</b> (参考書)	
<b>[授業外学修(予習・復習)等]</b> 毎回レポート提出があります	
<b>(その他(オフィスアワー等))</b> ・医療統計学実習を履修していないと後期「解析計画実習」は履修できません ・途中からの参加は認めません、必ず初回から出席してください ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

科目ナンバリング		P-PUB01 8H084 LJ90									
授業科目名 <英訳>	観察研究の統計的方法 Statistical Methods in Observational Studies					担当者所属・職名・氏名	医学研究科 准教授 土居 正明	教授 佐藤 俊哉	佐藤 俊哉	医学研究科 助教 大宮 将義	医学研究科 助教 大宮 将義
配当学年	専門職	単位数	2	開講年度・開講期	2020・前期集中	曜時限	金・3-6	授業形態	講義	使用言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b> 臨床研究や疫学研究では様々な観察研究が行われています。臨床試験に代表される実験研究を実施できない状況は数多くあり、観察研究は臨床研究・疫学研究において重要な役割を演じています。しかし、観察研究は実験研究ととなって、さまざまなバイアスが入りやすく、観察研究に特有の留意すべき事項も多くあります。 本コースでは観察研究のデザイン、統計解析の方法を解説し、観察研究を計画、実施、解析ならびに報告するための医療統計学の知識を習得することを目標とします。											
<b>[到達目標]</b> ・バイアスを避けるための研究デザイン上の工夫を理解する ・バイアスを調整するための統計的方法を理解する ・観察研究における因果推論の考え方を理解する ・様々な研究デザインによる対象者のサンプリング方法と解析方法を理解する											
<b>[授業計画と内容]</b> 集中講義6月5日、12日、19日、26日(金) 3限～6限 (28日のみ3限・4限) 第1回 6月 5日 3限 2×2表の数理と解析 第2回 6月 5日 4限 観察研究におけるバイアス 第3回 6月 5日 5限 層別解析 第4回 6月 5日 6限 演習1 第5回 6月12日 3限 マッチング 第6回 6月12日 4限 一般化線形モデル 第7回 6月12日 5限 生存時間解析 第8回 6月12日 6限 演習2 第9回 6月19日 3限 新しい疫学研究デザイン1 第10回 6月19日 4限 新しい疫学研究デザイン2 第11回 6月19日 5限 バイアス流の解析 第12回 6月19日 6限 演習3 第13回 6月26日 3限 傾向スコアによる解析 第14回 6月26日 4限 操作変数法											
<b>[履修要件]</b> ・統計学の基本的な知識(確率分布、尤度、漸近分散、など)を前提とした難しいコースなので、前期「統計的推測の基礎」を履修済みであること ・受講希望者は登録前に必ず相談してください ----- 観察研究の統計的方法(2)へ続く ↓↓↓											

観察研究の統計的方法(2)	
<p>・人間健康科学系専攻の学生さんの受け入れはしていません</p>	
<b>[成績評価の方法・観点]</b>	
数理・解析に関する演習のレポート	
<b>[教科書]</b>	
毎回講義資料を配布します。	
<b>[参考書等]</b>	
<p>(参考書) 佐藤俊哉『宇宙怪人しまりす 医療統計を学ぶ 検定の巻』(岩波書店) ISBN:978-4-00-029594-9 丹後俊郎、松井茂之編『新版 医学統計学ハンドブック』(朝倉書店) ISBN:978-4-254-12299-9 Rothman KJ, Greenland S, Lash TL『Modern Epidemiology, 3rd ed.』(Lippincott, Williams &amp; Wilkins) ISBN:978-0-7817-5564-1</p>	
<b>[授業外学修(予習・復習)等]</b>	
演習の課題を解くこと	
<b>(その他(オフィスアワー等))</b>	
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

科目ナンバリング		P-PUB01 8H093 LB90									
授業科目名 <英訳>	文献検索法 Literature Search					担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 医学研究科	准教授 教授	高橋 中山	由光 健夫	
配当 学年	専門職	単位数	1	開講年度・ 開講期	2020・ 前期前半	曜時限	月4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
<p>・臨床研究を含む社会健康医学(パブリックヘルス)領域において、基本的なスキルの1つである文献検索の方法論について講義を行います。          ・疫学・EBM(根拠に基づく医療)の知識をもとに、各種の健康・医療情報を検索する方法を学習します。          ・PubMed、コクラン・ライブラリー、医学中央雑誌など代表的な医学文献データベース、有用なWebサイト、本学で利用可能な情報リソースの基礎的事項を紹介し、その活用法の習得を目指します。          ・EBMや疫学の基礎知識を学びながら、社会健康医学の学習・研究を進める基礎として、系統的な情報検索法の習得を目指します。          ・教育・学習方法：パワーポイントスライドによる講義と実習</p>											
<b>[到達目標]</b>											
各種データベースを活用して、社会健康医学に関する情報を検索するスキルを習得する。											
<b>[授業計画と内容]</b>											
第1回 4月13日 オリエンテーション (中山・高橋) 第2回 4月20日 医中誌Web入門 (医学中央雑誌) 第3回 4月27日 PubMed入門 (医学図書館) 第4回 5月11日 コクリナル・クエスチョン、診療ガイドライン、システムティック・レビュー (中山) 第5回 5月18日 PubMed応用 (高橋) 第6回 5月25日 コクラン・ライブラリー (ワイリー) 第7回 6月1日 文献管理入門 (Mendeley) (エルゼビア・ジャパン) 第8回 6月8日 文献評価の基本&各種声明 (中山)											
<b>[履修要件]</b>											
特になし											
<b>[成績評価の方法・観点]</b>											
毎回の小レポート(30%) および課題レポート提出(70%)											
-----文献検索法(2)へ続く↓↓-----											

文献検索法(2)	
<b>[教科書]</b>	
使用しない	
<b>[参考書等]</b>	
<p>(参考書) 中山健夫、津谷喜一郎編著『臨床研究と疫学研究のための国際ルール集』(ライフサイエンス出版)</p>	
<b>[授業外学修(予習・復習)等]</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>ECS-ID(学生アカウント)が必要です。 <a href="http://www.iimc.kyoto-u.ac.jp/ja/services/cert/ecs_id/">http://www.iimc.kyoto-u.ac.jp/ja/services/cert/ecs_id/</a></li> </ul>	
<b>(その他(オフィスアワー等))</b>	
人間健康科学系専攻学生の受講可否:受講可	
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

科目ナンバリング		P-PUB01 8H094 LB90											
授業科目名 <英訳>	文献評価法 Critical Appraisal					担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 准教授 名古屋第二赤十字病院 副院長 三重県立一志病院 院長 奈良県立医科大学 講師 東京都健康長寿医療センター 研究部長 東京大学附属病院人間健康医療センター副部長 佐々木 善令 四方 哲 田中 優 石崎 達郎 野口 善 高橋 由光 中山 健夫	中山	健夫	由光	高橋	中山	健夫
配当 学年	専門職	単位数	1	開講年度・ 開講期	2020・ 前期集中	曜時限	前半:月4 後半:月4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語		
<b>[授業の概要・目的]</b>													
<p>・臨床研究を含む社会健康医学(パブリックヘルス)領域において、基本的なスキルの1つである文献の評価方法について講義を行います。          ・疫学・EBM(根拠に基づく医療)の知識をもとに、各種の健康・医療情報を検索し、適切に評価した上で利用する方法を学習します。</p>													
<p>教育・学習方法 ・パワーポイントスライドによる講義と実習 ・一部グループワークあり</p>													
<b>[到達目標]</b>													
得られた文献・情報を批判的に吟味し、主体的に活用する能力を習得する。													
<b>[授業計画と内容]</b>													
第1回 4月13日オリエンテーション (中山・高橋) 第2回 6月15日CASPによる臨床試験論文の評価 (中山) 第3回 6月22日ケースを用いたバイアスの評価(1) (石崎) 第4回 6月29日ケースを用いたバイアスの評価(2) (石崎) 第5回 7月6日コクリン共同計画によるコクリナル・レビューを通して (田中・中山・佐々木) 第6回 7月13日CASPによるメタアナリシス論文の評価 (中山) 第7回 7月20日AGREE法による診療ガイドラインの評価 (中山) 第8回 8月3日(4・5限) メタアナリシスセミナー (野口・四方・田中・中山)													
<b>[履修要件]</b>													
特になし													
<b>[成績評価の方法・観点]</b>													
毎回の小レポート(30%) および課題レポート提出(70%)													
-----文献評価法(2)へ続く↓↓-----													

文獻評価法(2)
<b>[教科書]</b> 講義資料は配布
<b>[参考書]</b> (参考書) 中山健夫, 津谷喜一郎編著『臨床研究と疫学研究のための国際ルール集』(ライフサイエンス出版)
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b> 予習より復習に時間を取ること
<b>(その他（オフィスアワー等）)</b> EBMや疫学の基礎知識を学びながら、社会健康医学の学習・研究を進める基礎として、系統的な文献評価法の習得を目指します。 人間健康科学系専攻学生の受講可否： 可 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	P-PUB01 8H115 LB90										
授業科目名 <英訳>	ヘルスサイエンス研究の進め方 Methods of Health Sciences Research										
担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 中山 健夫 非常勤講師 宮崎 貴久子 スタッフコム株式会社 植谷 可恵										
配当 学年	専門職	単位数	1	開講年度・ 開講期	2020・ 前期集中	曜時限	金・4	講義形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療・ヘルスサイエンス研究を進めるにあたって必要な、明確で正確なコミュニケーションの基本的知識を学びます。</li> <li>・研究者として「知らなかった」ではすまされない研究と出版の倫理について学びます。</li> <li>・研究成果公表にあたって分かりやすい、科学的・論理的な文章、図表、スライドやポスターの作成法を学びます。</li> </ul>											
<b>[到達目標]</b>											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヘルスサイエンス研究をする意味への理解を深めます。</li> <li>・研究者として遵守すべき研究と出版の倫理について理解する。</li> <li>・研究を進めるにあたって必要な学会発表、論文出版の進め方、助成金申請の準備について基本的な手順を理解する。</li> <li>・研究成果を公表するにあたって必要な科学的な文章作成方法と、一般的な文章表現方法の違いを理解する。</li> </ul>											
<b>[授業計画と内容]</b>											
<p>第1回 5月29日3限 ヘルスサイエンス研究の歴史と意義、公正な科学研究（中山・宮崎）      第2回 5月29日4限 研究と出版の倫理I（総論）（宮崎）      第3回 6月5日3限 研究と出版の倫理II（ICMJE）（宮崎）      第4回 6月5日4限 論理的な文章作成法：効果的・効率的な書き方、論文と抄録の書き方（宮崎）      第5回 6月12日3限 論理的な文章作成法：パラグラフ構造（植谷）      第6回 6月12日4限 京都大学における医学研究の歴史（中山）      第7回 6月19日3限 表とグラフでのデータ表示法（宮崎）      第8回 6月19日4限 ポスターとスライド発表、助成申請と研究計画書（宮崎）</p>											
<b>[履修要件]</b>											
特になし											
<b>[成績評価の方法・観点]</b>											
授業への積極的な参加・発言（60%） レポート（40%）											
-----ヘルスサイエンス研究の進め方(2)へ続く↓↓											

ヘルスサイエンス研究の進め方(2)
<b>[教科書]</b> 講義資料は配布
<b>[参考書]</b> (参考書) Thomas Lang 『トム・ラングの医学論文「執筆・出版・発表」実践ガイド』（シナジー） Thomas Lang 『わかりやすい医学統計の報告：医学論文作成のためのガイドライン』（中山書店） 中山健夫 ほか『臨床研究と疫学研究のための国際ルール集』（ライフサイエンス社） 購入は必須ではありません。
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b> ・各回授業につき1時間程度。 ・第一回の授業前に、ICMJE Recommendationsを読んでください。 (http://www.jcmje.org/recommendations/)
<b>(その他（オフィスアワー等）)</b> ・授業中は自分の表現で意見表明できるように常に考えてください。 ・開講日と時限に注意してください。
人間健康科学系専攻学生の受講可否：可ですが、授業中のディスカッションに参加することを認識しておいてください。  ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	P-PUB01 8H129 LB90										
授業科目名 <英訳>	医療の質評価 Evaluation of Quality in Health Care										
担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 今中 雄一 特定准教授 佐々木 典子 医学研究科 准教授 國澤 進 医学研究科 特定講師 大坪 徹也										
配当 学年	専門職	単位数	1	開講年度・ 開講期	2020・ 前期集中	曜時限	木・4 (前後半)	授業形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
医療の質、医療安全、公正と効率に関して、医療スタッフ・医療施設・地方自治体・国に至る諸々の現場レベルにおける重要課題を扱い、基本的事項を理解する。 <内容> <ul style="list-style-type: none"><li>・医療の質、公正と効率</li><li>・Quasi-Experimental Designの基本について説明できる</li><li>・医療の質・安全・効率におけるマネジメントシステムと政策</li><li>・医療の評価・病院機能評価</li><li>・医療情報と医療の質評価</li><li>・医療の質指標（QI）とその活用</li></ul>											
<b>[到達目標]</b>											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療の質を評価する際に必要な理論・概念、研究・評価手法、課題と対策について、重要事項を理解し、他者に説明ができるようになること。</li> <li>・基本的な研究や社会制度の意義を系統的、批判的に解釈できるようになること。</li> <li>・社会健康医学の研究及び実務上の問題解決に、関連しうる知識等を活用できるようになること。</li> </ul>											
<b>[授業計画と内容]</b>											
<p>第1回 6月17日 医療の質、効率、そして公正      第2回 6月24日 医療の質・安全と組織文化      第3回 7月1日 医療の質の評価法、アワトカム研究・リスク調整      第4回 7月8日 医療の質の指標化（QI・CI）      第5回 7月15日 情報システムと医療評価      第6回 7月22日 医療の質評価：論文レビュー＆討議1      第7回 7月29日 医療の質評価：論文レビュー＆討議2</p>											
* 外部講師他の諸状況により日程変更あります。初回に予定を説明します。											
<b>[履修要件]</b>											
社会健康医学系専攻院生 他専攻院生（人間健康科学系専攻等含む）の受講可否： 3名程度まで可（ただし、社会健康医学系専攻院生を前提とした講義となります。） 原則、80%以上の出席を前提とする											
-----医療の質評価(2)へ続く↓↓											

医療の質評価 (2)
-----
<b>[成績評価の方法・観点]</b>
1. レポート 60% 2. 日々の講義へのコミットメント 40%
<b>[教科書]</b>
適宜、資料を講義にて配布する。
<b>[参考書等]</b>
(参考書) ・医療安全のエビデンス－患者を守る実践方策(医学書院,2005) ・病院の教科書(医学書院,2010) ・Handbook of Health Services Research (Springer Science+Business Media) ・「NEW予防医学・公衆衛生学 改訂第4版」(編集:小泉昭夫/馬場園明/今中雄一/武林亨) 南江堂, 2018.
<b>[授業外学修(予習・復習)等]</b>
予習・復習は必要
<b>(その他(オフィスアワー等))</b>
当分野では、医療政策、医療経営、医療の質・安全・コスト研究に深く関わりたい人を募っています。(医療経済学分野: <a href="http://med-econ.umin.ac.jp">http://med-econ.umin.ac.jp</a> )
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング																		
授業科目名	毒性学入門 <英訳> Introduction to Toxicology					担当者所属・職名・氏名	医学研究科 准教授 原田 浩二											
配当年	専門職	単位数	2	開講年度・開講期	2020・前期	曜時限	水4	授業形態	講義									
使用言語	日本語及び英語																	
<b>[授業の概要・目的]</b>																		
I. コースの概要 化学物質の健康影響を考えると、「正」の面である薬と「負」の面である毒がある。本コースでは、環境汚染物質や身边にある金属、有機物質の毒性を有名な事件や古典を題材として考案し、初級中毒学を学ぶ。予習の必要はありませんが、高校化学の知識は必要です。題材から事件を推理するのではなく、現代化学文明の獲得した利便性の、ヒト健康に及ぼす負の作用を考えます。ケーススタディをもとに、薬物、毒物の影響を教授しますが、自らも考え、積極的に意見発表を行ってください。																		
<b>[到達目標]</b>																		
II. 学習到達目標 (このコース終了時までに習得が期待できること) ・化学物質の毒性を知ることができる ・毒物に関して、症状から文献検索ができる。 ・症状と経過から毒物を予想できる。中毒学の基礎を知ることができる																		
<b>[授業計画と内容]</b>																		
コース予定・内容 第1回 オリエンテーション (環境保健と中毒学) Orientation 第2回 アルコールの毒性と遺伝 Alcohol toxicity and genetics 第3回 インスリン殺人事件 Insulin 第4回 ネオニコチノイド農薬 Neonicotinoid pesticide 第5回～6回 水銀中毒 Mercury poisonings 第7回～8回 鉛中毒 Arsenic poisonings 第9回 麻薬の毒性 Opioid and cannabinoid 第10回 インドの小児の夏の死亡の原因を推論する Cause of Chiredren's Death in India during summer 第11回 リカブトなどの自然毒 Aconitine 第12回 生薬から生まれた現代医薬 Medicines from natural products 第13回～14回 グループワーク Group work 第15回 レポート講評																		
<b>[履修要件]</b>																		
特になし																		
<b>[成績評価の方法・観点]</b>																		
平常点(出席と質問等の積極性を含む) 70%、レポート30%																		
----- 毒性学入門(2)へ続く↓↓↓																		

毒性学入門(2)
-----
<b>[教科書]</b>
講義中の配布資料
<b>[参考書等]</b>
(参考書) 授業中に紹介する
<b>[授業外学修(予習・復習)等]</b>
・グループワークについては授業時間外で準備すること
<b>(その他(オフィスアワー等))</b>
人間健康科学系専攻学生の受講可否： 上限10人まで可能  ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング									
授業科目名	医療社会学・基礎 <英訳> Medical Sociology					担当者所属・職名・氏名	医学研究科 准教授 岩隈 美穂		
配当年	専門職	単位数	1	開講年度・開講期	2020・前期集中	曜時限	前期後半	火5	授業形態 講義 使用言語 日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b>									
コースの概要 医療社会学とは「健康・病気と保健・医療に関わる世界の問題を、行動や生活、家族や集団、地域や社会、文化などに関する社会学の理論と方法を用いて解明する学問分野」崎喜比古(編)、2001、「健康と医療の社会学」まえがきより) このクラスの射程として、社会学はもちろん人文学、コミュニケーション学、歴史、哲学、倫理学などを含む予定で、「人文学・社会科学」から医学を考える。									
<b>[到達目標]</b>									
学習到達目標 (このコース終了時までに習得が期待できること) 医療社会学とは何か、を説明できる。 医療社会学の概念、理論、方法論を理解する。 自分の興味のある研究テーマにひきつけて医療社会学を考えることができる。 「人文學・社会科学」からの医療・医学への視点や語彙を提供し、履修者たちの描く「理想の医療」への改革へのヒントにすることができる。									
<b>[授業計画と内容]</b>									
1) 6/9 イントロダクション 2) 6/16 医療社会学の基礎 3) 6/23 IPE/IPWCについて (酒井郁子氏 千葉大学) 4) 6/30 病と疾病ほか 5) 7/7 病人役割・スティグマ・その他 6) 7/14 エンハンスメント 7) 7/21 まとめ									
<b>[履修要件]</b>									
特になし									
<b>[成績評価の方法・観点]</b>									
出席 25% 授業参加度 25% レポート 50% タイトル 15% + 最終版 35%									
----- 医療社会学・基礎(2)へ続く↓↓↓									

医療社会学・基礎(2)
<b>[教科書]</b> ハンドアウトを配布する
<b>[参考書等]</b> (参考書)
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b> 各自の興味関心に関連した医療社会学のリーディングを読むことを薦める
<b>(その他（オフィスアワー等）)</b> 「授業参加・貢献」を重視しているため、自発的発言を求める。 医療・医学への社会科学的アプローチに興味のある学生向け。 障害があり、授業あるいは課題への取り組みに配慮（Accommodation）が必要な場合、早めに相談に来ること。 講師の都合によって、内容や日程が変わることもある。
人間健康科学系専攻学生の受講可否： 10名まで可 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-MED41 8S004 LE87						
授業科目名	統計遺伝学 I <英訳> Statistical Genetics I				担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 山田 亮	
配当年 学年	博士	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 前期集中	曜時限	集中講義 授業形態 講義・演習 使用言語 日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b>							
Days and hours (1st week of August, Mon, Tue, Wed, and Fri. No Thr) 1 August 3rd 8:45-10:15 2 August 3rd 10:30-12:00 3 August 3rd 13:00-14:30 4 August 3rd 14:45-16:30 5 August 4th 8:45-10:15 6 August 4th 10:30-12:00 7 August 4th 13:00-14:30 8 August 4th 14:45-16:30 9 August 5th 8:45-10:15 10 August 5th 10:30-12:00 11 August 5th 13:00-14:30 12 August 5th 14:45-16:30 13 August 6th 8:45-10:15 14 August 6th 10:30-12:00 15 August 7th 13:00-14:30 16 August 7th 14:45-16:30 Spare							
統計遺伝学の学修にあたり3つの要素に分けて取り組む。基礎数学、統計解析の基礎、統計解析の応用の3つである。 基礎数学は線形代数、微分積分学、グラフ理論、情報幾何学の4つを扱う。基礎ではデータ型・検定・推定の考え方を扱う。応用では、マンデル型遺伝、癌症候群、複合遺伝性疾患、発現解析を取り上げる。 これらを以下のような6つのモジュールとして提供する。 基礎数学A(線形代数とグラフ理論)、基礎数学B(微分積分学と情報幾何) 統計解析基礎A(データ型と検定)、統計解析B(推定) 統計解析応用A(マンデル型遺伝、癌症候群)、統計解析応用B(複合遺伝性疾患と発現解析) 統計遺伝学I、IIはそれぞれ前期、後期に開講するが、年度ごとにその提供内容は変わる。 2018年度からの提供予定は以下のとおりとする。 2018 前期 基礎数学A、後期 統計解析基礎A 2019 前期 基礎数学B、後期 統計解析応用B 2020 前期 基礎数学A、後期 統計解析基礎B 2021 前期 基礎数学B、後期 統計解析応用A また、統計遺伝学IIの講義では、プログラミング言語Rを使い、計算、データ解析、データ視覚化、データシミュレーションの技術も学ぶ。 2019年度前期は基礎数学Bである。							
This course is consisted of three components to master the basics of statistical genetics; (1) basic mathematics, (2) basics of statistics and (3) application of statistics to genetic studies. The course divides these three components into six modules and provides one of them for each semester.							
統計遺伝学 I (2)へ続く↓↓↓							

統計遺伝学 I (2)
Basic mathematics A: Linear algebra and graph theory Basic mathematics B: Calculus and information geometry Basics of statistics A: Data types and statistical tests Basics of statistics B: Inference Application of statistics A: Statistical aspects of Mendelian traits and Cancer syndromes Application of statistics B: Statistical aspects of complex genetic traits and gene expression biomarkers. Schedule plan is as below: 2018 1st semester Basic mathematics A, 2nd semester Basics of statistics A 2019 1st semester Basic mathematics B, 2nd semester Application B 2020 1st semester Basic mathematics A, 2nd semester Basics of statistics B 2021 1st semester Basic mathematics B, 2nd semester Application A In the course, the language R is used for data analysis, simulation and visualization. This semester: BASIC MATHEMATICS B.
<b>[到達目標]</b> 基礎数学A：行列演算による、二乗法・PCAがわかる。グラフ理論の基礎を習得する。 基礎数学B：確率密度関数の微分積分の式が理解できる。尤度関数と最尤推定のための微分演算が理解できる。近似のための微分積分が理解できる。情報幾何の基礎を理解する。 統計解析基礎A：統計遺伝学分野におけるデータ型、検定、漸近似似検定、正確確率検定、分割表検定を理解する。 統計解析基礎B：点推定・区間推定、ベイズ推定、最尤推定、尤度関数を理解する。 統計解析応用A：マンデル遺伝形質のリスク評価、癌症候群のリスク評価を理解する。 統計解析応用B：複合遺伝性疾患の遺伝モデルとそのリスク評価、遺伝子発現プロファイルとバイオマーカーについて理解する。 いずれのモジュールにおいても、コンピュータ言語Rを用いて基礎的な計算・プログラミングの技術を習得する。
Basic mathematics A: To understand matrix calculation least squares, PCA, and the basics of graph theory. Basic mathematics B: To understand calculus for probability density functions, likelihood functions and maximum likelihood estimation, approximation, and the basics of information geometry. Basics of statistics A: To understand data types, statistical tests, asymptotic tests, exact tests, and contingency table tests Basics of statistics B: To understand point and interval estimates, Bayesian estimates, maximum likelihood estimates and likelihood functions. Application A: To understand statistical aspects for risk evaluation of Mendelian traits and cancer syndromes. Application B: To understand statistical aspects for risks evaluation of complex genetic traits and expression profiles. In every module, the basics of R language should be mastered.
<b>[授業計画と内容]</b> 数学基礎A 前半に線形代数を、後半にグラフ理論を扱う。 線形代数では、行列計算、分散共分散行列、最小二乗法、連立方程式、PCA、最適解を順に取り上げる。

統計遺伝学 I (3)
グラフ理論では、グラフの定義、グラフオブジェクトのRでの取り扱い、木、最小全域木、ラジタムグラフ、ネットワークを順に取り上げる。 数学基礎B 前半に微分積分学を、後半に情報幾何を扱う。 微分積分学では、確率密度分布の期待値、尤度関数と最尤推定のための微分、確率密度関数・累積分布関数・ハザード関数のための微分積分、偏微分とHWE、最小二乗法、ティラー展開を順に取り上げる。 情報幾何では、その基礎、フィッシャー情報量、双対平坦、指数型分布族、KLダイバージェンスを取り上げる。 統計解析基礎A データ型、カテゴリと正単体、 $2 \times 2$ 表のカイ二乗検定と正確確率検定、HWE検定とその正確確率検定、 $2 \times 3$ 表検定と遺伝モデル、一様分布とマルチブルテスティングとボンフェロニ補正を順に扱う。 統計解析基礎B 点推定と区間推定、ペイズ推定、二項分布とベータ分布、ハプロタイプ頻度推定とEMアルゴリズム、連鎖不平衡ブロックを順に扱う。 統計解析応用A 前半にマンデル遺伝を、後半に癌症候群を扱う。 マンデル遺伝では、家系図、マンデル遺伝のジェノタイプとフェノタイプ、NGSと疾患責任変異を扱う。 癌症候群では、その基礎、リスク評価、決断支援ツール、ペイズ推定、ペイジアンネットワークを扱う。 統計解析応用B 前半に複合遺伝性疾患を、後半にトランスクリプトーム・発現プロファイルによる癌のサブタイプを扱う。 複合遺伝性疾患では、遺伝モデル、集団・コホート、 $2 \times 3$ 表の関連検定、多座位モデルを扱う。 トランスクリプトーム・発現プロファイルでは、その基礎、Differential expression analysis、クラスタリングとヒートマップ、教師ありクラスタリング、バリデーション法を扱う。
Basic mathematics A The first half: Linear algebra, including matrix calculation, variance-covariance matrix, least square method, system of equation, PCA, optimization The second half: Graph theory, including basics of graph theory, tree, minimum spanning tree, random graph, and network and graph objects in R language.
Basic mathematics B The first half: Calculus, including expect of probability density functions, likelihood function and maximum likelihood estimate and calculus for them, calculus for probability density function, cumulative density function and hazard functions, partial derivative and HWE, calculus for least square methods and Taylor expansion. The second half: Information geometry, including its basics, Fisher information, dual flatness, exponential families and KL divergence.
Basics of statistics A Data types including categorical types and simplex, $2 \times 2$ table tests and chi-square test and exact test, HWEtest and its exact test, $2 \times 3$ table test and genetic models, uniform distribution and multiple testing and Bonferroni's correction.
統計遺伝学 I (4)へ続く↓↓↓

<b>統計遺伝学 I (4)</b>	<b>統計遺伝学 I (5)</b>
<p>Basics of statistics B Point and interval estimates, Bayesian approach and binomial and beta distributions, haplotype frequency estimation and EM algorithm and LD block.</p> <p>Application A The first half: Mendelian traits, including pedigree, genotypes and phenotypes of Mendelian traits, NGS and disease-responsive variants. The second half: Cancer syndrome, including its basics and risk evaluation, decision-support tool, Bayesian estimation and Bayesian network.</p> <p>Application B The first half: Complex genetic traits, including genetic models, population and cohort, 2x3 table association tests and multiple-locus model. The second half: Transcriptome analysis and expression profiles, including their basics, differential expression analysis, clustering and heatmap, supervised learning and validation.</p>	<p>【授業外学修（予習・復習）等】 Use R in your non-class daily studies to improve your R skills.</p> <p>毎週、宿題が提出される。 Homework every week.</p>
<b>【履修要件】</b>	<b>（その他（オフィスアワー等））</b>
生物学・遺伝学の基礎を習得していることが望ましいが、意欲があれば必須ではない。 無線LAN接続可能なノートパソコンを持参すること。計算機・プログラミングの知識は要求しないが、初学者は復習が必要となる。前期・後期併せての受講が望ましいが、必須ではない。	特になし NA
It is desirable to have background of molecular biology and genetics but not required if ready for self-learning them. Bring a laptop PC with wifi. Basic computer skills and programming in R are necessary. If no, self-learn them along the course.	※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。
<b>【成績評価の方法・観点】</b>	
授業中の質疑応答の発言を評価する。 宿題の提出内容を評価する。 最終日に試験を実施する。 Activities in the class hours, homeworks and exam at the end of the course are counted.	
<b>【教科書】</b>	
統計解析基礎A,Bでは、『遺伝統計学の基礎』 ISBN 978-4274068225 とその英訳プリントを用いる。  For basics of statistics A and B "遺伝統計学の基礎" ISBN 978-4274068225 in Japanese and its English version handout will be used.	
<b>【参考書等】</b>	
(参考書) 基礎数学A、Bでは、配布資料( <a href="http://statgenet-kyotouniv.wikidot.com/2018">http://statgenet-kyotouniv.wikidot.com/2018</a> )を用いる。 統計解析応用A、Bでは配布資料( <a href="http://statgenet-kyotouniv.wikidot.com/2017">http://statgenet-kyotouniv.wikidot.com/2017</a> )を用いる。  For basic mathematics, get handouts @ <a href="http://statgenet-kyotouniv.wikidot.com/2018">http://statgenet-kyotouniv.wikidot.com/2018</a> . For application A and B, get handouts @ <a href="http://statgenet-kyotouniv.wikidot.com/2017">http://statgenet-kyotouniv.wikidot.com/2017</a> .	
----- 統計遺伝学 I (5)へ続く ↓↓ -----	

<b>科目ナンバリング</b>		P-PUB01 8H112 LB90									
<b>授業科目名 &lt;英訳&gt;</b>	臨床試験 Clinical Trial					<b>担当者所属・職名・氏名</b>	医学研究科 特定教授 田中 司朗 医学研究科 教授 古川 寿亮 医学研究科 准教授 西山 知佳 京都府立医科大学 教授 手良向 晴 名古屋医療センター臨床医学研究室 斎藤 明子 准教授				
配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 前期	曜時限	水5	<b>授業 形態</b>	講義	使用 言語	日本語及び英語
<b>【授業の概要・目的】</b>											
臨床試験の方法論について、海外の標準的教科書「クリニカルトライアル よりよい臨床試験を志す人たちへ」の3章、5章、6章、9章、10章、12-15章に沿って講義する。循環器、がん、Translational Research領域の医師主導型臨床試験に実績のある講師3人により、臨床試験の実際について講義する。また、仮想的な臨床試験のプロトコール作成を小グループで行う。MCR必修、CB必修、MPH選択。											
<b>【到達目標】</b>											
・臨床試験の方法論を理解する。 ・臨床試験プロトコールの記載内容を理解し、プロトコール作成の考え方について、実習を通じて身につける。											
<b>【授業計画と内容】</b>											
・教室は、先端科学研究棟1階大セミナー室にて行う ・事前学習+講義形式、実習形式 ・事前学習はオンライン学習環境KoALAを利用 ( <a href="https://koala.higedu.kyoto-u.ac.jp">https://koala.higedu.kyoto-u.ac.jp</a> ) ・実習はプロトコール作成など 第1回 4月8日 イントロダクション（田中） 第2回 4月15日 組織作りと計画（田中） 第3回 4月22日 エンドポイント・ランダム化とブラインドの方法（田中） 第4回 5月13日 循環器領域の教育介入試験の実際（西山） 第5回 5月20日 検定の多重性・中間解析・試験経過の把握（田中） 第6回 5月27日 プロトコールの逸脱・非劣性試験（田中） 第7回 6月3日 プロトコールの統計学的考慮点（手良向） 第8回 6月10日 がん臨床試験実施上の問題とその対策・実習班分け（斎藤） 第9回 6月17日 実習（プロトコールコンセプト作成、田中、今井、相田） 第10回 6月24日 実習（プロトコールコンセプト作成、田中、今井、相田） 第11回 7月1日 実習（プロトコールコンセプト検討会、古川、田中、今井、相田） 第12回 7月8日 精神科領域の実践的メガトライアルから学ぶ（古川） 第13回 7月15日 実習（プロトコール作成、田中、今井、相田） 第14回 7月22日 実習（プロトコール作成、田中、今井、相田） 第15回 7月29日 実習（プロトコール検討会、古川、田中、今井、相田）											
----- 臨床試験(2)へ続く ↓↓ -----											

<b>臨床試験(2)</b>
<b>【履修要件】</b>
特になし
<b>【成績評価の方法・観点】</b>
平常点 (50%)、レポート (50%)
<b>【教科書】</b>
S. J. ボック 『クリニカルトライアル よりよい臨床試験を志す人たちへ』 (篠原出版) 教科書の入手については第1回でアナウンスする。
<b>【参考書等】</b>
(参考書)
<b>【授業外学修（予習・復習）等】</b>
教科書「クリニカルトライアル よりよい臨床試験を志す人たちへ」を適宜読むこと。
<b>（その他（オフィスアワー等））</b>
人間健康科学系専攻学生の受講可否： 可
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンパリング P-PUB01 8H134 LJ90										
授業科目名 <英訳>	統計家の行動基準 Statisticians Standard of Conducts			担当者所属・職名・氏名	医学研究科 教授 佐藤 俊哉 附属病院 特任准教授 佐藤 恵子 医学研究科 准教授 土居 正明 医学研究科 助教 大宮 將義					
配当年	専門職	単位数	I	開講年度・開講期	2020・前期集中	曜時限	必修・選択科目	授業形態	講義	使用言語
<b>[授業の概要・目的]</b>										
19世紀の英國の首相ディスレイリは「嘘には、『嘘』、『大きな嘘』、『統計』がある」としていますが、統計はさまざまな領域で政策や意思決定するための基礎情報として用いられ、人間の福利や環境を保持・向上させるために必要なものです。統計が嘘よばりされないために、統計に関する業務や研究を行う専門家である統計家は、相応の知識や技能はもちろんのこと、プロフェッショナリズムを有していくなくてはなりません。										
と言われると、なにやら堅苦しい感じがして、とくに最近は研究不正のおかげで、規範を守れだる研究倫理セミナーを受けろなど、外からの縛りがきつくなるばかりですが、本講義は、「自分を縛るのは自分しかいない」を基本コンセプトに、統計家はどうあるべきかを自ら考えて心に持つことを目的とします。										
人間を対象にした臨床試験をデザインする際には、科学性だけではなく心が必要であること、健康を頼って作ったはずの薬が悲劇を招き、それに統計家が荷担する可能性があることなどの事例を学びます。そして、統計家はどうふるまうべきか、自分はどうありたいのかについて、討議やグループワークを通じて考えます。										
【7月3日、17日、31日（金）の集中講義】										
<b>[到達目標]</b>										
・臨床研究における科学性と倫理性の相克を理解する ・薬の評価において過去に統計家がしてきることを理解する ・臨床研究における統計家の役割を説明できる ・統計家としての行動基準を考えて身の中に持つ										
<b>[授業計画と内容]</b>										
集中講義 7月3日（金、3,4限）、17日（金、3,4限）、31日（金、3,4,5限）										
第1回	7月3日 3限	正当な臨床試験を計画する 1								
第2回	7月3日 4限	正当な臨床試験を計画する 2								
第3回	7月17日 3限	薬と安全性 (東京理科大学 佐藤嗣道先生)								
第4回	7月17日 4限	サリドマイド薬害における統計家の関わり								
第5回	7月31日 3限	ICH統計ガイドラインの心								
第6回	7月31日 4限	統計家のプロフェッショナリズム涵養の								
第7回	7月31日 5限	グループワーク								
----- 統計家の行動基準(2)へ続く↓↓↓										

統計家の行動基準(2)										
<b>[履修要件]</b> 統計家でない学生さんも歓迎です。										
<b>[成績評価の方法・観点]</b> レポート										
<b>[教科書]</b> 毎回講義資料を配布します										
<b>[参考書等]</b> (参考書) Friedman LM, Furberg CD, DeMets DL, Reboussin DM, Granger CB 『Fundamentals of Clinical Trials, 5th ed.』 (Springer, 2015) 國頭英男, 佐藤恵子, 吉村健一 『誰も教えてくれなかった癌臨床試験の正しい作法』 (中外医薬社, 2016)										
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b> 日本計量生物学会「統計家の行動基準」、ICH E9「臨床試験における統計的原則」を読んでおくこと。 <a href="http://www.biometrics.gr.jp/news/all/standard_20150310.pdf">http://www.biometrics.gr.jp/news/all/standard_20150310.pdf</a> <a href="https://www.pmda.go.jp/int-activities/int-harmony/ich/0031.html">https://www.pmda.go.jp/int-activities/int-harmony/ich/0031.html</a>										
<b>(その他（オフィスアワー等）)</b> ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。										

科目ナンパリング P-PUB01 8H143 LJ90										
授業科目名 <英訳>	健康デザイン論 Designing Health communication			担当者所属・職名・氏名	医学研究科 教授 中山 健夫					
配当年	専門職	単位数	I	開講年度・開講期	2020・通常集中	曜時限	集中講義	授業形態	講義	使用言語
<b>[授業の概要・目的]</b>										
・「ヘルスケアにおけるコミュニケーション・デザインアプローチ」のコンセプトと基本的枠組みを理解する。 ・当該アプローチを手がかりに、メッセージの受け手を「期待する成果」に誘うための「理解」「行動」を促進するコミュニケーション・デザインの考え方について学ぶ。 ・「講義+ワークショップ」形式を基本とする。										
<b>教育・学習方法</b> 講義・演習 ※アクションラーニング形式（双向型）な授業を想定。										
<b>[到達目標]</b>										
・健康アウトカムの最大化を果たすための「ヘルスコミュニケーション」の在り方について 「インサイト」「理解／行動促進」「共創・協働」等の概念とアプローチ方法の理解を図る。										
<b>[授業計画と内容]</b>										
(上期) 第1回 9月3日4限 イントロダクション～健康デザイン概論 第2回 9月3日5限 コミュニケーション・デザイン～コミュニケーションをデザインするということ 第3回 9月4日4限 生活者インサイト～ターゲットインサイトの考え方・向き合い方 第4回 9月4日3限 ブランディング～健康に誘うための仕掛けを企てるということ										
(下期) 第5回 2月18日4限 前期の復習 第6回 2月18日5限 ワークショップ 第7回 2月19日2限 ワークショップ 第8回 2月19日3限 ①プレゼンテーション ②講義まとめ (※日程は予定のため、変更の可能性あり)										
<b>[履修要件]</b> 特になし										
<b>[成績評価の方法・観点]</b> 課題レポート（50%）、発表（50%）										
----- 健康デザイン論(2)へ続く↓↓↓										

健康デザイン論(2)										
<b>[教科書]</b> 講義の際に指定予定										
<b>[参考書等]</b> (参考書) 講義の際に指定予定										
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b> 講義内容の復習と課題への取り組み										
<b>(その他（オフィスアワー等）)</b> プロジェクト研究員（ヘルスコミュニケーションに関する研究【電通】）の協力を得る予定 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。										

科目ナンパリング		P-PUB01 8H136 LJ90												
授業科目名 <英訳>	統計的推測の基礎 Fundamentals of Statistical Inference				担当者所属・職名・氏名		医学研究科 教授 佐藤 俊哉 統計数理研究所 逸見 昌之 医学研究科 准教授 土居 正明 医学研究科 特定助教 今井 徹 国立循環器病研究センター 大前 勝弘							
	配当学年	専門職	単位数	2			曜時限	木4	授業形態	講義・演習	使用言語	日本語		
<b>[授業の概要・目的]</b>														
この授業では、統計関連科目を学ぶ上でその基礎となる事項について学習する。具体的には、前半で統計的推測法の土台となる確率論の基礎事項について取り扱い、後半では統計的推定・仮説検定・信頼区間などの統計的推測の基礎概念について取り扱う。														
前半の確率論では、數学的に厳密な測度論に基づくものではなく、微積分や線形代数（大学学部教養レベルの数学）を用いる範囲で、統計的推測法の理解に必要な確率に関する基本事項の習得を目指す。後半の統計的推測では、基礎概念に対する原理的な考え方と理論的な侧面に重点を置く。この授業は、他の統計関連科目の授業ではなかなか立ち止まってじっくりと考える余裕のない基礎的な部分に焦点を当て、準備と足場めをするのが目的である。														
受講生のパックグラウンドは様々であると想定されるため、可能な限りその事情を考慮しながら授業を進める。														
【パワーポイントスライドと板書による講義形式】														
<b>[到達目標]</b>														
・確率と統計に関する基礎概念の意味や考え方をしっかりと理解し、自分の言葉で説明することができる ・統計量や確率分布などに関する計算を、必要に応じて自分で考えながら実行できる ・他の統計関連科目を学ぶ際に、各種の統計手法をブラックボックスとはせずに、自ら考えながら学んで、その仕組みを理解することができる														
<b>[授業計画と内容]</b>														
第1回	4月9日	講義の概要と確率・確率変数の概念（逸見）												
第2回	4月16日	離散型確率変数とその分布に関する基本事項（逸見）												
第3回	4月23日	連続型確率変数とその分布に関する基本事項（逸見）												
第4回	4月30日	複数の確率変数の取り扱い（逸見）												
第5回	5月14日	複数の確率変数の取り扱いII（逸見）												
第6回	5月21日	正規標本に関する確率分布（逸見）												
第7回	5月28日	統計的推定の基本事項（大前）												
第8回	6月4日	統計的仮説検定の基本事項（今井）												
第9回	6月11日	統計的仮説検定の基本事項（今井）												
第10回	6月18日	線形回帰分析の基礎I（逸見）												
第11回	6月25日	線形回帰分析の基礎II（逸見）												
第12回	7月2日	漸近的方法の基本事項I（極限定理、最尤法とその性質）（逸見）												
第13回	7月9日	漸近的方法の基本事項II（最尤法に基づく検定）（逸見）												
第14回	7月16日	漸近的方法の基本事項III（デルタ法、最尤法以外の推定法など）（逸見）												
-----統計的推測の基礎(2)へ続く↓↓-----														

統計的推測の基礎(2)												
<b>[履修要件]</b>												
・微積分と線形代数の基本的な知識があること ・人間健康科学系専攻の学生さんの受け入れはしていません												
<b>[成績評価の方法・観点]</b>												
レポート												
<b>[教科書]</b>												
講義資料を配布します												
<b>[参考書等]</b>												
(参考書) 講義中に紹介します												
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b>												
・受講生のこの授業の内容の習得状況は様々だと思いますが、この授業を利用しながら、自分が良く理解できていない部分について重点的に学習していただきたい ・この講義に限らず、数理的な講義の内容を理解し習得するためには、講義に出席するだけでは不十分で、自ら講義後に手を動かして計算や論理を丁寧に確かめる必要があります。特にこの講義で扱う内容は、数理的な要素が絡む他の統計関連の講義の理解のために非常に重要であるため、復習には必ずじっくり取り組んでください ・臨床統計家育成コースには、この授業の他に演習が用意されています。基礎に不安のある方や、自分で演習等が困難な方は特に、演習も利用してください												
<b>(その他（オフィスアワー等）)</b>												
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。												

科目ナンパリング		P-PUB01 8H137 LJ90												
授業科目名 <英訳>	生存時間解析 Survival Analysis				担当者所属・職名・氏名		医学研究科 教授 佐藤 俊哉 大阪大学大学院医学系研究科 服部 聰 医学研究科 准教授 土居 正明 医学研究科 特定助教 今井 徹							
	配当学年	専門職	単位数	1			曜時限	金3-4	授業形態	講義	使用言語	日本語		
<b>[授業の概要・目的]</b>														
生存時間解析は関心のある事象が生じるまでの期間（生存時間）の統計的分析をする方法であり、悪性腫瘍や臨床試験など、様々な医学研究において重要な役割を果たしています。研究の実施上の制約から生存時間がすべての被験者で観察されないことが通常で、そのような打ち切りデータに基づいて推測を行うための独特の方法論が発達しています。本講義では、生存時間解析の基本的な考え方を学習し、統計的解釈用プログラム言語であるSASによる実習を通じて理解の定着を図ります。														
【10月9日、23日、11月6日、13日（金）の集中講義】														
<b>[到達目標]</b>														
・打ち切りを伴う生存時間解析における尤度とパラメトリックモデルに対する最尤推定法を理解する ・Kaplan-Meier法、logrank検定の考え方を理解する ・ハザードの概念を理解し、Cox比例ハザードモデルを理解する ・生存時間解析の方法をSASにより適用できる														
<b>[授業計画と内容]</b>														
第1回	10月9日 3限	生存時間データの事例と特徴												
第2回	10月9日 4限	ノンパラメトリック推定												
第3回	10月23日 3限	Logrank検定												
第4回	10月23日 2限	前半の講義の復習とSASによる演習												
第5回	11月6日 3限	Cox比例ハザードモデル												
第6回	11月6日 4限	生存時間解析における残差解析												
第7回	11月13日 4限	ランダム化試験におけるサンプルサイズ設計												
<b>[履修要件]</b>														
・前期「統計的推測の基礎」を履修済みであること ・微積分の基本的な計算に慣れていること														
<b>[成績評価の方法・観点]</b>														
毎回レポートを提出してもらいます														
<b>[教科書]</b>														
毎回講義資料を配布します														
-----生存時間解析(2)へ続く↓↓-----														

生存時間解析(2)												
<b>[参考書等]</b>												
(参考書) 大橋靖雄・浜田知久馬『生存時間解析—SASによる生物統計』（東京大学出版会）ISBN:978-4130602006												
Collett D（宮崎悦良 監訳）『医薬統計のための生存時間データ解析 原著第2版』（共立出版）ISBN:978-4320110359												
Klein J, Moeschberger ML（打波守訳）『生存時間解析』（丸善出版）ISBN:978-4621061886												
Therneau TM, Grambsch PM『Modeling Survival Data: Extending the Cox Model』（Springer）ISBN:978-1-4419-3161-0												
大橋靖雄・浜田知久馬・魚住龍史『生存時間解析 応用編-SASによる生物統計』（東京大学出版会）ISBN:978-4130623179												
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b>												
前回の復習												
<b>(その他（オフィスアワー等）)</b>												
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。												

科目ナンバリング P-PUB01 8H138 LJ90											
授業科目名 <英訳>	統計モデルとその応用 Statistical Modeling and Applications			担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 佐藤 俊哉 岩手医科大学 高橋 史朗 医学研究科 准教授 土居 正明 医学研究科 助教 大宮 將義						
配当年 学年	専門職	単位数	1	開講年度・ 開講期	2020・ 後期集中	曜时限	金3-4	授業形態	講義	使用言語	日本語
<b>【授業の概要・目的】</b>											
「交絡」を調整する方法の一つに回帰モデルがある。代表的な回帰モデルは、1つの連続的な結果変数に対するものである。しかし医学研究では、リスクの有無に興味がある場合や興味のある結果がくり返し測定される場合もあり、結果の特徴に応じたより複雑なモデルが必要となる場合がある。本コースでは、実例を交えながら、様々な結果変数に対する回帰モデルとの解析方法を説明する。											
【10月2日、16日、30日、11月20日（金）の集中講義】											
<b>【到達目標】</b>											
・回帰モデルの役割を理解する ・様々なデータの特徴に応じた回帰モデルと解析方法を理解する ・統計解析ソフトを用いて解析を実施し、結果を解釈できる											
<b>【授業計画と内容】</b>											
第1回 10月2日 3限 経時測定データの事例と特徴											
第2回 10月2日 4限 相関する連続データに対する一般線形モデル（1） 平均構造と共分散構造のモデリング											
第3回 10月16日 3限 相関する連続データに対する一般線形モデル（2） 変量効果モデル											
第4回 10月16日 4限 欠測値がある経時測定データの解析											
第5回 10月30日 3限 相関するカテゴリカルデータに対する一般化線形モデル（1） 周辺モデルとGEE											
第6回 10月30日 4限 相関するカテゴリカルデータに対する一般化線形モデル（2） 変量効果モデル											
第7回 11月20日 3限 経時測定データ解析の復習とSASによる演習											
<b>【履修要件】</b>											
・前期「統計的推論の基礎」を履修済みであること ・線形代数の基本的な知識											
----- 統計モデルとその応用(2)へ続く ↓↓↓											

統計モデルとその応用(2)										
【成績評価の方法・観点】										
毎回レポートを提出してもらいます										
【教科書】										
毎回講義資料を配布します										
【参考書等】										
(参考書) Dobson AJ. 『一般化線形モデル入門 原著第2版』 (共立出版) ISBN:978-4320018679 McCulloch C., Searle S., and Neuhaus J. 『Generalized, Linear, and Mixed Models』 (Wiley) ISBN:978-0-470-07371-1 船渡川伊久子, 船渡川隆 『経時データ解析』 (朝倉書店) ISBN:978-4254128550										
【授業外学修（予習・復習）等】										
前回の復習をすること										
【その他（オフィスアワー等）】										
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。										

科目ナンバリング P-PUB01 8H142 LJ90											
授業科目名 <英訳>	行政医学・産業医学 Medical Doctors in Government and Occupational Settings			担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 今中 雄一 環境安全保障機構 教授 川村 孝 非常勤講師 小泉 昭夫 医学研究科 教授 中山 健夫						
配当年 学年	専門職	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 前期集中	曜时限	集中講義	授業形態	講義	使用言語	日本語
<b>【授業の概要・目的】</b>											
労働医学の実践、行政医学の実践について、集中的に学ぶ。											
1) 実践現場での問題解決および社会的な問題解決への展開を志向する。 2) 行政の場における医師（行政医師）の専門的実務について概要を学ぶ。 3) 労働の場における医師（産業医）の専門的実務について概要を学ぶ。											
外部講師：渡邊能行（京都府健康福祉部前保健医療対策室、京都先端科学大学）、猪飼宏（京都府中丹西保健所）、森口次郎（京都工場保健会）、波床将材（京都市こころの健康増進センター）											
<b>【到達目標】</b>											
・課題と対策について深い理解と知識を有し、他者に説明できるようになること。 ・何が問題なのか洞察できるようになること。 ・課題の解決に向けて必要に応じ専門家の支援を得ることができるようになること。											
<b>【授業計画と内容】</b>											
8月5日(水)、8月6日(木) 各日1~5限を予定 以下の内容の講義・グループワークを行う予定。 【行政医学】 行政医学の実践 行政医学実践：概論 成人・高齢者保健、母子保健、学校保健、歯科保健 地域包括ケアシステムの推進、地域医療構想・計画の実装 精神保健、疾病・障害者対策、難病対策 健常づくり、生活習慣病対策、要援護高齢者・障害者対策 感染症対策、食中毒、災害時の対策、健康危機管理など 行政医学：演習、グループワーク 実践現場に係る参加・学習											
【産業医学】 産業医学の実践 産業医学実践：概論 職場の環境衛生、生活や地域の環境衛生 化学物質の管理、有害要因の曝露予防・健康障害対策 労働時間管理、特に医師の労働時間 健診を通じた健康管理 職場のメンタルヘルス 労働医学：演習、グループワーク 実践現場に係る参加・学習											
----- 行政医学・産業医学(2)へ続く ↓↓↓											

行政医学・産業医学(2)										
*外部講師他の諸状況により変更の可能性あり。初回に予定表を配布する。										
<b>【履修要件】</b>										
社会健康医学系専攻院生 他専攻院生（人間健康科学系専攻等含む）の受講可否：若干名 原則、出席80%以上を前提とする										
<b>【成績評価の方法・観点】</b>										
講義・グループワークにおけるコミットメント（配分60%）、レポート（配分40%）により、総合的に評価する。										
<b>【教科書】</b>										
適宜、資料を講義にて配布する。										
<b>【参考書等】</b>										
(参考書) 適宜、講義中に紹介する。 ・「NEW予防医学・公衆衛生学 改訂第4版」 (編集:小泉昭夫/馬場園明/今中雄一/武林亨) 南江堂、2018.										
<b>【授業外学修（予習・復習）等】</b>										
初回に説明する										
<b>【その他（オフィスアワー等）】</b>										
社会医学系専門医制度研修プログラムの副分野「行政・地域」、「産業・環境」の研修（各々10時間相当）にもみなすことができる。										
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。										

科目ナンバリング	P-PUB01 8H145 LB90																				
授業科目名 <英訳>	多重性の考え方 Multiplicity in clinical trials				担当者所属・職名・氏名	医学研究科 准教授 士居 正明 医学研究科 教授 佐藤 俊哉 医学研究科 助教 大宮 將義 医学研究科 特定助教 今井 徹															
配当年 学年	専門職	単位数	1	開講年度・開講期	2020・前半	曜時限	金2	授業形態	講義	使用言語	日本語及び英語										
<b>[授業の概要・目的]</b>																					
試験薬群を複数用群群設定し、プラセボ群と比較する検証的な臨床試験のように、1つの試験内で検証を目的とする検定が複数回必要となることはよくあります。このような場合、第一種の過誤確率(Type I error rate, $\alpha$ エラー)に対する多重性を適切に考慮した解析を行なうことが極めて重要です。本講義では、臨床試験の計画、解析、結果の解釈のそれぞれの場面で、検定の多重性を適切に考慮できるようになりますことを目指します。一部SASによる実習も行います。																					
なお、第5回は北海道大学の横田勲先生に、第7回は東京大学の上村鋼平先生にご講義いただきます。																					
<b>【パワーポイントスライドによる講義形式】</b>																					
<b>[到達目標]</b>																					
・検定の多重性の調整が必要な場合と不要な場合の区別がつけられるようになる ・基礎的な統計手法の内容を理解し、適切な方法を選択できるようになる ・SASのプロシージャを用いて、基礎的な統計手法を用いた実データの解析ができるようになる ・Monte Carlo simulationを用いて、各手法の性能評価ができるようになる																					
<b>[授業計画と内容]</b>																					
第1回	4月10日2限	検定の多重性の基礎（土居）																			
第2回	4月17日2限	基本的な統計手法の概説（土居）																			
第3回	4月24日2限	閉検定手順（土居）																			
第4回	5月1日2限	SASによる実習（土居、大宮、今井）																			
第5回	5月8日2限	中間解析（横田）																			
第6回	5月15日2限	部分集団解析および用量反応関係の検討における多重性（土居）																			
第7回	5月29日2限	多重性調整の実務での適用（上村）																			
<b>[履修要件]</b>																					
・「統計的推測の基礎」を履修済みであること。 ・SASのデータハンドリングおよび乱数発生に慣れていること。																					
<b>[成績評価の方法・観点]</b>																					
平常点およびレポート																					
----- 多重性の考え方(2)へ続く ↓↓↓ -----																					

多重性の考え方(2)											
<b>[教科書]</b>											講義資料を配布します
<b>[参考書等]</b>											(参考書)
永田靖. (2007). 『統計的多重比較法の基礎』 (サイエンティスト社) ISBN:978-4914903466 坂巻 順太郎, 寒水 孝司, 濱崎 後光『多重比較法』 (朝倉書店) ISBN:978-4254128628											Dmitrienko, A., Molenberghs, G., Chuang-Stein, C., & Offen, W. W. (2005). 『Analysis of clinical trials using SAS: A practical guide.』 (SAS Institute) (訳本は(森川馨, 田嶋武信 監訳(2009). 治験の統計解析 #8211理論とSAS#174による実践・講談社))
Dmitrienko, A., Tamhane, A. C., & Bretz, F. (Eds.). (2009). 『Multiple testing problems in pharmaceutical statistics.』 (CRC press)											
<b>[授業外学修 (予習・復習) 等]</b>											「統計的推測の基礎」や(CBコースの学生は)「臨床統計家の実務スキル」の内容を十分に復習してください。 毎回の講義の復習が必要です。
<b>(その他 (オフィスアワー等))</b>											※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	P-PUB01 8N015 LJ90											
授業科目名 <英訳>	遺伝医療と倫理・社会 Genetic Medicine, Ethics and Society				担当者所属・職名・氏名	医学研究科 教授 小杉 真司						
配当年 学年	専門職	単位数	2	開講年度・開講期	2020・前期	曜時限	水曜	2時限	授業形態	講義	使用言語	
<b>[授業の概要・目的]</b>												
<b>【基本情報】</b>												
授業日時：水曜2限を原則とする（例外予定にご注意ください） 教室：G棟2階演習室 レベル：基礎 担当者：小杉真司・和田敬仁・山田崇弘・澤井英明（兵庫医科大学）												
<b>【コースの概要】</b>												
遺伝医療・先端医療においては、倫理的な配慮は不可欠である。遺伝医療を中心とした医療倫理の基本について学ぶ。特に種々のガイドラインの理解は極めて重要である。また、社会的な基盤を含む日本の遺伝医療の現状について理解する。												
<b>[到達目標]</b>												
遺伝医療・医学に関する倫理指針、遺伝学的検査、小児・産婦人科遺伝医療における倫理問題の基本、社会基盤について理解する。												
<b>[授業計画と内容]</b>												
【第1回】4月8日1～小杉1～遺伝医療総論：遺伝カウンセラーコースの必修科目の最初のものとして、必ずしも「倫理」にかかわらず、全般的なイントロダクションを行う。また、遺伝医療における倫理問題の特性、遺伝情報の共有、意図しない遺伝情報の開示などについて考える												
【第2回】4月15日＜小杉2＞ヒトゲノム・遺伝子解析研究の倫理指針と他のガイドライン：研究として行われるヒト遺伝子解析における倫理的問題点、研究と臨床の境界と区別について考える												
【第3回】4月22日＜山田1～講堂＞＜小杉3＞遺伝医療に関するガイドラインについて：関連する種々のガイドラインに関する復習												
【第4回】5月13日＜小杉4～企業で行われる遺伝子解析について：遺伝学的検査を臨床検査会社等の外部委託する場合の問題点、非医療機関で行われる遺伝子検査の問題点について考える												
【第5回】5月20日＜小杉5～遺伝学的検査に関するガイドライン・遺伝子検査の意義：臨床的に行われる遺伝学的検査の実施に際して考慮されなければならない倫理的問題について、遺伝子診断の意味とその問題点について、発症者・家族における違いを明確にしながら考える。												
【第6回】5月27日＜小杉6～発症前遺伝子診断・について：発症前遺伝子診断・易罹患性診断の意味とその問題点について、神経変性疾患、家族性腫瘍など疾患における違いを明確にしながら考える。												
【第7回】5月27日6限＜山田1～人工妊娠中絶：本邦における人工妊娠中絶について、その倫理問題について考える。												
【第8回】5月31日＜小杉7～多因子疾患易罹患性診断・遺伝学的検査のACCE・ゲノムコホート研究について：遺伝学的検査についてはAnalytical Validity, Clinical Validity, Clinical Utility, Ethical, Legal & Social Implicationsが重要。特に、多因子疾患においては今後の研究によるその確立が必要である。そのためにはゲノムコホートによる長期的な取り組みが必要である。												
【第9回】6月3日6限＜和田1～小児遺伝性疾患の診断・告知と代諾：小児期発症の遺伝性疾患に対する倫理的問題を考える。												
【第10回】6月10日＜山田2～出生前診断・生殖補助医療：出生前診断の倫理的問題について理解												
----- 遺伝医療と倫理・社会(2)へ続く ↓↓↓ -----												

遺伝医療と倫理・社会(2)											
<b>[教科書]</b>											遺伝カウンセラーコース1回生必修科目 人間健康科学系専攻学生の受講可否：要事前連絡
<b>[成績評価の方法・観点]</b>											試験、レポート、授業への積極的な参加、発表、出席等を総合的に評価する
<b>[参考書等]</b>											(参考書)
<b>[授業外学修 (予習・復習) 等]</b>											適宜指示する
<b>(その他 (オフィスアワー等))</b>											講義日程、講師、内容については、多少の変更がある可能性があります。 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング P-PUB01 8H040 LJ90										
授業科目名 基礎人類遺伝学 <英訳> Introduction to Human Genetics				担当者所属・職名・氏名		医学研究科 教授 小杉 真司				
学年	専門職	単位数	2	開講年度・開講期	2020・前期	曜時限	水3	授業形態	講義	使用言語
<b>[授業の概要・目的]</b>										
【基本情報】 授業日時：水曜3限を原則とする（例外予定にご注意ください） 教室：G棟2階演習室 レベル：基礎 担当者：小杉真司・和田敬仁・山田崇弘										
【コースの概要】 遺伝カウンセラーとしてあるいは遺伝医学・遺伝医療を志す者として最も基本的な事項について理解するための講義である。今後、遺伝情報を治療に役立てていくための知識と技術を身につける。 【授業の概要】 ヒト遺伝学の基本的事項について完全に理解し、専門家でない人にもわかりやすく説明できる。										
<b>[授業計画と内容]</b>										
【第1回】4月8日<和田1>メンデル遺伝総論・家系図の描き方：メンデル遺伝と非メンデル遺伝総論・常染色体と性染色体・対立遺伝子の概念・遺伝性疾患の概念の理解・家系図の描き方 【第2回】4月8日限<小杉>常染色体優性遺伝：常染色体優性遺伝・疾患の概念・特徴・浸透度・表現度・遺伝性と新生突然変異・anticipation（次世代の表現促進現象） 【第3回】4月8日限<小杉>常染色体劣性遺伝：常染色体劣性遺伝・疾患の概念・特徴・保因者の概念 【第4回】4月8日限<小杉>X連鎖性遺伝：X連鎖性遺伝の概念・X染色体とY染色体の特異性・性的決定機構・X連鎖性遺伝を示す具体的な疾患 【第5回】4月15日<山田1>細胞遺伝学(1)：染色体と細胞分裂・分染法による染色体分析・染色体の核型記載方法・染色体異常概論 【第6回】4月15日限<山田2>細胞遺伝学(2)：染色体数の異常の概念と発生機構・染色体構造異常の概念と発生機構・保因者の概念と次世代への影響 【第7回】4月15日5限<和田2>遺伝的リスクの推定再発率の推定・ペイズの定理。近親婚に関する問題・先天代謝異常にについても触れる。 【第8回】4月22日（臨床第一講堂）<小杉>薬理遺伝学：既にはじまりつつあるテラーメイド医療で最も重要な領域であるpharmacogenetics/pharmacogenomicsの基本を正確に理解する 【第9回】5月13日<和田3>多因子遺伝・集団遺伝：多因子遺伝の概念、量的形質と易罹病性、遺伝と環境因子、ハーディー・ワインバーグの法則 【第10回】5月20日<山田3>ヒトゲノムの基礎：ヒトゲノムの情報について学ぶ。遺伝子の構造、機能、遺伝学的多様性について知る。 【第11回】5月27日<小杉>遺伝学の検査(1)遺伝子変異の検索方法：シーケンス法、ザザンプロット法 【第12回】6月3日<和田4>非メンデル遺伝(1)：ミトコンドリア遺伝、免疫遺伝学、形質遺伝学										
基礎人類遺伝学(2)へ続く↓↓↓										

基礎人類遺伝学(2)										
【第13回】6月10日<山田4>分子遺伝学の基礎：PCR、サンガーシーテンス、次世代シーケンス、マイクロアレイ 【第14回】6月17日<小杉>遺伝学的検査(2)：変異のスクリーニング方法、変異と多型、変異の種類 【第15回】6月24日<山田5>腫瘍遺伝学の基礎：体細胞バリエントと生殖細胞系列バリエント、がん遺伝子とがん抑制遺伝子、遺伝性がん症候群 【第16回】7月1日<和田5>非メンデル遺伝(2)：エピジェネティクス、ゲノム刷り込み現象、片親性ダイオリー 【第17回】7月8日<和田>本試験：筆記試験 【第17回】7月29日<山田>再試験：筆記試験										
<b>[履修要件]</b>										
遺伝カウンセラーコース1回生必修科目 選択科目として履修する場合は、「遺伝医療と倫理・社会」ととも履修することをお勧めします 人間健康科学系専攻学生の受講可否：要事前連絡										
<b>[成績評価の方法・観点]</b>										
試験、レポート、発表、出席等を総合的に評価する										
<b>[教科書]</b>										
トンプソン＆トンプソン『遺伝医学(第2版)』（メディカルサイエンスインターナショナル） ISBN:978-4-89592-875-5 (2017年4月発行) 福嶋義光編『遺伝カウンセリングマニュアル(改定第3版)』（南江堂）ISBN:978-4-524-26667-8										
<b>[参考書等]</b>										
(参考書) 新川詔夫『遺伝医学への招待(改定6版)』（南江堂）ISBN:978-4-524-24931-2 『症例でわかる新しい臨床遺伝学』ISBN:978-4-89592-574-7										
<b>(関連URL)</b>										
http://www.geneclinics.org/(GeneReviews)										
<b>[授業外学修(予習・復習)等]</b>										
適宜指示する										
<b>(その他(オフィスアワー等))</b>										
講義日程、講師、内容については、多少の変更がある可能性があります ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。										

科目ナンバリング P-PUB01 8N021 LJ90										
授業科目名 臨床遺伝学・遺伝カウンセリング <英訳> Clinical Genetics and Genetic Counseling				担当者所属・職名・氏名		医学研究科 教授 小杉 真司				
学年	専門職	単位数	3	開講年度・開講期	2020・前期	曜時限	水5-6	授業形態	講義	使用言語
<b>[授業の概要・目的]</b>										
【基本情報】 授業日時：水曜4限・5限を原則とする（例外予定にご注意ください） 教室：G棟2階演習室 レベル：基礎 担当者：小杉真司・和田敬仁・山田崇弘・澤井英明（兵庫医科大学）・高橋政代・川崎秀徳・岡野高之										
【コースの概要】 遺伝カウンセリングの基本的な考え方、モデル、現状などの総論的な講義を行う。また、代表的な疾患について、チーム医療としての遺伝医療に参加することのできるレベルの知識と考え方を身につけ、遺伝医療の現場で行われている問題を解決するため、臨床遺伝学の講義を行うとともに家族関係やチーム医療としての遺伝カウンセリングにもフォーカスをおく。各論として、單一遺伝性疾患、染色体異常、多発奇形、習慣性流産、家族性腫瘍、神経変性疾患、多因子疾患などについて講義する。										
<b>[到達目標]</b>										
主要な遺伝性疾患の病態、原因、遺伝形式、遺伝的問題について説明できる。また、それらの疾患に関する遺伝カウンセリングの基本的な考え方、主な留意点について説明できる。										
<b>[授業計画と内容]</b>										
【第1回】4月22日限<小杉(臨床第一講堂)>家族性腫瘍(1)総論：家族性腫瘍の概念・体細胞系列変異と生殖細胞系列変異、癌抑制遺伝子と癌遺伝子、発症前診断 【第2回】4月22日限<小杉>家族性腫瘍(2)：家族性大腸がん・家族性腫瘍の代表疾患としての家族性大腸ポリポーズと遺伝性非腺腫性大腸癌、それらの遺伝カウンセリングについて学ぶ 【第3回】4月22日限<和田>先天異常症候群：主要な先天奇形症候群の診断・療育や遺伝カウンセリングを学ぶ 【第4回】4月13日限<和田>常染色体異常(1)：概念・病態・診断・数的異常と構造異常、遺伝カウンセリング、13,18,21トリソミーの診断治療と療育を学ぶ 【第5回】5月13日限<山田>出生前診断：現状・具体的な技術・法的規制・倫理問題とガイドラインと常染色体異常症、遺伝カウンセリング 【第6回】5月13日限<山田>不妊症・生殖補助医療：歴史的背景・現状・具体的な技術・法的規制・倫理問題について学ぶ 【第7回】5月20日限<山田>不育症(習慣流産)：不妊症と習慣流産・概念・病態・原因・治療・乏精子症による造精機能障害と軽度型保因者における染色体異常妊娠等の遺伝学的要因の関与と遺伝カウンセリング 【第8回】5月20日限<和田>常染色体異常(2)：微細欠失症候群やクロマチン病の診断・治療と療育を学ぶ 【第9回】5月20日限<和田>性染色体異常病態・診断・具体的な疾患：ターナー女性とクラインフュルター男性・病態・診断・治療と療育・生殖医療・遺伝カウンセリング 【第10回】5月27日限<小杉>家族性腫瘍(3)：多発性内分泌腫瘍症候群他家族性腫瘍の具体的疾患として、多発性内分泌腫瘍1型および2型を中心とりあげ、概念・病態・遺伝形式・診断・治療、及び遺伝カウンセリングについて概説する 【第11回】5月27日限<山田>胎児診断と周産期管理胎兒情報をもとに実施される実施される産科周産期管理について学ぶ										
臨床遺伝学・遺伝カウンセリング(2)へ続く↓↓↓										

臨床遺伝学・遺伝カウンセリング(2)										
【第12回】6月3日限<和田>遺伝性神経疾患(1)：トリプレットリビート病、ファブリー病の遺伝カウンセリング 【第13回】6月3日限<山田>遺伝診療と医療システム：臨床遺伝の医療システムについて学ぶ 【第14回】6月10日限<山田>PC情報検索1：ネットセキュリティの基本 【第15回】6月10日限<山田>PC情報検索2：検索エンジン、遺伝情報データベース 【第16回】6月10日限<川崎>難病：難病と医療費助成・福祉制度 【第17回】6月17日限<小杉>家族性腫瘍(4)：家族性乳がん・卵巣がん 【第18回】6月17日限<和田>遺伝性神経疾患(2)：知的障害・自閉症・神經皮膚症候群などの遺伝カウンセリング 【第19回】6月24日限<山田>PC情報検索3：遺伝診療に必要な医療データベース、患者会情報 【第20回】7月1日限<和田>前ジストロフィー：ドウシャンヌ型筋ジストロフィー、筋緊張性ジストロフィー、福山型筋ジストロフィー、ボンベ病の遺伝カウンセリング 【第21回】7月1日限<岡野>遺伝性難聴：遺伝性難聴・概念・病態・遺伝形式・診断（症候性難聴と非症候性難聴）遺伝的異質性・治療・療育、遺伝カウンセリング 【第22回】7月8日限<和田>遺伝性循環器疾患：Long QT症候群、マルファン症候群などの遺伝性循環器疾患の遺伝カウンセリング 【第23回】7月8日限<高橋政代>遺伝性網膜疾患と再生医療：網膜色素変性・加齢黄斑変性・概念・病態・遺伝形式・診断・遺伝的異質性・治療・再生医療 【第24回】7月22日限<川崎>本試験：筆記試験 【第24回】8月5日限<川崎>再試験：筆記試験										
<b>[履修要件]</b>										
遺伝カウンセラーコース1回生必修科目 選択科目として履修する場合は、「基礎人類遺伝学」とともに履修することをお勧めします 人間健康科学系専攻学生の受講可否：要事前連絡（基礎人類遺伝学とあわせて履修する必要あり）										
<b>[成績評価の方法・観点]</b>										
試験、レポート、発表、出席等を総合的に評価する										
<b>[教科書]</b>										
「基礎人類遺伝学」参照										
<b>[参考書等]</b>										
(参考書)										
<b>[授業外学修(予習・復習)等]</b>										
適宜指示する										
<b>(その他(オフィスアワー等))</b>										
講義日程、講師、内容については、多少の変更がある可能性があります ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。										

### 臨床遺伝学・遺伝カウンセリング(3)

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

P-PUB01 8N017 LJ90									
授業科目名 <英訳>	遺伝医学特論（集中講義） Special Seminar for Genetic Medicine						担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 小杉 真司	
配当年 学年	専門職	単位数 2	開講年度・ 開講期	2020・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業形態 講義	使用言語	日本語
【授業の概要・目的】									
【基本情報】 授業日時：前期集中（開講日時にご注意ください） 教室：臨床第一講堂 レベル：応用 担当者：小杉真司・和田敬仁・山田崇弘・烏鵠雅子・川崎秀徳 【コースの概要】 遺伝カウンセラーとして1年次に学んだ基礎的事項を確認し、医師と同レベルの高度な理解を得るために講義である									
【到達目標】 ヒト遺伝学の基本的事項について完全に理解し、医師とも正確な議論ができる。									
【授業計画と内容】 【第1回】4月13日月1限<小杉>「臨床遺伝学と遺伝カウンセリング・メンデル遺伝の基礎」 【第2回】4月13日月2限<小杉>「遺伝学的検査について」 【第3回】4月14日火1限<山田>「細胞遺伝学と染色体異常の遺伝カウンセリング」細胞遺伝学の基礎を知り、染色体異常症についての遺伝カウンセリングを学ぶ 【第4回】4月14日火2限<山田>「出生前医療と遺伝カウンセリング」出生前遺伝学的検査の実際と遺伝カウンセリングを学ぶ 【第5回】4月16日木1限<和田>「家系図の書き方・遺伝的リスクの推定」家系図の標準的記載法と遺伝的リスクの推定法を学ぶ 【第6回】4月16日木2限<和田>「先天奇形症候群の遺伝カウンセリング」主要な先天奇形症候群の概念、診断や病態、遺伝カウンセリングを学ぶ 【第7回】4月20日月3限<小杉>「当事者と共に歩む遺伝医療」 【第8回】4月20日月4限<小杉>「遺伝カウンセリングの実際」 【第9回】4月21日火1限<和田>「遺伝性神経疾患の遺伝カウンセリング」主要な遺伝性神経疾患の概念、診断や病態、遺伝カウンセリングを学ぶ 【第10回】4月21日火2限<山田>「生殖補助医療と遺伝カウンセリング」不育症・不妊症を含む疾患を対象とした生殖補助医療と遺伝カウンセリングを学ぶ 【第11回】4月22日水3限<小杉>「遺伝医療に関するガイドラインについて」 【第12回】4月22日水3限<小杉>「薬理遺伝学」 【第13回】4月22日水4限<小杉>「家族性腫瘍の遺伝カウンセリング」 【第14回】4月24日金1限<烏鵠>「遺伝カウンセリングの場面での医療コミュニケーションと自己評価法(1)」「共感的理屈」、「対人援助職に最低限必要な態度」、「コミュニケーションを阻害する態度や言葉」など医療コミュニケーションの基本を学ぶ 【第15回】4月24日金2限<烏鵠>「遺伝カウンセリングの場面での医療コミュニケーションと自己評価法(2)」遺伝カウンセリング場面での具体的なコミュニケーション方法と自己評価法について学ぶ									
→ 遺伝医学特論（集中講義）(2)へ続く↓↓↓									

### 遺伝医学特論（集中講義）(2)

【第16回】5月1日金2限<和田・川崎>「本試験」筆記試験

#### 【履修要件】

医科学専攻（修士課程）のみ履修可。

分子生物学・分子遺伝学の基本的理解を前提とする。

#### 【成績評価の方法・観点】

試験、レポート、出席等を総合的に評価

#### 【合格基準】

1回の記述式試験において、100点満点中、60点以上となること

60点以上：合格

59点以下：不合格

5回以上授業を欠席した場合には、合格を認めない。

#### 【教科書】

その他

\*必須テキスト（必ず準備すること）：

○トインソン＆トインソン遺伝医学第2版(メディカルサイエンスインターナショナル)ISBN:978-4-89592-875-5

○遺伝カウンセリングマニュアル(南江堂)改定第3版 ISBN:978-4-524-26667-8

\*推奨テキスト・資料：

○遺伝医学への招待（南江堂）改定第5版ISBN: 978-4-524-26562-6

○症例でわかる新しい臨床遺伝学（M E D S I ） ISBN: 978-4-89592-574-7

○GeneReviews <http://www.geneclinics.org/>

#### 【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

#### 【授業外学修（予習・復習）等】

適宜指示する

#### （その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

### 社会疫学 II

P-PUB01 8H019 LB90									
授業科目名 <英訳>	社会疫学 II Socio-epidemiology II						担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 古川 壽亮	
配当年 学年	専門職	単位数 2	開講年度・ 開講期	2020・ 後期	曜時限	月3	授業形態 講義	使用言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】									
※ 開講保留科目（告知を確認のこと）									
【到達目標】									
※ 開講保留科目（告知を確認のこと）									
【授業計画と内容】									
第1回～第15回日程未定									
【履修要件】									
MPHI選択 MCR推奨選択 GC推奨選択									
【成績評価の方法・観点】									
※ 開講保留科目（告知を確認のこと）									
【教科書】									
※ 開講保留科目（告知を確認のこと）									
【参考書等】									
(参考書)									
※ 開講保留科目（告知を確認のこと）									
【授業外学修（予習・復習）等】									
※ 開講保留科目（告知を確認のこと）									
(その他（オフィスアワー等）)									
※ 開講保留科目（告知を確認のこと）									
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。									

科目ナンバリング								
P-PUB01 8H020 LB90								
授業科目名 <英訳>				担当者所属・職名・氏名				
配当年	専門職	単位数	2	開講年度・開講期	2020・後期	曜時間	月4	授業形態 講義
<b>[授業の概要・目的]</b>								
フィールド医学は、疾病、老化のありさまを、自然環境、文化背景との関連でもう一度、捉えなおそうとする研究領域である。本授業では、フィールド医学の系譜をたどるとともに我が国及びヒマラヤ地域などで行ってきた研究活動を紹介する。病院から地域に出て生活の場を重んじるフィールド医学のよりよい実践を目指し、世界の中で我々が抱えている課題を共有し、今後のあり方とともに議論していきたい。								
<b>[到達目標]</b>								
先人たちや同時代を生きる人々のバイオニアスピリットや哲学を学び、自身で課題を発見し、自主的に物事に取り組む能力を育む。								
<b>[授業計画と内容]</b>								
第1回 自己紹介及び講座紹介 第2回 フィールド医学 第3回 自由とバイオニアスピリット 第4回 目の前の一人の患者からはじまる研究 第5回 傍らに棲むレジオネラ 第6回 高所環境における老い 第7回 内なる地球環境問題 第8回 ドムカル谷における高齢者の健康としあわせ 第9回 地域研究における友好の意義 第10回 ブータンにおける地域在住高齢者ケア計画 第11回 診療所から学ぶ人々の暮らし 第12回 医療の限界と役割 第13回 死生観と医療の意義 第14回 ヒマラヤの長寿者からの伝言 第15回 総合討論 試験 実施しない								
教室：稻盛財団記念館 2階 東南亭 201に変更 12月16日に限り、稻盛財団記念館2階213								
<b>[履修要件]</b>								
特になし								
<b>[成績評価の方法・観点]</b>								
出席と討論、ならびにレポートによって行う。								
----- 人間生態学(2)へ続く↓↓ -----								

人間生態学(2)								
<b>[教科書]</b>								
授業中に指示する								
<b>[参考書等]</b>								
(参考書) 坂本龍太『ブータンの小さな診療所』(ナカニシヤ出版) ISBN:978-4779508974 奥宮清人『生老病死のエコロジー』(昭和堂) ISBN:978-4812210673								
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b>								
授業中に感じた疑問や課題を大切にして、それに関することについて調べたり、自分自身の頭でよく考える。								
<b>(その他（オフィスアワー等）)</b>								
坂本龍太 京都大学東南アジア研究所 606-8501 京都市左京区吉田下阿達町4 6 TEL:075-753-7368 FAX:075-753-7168 E-mail:sakamoto65@cseas.kyoto-u.ac.jp								
面会希望者は、メールでアポイントをとってください。								
人間健康科学系専攻学生の受講可否：可能（5名程度）								
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。								

科目ナンバリング								
P-PUB01 8H021 LJ90								
授業科目名 <英訳>				担当者所属・職名・氏名				
配当年	専門職	単位数	2	開講年度・開講期	2020・後期	曜時間	火2	授業形態 講義
<b>[授業の概要・目的]</b>								
前期コア科目である「医療統計学」で学んだ医療統計学の考え方を実践するための具体的な統計的方法について講義します。								
本講義では、疫学研究などの観察研究において因果関係を調べるために用いられる「交絡」を調整する方法として、層別解析、回帰モデルなどの解析方法を説明するとともに、解析計画を立てることで必須である「研究計画書」での医療統計的なポイント、データ解析を実施する上で必要となる「解析計画書」作成のポイントをとり上げます。「医療統計学」よりも専門的な内容が増えますが、具体例を示しながら基本的な考え方を中心に講義します。								
履修条件に注意してください。								
【パワーポイントスライドによる講義形式】								
<b>[到達目標]</b>								
・交絡について理解し、正しく説明できる ・交絡調整における層別解析と回帰モデルの意義を理解し、説明できる ・層別解析と回帰モデルの利点・欠点を説明できる ・研究計画書、解析計画書の重要性を理解し、説明できる								
<b>[授業計画と内容]</b>								
第1回 10月 6日 交絡の復習と標準化 第2回 10月13日 共通効果の推定 第3回 10月20日 平均値の比較 第4回 10月27日 回帰モデル入門、第1回ミニテスト 第5回 11月10日 一般化線形モデル 第6回 11月17日 生存時間解析1 第7回 11月24日 生存時間解析2 第8回 12月 1日 データの欠測・estimand、第2回ミニテスト 第9回 12月 8日 研究計画書の作成 第10回 12月15日 医薬品の審査と市販後安全対策（森先生） （第10回のみ13:00から14:30） 第11回 12月22日 解析計画書の作成 第12回 1月 5日 変数選択、第3回ミニテスト 第13回 1月12日 上級者の交絡調整の方法 第14回 1月19日 解析計画ディスカッション								
----- 交絡調整の方法(2)へ続く↓↓ -----								

交絡調整の方法(2)								
<b>[履修要件]</b>								
・前期コア科目「医療統計学」を履修済みであること ・人間健康科学系専攻の学生の受け入れはしていません								
<b>[成績評価の方法・観点]</b>								
3回のミニテストおよび平常点								
<b>[教科書]</b>								
前期 医療統計学 配布資料 講義スライド資料を配布します								
<b>[参考書等]</b>								
(参考書) Rothman KJ, Greenland S, Lash TL.『Modern Epidemiology, 3rd ed.』(Lippincott Williams & Wilkins) ISBN:978-1451190052								
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b>								
前期コア科目「医療統計学」資料を復習してください。								
<b>(その他（オフィスアワー等）)</b>								
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。								

科目ナンバリング P-PUB01 8H022 PJ90										
授業科目名 <英訳>	解析計画実習 Health Data Processing Laboratory			担当者所属・職名・氏名	医学研究科 准教授 士居 正明 医学研究科 教授 佐藤 俊哉 医学研究科 助教 大宮 將義 元厚生労働省 森 和彦 医薬品医療機器総合機構 安藤 友紀 神戸大学 大森 崇					
	配当学年	専門職	単位数	2	開講年度・開講期	2020・後期	曜时限	火3,4	授業形態	実習
<b>[授業の概要・目的]</b> 疫学研究・臨床研究を実施する上で必要となる研究計画書や解析計画書を作成するための技法を、実習を通じて身につけます。 各種研究ガイドラインや倫理指針の内容をグループで検討・発表します。「交絡調整の方法」で講義した内容に関して、統計ソフトJMPを用いて実データの解析を行います。 新医薬品承認審査の資料を用いて、新医薬品の審査を体験し、グループで検討した内容を発表してもらいます。 課題研究などで実施する際の解析計画書を作成し、その内容を発表してもらいます。 履修条件に注意してください。										
<b>[少人数の班に分かれた実習]</b>										
<b>[到達目標]</b> ・各種研究ガイドライン、倫理指針の内容を理解できる ・統計解析ソフトJMPを用いて層別解析、回帰モデルが実行でき、適切な結果を報告し、結果を解釈できる ・新医薬品承認申請の資料を読み、新医薬品の審査を体験する ・課題研究の解析計画書を作成できる										
<b>[授業計画と内容]</b> 第1回 10月 6日 ガイドライン・倫理指針実習1 第2回 10月13日 ガイドライン・倫理指針実習2 第3回 10月20日 ガイドライン・倫理指針実習 発表会 第4回 10月27日 層別解析 第5回 11月10日 平均値の比較 第6回 11月17日 回帰分析 第7回 11月24日 一般化線形モデル 第8回 12月 1日 新医薬品の審査実習1 第9回 12月 8日 新医薬品の審査実習2 第10回 12月15日 新医薬品の審査実習 発表会 (第10回のみ14:45~18:00) 第11回 12月22日 生存時間解析 第12回 1月 5日 解析計画書作成1										
----- 解析計画実習(2)へ続く ↓↓↓ -----										

解析計画実習(2)										
----- 第13回 1月12日 解析計画書作成2 第14・15回 1月19日 解析計画書発表会 -----										
<b>[履修要件]</b> ・前期選択科目「医療統計学実習」を履修済みであること ・人間健康科学系専攻の学生さんの受け入れはしていません										
<b>[成績評価の方法・観点]</b> ・班および個人のレポート ・班および個人による発表										
<b>[教科書]</b> 前期 医療統計学講義・実習資料 毎回実習の手引きを配布します										
<b>[参考書等]</b> (参考書)										
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b> 前期選択科目「医療統計学実習」を復習してください										
<b>(その他（オフィスアワー等）)</b> 統計ソフトJMPがインストールされたノートパソコンを持参してください。JMPは医学研究科の大學生であれば利用できます（個人のパソコンにインストールできます）。 JMPの利用については、 <a href="http://www.med.kyoto-u.ac.jp/software/JMP/">http://www.med.kyoto-u.ac.jp/software/JMP/</a> を参照してください。										
※途中からの参加は認めません、必ず初回から出席してください										
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。										

科目ナンバリング P-PUB01 8H133 LB90										
授業科目名 <英訳>	地域保健医療福祉論 Health, Medical and Welfare System			担当者所属・職名・氏名	医学研究科 准教授 里村 一成					
	配当学年	専門職	単位数	2	開講年度・開講期	2020・後期前半	曜时限	木3,4	授業形態	講義
<b>[授業の概要・目的]</b> 日本における公衆衛生行政の過去、現在、未来についての知識を得る。 特に現在公衆衛生上問題となっている事柄を、歴史的経緯をふまえてとらえ、今後の展開について検討する。 保健医療福祉に関するプレゼンテーションを行い、各自の意見を提示し、それについての討論を行う。										
<b>[到達目標]</b> 日本の公衆衛生行政の現状と問題点の把握ができる。										
<b>[授業計画と内容]</b> 第1・2回 日本の公衆衛生の実情概論 第3・4回 日本の公衆衛生の実情と問題点（1） 第5・6回 日本の公衆衛生の実情と問題点（2） 第7・8回 日本の公衆衛生の問題点の検討（1） 第9・10回 日本の公衆衛生の問題点の検討（2） 第11・12回 日本の公衆衛生の問題点の検討（3） 第13・14回 日本の公衆衛生の問題点の検討（4） 第15回 フィードバック										
日程は変更の可能性があるので開講日に確認のこと										
<b>[履修要件]</b> 特になし										
<b>[成績評価の方法・観点]</b> 出席状況、プレゼンテーション、授業内での発言（50%） レポート（50%）										
<b>[教科書]</b> 必要に応じて授業時にプリントを配布する。										
<b>[参考書等]</b> (参考書) 『国民衛生の動向』（厚生統計協会） 『国民の福祉の動向』（厚生統計協会） 『保険と年金の動向』（厚生統計協会） 『衛生行政大要』（日本公衆衛生協会）										
----- 地域保健医療福祉論(2)へ続く ↓↓↓ -----										

地域保健医療福祉論(2)										
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b> 新聞、TV、インターネット等の保健医療福祉行政に関する報道等を興味を持って視聴し、授業内容の理解に役立てること。										
<b>(その他（オフィスアワー等）)</b> 受講人数によって内容を変更することがある										
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。										

科目ナンバリング											
P-PUB01 8H028 LB90											
授業科目名 <英訳> 国際保健学 International Health			担当者所属・職名・氏名	医学研究科 准教授 里村 一成							
配当年	専門職	単位数	2	開講年度・開講期	2020・後期集中	曜時限	木3・4	授業形態	講義・演習	使用言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
国際保健関連に從事している者、またはその経験者との討論。 国際保健における日本の役割を知る。 日本との比較による海外の保健医療について検討する。											
【到達目標】											
国際社会と日本社会の違いを知るとともに日本が可能な国際保健への貢献について考えられる。 今後の日本の保健医療のあり方について、参考となる海外の情報に謙虚に耳を傾けられる。											
【授業計画と内容】											
第 1・2 回 国際保健概論 第 3・4 回 国際保健各論（1） 第 5・6 回 国際保健各論（2） 第 7・8 回 国際保健各論（3） 第 9・10回 国際保健各論（4） 第11・12回 国際保健各論（5） 第13・14回 国際保健各論（6） 第15回 フィードバック											
日程は変更の可能性があるので開講日に確認のこと。											
【履修要件】											
地域保健医療福祉論との同時履修が望ましい											
【成績評価の方法・観点】											
平常点(出席状況、授業内での発言等) (50%) レポート(50%)											
【教科書】											
必要に応じて授業時にプリントを配布する。											
【参考書等】											
(参考書) 『国民衛生の動向』 (厚生統計協会)											
【授業外学修（予習・復習）等】											
新聞、TV、インターネット等の保健医療行政に関する報道等を興味を持って視聴し、授業内容の理解に役立てること。											
(その他（オフィスアワー等）)											
受講人によって内容を変更することがある											
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳> 毒性学 Toxicology						担当者所属・職名・氏名					
配当年	専門職	単位数	2	開講年度・開講期	2020・後期	曜時限	木1	授業形態	講義	使用言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
I. コースの概要 前期の毒性学入門の講義で得られた知識を背景に、毒性学研究に必要な理論、方法を学習し、さらに化学物質の体内動態と実際の化学分析に焦点を当てた、より進んだ毒性学を講義します。 前期の毒性学入門を履修していることが望されます。											
【到達目標】											
II. 学習到達目標（このコース終了時までに習得が期待できること） ・毒性学を理解する ・体内動態と基本的なモデルを理解する ・化学物質の分析手法を説明できる ・主要な中毒、健康影響の防止策を述べることができる											
【授業計画と内容】											
第1回 Orientation 第2回 Toxicology 1 第3回 Toxicology 2 第4回 Toxicology 3 第5回 Toxicology 4 第6回 Toxicology 5 第7回 “General Provisions” and “Organization and Personnel” “Facilities” and “Equipment” 第8回 “Testing Facilities Operation” and “Test and Control Articles” “Protocol for and Conduct of a Non-clinical Laboratory Study” 第9回 Toxicokinetics 1 第10回 Toxicokinetics 2 第11回 Research ethics in toxicology 第12回 Chemical analysis 1 第13回 Chemical analysis 2 第14回 Chemical analysis 3 第15回 Presentation											
【履修要件】											
Credits of “Occupational health and environmental health sciences” are required.											
----- 毒性学(2)へ続く↓↓ -----											

科目ナンバリング											
P-PUB01 8H032 LB90											
授業科目名 <英訳> ベンチトレーニングコース On the Bench Training Course			担当者所属・職名・氏名								
配当年	専門職	単位数	2	開講年度・開講期	2020・後期	曜時限	金5-6	授業形態	講義	使用言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
I. コースの概要 行政機関・化学工業における毒性学専門職として必要な調査、実験の実践を行ないます。 Gas Chromatography / Mass Spectrometry を使用した環境汚染物質研究のprotocol writing, presentation, protocol meeting, sample collecting, sample measurement, audit, paper writing, review を実習します。											
【到達目標】											
II. 学習到達目標（このコース終了時までに習得が期待できること） ・Gas Chromatography / Mass Spectrometry を使用することができる ・文献等を調べて研究テーマの背景を説明できる ・GLPに基づいてプロトコールを書くことができる ・明らかにすべき事柄に対する研究手段を選択することができる ・プロトコールをpresentationすることができる ・実験結果をまとめることができる ・研究結果をpresentationすることができる ・研究成果を論文にまとめることができます											
【授業計画と内容】											
第1回 Orientation 第2回 Gas Chromatography 24-1, 24-2, 24-3 第3回 Gas Chromatography 24-4, 24-5 第4回 Mass Spectrometry 22-1, 22-2 第5回 Mass Spectrometry 22-3, 22-4 第6回 Discussion of theme 第7回 Presentation of background 第8回 Protocol Writing 第9回 Protocol Presentation 第10回 Sample collecting 第11回 Sample measurement (1) 第12回 Sample measurement (2) 第13回 Summarize the data 第14回 Presentation the data 第15回 Writing Paper											
【履修要件】											
MPH選択 産業・環境衛生学を履修済みであること											
----- ベンチトレーニングコース(2)へ続く↓↓ -----											

ベンチトレーニングコース(2)
<b>成績評価の方法・観点</b> Attendance and active participation 50%, Presentation 50%
<b>教科書</b> Handouts 1.Code of Federal Regulations ICH Guideline 2.Quantitative Chemical Analysis 6th edition Daniel C. Harris, W. H. Freeman and Company, 2003
<b>参考書等</b> (参考書)
<b>授業外学修（予習・復習）等</b> Group discussion will be performed by students in Out-of-Class.
<b>その他（オフィスアワー等）</b> その他メッセージ Credits of "Occupational health and environmental health sciences" are required.  人間健康科学系専攻学生の受講可否： 上限3人まで可能 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	P-PUB01 8H099 LB90										
授業科目名 <英訳>	医薬品・医療機器の開発計画、薬事と審査 Development strategy, plan, and regulatory affairs of drugs and medical devices				担当者所属・職名・氏名	医学研究科 教授 川上 浩司					
配当年	専門職	単位数	2	開講年度・開講期	2020・後期	曜時限	水3,4				
授業形態	講義	使用言語	日本語及び英語								
<b>授業の概要・目的</b>											
【講義担当者】川上浩司（薬剤疫学・教授）、田中司朗（臨床統計学・特定教授）、小村純子（損南大学・教授）、藤原康弘（独立行政法人医薬品医療機器総合機構（PMDA）・理事長）、笠井宏委（京都大学医学部附属病院臨床研究総合センター）、山本晴子（国立循環器病研究センター・部長）、内田毅彦（日本医療機器開発機構・代表取締役）、堀井郁夫（英國ケンブリッジ大学・客員教授）、脇谷滋之（武庫川女子大学・教授）、瓜生原葉子（同志社大学・准教授）、Christian Elze（Catenion社・シニアパートナー）、大西佳恵（CreativCeutical社・日本代表）、木村真也（JMDC社・会長）、漆原尚巳（慶應義塾大学・教授）											
コースの概要 本コースは医学研究科社会健康医学系専攻の選択科目の一つです。 医薬品開発の全体戦略、新薬創出や毒性への対処、標準治療確立のための臨床試験のプロトコール作成、臨床試験の実施中のプロジェクトマネジメントの基礎と実際、PRO研究の実際、薬価の交渉、市販後臨床試験の考え方について学びます。また、医薬品や医療機器の開発と行政当局における開発の考え方と審査の考え方と業事対応方法について、行政当局の元審査官の講師陣により理学試験と製造、非臨床試験、臨床審査、および承認の考え方につき網羅的に講義と実習を通して学びます。 学習到達目標（このコース終了時までに習得が期待できること） ・医薬品、バイオ医薬品（生物製剤）、医療機器の開発の戦略、臨床試験の立案、実施時のプロジェクトマネジメント、安全性・有効性の評価について、開発者の業事業務と行政当局（審査側）の業務と考え方を理解する。 ・ヘルステクノロジーアセスメントの観点から、費用対効果、薬価についての実施を学ぶ。											
教育・学習方法 ・講義、審査、開発実習、討議											
<b>到達目標</b>											
学習到達目標（このコース終了時までに習得が期待できること） ・医薬品、バイオ医薬品（生物製剤）、医療機器の開発の戦略、臨床試験の立案、実施時のプロジェクトマネジメント、安全性・有効性の評価について、開発者の業事業務と行政当局（審査側）の業務と考え方を理解する。 ・ヘルステクノロジーアセスメントの観点から、費用対効果、薬価についての実施を学ぶ。											
<b>授業計画と内容</b>											
第1回 10月7日 アカデミアにおける医薬品開発とトランクスレーショナルリサーチ（田中） 第2回 10月14日 臨床試験開発と審査：非臨床試験（小村） 第3回 10月21日 臨床試験開発と審査：CMC（川上） 第4回 10月28日 臨床試験開発と審査：臨床評価（藤原）											
医薬品・医療機器の開発計画、薬事と審査(2)へ続く↓↓											

医薬品・医療機器の開発計画、薬事と審査(2)
<b>履修要件</b> 臨床試験の実施や審査、医薬品や医療機器の事業戦略、開発やアウトカム研究トップの方々を講師にお迎えしています。後期2限に開講されるH109「医薬政策・行政」H079「医薬品の開発と評価」を受講していることを必須とします。本科目のみの受講は認めません。
<b>成績評価の方法・観点</b> 実習への参加（50%）、レポート（50%）
<b>教科書</b> 使用しない
<b>参考書等</b> (参考書) 安生紗枝子ら『新薬創製への招待：開発から市販後の監視まで』（共立出版、2006.） 川上浩司、漆原尚巳、田中司朗（監修）『ストロムの薬剤疫学』（南山堂、2019.）
<b>授業外学修（予習・復習）等</b> 適宜予習復習を求める。
<b>その他（オフィスアワー等）</b> 人間健康科学系専攻学生の受講可否： 可 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	P-PUB01 8H079 LB90										
授業科目名 <英訳>	医薬品の開発と評価 Drug Development, Evaluation and Regulatory Sciences				担当者所属・職名・氏名	医学研究科 教授 川上 浩司					
配当年	専門職	単位数	1	開講年度・開講期	2020・後期集中	曜時限	後期後半 水2				
授業形態	講義	使用言語	日本語及び英語								
<b>授業の概要・目的</b>											
前週までの「医薬政策・行政」に引き続いで、医薬品、バイオ医薬品、医療機器の研究開発の過程について、前臨床研究、試験物の理化試験と製造、動物を用いた非臨床試験、そして人を対象とした臨床試験、行政当局による承認、薬価の決定（費用対効果）、市販後評価というすべてのステップにおける安全性と有効性、経済性の評価について学びます。また、トランクスレーショナルリサーチの実際、製薬産業の国際動向についても学びます。											
【講義担当者】川上浩司（薬剤疫学・教授）、白沢博満（MSD株式会社・副社長）、堀井郁夫（英國ケンブリッジ大学・客員教授）、佐藤泉美（薬剤疫学・特定講師）、Christian Elze（Catenion社・シニアパートナー）、大西佳恵（CreativCeutical社・日本代表）、中山謙（財務省主計局）、漆原尚巳（慶應義塾大学・教授）、関知嗣（薬剤疫学・助教）											
<b>到達目標</b>											
・医薬品、医療機器、生物製剤の開発と評価の基本的な考え方、方法論を理解している。 ・費用対効果、薬価とは何かについての基本的な考え方、方法論を理解している。 ・薬剤疫学と市販後の基本的な考え方、方法論を理解している。											
<b>授業計画と内容</b>											
第1回 11月25日 Healthcare Systems - Challenges and Reform (Elze) 第2回 12月2日 医薬品の創製、毒性と安全性 (堀井) 第3回 12月9日 グローバル製薬企業の動向と開発業事 (白沢) 第4回 12月16日 医療リアルワールドデータと医薬品評価 (川上) 第5回 12月23日 薬剤疫学概論 (佐藤) 第6回 1月6日 医薬経済概論：費用対効果と薬価の考え方 (大西) 第7回 1月13日 日本の財政状況と医療・福祉 (中山) 第8回 1月20日 市販後調査、市販後臨床試験 (漆原) 第9回 1月27日 ICTやデータ基盤を活用した医薬品開発や評価 (関)											
医薬品の開発と評価(2)へ続く↓↓											
<b>履修要件</b>											
本コースの前週まで講義が行われるH109「医薬政策・行政」と連続、一括した内容となっており、原則として通じて受講できない方は受け入れ不可とします。また、同日3・4限のH099「医薬品・医療機器の開発計画、薬事と審査」も本講義の内容を掘り下げたもので、合わせて受講することを推奨します。											

医薬品の開発と評価(2)
<b>[成績評価の方法・観点]</b> 講義の場への参加（50%）、レポート（50%）
<b>[教科書]</b> 使用しない
<b>[参考書等]</b> <b>(参考書)</b> 安生鈴枝子ら『新薬創製への招待：開発から市販後の監視まで』（共立出版、2006.） 川上浩司、漆原尚巳、田中司朗（監修）『ストロムの薬剤疫学』（南山堂、2019.）
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b> 予習は特に不要であるが、復習については十分に行うことを期待する。
<b>(その他（オフィスアワー等）)</b> 川上浩司 G棟3階・内線：9469（代表） 面談希望は必ずメールでご連絡下さい。 kawakami.koji.4e@kyoto-u.ac.jp ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	P-PUB01 8M022 LB90										
授業科目名 <英訳>	ゲノム科学と医療 Genome Science and Medicine										
担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 松田 文彦 准教授 田原 康玄 特定教授 長崎 正朗										
配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 後期	曜時限	木3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
ゲノム科学技術が発展し、DNAシークエンス実験を比較的安価に実現できる時代となった。本講義の目的は、ゲノム科学の発展が21世紀の医療にいかなるインパクトを与えるのかを理解することにある。本講義では、ゲノム科学に携わっている研究者の最新の研究成果とその臨床医学における実践的な応用ならびに応用の可能性についての授業を、各分野の専門家による講義として行う。											
<b>[到達目標]</b>											
・ゲノム医学の概念を理解する。 ・実際に行われている、あるいは近い将来に行われるようになる可能性のある臨床医学へのゲノム科学の応用について、実情並びに展望を学ぶ。											
<b>[授業計画と内容]</b>											
疾患の遺伝学 多因子疾患 鎌谷洋一郎 教授（東京大学） 疾患の遺伝学 量的形質と構造多型 長崎正朗 特定教授 疾患の遺伝学 RNA スプライシングと疾患 萩原 正敏 教授 ゲノム医学 ゲノム前薬剤開発 教授（大阪大学） 疾患の遺伝学 慢性疾患のマルチオミックス・アプローチ Dominique GaugierI 客員教授（INSERM） 疾患の遺伝学 単一遺伝子疾患 松本直通 教授（横浜市立大学） ゲノム医学 薬理遺伝学 莺田泰誠 グルーブリーダー（理化学研究所） ゲノム医学 ゲノムコホート研究 松田文彦 教授 科学研究の成果をいかに伝えるか (1)-(2) 村中瑞子 集中講義 （※1）2日間を予定 試験（レポート） ゲノム医学 少希疾患 山野嘉久 教授											
※1 日程については変更になる場合があります。 ※2 授業は、集中講義を除き英語となります。 【注意】外部講師の都合等により、講義日程に変更が生じる場合があります。											
<b>[履修要件]</b>											
統計遺伝学基礎Ⅰ・Ⅱの履修を強く推奨する											
<b>[成績評価の方法・観点]</b>											
・講義における授業参加の状況 ・最終レポート											
-----ゲノム科学と医療(2)へ続く↓↓↓											

ゲノム科学と医療(2)
<b>[教科書]</b> 授業中に指示する 参考資料は講義の中で適時配布
<b>[参考書等]</b> <b>(参考書)</b> 授業中に紹介する
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b> 配付資料を活用した復習を主体に行うこと。
<b>(その他（オフィスアワー等）)</b> ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。 ※本年度は、南部総合研究1号館1階共同セミナー室3で開講予定。（変更がある場合にはKULASISで連絡を行う） ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	P-PUB01 8N018 LJ90										
授業科目名 <英訳>	医療倫理学各論 Practicum for Clinical Genetics										
担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 小杉 真司										
配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 後期	曜時限	木5・6:講義	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
【基本情報】 授業日時：金曜5/6限（原則隔週） 教室：G棟3階演習室 レベル：応用 担当者：小杉真司・和田敬仁・山田崇弘・竹之内沙弥香・山崎康仕（神戸大学）・浅井篤（東北大學）											
【コースの概要】 医療技術の進展とともに生じる臨床上の問題、臨床研究実施上の問題の検討を行う。「自ら問題を考え、解決の方策を探り、臨床で実践する能力」を身につけ、実践行動型の医療者となることを目標とする											
<b>[到達目標]</b>											
1) 医療倫理学の基礎を理解する ・医療倫理学の背景、医師患者関係の変容、患者の権利や医師の義務を理解する 2) 倫理的問題の対処方法を習得する ・問題の存在を認識し、考える枠組みを使って実際の問題を検討する ・議論を通して解決の道筋をたてる ・臨床での実践方法を考える											
<b>[授業計画と内容]</b>											
【第1/2回】10月2日<小杉>「倫理委員会・移植医療と倫理」倫理審査委員会の歴史、現状、法的根拠、組織、脳死からの臓器移植、生体肝移植、心臓死および生体からの臍島移植などの問題点を実例に基づいて考える 【第3/4回】10月16日<山田>「産婦人科医療と倫理」産婦人科では、胚や胎児を対象とするために生じる倫理問題が存在する。これらの幅広い倫理的課題について考える 【第5/6回】10月30日<浅井>「医療資源配分の問題」 【第7/8回】11月6日<山崎>「法と倫理」道德・倫理・法の関係、自然法論と法実証主義などについて総合的に考える 【第9/10回】11月27日<和田>「小児科医療と倫理」小児医療における代諾、重症障害新生児の治療、治療拒否と虐待などの問題点について考える 【第11/12回】12月18日<竹之内>「終末期医療」治療の中止・延命治療、安楽死・尊厳死、高齢者医療、DNRオーダー、事前指示、医学的無益性などについて考える 【第13/14回】1月15日<山田>「二次的（偶發的）所見の問題」網羅的なゲノム情報が用いられる時代となり常に直面する二次的（偶發的）所見の取り扱いについて学ぶ 【第15/16回】1月29日<小杉>「自主研究発表」履修生による自己テーマについての研究発表											
<b>[履修要件]</b>											
遺伝カウンセラーコース1回生必修科目 SPH選択科目											
-----医療倫理学各論(2)へ続く↓↓↓											

(2) 基礎医学各論(2)
先修科目として「基礎医学倫理学」の履修を原則とする 人間健康科学系専攻学生の受講可否：要事前連絡
<b>[成績評価の方法・観点]</b> 研究発表、議論への参加の積極性、レポート、出席等を総合的に判定します。 自主研究発表(最後に実施)：医療倫理に関するどのようなテーマでも良いので、自ら問題点を探し、それについて調べたり、検討した結果を発表し、全体でディスカッションします。割り当て時間(発表+ディスカッション)は、発表者の数に依存しますが、15-20分程度です。(原則としてパワーポイントを用いて発表し、ハンドアウト配布もお願いします)。他の専攻や研究科からの受講、聴講の場合も必須です。
<b>[教科書]</b> 配布するハンドアウトなど
<b>[参考書等]</b> (参考書)
<b>[授業外学修(予習・復習)等]</b> 適宜指示する
<b>(その他(オフィスアワー等))</b> その他メッセージ 事例検討は、ビデオ、漫画を用いることがあります 講義日程、講師、内容については、多少の変更がある可能性があります かならず、正式な受講届を提出すること。 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-MED41 8S005 LE87									
授業科目名 <英訳> Statistical Genetics II						担当者所属・ 職名・氏名		医学研究科 教授 山田 亮			
配当年	博士	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020 後期集中	曜時限	集中講義	授業形態	講義・演習	使用言語	日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
Days and hours (1st week of Feb, Mon, Tue, Wed, and Thr) 1 February 1st 8:45-10:15 2 February 1st 10:30-12:00 3 February 1st 13:00-14:30 4 February 1st 14:45-16:30 5 February 2nd 8:45-10:15 6 February 2nd 10:30-12:00 7 February 2nd 13:00-14:30 8 February 2nd 14:45-16:30 9 February 3rd 8:45-10:15 10 February 3rd 10:30-12:00 11 February 3rd 13:00-14:30 12 February 3rd 14:45-16:30 13 February 4th 8:45-10:15 14 February 4th 10:30-12:00 15 February 4th 13:00-14:30 16 February 4th 14:45-16:30 Spare											
統計遺伝学の学修にあたり3つの要素に分けて取り組む。基礎数学、統計解析の基礎、統計解析の応用の3つである。 基礎数学は線形代数学、微積分学、グラフ理論、情報幾何学の4つを扱う。基礎ではデータ型・検定・推定の考え方を扱う。応用では、メンデル型遺伝、癌症候群、複合遺伝性疾患、発現解析を取り上げる。 これらを以下のような6つのモジュールとして提供する。 基礎数学A(線形代数とグラフ理論)、基礎数学B(微積分学と情報幾何) 統計解析基礎A(データ型と検定)、統計解析B(推定) 統計解析応用A(メンデル型遺伝、癌症候群)、統計解析応用B(複合遺伝性疾患と発現解析) 統計遺伝学I、IIはそれぞれ前期・後期に開講するが、年度ごとにその提供内容は変わる。 2018年度からの提供予定は以下のとおりとする。 2018 前期 基礎数学A、後期 統計解析基礎A 2019 前期 基礎数学B、後期 統計解析応用B 2020 前期 基礎数学A、後期 統計解析基礎B 2021 前期 基礎数学B、後期 統計解析応用A また、統計遺伝学I、IIの講義では、プログラミング言語Rを使い、計算、データ解析、データ視覚化、データシミュレーションの技術も学ぶ。 2019年度後期は統計解析応用Bである。 This course is consisted of three components to master the basics of statistical genetics; (1) basic mathematics, (2) statistical genetics, (3) application of statistics to genetic studies.											

(2) 基礎医学各論(2)
(2) basics of statistics and (3) application of statistics to genetic studies. The course divides these three components into six modules and provides one of them for each semester. Basic mathematics A: Linear algebra and graph theory Basic mathematics B: Calculus and information geometry Basics of statistics A: Data types and statistical tests Basics of statistics B: Inference Application of statistics A: Statistical aspects of Mendelian traits and Cancer syndromes Application of statistics B: Statistica. aspects of complex genetic traits and gene expression biomarkers. Schedule plan is as below: 2018 1st semester Basic mathematics A, 2nd semester Basics of statistics A 2019 1st semester Basic mathematics B, 2nd semester Application B 2020 1st semester Basic mathematics A, 2nd semester Basics of statistics B 2021 1st semester Basic mathematics B, 2nd semester Application A In the course, the language R is used for data analysis, simulation and visualization. This semester: Application B.
<b>[到達目標]</b> 基礎数学A：行列演算による、二乗法・PCAがわかる。グラフ理論の基礎を習得する。 基礎数学B：確率密度関数の微積分の式が理解できる。尤度関数と尤度推定のための微分演算が理解できる。近似のための微積分が理解できる。情報幾何の基礎を理解する。 統計解析基礎A：統計遺伝学分野におけるデータ型、検定、漸近似似検定、正確確率検定、分割表検定を理解する。 統計解析基礎B：点推定・区間推定、ペイズ推定、尤度推定、尤度関数を理解する。 統計解析応用A：メンデル遺伝形質のリスク評価、癌症候群のリスク評価を理解する。 統計解析応用B：複合遺伝性疾患の遺伝モデルとそのリスク評価、遺伝子発現プロファイルとバイオマーカーについて理解する。 いずれのモジュールにおいても、コンピュータ言語Rを用いて基礎的な計算・プログラミングの技術を習得する。
Basic mathematics A: To understand matrix calculation least squares, PCA, and the basics of graph theory. Basic mathematics B: To understand calculus for probability density functions, likelihood functions and maximum likelihood estimation, approximation, and the basics of information geometry. Basics of statistics A : To understand data types, statistical tests, asymptotic tests, exact tests, and contingency table tests Basics of statistics B : To understand point and interval estimates, Bayesian estimates, maximum likelihood estimates and likelihood functions. Application A: To understand statistical aspects for risk evaluation of Mendelian traits and cancer syndromes. Application B: To understand statistical aspects for risks evaluation of complex genetic traits and expressional profiles. In every module, the basics of R language should be mastered.
<b>[授業計画と内容]</b> 数学基礎A 前半に線形代数を、後半にグラフ理論を扱う。

統計遺伝学 II (3)	
統計遺伝学では、行列計算、分散共分散行列、最小二乗法、連立方程式、PCA、最適解を順に取り上げる。 グラフ理論では、グラフの定義、グラフオブジェクトのRでの取り扱い、木、最小全域木、ランダムグラフ、ネットワークを順に取り上げる。 数学基礎B 前半に微積分学を、後半に情報幾何を扱う。 微積分学では、確率密度分布の期待値、尤度関数と尤度推定のための微分、確率密度関数、累積分布関数・ハザード関数のための微分積分、偏微分とHWE、最小二乗法、ティラー展開を順に取り上げる。 情報幾何では、その基礎、フィッシャー情報量、双対平坦、指數型分布族、KLダイバージェンスを取り上げる。 統計解析基礎A データ型、カテゴリと正単体、 $2 \times 2$ 表のカイ二乗検定と正確確率検定、HWE検定とその正確確率検定、 $2 \times 3$ 表検定と遺伝モデル、一様分布とマルチブルスティングとボンフェロニ補正を順に扱う。 統計解析基礎B 点推定と区間推定、ペイズ推定、二項分布とベータ分布、ハプロタイプ頻度推定とEMアルゴリズム、遺伝子不平衡ブロックを順に扱う。 統計解析応用A 前半にメンデル遺伝を、後半に癌症候群を扱う。 メンデル遺伝では、家系図、メンデル遺伝のジェノタイプとフェノタイプ、NGSと疾患責任変異を扱う。 癌症候群では、その基礎、リスク評価、決断支援ツール、ペイズ推定、ペイジアンネットワークを扱う。 統計解析応用B 前半に複合遺伝性疾患を、後半にトランスクリプトーム・発現プロファイルによる癌のサブタイプを扱う。 複合遺伝性疾患では、遺伝モデル、集団・コホート、 $2 \times 3$ 表の関連検定、多座位モデルを扱う。 トランスクリプトーム・発現プロファイルでは、その基礎、Differential expression analysis、クラスタリングとヒートマップ、教師ありクラスタリング、バリデーション法を扱う。	
Basic mathematics A The first half: Linear algebra, including matrix calculation, variance-covariance matrix, least square method, system of equation, PCA, optimization The second half: Graph theory, including basics of graph theory, tree, minimum spanning tree, random graph, and network and graph objects in R language.	
Basic mathematics B The first half: Calculus, including expect of probability density functions, likelihood function and maximum likelihood estimate and calculus for them, calculus for probability density function, cumulative density function and hazard functions, partial derivative and HWE, calculus for least square methods and Taylor expansion. The second half: Information geometry, including its basics, Fisher information, dual flatness, exponential families and KL divergence.	
Basics of statistics A Data types including categorical types and simplex, $2 \times 2$ table tests and chi-square test and exact test, HWEtest and its exact test, $2 \times 3$ table test and genetic models, uniform distribution and multiple testing and	
Basic mathematics A The first half: Linear algebra, including matrix calculation, variance-covariance matrix, least square method, system of equation, PCA, optimization The second half: Graph theory, including basics of graph theory, tree, minimum spanning tree, random graph, and network and graph objects in R language.	

<p><b>統計遺伝学 II (4)</b></p> <p>Bonferroni's correction. Basics of statistics B Point and interval estimates, Bayesian approach and binomial and beta distributions, haplotype frequency estimation and EM algorithm and LD block. Application A The first half: Mendelian traits, including pedigree, genotypes and phenotypes of Mendelian traits, NGS and disease-responsible variants. The second half: Cancer syndrome, including its basics and risk evaluation, decision-support tool, Bayesian estimation and Bayesian network. Application B The first half: Complex genetic traits, including genetic models, population and cohort, 2x3 table association tests and multiple-locus model. The second half: Transcriptome analysis and expression profiles, including their basics, differential expression analysis, clustering and heatmap, supervised learning and validation.</p>	<p><b>統計遺伝学 II (5)</b></p> <p><b>[授業外学修（予習・復習）等]</b> フリーソフトウェア Rに習熟するには講義時間のみでは十分でないことが多い。日常のデータ処理などに積極的に活用するなど、使用機会を各自確保することが望まれる。 宿題が提出される。 Unskilled R users should learn it themselves by using it for their daily research activities. Homework every week.</p>
<p><b>[履修要件]</b></p> <p>生物学・遺伝学の基礎を習得していることが望ましいが、意欲があれば必須ではない。 無線LAN接続の可能なノートパソコンを持参すること。計算機・プログラミングの知識は要求しないが、初学者は復習が必須となる。前期・後期併せての受講が望ましいが、必須ではない。</p>	<p><b>[その他（オフィスアワー等）]</b> 特になし NA</p>
<p>It is desirable to have background of molecular biology and genetics but not required if ready for self-learning them. Bring a laptop PC with wifi. Basic computer skills and programming in R are necessary. If no, self-learn them along the course.</p>	<p>※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>
<p><b>[成績評価の方法・観点]</b> 授業中の質疑応答の発言を評価する。 宿題の提出内容を評価する。 最終日に試験を実施する。 Activities in the class hours, homeworks and exam at the end of the course are counted.</p>	
<p><b>[教科書]</b> 統計解析基礎A,Bでは、『遺伝統計学の基礎』 ISBN 978-4274068225 とその英訳プリントを用いる。</p>	
<p>For basics of statistics A and B "遺伝統計学の基礎" ISBN 978-4274068225 in Japanese and its English version handout will be used.</p>	
<p><b>[参考書等]</b> <b>(参考書)</b> 基礎数学A、Bでは、配布資料(<a href="http://statgenet-kyotouniv.wikidot.com/2018">http://statgenet-kyotouniv.wikidot.com/2018</a>)を用いる。 統計解析応用A、Bでは配布資料(<a href="http://statgenet-kyotouniv.wikidot.com/2017">http://statgenet-kyotouniv.wikidot.com/2017</a>)を用いる。 For basic mathematics, get handouts @ <a href="http://statgenet-kyotouniv.wikidot.com/2018">http://statgenet-kyotouniv.wikidot.com/2018</a>. For application A and B, get handouts @ <a href="http://statgenet-kyotouniv.wikidot.com/2017">http://statgenet-kyotouniv.wikidot.com/2017</a>.</p>	<p>統計遺伝学 II (5)へ続く↓↓↓</p>

科目ナンバリング		P-PUB01 8H130 LB90								
授業科目名 <英訳>	健康情報学 I Health informatics I	担当者所属・職名・氏名	医学研究科 教授 中山 健夫 医学研究科 准教授 高橋 由光 非常勤講師 宮崎 貴久子 大東文化大学 教授 杉森 榎樹 東京有明看護大学 特任教授 津谷 喜一郎 日本MBTI協会 代表 園田 由紀 立命館大学研究センター・がん対策情報センター 若尾 文彦 附属病院 准教授 加藤 源太 株式会社システムエンジニアリング 黒田 晃 静岡県立総合病院 室長 中谷 英仁							
			曜日	曜時限	単位数	開講年度・開講期	2020・後期	授業形態 講義 日本語及び英語		
<b>[授業の概要・目的]</b>										
健康・医療情報 データや知識の収集、蓄積、伝達、検索、評価法、情報リテラシー、ヘルス・コミュニケーション（リスクコミュニケーション含む）、個人情報保護などの情報倫理の課題について講義する。疫学やEBMを基本として、医学文献からスマメディア、インターネットによる健康情報まで、さまざまな情報の特徴を知り、それらを主体的、効果的に活用する方法を考える。さらに欧米の医療関係者に関心の高い性格テスト・MBTI(Myers-Briggs Type Indicator)のワークショップを通して、個人の情報処理・認知の特性とコミュニケーションに関する体験的理を深める。										
<b>教育・学習方法</b> 講義形式と実習										
<b>[到達目標]</b> ・疫学・EBMの知識を応用して、各種の健康・医療情報を適切に活用できる。 ・スマメディア情報、インターネット情報を収集し、適正な吟味を行った上で意思決定、問題解決、そしてコミュニケーションの素材とすることができます。 ・MBTIの視点から、個人の情報処理・認知、コミュニケーションの特性を理解する。										
<b>[授業計画と内容]</b> (※変更の可能性があるので開講日に確認してください) 第1回 10月2日 疫学とEBMからの健康情報リテラシー入門（1）（中山） 第2回 10月9日 疫学とEBMからの健康情報リテラシー入門（2）（中山・中谷） 第3回 10月16日 患者視点の情報：Quality of lifeとPatient reported outcome（宮崎） 第4回 10月23日 インターネットとeヘルス（高橋） 第5回 11月6日 質の高い医療情報の集約・共有・普及：根拠に基づく診療ガイドラインを考える（中山） 第6回 11月13日 ナラティブ情報の意義と可能性（中山） 第7回 11月20日 「がん」をめぐる患者・国民・医療者向け情報の整備（若尾） 第8回 12月4日 健康情報を巡る話題:テクニカル・コミュニケーションの視点から（中山・黒田） 第9回 12月11日 ベネフィットとリスクのコミュニケーション（中山） 第10回 12月18日 ヘルス・リテラシーとリスク・コミュニケーション（杉森） 第11回 1月8日 代替医療とプラゼボ：健康情報とコミュニケーションの視点から（津谷） 第12回 1月22日 医療におけるデータの二次利用の課題（加藤）										
健康情報学 I (2)へ続く↓↓↓										

<p><b>健康情報学 I (2)</b></p> <p>第13回 1月28日 個人の情報処理・認知特性からコミュニケーションへ：MBTI（エムビーティー アイ:Myers-Briggs Type Indicator）セミオープンワークショップ 13時30分～17時30分（園田） 第14回 1月29日 個人の情報処理・認知特性からコミュニケーションへ：MBTI（エムビーティー アイ:Myers-Briggs Type Indicator）セミオープンワークショップ 9時～12時、13時～16時（園田） 第15回 2月5日 総合討論・個別発表 「健康情報学Iを履修して」（中山）</p>	<p>※「健康情報学II」の講義と重ならないように開講します。</p>
<p><b>[履修要件]</b></p> <p>疫学または根拠に基づく医療（evidence-base medicine: EBM）の基礎知識を持つことが望ましいが、必須ではない。</p>	
<p><b>[成績評価の方法・観点]</b></p> <p>毎回の小レポート提出80%、発表20%</p>	
<p><b>[教科書]</b></p> <p>講義資料は配布、MBTIワークショップのテキストは各自購入（3,000円程度）</p>	
<p><b>[参考書等]</b> <b>(参考書)</b> 中山健夫著『健康・医療の情報を読み解く：健康情報学への招待』（丸善書店） 中山健夫監修『ヘルスコミュニケーション実践ガイド』（日本評論社） 中山健夫・杉森裕樹監訳『FDAリスク&amp;ベネフィットコミュニケーション』（丸善書店）</p>	<p><b>[授業外学修（予習・復習）等]</b></p> <p>予習よりも復習に十分時間を取ること</p>
<p><b>[その他（オフィスアワー等）]</b></p> <p>情報とは「意思決定において不確実性を減じるもの」と定義されます。社会における健康・医療に関する情報の適切なあり方、そして個人の特性理解の視点から、情報のコミュニケーションについて考えてみたいと思います。</p>	<p>人間健康科学系専攻学生の受講可否： 可</p>
<p>※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>	

科目ナンバリング										
授業科目名 <英訳>				担当者所属・職名・氏名			医学研究科 準教授 高橋 由光 医学研究科 特定講師 岡田 浩 医学研究科 助教 西川 佳孝			
配当学年	専門職	単位数	2	開講年度・開講期	2020・後期	曜時限	授業形態	講義	使用言語	日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b>										
<p>・健康情報とICT：インターネットの基礎知識、eヘルス、ヘルスケアにおけるICT（Information and communication technology）について講義を行います。公的統計データ、各種二次データ、レセプト情報・特定健診等情報データベース（NDB）などを例に、医療ビッグデータの現状および利活用について講義を行います。国民生活基礎調査匿名データを使った実習を行います。</p> <p>・地域薬局における健康情報：社会の高齢化と医療の高度化に伴い、先進諸国薬局では従来の薬剤供給にとどまらず、公衆衛生に果たす役割が拡大しています。この薬局の役割の変化と臨床研究の結果についてカナダでの事例を中心に講義を行います。また、日本の薬局での介入研究で使われた行動経済学のナッジや健康行動科学に基づく患者アプローチ法などについても紹介します。</p> <p>・災害と健康情報：災害による健康影響について学習し、災害時に必要な健康情報について議論します。防災のための健康情報とその特徴について学習します。事例研究や症例報告の手法について紹介します。</p>										
<b>[到達目標]</b>										
<p>・インターネットの基礎知識、eヘルス、インターネット調査の特徴（利点および欠点）を習得。公的統計データ、医療ビッグデータ、個人番号制度、ライフコース疫学についての基礎知識を習得</p> <p>・世界の保健行政の中での地域薬局の役割の変化に関する知識の習得。薬局におけるプライマリケアへの関与についてのエビデンス、患者の自己決定を尊重しながら、生活習慣改善を促す手法（行動経済学、ナッジ）に関する知識の習得。</p> <p>・災害と健康についての基礎知識の習得。事例研究方法の基礎知識の習得。</p>										
<b>[授業計画と内容]</b>										
10/2 4限 予備										
10/9 4限 世界の地域薬局業務の変化（世界の地域薬局業務の変化）										
10/16 4限 地域医療における薬局：日本の現状（日本における薬局での地域医療への取り組みとエビデンス）										
10/23 4限 薬局での患者支援の実際（短時間での動機づけ：行動経済学ナッジの活用）										
10/30 4限 地域医療における薬局：海外の薬局での取り組み（海外薬局での地域医療への取り組み）										
11/6 4限 災害と健康情報1：災害による健康影響・災害時の健康情報										
11/13 4限 災害と健康情報2：防災のための健康情報とその特徴										
11/20 4限 災害と健康情報3：事例研究の方法										
11/27 4限 予備										
12/4 4限 予備										
12/11 4限 予備										
12/18 3限 インターネットの基礎知識										
12/18 4限 ヘルスケアとICTに関する各種ガイドライン										
12/25 3-4限 予備										
1/8 3-4限 医療ビッグデータ、二次データの利活用										
----- 健康情報学 II(2)へ続く↓↓ -----										

健康情報学 II(2)										
-----										
1/15 3-4限 ヘルスケアとICTの事例紹介										
1/22 3限 インターネット調査フォーム作成										
1/22 4限 ライフコース疫学・社会疫学、まとめ										
1/29 3-4限 予備										
<b>[履修要件]</b>										
健康情報学IIを可能な限り履修するようにしてください。 履修確定後、授業間連の連絡はPandaやKULASISを利用します。 京大のメールアドレスを確認するようにしておいてください。										
<b>[成績評価の方法・観点]</b>										
平常点（出席を含む）（30%）およびレポートまたは発表（70%）										
<b>[教科書]</b>										
使用しない										
<b>[参考書等]</b>										
(参考書) 授業中に紹介する										
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b>										
予習用の教材・資料を、適宜提供します。										
<b>(その他（オフィスアワー等）)</b>										
人間健康科学系専攻学生の受講可否：可 ただし、履修希望者が多い場合は人数制限の可能性あり。履修前に必ずメールをしてください。 takahashi.yoshimitsu.3m@kyoto-u.ac.jp										
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。										

科目ナンバリング P-PUB01 8H098 SB90										
授業科目名 <英訳>				担当者所属・職名・氏名			医学研究科 準教授 岩隈 美穂			
配当学年	専門職	単位数	2	開講年度・開講期	2020・後期	曜時限	火5	授業形態	演習	使用言語
<b>[授業の概要・目的]</b>										
コースの概要 質的研究方法をいくつか取り上げます。質的研究にも多くの手法があり、自分が知りたいリサーチクエスチョンに合わせて、適切な方法を選ぶ必要があります。実際に研究が始まる前にいくつかの道具（ツール）を試しておいたほうがいいので、自分のリサーチクエスチョンを意識し方法論を模索し始める時期に受講することをお勧めします。また自学自習が比較的難しい質的研究は、一緒に受講している「伴走者（=クラスメート）」がいると、課題・疑問を共有しながら学びやすいです。そのため授業形式としてはグループワークなどを通じて「分析を実際に経験」することを重視しています。また前期で取り上げたテーマを深く掘り下げる、障害学について理解できています。										
<b>[到達目標]</b>										
学習到達目標（このコース終了時までに習得が期待できる いくつかの質的研究方法を理解する 自分のリサーチクエスチョンにあった研究方法を選択できる 障害学について理解できる										
<b>[授業計画と内容]</b>										
1 10/6 イントロダクション										
2 10/13 Steps for coding and theorization (SCAT) 演習 1										
3 10/20 SCA 演習 2										
4 10/27 SCAT発表 3										
5 11/10 SCAT発表										
6 11/17インタビュー分析演習 1										
7 11/24インタビュー分析演習 2										
8 12/1/19インタビュー分析演習 3										
9 12/20計量テキスト分析 演習 1 (舟木友美氏 摂南大学)										
10 12/15計量テキスト分析 演習 2 (舟木友美氏 摂南大学)										
11 12/22計量テキスト分析 演習 3 (舟木友美氏 摂南大学)										
12 1/5学生発表 1										
13 1/12学生発表 2										
14 1/19インタビュー分析 発表										
15 1/26 計量テキスト分析 発表										
----- 医学コミュニケーション演習(2)へ続く↓↓ -----										

医学コミュニケーション演習(2)										
<b>[履修要件]</b>										
特になし										
<b>[成績評価の方法・観点]</b>										
1. 平常点（授業参加、授業態度を含む）30%										
2. レポート 50%										
タイトル（20%）+ 最終レポート（30%）										
3. 研究計画発表 20%										
<b>[教科書]</b>										
プリントを配布する										
<b>[参考書等]</b>										
(参考書)										
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b>										
レポートは研究計画書の作成です										
<b>(その他（オフィスアワー等）)</b>										
医学「コミュニケーション」のクラスなので、課題テーマを決める際、「関係性、心理、つながり、コミュニティ、コミュニケーション、社会」などのキーワードが入ることが望ましい。										
医療・医学への社会科学的アプローチに興味のある学生向け。										
障害があり、授業あるいは課題への取り組みに配慮（Accommodation）が必要な場合、早めに相談に来ること。										
講師の都合や受講人数で、日程や内容が変更になることがある。										
実習を重視しているため、受講人数は20名程度が望ましい。										
人間健康科学系専攻学生の受講可否： 5名まで可										
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。										

科目ナンバリング P-PUB01 8H132 LB90								
授業科目名 エビデンスユーザ入門 <英訳> Introduction to EBM: How to use evidence in your daily life			担当者所属・職名・氏名	医学研究科 教授 古川 壽亮				
配当年	専門職	単位数	2	開講年度・開講期	2020・通年不定	曜時限	引・下 講義	授業形態
<b>[授業の概要・目的]</b>								
Evidence-Based Medicine (EBM: 根拠に基づく医療)の言葉は、今やすっかり人口に膚浅し、アンケート調査をやる人はアンケートで出てきた数字をエビデンスと呼び、画像研究をやる人はその数値をエビデンスと呼び、分子生物学をやる人はその結果をエビデンスと呼ぶ時代となりました。個々の患者の医療判断において、また集団の医療施設判断において、その根柢となるべきエビデンスとは、どういう性質のものを使うのか、どうすればそれを探すことが出来るのか、ない場合にはどうするのか、など、エビデンスユーザーとして必要な教養を身につけていただくコースにしたいと考えています。								
そして、エビデンスユーザーの腕を磨かれた後、その次には、エビデンスマーカーとして何をすべきかも自ずと明らかになって行くことを期待しています。								
なお、KUSPHにはさまざまなパックグラウンドと興味関心の方が集っておられます。EBMの方法論は、すべての対人実践に共通であると信じています。代替医療、教育、経済施策、環境施策などなど、各人の興味関心のテーマについてKUSPH卒業生が今後EBMを実践する一助にして頂ければ開講者として本望です。								
<b>[到達目標]</b>								
1.診断、治療（介入）、予後、系統的レビューの各テーマについて、標準的な批判的吟味のチェックポイントを習得する 2.各領域において自分の臨床疑問について、疑問の定式化、情報検索、情報の批判的吟味、批判的吟味の結果の実地応用の4ステップを実施したレポートを提出する								
<b>[授業計画と内容]</b>								
講義は以下の手順で進行します。 1.診断、治療（介入）、予後、系統的レビューについて、教科書を指定しますので、批判的吟味のチェックポイントを習得する 2.各領域において自分の臨床疑問について、疑問の定式化、情報検索、情報の批判的吟味、批判的吟味の結果の実地応用の4ステップを実施したレポートを提出する								
3.上記のプロセスを学習した後、各個人は今度は自分の臨床疑問について実践の例をレポートしていただきます。 自学自習に相当の時間を要すると思われますので、受講者はその覚悟で科目を選択されていることを期待します。そして、授業は原則隔週で行います（月曜日1限・2限、G棟2階セミナー室B、開講日注意：11月11日および12月23日のみ1限から始めます）。								
回 月日 テーマ 担当者								
1. 月20日2限	EBMのスピリット 古川							
2. 月11日2限	治療（介入）の批判的吟味のチェックポイント 学生グループ①							
3. 月25日2限	その実践例（1） グループ発表②③							
エビデンスユーザ入門(2)へ続く↓↓↓								

エビデンスユーザ入門(2)								
4. 月8日2限 その実践例（2） ④①								
5. 月6日2限 診断の批判的吟味のチェックポイント 学生グループ②								
6. 月20日2限 その実践例（1） グループ発表③④								
7. *月3日2限 その実践例（2） ①② 【この日だけ演習室です】								
8. *月28日1限 予後の批判的吟味のチェックポイント 学生グループ③								
9. 月19日2限 その実践例（1） グループ発表④①								
10. *1月2日1限 その実践例（2） ②③								
11. *1月16日1限 系統的レビューの批判的吟味のチェックポイント 学生グループ④								
12. 月16日2限 ネットワークメタアナリシスの批判的吟味のチェックポイント 古川								
13. 月7日2限 その実践例（1） グループ発表①②								
14. 月21日2限 その実践例（2） グループ発表③④								
15. *月18日1限 予備日								
16. 月18日2限 予備日								
*開講場所、または開講時間に注意								
<b>[履修要件]</b>								
MPH選択「文献検索法」「文献評価法」の履修をお勧めします。								
<b>[成績評価の方法・観点]</b>								
授業への参加度(40%) 診断、治療（介入）、予後、系統的レビューについて、自分の興味関心の臨床疑問について提出した計4本のレポート(60%)								
<b>[教科書]</b>								
Gordon Guyatt 他『Users' Guides to the Medical Literature: Essentials of Evidence-Based Clinical Practice, 3rd Edition』(McGraw-Hill Professional) (ここに含まれる章を教科書として指定しますが、これらは下記Manualに全て含まれていますので、下記Manualを購入された方はそちらを利用下さい)								
<b>[参考書等]</b>								
(参考書) Gordon Guyatt 他『Users' Guides to the Medical Literature: A Manual for Evidence-Based Clinical Practice, 3rd Edition』(McGraw-Hill Professional) 相原守夫訳『医学文献ユーザーズガイド：根拠に基づく診療のマニュアル』(中外医学社) (上記Manualの日本語訳です) 古川壽亮『エビデンス精神医療』(医学書院)								
<b>(関連URL)</b>								
http://ebmh.med.kyoto-u.ac.jp/toolbox.html(健康増進・行動学分野ホームページのEBM Toolboxもご利用ください)								
エビデンスユーザ入門(3)へ続く↓↓↓								

科 目ナンバリング								
授業科目名 質的研究入門 <英訳> Introduction to Qualitative Research			担当者所属・職名・氏名	医学研究科 教授 中山 健夫 医学研究科 特定助教 河野 文子				
配当年	専門職	単位数	1	開講年度・開講期	2020・前期集中	曜時限	水曜 1限	授業形態 講義 使用言語 日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b>								
質的研究法の基礎について概説し、様々な分析手法について講義する。								
<b>[到達目標]</b>								
質的研究の方法論の基礎的事項について述べることができる。 質的研究の主要な方法論を理解し、質的研究を批判的に解釈できるようになること。 質的研究の専門家の指導を受けながら、質的研究を実施する事ができる様になること。								
<b>[授業計画と内容]</b>								
第1回 6月17日 質的研究とは何か? 質的研究の哲学（認識論＆存在論）								
第2回 6月24日 質的研究の方法論（テーマ分析、エスノグラフィー、現象学、グラウンデッドセオリー）と理論的役割								
第3回 7月 1日 質的研究の計画とデザイン（質的研究におけるリサーチクエスチョンの立て方） 研究計画書の書き方								
第4回 7月 8日 インタビュー、フォーカスグループ、新たな分析手法								
第5回 7月15日 データの分析方法（コーディング、CAQDASソフトウェアの使用）								
第6回 7月22日 質的研究における厳密性と倫理 質的研究の評価・妥当性								
第7回 7月29日 混合研究の基礎								
第8回 8月 5日 質的研究の統合 新たな質的研究の方法（フォトボイス、参加型アクションリサーチ、等） 質的研究の結果の論文執筆とコミュニケーション方法								
<b>[履修要件]</b>								
社会健康医学系専攻の院生 医科学専攻、医学博士課程の受講希望者は事前に必ずメールで連絡してください 受講者は単位不要でも必ず講義への出席およびレポートを提出してください								
<b>[成績評価の方法・観点]</b>								
1. レポート(配点比重50%) 2. 日々の講義へのコミットメント(配点比重50%)								
質的研究入門(2)へ続く↓↓↓								

質的研究入門(2)
<b>[教科書]</b> 適宜、資料を講義にて配布する
<b>[参考書等]</b> (参考書) Liamputtong P. Qualitative research methods. Fifth edition. Melbourne: Oxford university press; 2020. Liamputtong P. Research methods in health: foundations for evidence-based practice. 3rd edition. 2017
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b> 予習は特に必要でないが、講義の復習には十分時間をあててください。
<b>(その他（オフィスアワー等）)</b> 第8回（8月5日）の講義はG棟3階演習室となります。ご注意ください。  人間健康科学系専攻学生の受講可否：上限5人まで可能  ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング										
授業科目名	環境・感染症論 <英訳> Environment and Infection						担当者所属・職名・氏名	東南アジア地域研究所 教授 山崎 渉		
配当年	専門職	単位数	2	開講年度・開講期	2020・後期	曜時限	金1	授業形態	講義	使用言語
【授業の概要・目的】										
教員による講義および受講生による発表とそれに基づくグループディスカッションを通して、感染症の発生・伝播に影響を与える要因を理解する。特に環境中の様々な要因、あるいはそれらの相互作用およびその他の要因との関連性の理解を図る。感染症が引き起こす社会変容・歴史的な影響についても理解を深める。										
<b>[到達目標]</b> 感染症を生態学的視点から捉えるために、病原体の生息する自然環境、ヒトの作り出す人為的環境、感染を受けるヒトの抵抗性などの様々な要因を総合的に解析し、理解する能力を修得する。										
<b>[授業計画と内容]</b> 第1回～第9回は講義、第10回～第14回はセミナー形式のレポート報告会、第15回は総合演習になる見込みである。										
第1回 感染症学習に必要な背景要因（講義） 第2回 水と健康（講義） 第3回 地球環境問題（講義） 第4回 食品衛生（講義） 第5回 人獣共通感染症（講義） 第6回 動物感染症・動物福祉（講義） 第7回 先進国で問題になっている感染症（講義） 第8回 新興国における開発と感染症の関係（講義） 第9回 感染症の分子疫学解析（講義） 第10回 特定の感染症の発生・伝播に影響する要因の解析I（ゼミ） 第11回 特定の感染症の発生・伝播に影響する要因の解析II（ゼミ） 第12回 特定の感染症の発生・伝播に影響する要因の解析III（ゼミ） 第13回 特定の感染症の発生・伝播に影響する要因の解析IV（ゼミ） 第14回 特定の感染症の発生・伝播に影響する要因の解析V（ゼミ） 第15回 総合演習（フィードバック）										
<b>[履修要件]</b> 特になし										
<b>[成績評価の方法・観点]</b> <b>【評価方法】</b> 成績評価は出席姿勢（配分30%）、受講生によるレポート発表（成績評価配分50%）とそれに基づくグループディスカッション（成績評価配分20%）における理解度、積極性、洞察力、意思表現の能力をもとに判定する。										
環境・感染症論 (2)へ続く↓↓↓										

環境・感染症論 (2)
レポート発表のない受講生は未受験扱いとし、成績は無とする。
<b>【評価基準】</b> 100点満点中、60点以上となること（60点以上：合格 59点以下：不合格）。
<b>[教科書]</b> 教科書は使用しない。講義の内容の理解を補助する資料として、講義の骨子をまとめたプリントおよび学術論文の写し等を必要に応じて配布する。
<b>[参考書等]</b> (参考書) 授業中に紹介する
<b>(関連URL)</b> <a href="https://kyoto.cseas.kyoto-u.ac.jp/organization/staff-2/yamazaki-wataru/">https://kyoto.cseas.kyoto-u.ac.jp/organization/staff-2/yamazaki-wataru/</a> (京都大学 東南アジア地域研究研究所) <a href="http://sph.med.kyoto-u.ac.jp/field/class-16/">http://sph.med.kyoto-u.ac.jp/field/class-16/</a> (京都大学 大学院医学研究科 社会健康医学系専攻 環境生化学)
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b> 配布資料、紹介図書等を活用した予習・復習を推奨する。
<b>(その他（オフィスアワー等）)</b> 連絡先 〒606-8501 京都市左京区吉田下阿達町46 京都大学東南アジア地域研究研究所 本館2階1221号室 山崎 渉 Tel: オフィス (075) 753-9618, ラボ (075) 761-2700 Fax: (075) 761-2701 Email: yamazaki@cseas.kyoto-u.ac.jp  ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング										
授業科目名	行動経済学と健康医療介護 <英訳> Behavioral Economics in Health and Care						担当者所属・職名・氏名	医学研究科 教授 今中 雄一		
配当年	専門職	単位数	1	開講年度・開講期	2020・前期集中	曜時限	水・3	授業形態	講義	使用言語
【授業の概要・目的】										
健康・医療・介護の領域における、行動経済学の応用について、理論と実践事例を学ぶ。										
<b>[到達目標]</b> 健康・医療・介護の諸課題の解決に向けて、行動経済学の応用を検討できるようになる。										
<b>[授業計画と内容]</b> ・理論を学ぶ ・国内外の実践事例を学ぶ ・研究事例を学ぶ ・応用の計画を自ら考える										
第1回 4/17 行動経済学の健康医療介護：概論1（今中） 第2回 4/24 行動経済学の健康医療介護：概論2（今中） 第3回 4/31 行動経済学の理論と健康関連領域への応用（後藤勲先生／慶應大学） 第4回 ※5/3(金) 行動経済学の実社会への応用（佐々木周作先生／東北大学） 第5回 4/8 行動経済学のフィールド実験：ナッジとインセンティブの効果（石原卓典先生／京大経済学研究科） 第6回 4/15 行動経済学の健康医療介護：事例編1（医療経済学分野教員陣） 第7回 4/22 行動経済学の健康医療介護：事例編2、まとめ（同上） (7月29日は予備日)										
※ 第4回は7/3金曜6限 セミナー室[B]で行う										
<b>[履修要件]</b> 原則、出席80%以上を前提とする										
<b>[成績評価の方法・観点]</b> 講義へのコミットメント（40%） レポート（60%）										
<b>[教科書]</b> 授業中に指示する										
<b>[参考書等]</b> (参考書) 授業中に紹介する										
行動経済学と健康医療介護(2)へ続く↓↓↓										

行動経済学と健康医療介護(2)
-----
【授業外学修（予習・復習）等】 初回に説明する
(その他（オフィスアワー等）) ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	P-PUB01 8H135 LJ90										
授業科目名 <英訳> Statistical Methods in Clinical Trials	担当者所属・ 職名・氏名 医学研究科 教授 佐藤 俊哉 医学研究科 特定助教 今井 徹										
配当 学年	専門職	単位数	1	開講年度・ 開講期	2020・ 後期集中	曜時限	水5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
第II相・第III相臨床試験デザインの理解とサンプルサイズ計算の習得を目標に、講義・実習を行う。 第1回の前に講義動画・課題などを配信するので、それを用いて予習・復習すること。前期科目「臨床試験」、「統計的推測の基礎」、「統計モデルとその応用」程度の臨床試験・統計学の知識を前提とする。CB必修、MPH選択。											
【到達目標】 ・第II相・第III相臨床試験におけるサンプルサイズの計算を習得する。 ・試験デザインにおける頻度論・ベイズ流統計学の考え方の違いを理解する。											
【授業計画と内容】 ・教室は、G棟セミナー室Bで行う ・事前学習+講義形式、実習形式 ・事前学習はオンライン学習環境KoALAを利用 ( <a href="https://koala.higchedu.kyoto-u.ac.jp">https://koala.higchedu.kyoto-u.ac.jp</a> ) ・第1~4回の実習ではサンプルサイズの計算を行なうが、ソフトウェアの知識は前提としない。第6~7回では臨床試験の論文を読み、結果を解釈する。 ・実習のチーフナーは、臨床統計スタッフが行う。  第1回10月7日 サンプルサイズ設計1 連続データ（田中、今井、相田） 第2回10月14日 サンプルサイズ設計2 2値データ（田中、今井、相田） 第3回10月21日 サンプルサイズ設計3 生存時間データ（田中、今井、相田） 第4回10月28日 サンプルサイズ設計4 第II相臨床試験・ベイズ流統計学（田中、今井、相田） 第5回11月4日 臨床試験の結果の解釈（発表） 第6回11月11日 臨床試験の結果の解釈（発表） 第7回11月20日 予備日											
【履修要件】 前期科目「臨床試験」、「統計的推測の基礎」、「統計モデルとその応用」を履修済みであること											
【成績評価の方法・観点】 平常点（50%）、レポート（50%）											
----- 臨床試験の統計的方法(2)へ続く ↓↓↓											

臨床試験の統計的方法(2)
-----
【教科書】 Machin D, Campbell MJ, Tan SB, Tan SH.『Sample Sizes for Clinical, Laboratory and Epidemiology Studies, 4th Edition』(John Wiley & Sons) 教科書の入手については第1回でアナウンスする。
【参考書等】 (参考書)
【授業外学修（予習・復習）等】 第1回の前に配信する講義動画・課題などを用いて、予習・復習を行う。詳細はメール等でアナウンスする。
(その他（オフィスアワー等）) 人間健康科学系専攻学生の受講可否： 不可 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	P-PUB01 8H063 FB90										
授業科目名 <英訳> Fieldwork	担当者所属・ 職名・氏名 医学研究科 准教授 田原 康玄 医学研究科 教授 松田 文彦										
配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 通年集中	曜時限	壁帳・フィールドワーク	授業 形態	実習	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】 社会医学的な課題の解明に必要な精度の高い1次データをいかに収集するか、対象者や関係団体・自治体等との連携体制の構築も含めてその方法を体系的に修得することは、疫学を学ぶ上で基本となる学識になる。そこで本授業では、医学研究科が取り組むコホート研究（ながはまコホート）に実際に参加し、フィールドワークや地域保健の現状と課題とを実践的に学ぶ。 ながはまコホートは、最先端の医学研究と地域住民の健康づくりを目標に、京都大学医学研究科と滋賀県長浜市とが連携して実施する「0次予防健康づくり推進事業」の一環として行なうものであり、市民1万余名を対象としている。当該コホートでは5年を1事業期と定め、2007年からのペースライン調査で1万人をリクルートし、続く2012年からのフォローアップ調査で、同じ1万人の再調査を行った。本事業では、2017年からスタートした第3期事業（2回目のフォローアップ調査）に参加する。 具体的には、この授業は特定健診を兼ねた現地調査（0次健診）への参加と、その後の研修で構成される。前者については、実際に0次健診に参加し、生活習慣や病歴等に関する質問調査や各種生理学的検査を通して、フィールドでのデータ収集の実際を学ぶ。併せて、地域保健の現状や問題点について、最前線で取り組んでいる自治体の担当保健師から実情を学ぶ。0次健診を始め、事業の全ては市民団体の多くなる支援を受けて実施しており、健康づくりに関する一連の市民活動についても学ぶことで、市民の視点に立った地域保健についても学習する。2020年度の0次健診は、9～2月にかけて16日程度予定されており、履修者は5～6日間程度の参加が要件となる。 ながはまコホートは、医学研究科が総力を挙げ取り組むコホート研究であり、本専攻においても、社会健康医学の基盤であるフィールド研究を実際に学ぶ場として、大学院生に履修を強く推奨している。											
【到達目標】 ・地域における疫学研究の実際を学ぶ。 ・地方自治体が行っている地域保健について学ぶ。 ・地域の関係者（研究協力者、自治体、市民団体）とのコミュニケーションを通して、信頼できる情報を得るための方法、個人情報保護、長期にわたる信頼関係の在り方を学ぶ。											
【授業計画と内容】 第1回 4月第1週 オリエンテーション 第2回 別途指定 フィールドワーク作業の説明 第3-14回 各自指定 フィールドワーク（0次健診への参加） 第15回 別途指定 総括・ディスカッション  ----- フィールドワーク(2)へ続く ↗↑↑											

<b>フィールドワーク(2)</b>
<b>[履修要件]</b> 一般市民を対象とした調査研究に参加するため、日本語でのコミュニケーションが可能であること
<b>[成績評価の方法・観点]</b> 講義、実習への積極的な参加（90%）およびレポート（10%）
<b>[教科書]</b> 使用しない なし
<b>[参考書等]</b> (参考書) なし
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b> フィールド（滋賀県長浜市）で実際の健診活動に携わることを中心とする。予習は特に必要ないが実習に基づくレポートを復習と位置付ける。
<b>(その他（オフィスアワー等）)</b> ・第1回、第2回は必ず出席してください。（欠席の場合は要事前連絡） ・0次健診への参加日は、各自のスケジュールを調整のうえ個別に指定します。  人間健康科学系専攻学生の受講可否：可 若干名（希望者は事前に連絡してください） 総合生存学館の学生の受講可否：可 若干名（希望者は事前に連絡してください）  ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科⽬ナンバリング P-PUB01 8H061 PB90							
授業科目名 <英訳> 社会健康医学課外実習 Field Training for Public Health Practice	担当者所属・ 職名・氏名 医学研究科 教授 小杉 真司						
配当年 専門職	単位数 2	開講年度・ 開講期 2020・ 通年集中	曜時限	集中講義	授業形態	実習	使用言語 日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b>							
I. コースの概要 ・就業体験を通じて、学んだ専門知識等を活かし、応用力を高める。 ・キャリアデザインの具体化につなげる機会とする。 ・所属分野の指導教員と、場合によっては、加えて他分野の主担当教員とも、十分に相談の上、履修届を出してください。 (計画未確定のままに急いで、学年初め・学期初めに履修届を出す必要はありません。)							
II. 学習到達目標（このコース終了時までに習得が期待できること） ・社会の現場で必要な技能の向上を図る。 ・大学院で得た知識・技能を、いかにして実務に役立たせるかを確認する。 ・志望する就業の現場での雰囲気や必要な技能を知る。 ・実務を通じて、社会貢献をする。							
III. 教育・学習方法 ・就業体験を通じて、学んだ専門知識等を活かし、応用力を高める。							
<b>[到達目標]</b> 学習到達目標（このコース終了時までに習得が期待できること） ・社会の現場で必要な技能の向上を図る。 ・大学院で得た知識・技能を、いかにして実務に役立たせるかを確認する。 ・志望する就業の現場での雰囲気や必要な技能を知る。 ・実務を通じて、社会貢献をする。							
<b>[授業計画と内容]</b> 所属分野の指導教員等と、十分に相談の上、インターンシップの計画を立ててください。							
<b>[履修要件]</b> KULASISでの履修登録はできません。履修する場合は、窓口に申し出てください。							
----- 社会健康医学課外実習(2)へ続く↓↓							

<b>社会健康医学課外実習(2)</b>
<b>[成績評価の方法・観点]</b> ・終了後速やかに報告書・レポート（報告書の様式は教務掛を通じて入手すること）を作成し、かつ、インターン先の責任者と指導教員の確認を得ること。 ・合否のみ、判定する。
<b>[教科書]</b> ・諸々の学習資源は、就業体験を通じて得られる。
<b>[参考書等]</b> (参考書) ・諸々の学習資源は、就業体験を通じて得られる。
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b> 適宜予習復習を求める
<b>(その他（オフィスアワー等）)</b> その他メッセージ ・他の履修科目の日程と重複しないように計画してください。重複した場合、インターンシップを優先するわけではありません。必要な際は、該当する科目責任者に相談してください。 ・履修登録（単位取得）せずに、インターンシップを行ってもかまいません。 ・実質的な業務が計60時間以上で2単位。 計30時間以上で1単位とします。 ・上記の時間の目安と、就業体験の内容と質を、主担当教員（指導教員等）が評価し、合否と単位数（1単位か2単位）を判定します。 ・報告書の様式（教務掛で受取ること）を主担当教員（指導教員等）に提出し、履修届けを同時に行ってください。  ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科⽬ナンバリング P-PUB01 8H082 LB90							
授業科目名 <英訳> 医療経営特別カリキュラム I Healthcare management Special Curriculum I	担当者所属・ 職名・氏名 医学研究科 特定准教授 佐々木 典子 医学研究科 准教授 國澤 遼 医学研究科 特定講師 大坪 徹也						
配当年 専門職	単位数 2	開講年度・ 開講期 2020・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	実習	使用言語 日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b>							
急速に変遷する医療制度の中で経営環境は困難化し、経営の力の差がますます大きくなるを言う今日、医療の質・安全性を高めながら堅実に経営を向上させることのできる専門性高く実力のある医療経営者が強く求められている。 当コースは、「医療経営ヤングリーダー・プログラム」（1学年約2名まで）に限定した科目であり、その院生には必修である。当コースは、社会健康医学系専攻修士課程専門職大学院の一環として提供され、同様の要件を満たさなければならない。面接、審査の上、若手医師ならびに経営の素養のある若手を対象に開講する。 座学にとどまらず、例えば、プロジェクト形式で、経営実例に直結する調査、分析、活動などを進める。自らの情報収集、分析、環境適応、創造の能力をたかめるべく訓練を行う。							
<b>[到達目標]</b> 現実の医療経営に大いに貢献できる人材の基礎作りを行い、医療機関の将来の経営幹部、そして我が国の医療経営界において将来に主導的役割を担う人材の養成をめざす。							
<b>[授業計画と内容]</b> 当コースは高度専門職である経営幹部候補生およびこの領域の将来のリーダーを育成するためのプログラムである。  財務、会計、経営分析、市場分析、組織論・組織行動、組織文化の把握、質保証・業務改善、情報システム、法と倫理、関連ビジネス、政策・制度などについて学び、経営実力者の人格と出会い、現場に身を置いて、インターンシップ、実習、演習、調査等を行う。既存の教材や教育方法を学びながら、新たな教材や教育方法の創造に参加する。  例えば、プロジェクト形式で以下のようなことも行う。 ○病院経営の実態に関する調査の実施と分析、改善策の立案 ○経営の取材、関係情報収集の実務 ○経営事例研究 ○診療園・潜在市場に関するデータ収集と分析 ○診療情報、診療報酬、医療費・原価に関する分析 ○経営関連指標の多施設間比較 ○病院経営の支援ニーズの把握と実現 ○プロジェクトのマネジメント、など。							
----- 医療経営特別カリキュラム I (2)へ続く↓↓							

医療経営特別カリキュラム I (2)	
これらを通じて、現実の医療経営に大いに貢献できる人材の基盤作りを行い、医療機関の将来の経営幹部、そして我が国の医療経営界において、将来に主導的役割を担う人材の養成をめざす。	
プロジェクト遂行型学習、問題解決型実習、小グループ演習	
教室：医療経済学教室ほか	
<b>[履修要件]</b> 医療経営ヤングリーダー・プログラム限定必修	
<b>[成績評価の方法・観点]</b> 1) プロジェクト成果、研究成果 2) コースワークへのコミットメント	
<b>[教科書]</b> 資料は適宜配布する。	
<b>[参考書等]</b> (参考書)	
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b> 授業中に指示する場合があるが、自発的かつ積極的な取り組みを期待する。	
<b>(その他（オフィスアワー等）)</b> 人間健康科学系専攻学生の受講可否： 否 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

科目ナンバリング		P-PUB01 8H083 LB90					
授業科目名 <英訳>	医療経営特別カリキュラム II Healthcare management Special Curriculum II				担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 今中 雄一 医学研究科 特定准教授 佐々木 典子 医学研究科 准教授 國澤 進 医学研究科 特定講師 大坪 徹也	
配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 後期集中	曜時限	集中講義
							授業形態 実習 使用言語 日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b> 急速に変遷する医療制度の中で経営環境は困難化し、経営の力の差がますます大きくなるを言う今日、医療の質・安全性を高めながら堅実に経営を向上させることのできる専門性高く実力のある医療経営者が強く求められている。							
当コースは、「医療経営ヤングリーダー・プログラム」（1学年約2名まで）に限定した科目であり、その院生には必修である。当コースは、社会健康医学系専攻修士課程専門職大学院の一環として提供され、同様の要件を満たさなければならない。面接、審査の上、若手医師ならびに経営の素養のある若手を対象に開講する。							
座学にとどまらず、例えば、プロジェクト形式で、経営実例に直結する調査、分析、活動などを進める。自らの情報収集、分析、環境適応、創造の能力をたかめるべく訓練を行う。							
<b>[到達目標]</b> 現実の医療経営に大いに貢献できる人材の基盤作りを行い、医療機関の将来の経営幹部、そして我が国の医療経営界において将来に主導的役割を担う人材の養成をめざす。							
<b>[授業計画と内容]</b> 当コースは高度専門職である経営幹部候補生およびこの領域の将来のリーダーを育成するためのプログラムである。 財務、会計、経営分析、市場分析、組織論・組織行動、組織文化の把握、質保証・業務改善、情報システム、法と倫理、関連ビジネス、政策・制度などについて学び、経営実力者の人格と出会い、現場に身を置いて、インターンシップ、実習、演習、調査等を行う。既存の教材や教育方法を学びながら、新たな教材や教育方法の創造に参加する。							
例えば、プロジェクト形式で以下のようなことを行う。 ○病院経営の実態に関する調査の実施と分析、改善策の立案 ○経営の取扱、関係情報収集の実務 ○経営事例研究 ○診療圏・潜在市場に関するデータ収集と分析 ○診療情報、診療報酬、医療費・原価に関する分析 ○経営開拓指標の多施設間比較 ○病院経営の支援ニーズの把握と実現 ○プロジェクトのマネジメント、など。							
これらを通じて、現実の医療経営に大いに貢献できる人材の基盤作りを行い、医療機関の将来の経営幹部、そして我が国の医療経営界において将来に主導的役割を担う人材の養成をめざす。							
----- 医療経営特別カリキュラム II(2)へ続く↓↓							

医療経営特別カリキュラム II(2)	
宮幹部、そして我が国の医療経営界において、将来に主導的役割を担う人材の養成をめざす。	
プロジェクト遂行型学習、問題解決型実習、小グループ演習	
教室：医療経済学教室ほか	
<b>[履修要件]</b> 医療経営ヤングリーダー・プログラム限定必修	
<b>[成績評価の方法・観点]</b> 1) プロジェクト成果、研究成果 2) コースワークへのコミットメント	
<b>[教科書]</b> 資料は適宜配布する。	
<b>[参考書等]</b> (参考書)	
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b> 授業中に指示する場合があるが、自発的かつ積極的な取り組みを期待する。	
<b>(その他（オフィスアワー等）)</b> 人間健康科学系専攻学生の受講可否： 否 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

科目ナンバリング		P-PUB01 8H053 LB90					
授業科目名 <英訳>	医療経営ケーススタディ Case Studies in Healthcare Management				担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 今中 雄一 医学研究科 特定准教授 佐々木 典子 医学研究科 准教授 國澤 進 医学研究科 特定講師 大坪 徹也	
配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 通年集中	曜時限	集中講義 演習 使用言語 日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b> 急速に変遷する医療制度の中で経営環境は困難化し、経営の力の差がますます大きくなるを言う今日、医療の質・安全性を高めながら堅実に経営を向上させることのできる専門性高く実力のある医療経営者が強く求められている。							
当コースは、社会健康医学系専攻修士課程専門職大学院の一環として提供される中において『医療経営ヤングリーダー・プログラム』に限定した科目であり、そのプログラム上、必修である。面接、審査の上、経営の素養のある人材を対象に開講する。							
ケーススタディに加えて、プロジェクト形式で、経営実例に直結する調査、分析、活動などを進める。これらを通じて、自らの情報収集、分析、妥当な計画立案、環境適応、創造の能力、行動力を高めるべく訓練を行う。							
<b>[到達目標]</b> 現実の医療経営に大いに貢献できる人材の基盤作りを行い、医療機関の将来の経営幹部、そして我が国の医療経営界において将来に主導的役割を担う人材の養成をめざす。							
<b>[授業計画と内容]</b> 『医療経営ヤングリーダー・コース』は高度専門職である医療経営幹部候補生およびこの領域の将来のリーダーを育成するためのプログラムであり、財務、会計、経営分析、市場分析、組織論・組織行動、組織文化の把握、質保証・業務改善、情報システム、法と倫理、関連ビジネス、政策・制度などについて学び、新たな教材や教育方法の創造にも参加し、経営実力者の人格と出会い、現場に身を置いて演習、調査、ケーススタディ等を行う。							
当ケーススタディ・コースでは、以下の課題（例）を扱う。 ○診療圏分析と病院機能の設計 ○新病院組織の立ち上げ ○病院の建替えと健全財務 ○資金調達 ○人事制度改革 ○経営戦略立案 ○原価計算の導入と活用 ○BSCの導入 ○電子カルテ導入と業務プロセスの見直し・改善 ○組織変革のリーダーシップ ○地域レベル医療経営の見直しと改革							
----- 医療経営ケーススタディ(2)へ続く↓↓							





## 臨床研究者養成(MCR)コース

科目ナンバリング P-PUB01 8K026 LB90								
授業科目名 <英訳>	臨床研究計画法 I Seminar in Study Design I				担当者所属・職名・氏名			
	医学研究科 教授 川上 浩司 医学研究科 教授 中山 健夫 医学研究科 准教授 高橋 由光 環境安全保障機構 教授 石見 拓 環境安全保障機構 助教 岡林 里枝 環境安全保障機構 助教 松崎 康一 医学研究科 教授 今中 雄一 医学研究科 教授 古川 寿亮 医学研究科 特定講師 小川 雄右 医学研究科 准教授 渡辺 範雄 医学研究科 特定准教授 佐々木 典子 医学研究科 准教授 竹内 正人 環境安全保障機構 助教 小林 大介 医学研究科 准教授 山本 洋介 環境安全保障機構 准教授 阪上 優							
配当年	専門職	単位数	I	開講年度・開講期	2020・前期	曜時限	月5	授業形態 講義 使用言語 日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b> (本講義の通称：プロマネ) 1. 講義 ・MCR修了者が行ってきた臨床研究を素材として、 ①プロトコール作成と研究の運営において必要な手法を学ぶ。 ②臨床研究プロトコールを作成および実施・運営する上で必要な実践的知識・技能を学ぶ。 ③臨床研究を実際に運営する際に必要な研究マネジメント方略に関する知識・技能を習得する。 2. プロトコール発表検討会 ・MCR担当教員とMCR専科生および受講生全員が、毎回参加することを原則とする。 ・個々の院生が、自身のリサーチ・クエスチョン（RQ）にもとづいた研究計画を発表し、院生や教員による形成的な検討・評価、フィードバックを通じて質の高い研究プロトコールを作成にむけて学習する。 ・院生はRQの背景や意義の説明を中心に発表する。スライドは英語で作成し、発表は日本語を可とする。ディスカッションは日本語とする。								
<b>[到達目標]</b> ・研究の目的に適合した臨床研究プロトコールを指導者からの助言を得て作成できる。 ・研究の目的に適合した研究のマネジメントの具体的方略を指導者からの助言を得て考案できる。 ・研究の方法や場に応じた研究運営上の留意点を指導者からの助言を得て認識できる。								
<b>[授業計画と内容]</b> 第1回 4月13日オリエンテーション（川上教授・全担当教員） 第2回 5月11日プロトコール発表検討会 第3回 5月18日プロトコール発表検討会 第4回 5月25日プロトコール発表検討会 第5回 6月 1日プロトコール発表検討会 ----- 臨床研究計画法 I (2)へ続く↓↓↓								

臨床研究計画法 I (2)								
第6回 6月 8日プロトコール発表検討会								
第7回 6月15日プロトコール発表検討会								
第8回 6月22日プロトコール発表検討会								
第9回 6月29日プロトコール発表検討会								
第10回 7月 6日プロトコール発表検討会								
第11回 7月13日プロトコール発表検討会								
第12回 7月20日プロトコール発表検討会								
第13回 7月27日プロトコール発表検討会								
第14回 8月 3日 プロトコール発表検討会(予備日)								
<b>[履修要件]</b> MCR限定必修科目								
<b>[成績評価の方法・観点]</b> ・講義への積極的な参加（30%） ・プロトコール発表（70%）								
<b>[教科書]</b> 使用しない オリエンテーション時、および演習時に必要文献を適宜指示する。								
<b>[参考書等]</b> (参考書) 授業中に紹介する								
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b> 教育・学習方法 ・課題作業（プロトコール作成を含む） ・学生によるプロトコール発表・出席者全員による検討。								
<b>(その他（オフィスアワー等）)</b> 専科生が研究課題発表会においてプロトコールの発表を行う場合には、研究課題レポートに加えてフルプロトコールの提出が必要である。フルプロトコールは、倫理委員会に提出できるレベルのものとし、より詳細な記載（実施手順等）、調査票や説明書・同意書等の添付をする。提出期限は2月上旬を予定。電子ファイルによりMCR事務局に送付する（詳細は追って指示する）。なお、課題研究発表会において解析結果まで発表する場合には、フルプロトコールの提出は不要。								
人間健康科学系専攻学生の受講可否： 不可								
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。								

科目ナンバリング P-PUB01 8K028 SB90								
授業科目名 <英訳>	臨床研究計画法演習 I Special Seminar in Study Design I				担当者所属・職名・氏名			
	医学研究科 准教授 山本 洋介 医学研究科 特定講師 小川 雄右 医学研究科 特定助教 関 知嗣	医学研究科 准教授 山本 洋介 医学研究科 特定講師 小川 雄右 医学研究科 特定助教 関 知嗣	医学研究科 准教授 山本 洋介 医学研究科 特定講師 小川 雄右 医学研究科 特定助教 関 知嗣	医学研究科 准教授 山本 洋介 医学研究科 特定講師 小川 雄右 医学研究科 特定助教 関 知嗣	医学研究科 准教授 山本 洋介 医学研究科 特定講師 小川 雄右 医学研究科 特定助教 関 知嗣	医学研究科 准教授 山本 洋介 医学研究科 特定講師 小川 雄右 医学研究科 特定助教 関 知嗣	医学研究科 准教授 山本 洋介 医学研究科 特定講師 小川 雄右 医学研究科 特定助教 関 知嗣	医学研究科 准教授 山本 洋介 医学研究科 特定講師 小川 雄右 医学研究科 特定助教 関 知嗣
配当年	専門職	単位数	I	開講年度・開講期	2020・前期	曜時限	木4	授業形態 演習 使用言語 日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b> (本講義の通称：プレプロマネ) ◆プロトコール発表検討会 ・MCR専科生および受講生全員が、毎回参加することを原則とする。 ・個々の院生が、自身のリサーチ・クエスチョン（RQ）にもとづいた研究計画を発表し、院生相互の意見交換を通じて質の高い研究プロトコールを作成にむけて学習する。 ・院生はRQの背景や意義の説明を中心に発表する。								
<b>[到達目標]</b> ・研究の目的に適合した臨床研究プロトコールを指導者からの助言を得て作成できる。 ・研究の目的に適合した研究のマネジメントの具体的方略を指導者からの助言を得て考案できる。 ・研究の方法や場に応じた研究運営上の留意点を指導者からの助言を得て認識できる。								
<b>[授業計画と内容]</b> 第1回 4月16日オリエンテーション 第2回 4月23日予備日 第3回 4月30日プロトコール発表検討会 第4回 5月 7日プロトコール発表検討会 第5回 5月14日プロトコール発表検討会 第6回 5月21日プロトコール発表検討会 第7回 5月28日プロトコール発表検討会 第8回 6月 4日プロトコール発表検討会 第9回 6月11日プロトコール発表検討会 第10回 6月25日プロトコール発表検討会 第11回 7月 2日プロトコール発表検討会 第12回 7月 9日プロトコール発表検討会 第13回 7月16日予備日								
<b>[履修要件]</b> MCR限定必修科目								
<b>[成績評価の方法・観点]</b> ・講義への積極的な参加（100%）								
<b>[教科書]</b> 使用しない オリエンテーション時、および演習時に必要文献を適宜指示する。								
----- 臨床研究計画法演習 I (2)へ続く↓↓↓								

臨床研究計画法演習 I (2)								
-----								
第1回 4月16日オリエンテーション 第2回 4月23日予備日 第3回 4月30日プロトコール発表検討会 第4回 5月 7日プロトコール発表検討会 第5回 5月14日プロトコール発表検討会 第6回 5月21日プロトコール発表検討会 第7回 5月28日プロトコール発表検討会 第8回 6月 4日プロトコール発表検討会 第9回 6月11日プロトコール発表検討会 第10回 6月25日プロトコール発表検討会 第11回 7月 2日プロトコール発表検討会 第12回 7月 9日プロトコール発表検討会 第13回 7月16日予備日								
<b>[参考書等]</b> (参考書) 授業中に紹介する								
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b> 教育・学習方法 ・課題作業（プロトコール作成を含む） ・学生によるプロトコール発表・出席者全員による検討。								
<b>(その他（オフィスアワー等）)</b> 人間健康科学系専攻学生の受講可否： 不可								
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。								

科目ナンバリング	P-PUB01 8K030 LB90																																		
授業科目名 <英訳>	医療技術の経済評価（MCR限定） Economic Evaluation of Medical Technologies			担当者所属・職名・氏名	医学研究科 教授 今中 雄一 医学研究科 特定准教授 佐々木 典子 医学研究科 准教授 国澤 進 医学研究科 特定講師 大坪 敏也																														
配当年	専門職	単位数	1	開講年度・開講期	2020・前期	曜时限	水4	授業形態	講義	使用言語	日本語及び英語																								
<b>[授業の概要・目的]</b>																																			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療技術における経済評価を支える理論・フレームワークについての講義を行い、医療技術・医薬品等の経済性評価のための主な手法を学習します。</li> <li>・医療技術の経済評価は、通常、現実的な制約の中で評価をすることになりますが、その際の研究のあり方についても学習します。</li> <li>・医療技術・医薬品等、臨床的な事例・テーマを中心に検討を行います。</li> </ul>																																			
<b>[到達目標]</b>																																			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療技術における経済評価を支える理論・フレームワークや研究方法等について、重要事項を説明できる。</li> <li>・医療技術の経済評価研究に関するバイアスについて理解している。</li> <li>・治療技術・薬剤・医療材料などに関する経済分析に用いられる主な手法として、費用分析・費用効果分析・費用効用分析・費用便益分析の違いやそれぞれの適応、費用算定・アウトカム測定・時間の概念・割引率・感度分析・増分費用効果比といった中心的な概念を理解して説明でき、分析結果の適切な解釈ができる。</li> <li>・上記を踏まえてこの領域の研究文献を批判的にレビューし、その意義を説明できる。研究プロトコールの作成や研究実施時に、習得した知識・技術を活用できる。</li> </ul>																																			
<b>[授業計画と内容]</b>																																			
<table border="1"> <tr><td>第1回</td><td>4月8日</td><td>医療技術の経済性評価（1）</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>4月15日</td><td>医療技術の経済性評価（2）</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>4月22日</td><td>医療経済評価研究の評価法</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>5月13日</td><td>経済評価のモデリング</td></tr> <tr><td>第5回</td><td>5月20日</td><td>費用効果/効用分析の方法論1</td></tr> <tr><td>第6回</td><td>5月27日</td><td>費用効果/効用分析の方法論2</td></tr> <tr><td>第7回</td><td>6月3日</td><td>医療技術の経済評価：論文レビュー&amp;討議1</td></tr> <tr><td>第8回</td><td>6月10日</td><td>医療技術の経済評価：論文レビュー&amp;討議2</td></tr> </table>												第1回	4月8日	医療技術の経済性評価（1）	第2回	4月15日	医療技術の経済性評価（2）	第3回	4月22日	医療経済評価研究の評価法	第4回	5月13日	経済評価のモデリング	第5回	5月20日	費用効果/効用分析の方法論1	第6回	5月27日	費用効果/効用分析の方法論2	第7回	6月3日	医療技術の経済評価：論文レビュー&討議1	第8回	6月10日	医療技術の経済評価：論文レビュー&討議2
第1回	4月8日	医療技術の経済性評価（1）																																	
第2回	4月15日	医療技術の経済性評価（2）																																	
第3回	4月22日	医療経済評価研究の評価法																																	
第4回	5月13日	経済評価のモデリング																																	
第5回	5月20日	費用効果/効用分析の方法論1																																	
第6回	5月27日	費用効果/効用分析の方法論2																																	
第7回	6月3日	医療技術の経済評価：論文レビュー&討議1																																	
第8回	6月10日	医療技術の経済評価：論文レビュー&討議2																																	
* 初回に予定を説明します。																																			
<b>[履修要件]</b>																																			
MCR限定必修 原則、出席80%以上を前提とする																																			
医療技術の経済評価（MCR限定）(2)へ続く↓↓																																			

医療技術の経済評価（MCR限定）(2)											
<b>[成績評価の方法・観点]</b>											
<p>講義・討論・グループワーク・発表におけるコミットメント（配分40%）、課題レポート・期末などのレポート（配分60%）により、総合的に評価する。</p>											
<b>[教科書]</b>											
適宜、資料を講義にて配布する											
<b>[参考書等]</b>											
<p>(参考書)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Drummond MF, et al. Methods for the Economic Evaluation of Health Care Programmes, 4th Ed. Oxford, 2015.</li> <li>Myriam Hunink. Decision Making in Health and Medicine: Integrating Evidence and Values. Cambridge, 2001.</li> <li>・医療制度・医療政策・医療経済（丸善出版,2013）</li> <li>・Handbook of Health Services Research (Springer Science+Business Media)</li> <li>・「NEW予防医学・公衆衛生学 改訂第4版」（編集:小泉昭夫/馬場園明/今中雄一/武林亨）南江堂, 2018.</li> </ul>											
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b>											
予習・復習は必要											
<b>(その他（オフィスアワー等）)</b>											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済学の学習経験は問いません。</li> <li>・当分野では医療の経済性、質・安全・原価の実証研究政策研究、医療の政策や経営に深く関わりたい人を募っています。（医療経済学分野：<a href="http://med-econ.umin.ac.jp">http://med-econ.umin.ac.jp</a>）</li> </ul>											
注)医療のプロセス、アウトカム等の質指標、診療のばらつき、医療の質の評価・改善、医療機能評価、医療の質・安全に係る制度・政策については、水曜3限「医療の質評価」（前期後半）（1単位）(MCR推奨選択・コア選択必修)を選択してください。											
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング	P-PUB01 8K027 LB90																									
授業科目名 <英訳>	臨床研究計画法 II Seminar in Study Design II			担当者所属・職名・氏名	医学研究科 教授 川上 浩司 医学研究科 教授 中山 健夫 医学研究科 准教授 高橋 由光 環境安全保障機構 教授 石見 拓 環境安全保障機構 助教 岡林 里枝 環境安全保障機構 助教 松崎 肇一 医学研究科 教授 今中 雄一 医学研究科 教授 古川 壽亮 医学研究科 特定准教授 小川 雄右 医学研究科 准教授 渡辺 篤雄 医学研究科 特定准教授 佐々木 典子 医学研究科 准教授 竹内 正人 環境安全保障機構 助教 小林 大介 医学研究科 准教授 山本 洋介 環境安全保障機構 准教授 阪上 優																					
配当年	専門職	単位数	1	開講年度・開講期	2020・後期	曜时限	月5	授業形態	講義	使用言語	日本語及び英語															
<b>[授業の概要・目的]</b>																										
(本講義の通称：プロマニII) 1. 講義 ・MCR修了者が行ってきた臨床研究を素材として、 ①プロトコール作成と研究の運営において必要な手法を学ぶ。 ②臨床研究プロトコールを作成および実施・運営する上で必要な実践的知識・技能を学ぶ。 ③臨床研究を実際に運営する際に必要な研究マネジメント方略に関する知識・技能を習得する。 2. プロトコール発表検討会 ・MCR担当教員とMCR専門生および受講生全員が、毎回参加することを原則とする。 ・個々の生が、自身のリサーチ・クエスチョン（RQ）にもどづいた研究計画を発表し、院生や教員による形成的な検討・評価、フィードバックを通じて質の高い研究プロトコールを作成にむけて学習する。 ・院生は英語でスライドを作成し、英語で発表する。ディスカッションは英語および日本語で行う。																										
<b>[到達目標]</b>																										
<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究の目的に適合した臨床研究プロトコールを作成できる。</li> <li>・研究の目的に適合した研究のマネジメントの具体的方略を考案できる。</li> <li>・研究の方法や場に応じた研究運営上の留意点を認識できる。</li> </ul>																										
<b>[授業計画と内容]</b>																										
<table border="1"> <tr><td>第1回</td><td>10月5日</td><td>プロトコール発表検討会</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>10月12日</td><td>プロトコール発表検討会</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>10月19日</td><td>プロトコール発表検討会</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>10月26日</td><td>プロトコール発表検討会</td></tr> <tr><td>第5回</td><td>11月9日</td><td>プロトコール発表検討会</td></tr> </table>												第1回	10月5日	プロトコール発表検討会	第2回	10月12日	プロトコール発表検討会	第3回	10月19日	プロトコール発表検討会	第4回	10月26日	プロトコール発表検討会	第5回	11月9日	プロトコール発表検討会
第1回	10月5日	プロトコール発表検討会																								
第2回	10月12日	プロトコール発表検討会																								
第3回	10月19日	プロトコール発表検討会																								
第4回	10月26日	プロトコール発表検討会																								
第5回	11月9日	プロトコール発表検討会																								
臨床研究計画法 II (2)へ続く↓↓																										

臨床研究計画法 II (2)											
<b>[履修要件]</b>											
MCR限定必修科目											
<b>[成績評価の方法・観点]</b>											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義への積極的な参加（30%）</li> <li>・プロトコル発表（70%）</li> </ul>											
<b>[教科書]</b>											
使用しない 臨床研究計画法IIのオリエンテーション時、および、演習時に必要文献を適宜指示する。											
<b>[参考書等]</b>											
<p>(参考書)</p> <p>授業中に紹介する</p>											
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b>											
教育・学習方法 ・課題作業（プロトコール作成を含む） ・学生によるプロトコール発表・出席者全員による検討。											
<b>(その他（オフィスアワー等）)</b>											
専門生が研究課題発表会においてプロトコールの発表を行う場合には、研究課題レポートに加えてフルプロトコールの提出が必要である。フルプロトコールは、倫理委員会に提出できるレベルのものとし、より詳細な記載（実施手順等）、調査票や説明書・同意書等の添付をする。提出期限は2月上旬を予定。電子ファイルによりMCR事務局に送付する（詳細は追って指示する）。なお、課題研究発表会において解析結果まで発表する場合には、フルプロトコールの提出は不要。											
人間健康科学系専攻学生の受講可否： 不可											
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング P-PUB01 8K029 SB90										
授業科目名 <英訳>	臨床研究計画法演習 I I Special Seminar in Study Design II			担当者所属・職名・氏名	医学研究科 準教授 山本 洋介 医学研究科 特定講師 小川 雄右 医学研究科 特定助教 関 知嗣					
配当年	専門職	単位数	I	開講年度・開講期	2020・後期	曜时限	月4	授業形態	演習	使用言語
<b>[授業の概要・目的]</b> (本講義の通称：ブレブロマネII) ◆プロトコール発表検討会 ・MCR専科生および受講生全員が、毎回参加することを原則とする。 ・個々の院生が、自身のリサーチ・クエスチョン（RQ）にもどづいた研究計画を発表し、院生相互の意見交換を通じて質の高い研究プロトコールを作成にむけて学習する。 ・院生は、研究実施に際しての問題点を明らかにする。結果が出ている場合は結果の解釈を明らかにする。										
<b>[到達目標]</b> ・研究の目的に適合した臨床研究プロトコールを作成できる。 ・研究の目的に適合した研究のマネジメントの具体的方略を考案できる。 ・研究の方法や場に応じた研究運営上の留意点を認識できる。										
<b>[授業計画と内容]</b> 第1回 9月28日 プロトコール発表検討会 第2回 10月 5日 プロトコール発表検討会 第3回 10月19日 プロトコール発表検討会 第4回 10月26日 プロトコール発表検討会 第5回 11月 9日 プロトコール発表検討会 第6回 11月16日 プロトコール発表検討会 第7回 11月30日 プロトコール発表検討会 第8回 12月 7日 プロトコール発表検討会 第9回 12月14日 プロトコール発表検討会 第10回 12月21日 予備日 第11回 1月 4日 予備日										
<b>[履修要件]</b> MCR限定選択科目										
<b>[成績評価の方法・観点]</b> ・講義への積極的な参加（100%）										
----- 臨床研究計画法演習 II (2)へ続く ↓↓ -----										

臨床研究計画法演習 II (2)										
[教科書] 使用しない 臨床研究計画法演習Iのオリエンテーション時、および、演習時に必要文献を適宜指示する。										
[参考書等] (参考書) 授業中に紹介する										
[授業外学修（予習・復習）等] 教育・学習方法 ・課題作業（プロトコール作成を含む） ・学生によるプロトコール発表・出席者全員による検討。										
[その他（オフィスアワー等）] 人間健康科学系専攻学生の受講可否： 不可										
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。										

科目ナンバリング P-PUB01 8K020 LB90										
授業科目名 <英訳>	EBM・診療ガイドライン特論 (MCR限定) Special Lectures on EBM and clinical practice guidelines			担当者所属・職名・氏名	医学研究科 教授 中山 健夫 非常勤講師 宮崎 貴久子 天津地方裁判所 民事部総括判事 西岡 繁靖					
配当年	専門職	単位数	I	開講年度・開講期	2020・後期	曜时限	金3	授業形態	特論	使用言語
<b>[授業の概要・目的]</b> ・臨床医療の基盤となりつつあるEBM（根拠に基づく診療）と、EBMを用いた診療ガイドラインの歴史・国内外の動向と展望を学びます。 ・実習を通して、近年大きく進歩しつつある診療ガイドラインの評価・作成の方法の実際を経験します。 ・患者・家族とのコミュニケーション、法的な意味合い、医療資源の配置など社会的な視点から診療ガイドラインの可能性と課題を考えます。										
教育・学習方法 ・パワーポイントスライドによる講義と実習 ・一部グループワークあり										
<b>[到達目標]</b> ・EBMと診療ガイドラインの関係を説明できる。 ・EBMを用いた診療ガイドラインの作成・評価の概要を理解し、実施できる。 ・社会的な視点から診療ガイドラインの可能性と課題を説明できる。										
<b>[授業計画と内容]</b> (※変更の可能性があるので開講日に確認して下さい) 第1回 10月2日 EBMと診療ガイドライン（中山） 第2回 10月9日診療ガイドラインの評価（中山） 第3回 10月16日診療ガイドラインの作成（中山） 第4回 10月23日診療ガイドラインの法的位置づけ（西岡） 第5回 11月6日 診療ガイドラインからQuality Indicator (QI)へ（中山） 第6回 11月13日 RCTによるエビデンス創出から診療ガイドラインへの提案：緩和医療における取組（宮崎） 第7回 11月20日 診療ガイドラインと患者の視点：shared decision-makingへ（中山） 第8回 12月4日 総合討論（中山）  ※「健康情報学II」の講義と重ならないように開講します。										
<b>[履修要件]</b> MCRコースの履修生と受講生に限定（MCR限定）										
----- EBM・診療ガイドライン特論 (MCR限定) (2)へ続く ↓↓ -----										

EBM・診療ガイドライン特論 (MCR限定) (2)										
[成績評価の方法・観点] 毎回の小レポート提出100%										
[教科書] 講義資料は配布										
<b>[参考書等]</b> (参考書) 中山健夫、津谷喜一郎編著『臨床研究と疫学研究のための国際ルール集』（ライフサイエンス出版 『Minds診療ガイドライン作成の手引き2014年版』（医学書院）										
[授業外学修（予習・復習）等] 予習より復習に十分時間を取ること。										
<b>[その他（オフィスアワー等）]</b> 受講生には診療ガイドラインを適切に利用するだけでなく、近い将来、各領域の診療ガイドラインを作る立場になって頂くことを期待しています。										
人間健康科学系専攻学生の受講可否： 否										
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。										

科目ナンバリング											P-PUB01 8K025 LJ90			
授業科目名 <英訳>				担当者所属・職名・氏名			医学研究科 準教授 竹内 正人							
配当学年	専門職	単位数	1	開講年度・開講期	2020・後期前半	曜時限	木5	授業形態	講義	使用言語	日本語及び英語			
<b>[授業の概要・目的]</b> 臨床研究に必要なデータ管理に関して、実例を用いて講義および演習を行う。MCRおよび臨床統計家育成コース限定。														
<b>[到達目標]</b> 臨床研究で必要なデータ管理の方法を取得し、自らの研究に活かすことができる。														
<b>[授業計画と内容]</b> 第一回：データ管理概論（竹内） 第二回：データ項目の決定（竹内） 第三回：データ管理と統計（竹内） 第四回：症例報告書のデザイン（竹内） 第五回：データクリーニング（竹内） 第六回：症例報告書のデザイン実習（竹内） 第七回：症例報告書のデザイン実習（竹内）														
<b>[履修要件]</b> 特になし														
<b>[成績評価の方法・観点]</b> 平常点（50%）、レポート（50%）														
<b>[教科書]</b> 使用しない														
<b>[参考書等]</b> <b>(参考書)</b> 授業中に紹介する														
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b> 課題研究でデータを扱う際に復習すること。 <b>(その他（オフィスアワー等）)</b> 実習でEXCELをインストールしたノートパソコンを使用する場合があるため、持参すること。また本年度は臨床統計家育成コース初年度でもあり、上記授業予定は受講生の理解度・興味により若干の変更を伴う場合もある。 人間健康科学系専攻学生の受講可否：不可 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。														

科目ナンバリング											P-PUB01 8K025 LJ90			
授業科目名 <英訳>				担当者所属・職名・氏名			環境安全保健機構 教授 石見 拓							
配当学年	専門職	単位数	2	開講年度・開講期	2020・後期	曜時限	月6	授業形態		使用言語	日本語及び英語			
<b>[授業の概要・目的]</b> 臨床研究計画法・IIで履修した研究方法について掘り下げる。 ・学生から質問を提示し、教員と参加学生で検討する。 ・教員から研究方法上の問題点を提示し、学生が検討する。														
<b>[到達目標]</b> ・各種研究方法について、その具体化、実践と結果の活用などについて具体的な研究事例に照らして深く理解する。 ・仮説形成・研究計画立案のプロセスを理解し、自身の研究計画に反映できるようになる。 ・研究費の獲得方法の具体例を知り、自身の研究推進に生かす。 ・論文作成・査読への対応の具体例を知り、自身の研究に反映する。 ・研究チームの構成、研究成果のフィードバック、社会還元の実際を知り、自身の研究活動に反映することができるようになる。														
<b>[授業計画と内容]</b> ・仮説形成、研究計画立案のプロセス ・研究費の獲得方法の具体例 ・査読への対応方法 ・研究チームの作り方、フィードバックの仕方 ・研究成果の社会還元														
<b>[履修要件]</b> MCR限定（選択）														
<b>[成績評価の方法・観点]</b> 意見発表の積極性、説明の明快さ														
<b>[教科書]</b> 使用しない														
<b>[参考書等]</b> <b>(参考書)</b> 川村 孝『臨床研究の教科書』（医学書院） 川村 孝『エビデンスをつくる：陥りやすい臨床研究のピットフォール』（医学書院）														
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b> 自らの研究に反映し、同僚の研究を支援する <b>(その他（オフィスアワー等）)</b> ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。														

科目ナンバリング											P-PUB01 8K016 LB90			
授業科目名 <英訳>				担当者所属・職名・氏名			医学研究科 準教授 渡辺 雄範							
配当学年	専門職	単位数	2	開講年度・開講期	2020・通常不定	曜時限	月1: 講義	授業形態	講義	使用言語	日本語及び英語			
<b>[授業の概要・目的]</b> I. コースの概要														
夏期・冬期休暇をまたぐ全20コマの講義と演習により、各参加者が興味を持つテーマについて系統的レビューのプロトコル(研究計画書)を英文で完成する。原則、20コマは隔週の2コマずつで進行し、講義と講義のあいだに自らプロトコルを洗練させるための自習時間がかかり必要になるので注意されたい。 *MCR限定推奨なので、実際にこのカリキュラムで系統的レビューのプロトコルを完成させたい人がぜひ選択していただきたい。 *教員が添削するのにかなりのエフォートを要するため、一定の人数以上の応募があった場合、英語で受講希望理由・計画中の検討テーマに関するエッセイを提出してもらいます。そこで一定人数を選考し、もれた人は聴講のみ(宿題添削、発表、評価なし)可とします。														
II. 教育・学習方法 講義は以下の手順で進行します。 1. 受講者は下記Handbookを分担して通読し、分担箇所のサマリーを講義でプレゼンする 2. 自分のプロトコルについて、プレゼンの該当部分に応じて各講義後に宿題として追記する。 3. これに対しピアおよび渡辺からコメントをもらい、次回の宿題時に改訂する。 4. つまり、各講義後の宿題時には、追記と改訂の両作業を行う。これにより、プロトコルを洗練させていく。 自習にかなりの時間がかかると思われる所以、授業は原則隔週で行う（開講日注意）。														
<b>[到達目標]</b> ○各参加者が興味を持つ臨床疑問を洗練した上で、それについてコクランレビューレベルの英文プロトコルを完成させる ○コクランの該当グループにタイトル登録したうえで、プロトコル・レビューを出版し、コクランライブラリーに収載されることを目指す。または登録をせずに雑誌投稿を目指す希望者には、最終的に系統的レビューを完成させるまで本講義終了後も指導します														
<b>[授業計画と内容]</b> 1. 6月29日 イントロダクション 2. 7月13日 Formulating the clinical question, Objectives and Criteria for considering studies 3. 7月27日 Search methods (夏休みにコクランレビューグループへの連絡・タイトル登録開始を目指す) 4. 9月14日 Selection of studies & extracting data 5. 10月12日 Assessment of risk of bias 6. 10月26日 Analysis (1) 7. 11月9日 Analysis (2) 8. 12月14日 まとめ 9. 12月4日 発表(1)														

系統的レビュー（MCR限定）(2)														
10月1日発表(2) 予備日 8月31日														
<b>[履修要件]</b> 本科目は6月からのため、4～6月の医療統計学や疫学の履修を推奨。 MCR限定推奨														
<b>[成績評価の方法・観点]</b> 完成論文のIntroduction & Methodsに相当する系統的レビューの研究計画書を提出。その評価が全てです。														
<b>[教科書]</b> Higgins JPT, Thomas J, et al.『Cochrane Handbook for Systematic Reviews of Interventions』(Wiley) (2019年10月新版発行。このHandbookに則って指導する。) 必須ソフトウェア： Review Manager (RevMan) [Computer program] (必須。このソフトウェアを使ってプロトコルを書き、最終的にメタアナリシスする。フリーウェア)														
<b>[参考書等]</b> <b>(参考書)</b>														
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b> コクランレビューとしてコクランに登録する年の年々難しくなっています。一回は試みましょう。そのため場合、原著医学雑誌への投稿もオプションとして考えます。														
<b>(その他（オフィスアワー等）)</b> 人間健康科学系専攻学生の受講可否：不可 ※オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。														
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。														

科目ナンバリング P-PUB01 8K033 LJ90										
授業科目名 <英訳>	データ解析法特論（MCR限定） Special Seminar of Data Analysis			担当者所属・職名・氏名	医学研究科 准教授 山本 洋介					
配当学年	専門職	単位数	1	開講年度・開講期	2020・前期後半	曜時限	月6	授業形態	特論	使用言語
<b>【授業の概要・目的】</b>										
<ul style="list-style-type: none"> <li>この講義では、統計解析ソフトウェアstataを用いて臨床研究のデータ解析を行う。</li> <li>実習の教材として用いる臨床研究データは、臨床研究の実例のデータを可能な限り用いる。</li> <li>学習の習熟度の確認のために、学習課題を課している。</li> <li>開講期間中は講習会コードを提供し、無償でstataの試用が可能である（ただし開講期間終了後も継続して使用を希望する場合には各自購入する必要あり）</li> </ul>										
<b>【到達目標】</b>										
<ul style="list-style-type: none"> <li>統計解析ソフトを用いて基礎的な臨床研究データの解析ができる。</li> <li>解析ソフトの出力結果を正確に解釈することができる。</li> </ul>										
<b>【授業計画と内容】</b>										
第1回 5月25日統計ソフトの基本的な使い方 第2回 6月1日連続変数の検定と推定 第3回 6月8日カテゴリ変数の検定と推定 第4回 6月15日相関と回帰 第5回 6月22日重回帰分析 第6回 6月29日ロジスティック回帰分析 第7回 7月6日生存時間解析 第8回 7月13日サンプルサイズの推定・その他の解析										
<b>【履修要件】</b>										
stataを用いて解析する予定のある人の履修をおすすめします。										
<b>【成績評価の方法・観点】</b>										
<ul style="list-style-type: none"> <li>講義への積極的な参加（50%）</li> <li>課題に対するレポート（50%）</li> </ul>										
<b>【教科書】</b>										
使用しない 基本的な学習資源はプリントにて配布。										
-----データ解析法特論（MCR限定）(2)へ続く↓↓										

データ解析法特論（MCR限定）(2)
<b>【参考書等】</b>
(参考書) 東 尚弘、中村文明、林野泰明、杉岡 隆、山本洋介『臨床研究のためのstataマニュアル』（健康医療評価研究機構（iHope））
<b>【授業外学修（予習・復習）等】</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>予習：不要</li> <li>復習：次回講義までに当該回の復習を行うこと。課題がある場合には次回講義までにレポートを提出すること。</li> </ul>
<b>【その他（オフィスアワー等）】</b>
面談希望はまずメールでご連絡下さい。 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。





## 遺伝力ウンセラーコース

科目ナンバリング										
P-PUB01 8N022 SJ90										
授業科目名 <英訳>				基礎人類遺伝学演習 (GC限定) Fundamental Human Genetics, exercise						
担当者	専門職	単位数	1	開講年度・開講期	2020・後期	曜時限	木 6	授業形態	演習	使用言語
<b>[授業の概要・目的]</b>										
【基本情報】 授業日時：後期木曜6限（例外予定にご注意ください） 教室：G棟階踏習室 レベル：応用 担当者：小杉真司・和田敬仁・山田崇弘・澤井英明（兵庫医科大学）・川崎秀徳										
【コースの概要】 遺伝カウンセラーとしての基礎知識となる遺伝子・染色体の分析について、演習を通じて体験することにより、具体的に理解することを目的とする。家系図作成、遺伝形式の推定、遺伝的リスクの推定などについて、演習を行うほか、臨床の現場で行われる画像診断、医学的フォローの実践についても学ぶ。										
<b>[到達目標]</b>										
・家系図作成、遺伝形式推定、再発率計算を正確に行うことができる ・遺伝学の検査の方法について具体的に理解し、正確に説明することができる										
<b>[授業計画と内容]</b>										
【第1回】6月24日水曜6限＜澤井＞「骨系統疾患とレントゲンエコー検査」胎児の先天異常で頻度の高い骨系統疾患について概説し、その診断のために必要なレントゲン読影の知識を習得する。 【第2回】10月1日＊<小杉1>「研究紹介」 【第3回】10月8日＜山田1>「胎児超音波検査」妊娠初期～中期にかけての超音波検査、特に染色体異常と関係するソフトマーカーについて理解する。妊娠後期に施行される超音波検査とその意義について理解する 【第4回】10月15日＜和田1>「家系図作成演習」標準的家系図記載法を学び、遺伝形式および遺伝的リスクの推定する演習。 【第5回】10月29日＜川崎1>「診療録からの情報収集・医療情報の収集」診療録からの情報収集のコツを学ぶ、一般的な医療情報の収集に関して整理する。 【第6回】11月5日＜和田2>「分子遺伝学的解析を学ぶ」英語文献の症例報告から、分子遺伝学的解析の方法とその解釈を学ぶ 【第7回】11月12日＜山田2>「放射線・環境因子・感染症の胎児への影響」先天異常の原因において5%程度を占める環境因子について理解する。 【第8回】11月26日＜和田3>「染色体検査結果の解釈(1)」染色体検査の適応、検査法ならびに核型解析、染色体検査結果の解釈を学ぶ。 【第9回】12月3日＜山田3>「流産绒毛検査」妊娠初期の流産では半数以上で染色体異常が生じている。流産患者における検査の意義について理解する 【第10回】12月10日＜和田4>「染色体検査結果の解釈(2)」染色体検査以外の細胞遺伝学的検査法（特にCGHアレイ）を学ぶ。 【第11回】12月17日＜山田4>「羊水染色体検査」羊水染色体検査の実施方法を理解し、その検査に当たっての適切な説明について検討する。 【第12回】12月24日＜山田5>「バリエントの評価」検出されたバリエントの評価を行い、その解釈を学ぶ										
基礎人類遺伝学演習 (GC限定) (2)へ続く↓↓										

基礎人類遺伝学演習 (GC限定) (2)										
【第13回】1月7日＜和田5>「バリエントの評価」遺伝性疾患が疑われる症例の診断方法とその結果を検討する。 【第14回】1月21日＜小杉3>「個人面談」 【第15回】1月28日＜川崎2>「診療録・医療文書の書き方」医学情報を書く際のコツを学ぶ。 *開始時間遅延の可能性あり										
<b>[履修要件]</b> 遺伝カウンセラーコース1回生限定必修科目（事前確定科目）										
<b>[成績評価の方法・観点]</b> 積極的な演習への参加、レポート、発表、出席等を総合的に評価する										
<b>[教科書]</b> ハンドアウトを配布										
<b>[参考書等]</b> (参考書)										
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b> 適宜指示する										
<b>(その他（オフィスアワー等）)</b> 講義日程、講師、内容については、多少の変更がある可能性があります ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。										

科目ナンバリング										
P-PUB01 8N006 SJ90										
授業科目名 <英訳>				臨床遺伝学演習 (GC限定) Clinical Genetics, Exercise						
担当者	専門職	単位数	1	開講年度・開講期	2020・後期	曜時限	木 6	授業形態	演習	使用言語
<b>[授業の概要・目的]</b>										
【基本情報】 授業日時：後期水曜5/6限（隔週を原則とする）。例外予定にご注意ください 教室：G棟階踏習室、レベル：応用 担当者：小杉真司・和田敬仁・山田崇弘・澤井英明（兵庫医科大学）・川崎秀徳・村上裕美・鳥嶋雅子（遺伝子診療部認定遺伝カウンセラー）・秋山奈々・本田明夏・橋葉慧・松川愛未・吉田晶子・岡田千穂・佐藤智佳 SC：模擬患者ボランティア（SPH院生など）										
【コースの概要】・演習開始1月前には、オリエンテーションを行い、クライアントの人数・性別を決めるが、その後の変更はない。 ・最初のクールはクライアントは可能であれば1人とする（設定が複雑にならないようにするため）（ただし、ダウソニン症などは夫婦が原則であり1人クライアント設定は不適切） ・クライアント役をSPH院生に呼びかけてリクルートする（性別は役ど一致させる）。一部をGC院生が担当するかは未定 ・遺伝カウンセリング担当者が類似疾患にかぶらないようにする（家族性腫瘍、神経筋疾患、周産期問題）・メンター役のクライアント調整役のほう（遺伝カウンセリング担当者担当メンターよりも）が寄与度が高いので、優先して決める（一人に偏らないように） ・基本シナリオは担当教員が最低2週間に関係者全員に通知する（ロールプレイのねらいを必ず明示すること）。2場面を設定する。実際の遺伝カウンセリングは、臨床遺伝専門医と認定遺伝カウンセラーハイ級役割分担ながら、チアラード医療として行うが、ロールプレイの特性として一人で実施する必要があるため、遺伝学的検査の結果開示など、臨床遺伝専門医の立場を理解するのにも役立つ。また、頻度の高い疾患については認定遺伝カウンセラーアンド十分な知識を有しておくことは、クライアントから再度質問された場合などにも対応できる力となる。 ・1週間前まで（期限厳守）にクライアント調整役の院生は、GCメンター及び担当教員と相談の上で基本シナリオから詳細設定をし、クライアント役とメール等で打合せておく。 ・検討過程で基本シナリオに変更がある場合は、関係者全員に事前に必ずしらせる。 ・詳細シナリオは家系図を入れて4ページ以内とする。 ・遺伝カウンセリング担当者・担当メンター・担当教員での事前打合せも実施する ・当日：16:30-17:00にクライアント役、担当教員、クライアント調整役院生が副室で内容確認を行う ・当日、16:30-17:00に遺伝カウンセリング担当者の院生が教員や上級生、GCメンターと疾患説明の確認、遺伝カウンセリング場所の整備などをを行う。 ・17:00-從前行っていた皆の前での疾患説明は行わないが、遺伝カウンセリングで使用する資料は配布資料とすること。クライアント調整役が基本シナリオ設定等の説明を手短に行う。 ・17:00-19:15の予定でロールプレイを2場面行う。（例：場面1(55分)+フィードバック(15分)+休憩(15分)+場面2(30分)+フィードバック(15分)=130分） ・フィードバックは、遺伝カウンセリング担当者、クライアント役、M1オブザーバー、その他のオブザーバー、教員の順に行う。できるだけ全員に意見を求める（場面1と2いわゆるで全員に発言してもらう）。重複コメントはあえて避ける必要ない。その際の進め方は、統一せず、指導教員の方針に従う。フィードバック方法の多様性も重要なである）										
臨床遺伝学演習 (GC限定) (2)へ続く↓↓										

臨床遺伝学演習 (GC限定) (2)										
【第1回】8月26日5限<全員>「ロールプレイの行い方とオリエンテーション、遺伝カウンセリング実習」ロールプレイの目的、方法と意義について。遺伝カウンセリング実習についてのオリエンテーション										
【第2回】9月23日＜小杉5>「Lynch症候群」家系内に40～50歳代で大腸癌で死亡した複数の人があり、遺伝性の可能性を心配。遺伝学的検査の説明と実施、遺伝子変異があった場合の対応。										
【第3回】10月7日＜和田>「Duchenne型筋ジストロフィー」小児のDMDの診断法の理解と、X連鎖性疾患における母親あるいは女性同胞の保因者診断の進め方を学ぶ。										
【第5/6回】10月21日＜山田>「ターナー症候群」春春期をすぎても無月経で来院して、性染色体検査でターナー症候群と診断されたケースに診断の告知、疾患の説明、今後必要な治療について対応する。										
【第7/8回】1月4日＜和田>「強直性筋ジストロフィー」トリプレットリピート病であるDMDにおける先天型と古典型的の理解と発症前診断の進め方を学ぶ。										
【第9/10回】1月25日＜山田>「遺伝性乳がん・卵巣がん」乳がん患者が多数いる家系での遺伝性乳がんのリスクの評価および遺伝学的検査の適応。										
【第11/12回】1月9日＜和田>「トランサスライレチン型家族性アミロイドニューロパシー」治療法のあるFAPにおける遺伝子診断の意義と発症前診断の進め方を学ぶ。										
【第13/14回】1月23日＜澤井>「習慣流産」妊娠初期に3回続けて流産したケースについて、流産の原因や次回妊娠への対応、必要であれば遺伝学的検査その他の検査についても対応する。着床前診断についても聞かれたので対応が必要となった。										
【第15/16回】1月20日＜山田>「ダウン症候群」ダウン症候群の出生前診断にかかる遺伝カウンセリングについて、ダウントン症の症状と将来の療育、発症の仕組みと次回妊娠での再発率等も含めて対応する。										
・参加者：担当者、関係全教員、遺伝カウンセラーハイ級院生（M1）、クライアント調整役（M1）、オブザーバー（M1、M2、博士院生）、GCメンター ・記録：クライアント調整役（終了後参加教員へレポートを提出）、オブザーバー担当（ビデオ撮影およびファイルをサーバに保存：復習用）										
<b>[履修要件]</b> 遺伝カウンセラーコース1回生限定必修科目（事前確定科目）										
<b>[成績評価の方法・観点]</b> 演習における積極性、実践的能力、出席、レポート等を総合的に評価する										
臨床遺伝学演習 (GC限定) (3)へ続く↓↓										

<b>臨床遺伝学演習 (GC限定) (3)</b>
<b>[教科書]</b> 使用しない
<b>[参考書等]</b> (参考書)
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b> 適宜指示する
<b>(その他（オフィスアワー等）)</b> ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	P-PUB01 8N020 LJ90										
授業科目名 <英訳>	遺伝カウンセラーコミュニケーション概論 (GC限定) Communication for Genetic Counselors										
担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 小杉 真司										
配当年	専門職	単位数	3	開講年度・ 開講期	2020・ 通年不定	曜時限	木1:講田注音	授業形態	講義・演習	使用言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
【基本情報】 授業日時：前期木曜1限を毎週実施、後期木曜1限を隔週実施を原則とする（例外予定にご注意ください） 教室：G棟3階演習室 レベル：基礎 担当者：小杉真司・村上裕美・島嶋雅子・秋山奈々・本田明夏・稻葉慧・松川愛未・吉田晶子・勝元さえこ・岡田千穂・佐藤智佳											
【コースの概要】 本講義では、コミュニケーションという観点から、遺伝カウンセリングの重要なテーマについて、院生自身が主体となってディスカッションを行い、互いの学びを共有していく。遺伝カウンセラーとして、クライエント・家族の支援のためのコミュニケーションは勿論のこと、チーム医療のメンバーとして、異なった専門性を持つチームメンバーとのコミュニケーションのあり方についても学ぶ。また、本講義は、『遺伝カウンセリングロールプレイング演習』『遺伝カウンセリング実習（病院での臨床実習）』で必要な基礎知識、理論を学ぶという役割も担っており、これらの講義・演習・実習を通して遺伝カウンセリング、そして遺伝カウンセラーについて学びを深めることを総合的な目標として掲げている。演習については、授業の進行状況に応じて、ロールプレイ、試行カウンセリング、ビデオ学習など様々な方法を用いる予定である。											
【教育・学習方法】 <ul style="list-style-type: none"><li>・テキストを予習し、レポート提出</li><li>・講義内でのディスカッションおよび演習</li><li>・時間外に以下の学習も併せて行う。 ビデオ学習—「クロアリと3人のセラピスト」/医学部「遺伝医学」授業/試行カウンセリング実施および記録方法学習/遺伝カウンセリングと日本人のコミュニケーション発表会/遺伝カウンセリングロールプレイ振り返り/病院実習振り返り</li></ul>											
みなさまの積極的な参加を希望します。授業内容に関する質問も随時歓迎です。メールで問い合わせてください。											
<b>[到達目標]</b> 1. 遺伝カウンセラーとして、クライエント・家族をどのように支援していくのか最低限必要と考えられる知識及び態度を身につける。 2. 医療チームのメンバーとしてどのような動きをすることが望ましいか最低限必要な知識及び態度を身につける。											
<b>[授業計画と内容]</b> <前期> 【第1回】 4/9 【第2回】 4/16 【第3回】 4/23 【第4回】 4/30 【第5回】 5/7 【第6回】 5/14 【第7回】 5/21 【第8回】 5/28											
遺伝カウンセラーコミュニケーション概論 (GC限定) [へ戻る] ↑↑											

<b>遺伝カウンセラーコミュニケーション概論 (GC限定) (2)</b>
<b>[第1回]</b> 6/4 【第10回】 6/11 【第11回】 6/25 【第12回】 7/2 【第13回】 7/9 【第14回】 7/16 「イントロ・基本的な考え方」 遺伝カウンセラーのコミュニケーション：はじめに（自己紹介・授業・宿題について） p16-25, 基本的な考え方 p26-35 「内側（内的照合枠）からの理解」 遺伝カウンセリングの基本的態度と内側（内的照合枠）からの理解:自分のコミュニケーションの特徴を知る 「共感的理解」 共感的理解を理解する 「ラボール形成」 遺伝カウンセリングの流れ及び信頼関係（ラボール）の形成 「フォローアップ」 遺伝カウンセリングの終了ヒフォローアップ、電話受付の留意点 「情報提供」 遺伝カウンセリングにおける情報提供 「意思決定」 遺伝カウンセリングにおける意思決定 「ノンバーバルコミュニケーション」 ノンバーバルコミュニケーションの重要性、日本人のコミュニケーション 「倫理」 遺伝カウンセリングにおける倫理 「Genomic Counseling」 Genomic Counselorの役割・Genomic Counselingにおけるコミュニケーション 「臨床遺伝専門医とのコミュニケーション」 臨床遺伝専門医とともに実施する遺伝カウンセリング 「出生前検査・遺伝カウンセリング室立ち上げ」 出生前検査に伴う遺伝カウンセリング、遺伝カウンセリング室を作ろう！ 「障害」 障害と社会の理解 「医療ソーシャルワーカーから学ぶ」 医療ソーシャルワーカーの事例から学ぶ→クライエント支援のためのコミュニケーション～  <b>&lt;後期&gt;</b> 【第15回】 9/24 【第16回】 10/8 【第17回】 10/22 【第18回】 11/5 【第19回】 11/26 【第20回】 12/10 【第21回】 12/24 【第22回】 1/21 「日本人のコミュニケーション」 日本人のコミュニケーションと遺伝カウンセリング 「家族面接」 家族面接における遺伝カウンセラーの役割 「ライフステージ・メンタルヘルス・防衛機制の基本的考え方」 ライフステージとメンタルヘルス、遺伝カウンセリングと防衛機制 「親から子に「遺伝」について伝える」 親から子に「遺伝」について伝える 「発症前診断」 進行性で治療法のない遺伝性疾患に関する発症前検査を希望して来談した人との遺伝カウンセリング 「視覚障害・当事者団体と関係機関との連携」 視覚障害（網膜色素変性症）の遺伝カウンセリング /当事者団体と関係機関との連携 「喪失体験」 売失体験の理解 「病とともに生きる・まとめる」 遺伝性の病とともに生きる、評価とまとめ
遺伝カウンセラーコミュニケーション概論 (GC限定) [へ戻る] ↑↑

<b>遺伝カウンセラーコミュニケーション概論 (GC限定) (3)</b>
<b>[履修要件]</b> 遺伝カウンセラーコース 1回生限定必修科目（事前確定科目）
<b>[成績評価の方法・観点]</b> 前期・後期あわせて終了時に評価する。学習目標の到達度50%, レポート40%, プрезентーション10%
<b>[教科書]</b> ・遺伝カウンセリングのためのコミュニケーション論-京都大学大学院医学研究科遺伝カウンセラーコース講義（メディカルドゥ） 978-4944157662 ・自分を見つめるカウンセリング・マインド ヘルスケア・ワークの基本と展開（医歯薬出版） ISBN: 978-4-263-23423-5 ・カウンセリングを学ぶ（東京大学出版会） 理論・体験・実習 第2版ISBN: 978-4-13-012045-6 ・ヘルス・コミュニケーション(九州大学出版社) 改訂版 ISBN: 978-4798500164
<b>[参考書等]</b> (参考書)
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b> 適宜予習復習を求める
<b>(その他（オフィスアワー等）)</b> ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング P-PUB01 8N007 SJ90										
授業科目名 遺伝カウンセリング演習1 (GC限定) <英訳> Genetic Counselling, Exercise 1			担当者所属・職名・氏名		医学研究科 教授 小杉 真司					
配当学年	専門職	単位数	2	開講年度・開講期	2020・通年不定	曜時限	1・4:金・研	授業形態	演習	使用言語
<b>[授業の概要・目的]</b>										
【基本情報】授業日時：金曜（原則第2、第4）5・6限、教室：G棟セミナー室A レベル：遺伝カウンセリング演習1（基礎）・遺伝カウンセリング演習2（応用） 担当者：小杉真司・和田敦仁・山田崇弘・川崎秀徳・玉置知子・村上裕美・鳥嶋雅子・田村和朗・異純子・西郷和真・レクチャー担当者 【コースの概要】実際の遺伝カウンセリング症例を提示し、遺伝の問題、医学的問題、療養問題、社会的問題、法的問題、倫理的問題、心理的問題等について、他のカンファレンス参加者とともに徹底的な討論を行う。1年次後期からは、実際の遺伝カウンセリング実習で体験した症例について自ら提示を行い、カンファレンスを中心に運営する。これは、京都大学と近畿大学の遺伝カウンセラーコースのカリキュラムの中でも最も重要なものであり、両大学の院生が積極的に参加するものである。実習期の院生（2回生4月～10月ごろ、1回生11月ごろ～年度末、移行期は各コースの実情による）は、原則として毎回症例提示を行うこと。16:30-18:30ごろ：合同カンファレンス症例提示・検討会（1回4例～6例となるように調整し、進行は司会がタイムキーピングを行う）。18:30ごろより50分程度：京大・近大遺伝カウンセラーコースの修了者による遺伝カウンセラーとしての活動などに関するプレゼン、あるいは合同カンファレンス出席者・招聘演者等によるレクチャー 【教育・学習方法】症例提示・討論、カンファレンス記録の作成（症例ごとに順番で担当）										
<b>[到達目標]</b>										
症例の適切なプレゼンテーション、種々の問題点の整理と今後の対応方針の決定、討論への参加と論理的な主張、適切なカンファレンス記録の作成ができる。										
<b>[授業計画と内容]</b>										
<司会>カンファレンスレクチャー担当者 【第1回】 4月17日<小杉>小杉真司「合同カンファレンスのイントロダクション」 【第2回】 5月1日<和田>才津浩智「次世代シークエンスデータ解析」○ 【第3回】 5月15日<和田>和田「エビジェネシスの破綻により発症する先天性疾患と治療法の開発」 【第4回】 5月29日<西郷>濱野裕太「和歌山医大遺伝診療部における認定遺伝カウンセラーの役割」 【第5回】 6月12日<村上>張香理「ゲノム医療（難病領域）における認定遺伝カウンセラーの役割」○ 【第6回】 6月26日<山田>田原康玄「地域住民コホートにおけるゲノム・疫学研究の潮流と展望」 【第7回】 7月10日<山田>久具宏司「」○ 【第8回】 7月25日<田村>松本光史(兵庫県立がんセンター部長)「遺伝性腫瘍in2020: がん薬物療法専門家と臨床遺伝専門家が協働して生む力」 【第9回】 10月9日<鳥嶋>中川奈保子「京大病院におけるIRUD未診断疾患解析研究の取り組み」 【第10回】 10月23日<川崎>岡本新悟「男子性腺機能低下症の診断と治療—カルマン症候群とクラインフェルター症候群を中心にして」○ 【第11回】 11月13日<和田>斎藤伸治「小児神経疾患の遺伝学とエビジェネティクス」○										
遺伝カウンセリング演習1 (GC限定) (2)へ続く↓↓↓										

遺伝カウンセリング演習1 (GC限定) (2)										
【第12回】 12月4日<巽>丹羽由衣「神戸大学医学部附属病院におけるCGCとしての活動」										
【第13回】 1月25日<本田>本田明夏「」										
【第14回】 1月8日<小杉>新年懇談会○										
<合同カンファレンスの具体的進行方針> 1) 目的：実習報告会ではない。同席者の感想等は除外症例検討を主題とし、適切な遺伝カウンセリングがなされたか、誤った点や不足する点はなかったか等、専門家の意見、討議を開きそれに参考する。多くの人の意見を聞けるよう、今後の遺伝カウンセリングに実質的に生かせるように討議の時間を確保する。 2) プレゼンテーション準備：開始前にあらかじめプレゼンテーションを行なう全てのパワーポイントファイルを開けておき、速やかに次のプレゼンへ移れるようする。 3) プレゼンテーション：客観的な事実を端的にまとめる。まず、背景と主訴を参加者に理解してもらう。遺伝カウンセリングの経過、問題点も簡潔に示す。発表時間15分以内、議論10分程度。4) スライド：議論が整理しやすいように箇条書きが望ましい。次の枚数を原則とする。前半：タイトル（日付・発表者・担当医名を含む）(1枚)、受診の背景・主訴・家系図を含めて(2枚)。後半：遺伝カウンセリング経過(1-2枚)、課題・問題点(1-2枚) 5) 進行：冗長なプレゼンに対しては簡潔に行なうよう指導し、建設的ディスカッションを行う。 6) アセスメントについて：質問や自分の意見、感想は全体の議論の話題にならざる自分の意見として発言する。どうしても最初から出す必要がある場合は指導教官・同席医師と相談の上で行う。 7) 終了後：ディスカッションの内容を含んだスライドを一枚追加する。担当医確認の後、「遺伝カウンセリング記録」および「カンファレンス記録」の2箇所に保存する。(カンファ後1週間以内個人情報に接することがあるため、初回参加時には「誓約書」を提出する。遺伝カウンセリング内容についての会話は、他者のいるところではしないこと、内容を記したノートは、他者の目にふれないようにすること、ノートの貸し借りは禁止。										
<b>[履修要件]</b>										
遺伝カウンセラーコース限定必修科目（事前確定科目）1回生は「遺伝カウンセリング演習1」、2回生は「遺伝カウンセリング演習2」										
<b>[成績評価の方法・観点]</b>										
プレゼンテーション、討論への積極的な参加、カンファレンス記録の作成などを総合的に評価する。										
<b>[教科書]</b>										
使用しない ハンドアウトの配布は、原則としてありません										
<b>[参考書等]</b>										
(参考書)										
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b>										
適宜指示する。										
遺伝カウンセリング演習1 (GC限定) (2)へ続く↓↓↓										

科目ナンバリング P-PUB01 8N008 SJ90										
授業科目名 遺伝カウンセリング演習2 (GC限定) <英訳> Genetic Counselling, Exercise 2			担当者所属・職名・氏名		医学研究科 教授 小杉 真司					
配当学年	専門職	単位数	2	開講年度・開講期	2020・通年不定	曜時限	1・4:金・研	授業形態	演習	使用言語
<b>[授業の概要・目的]</b>										
【基本情報】授業日時：金曜（原則第2、第4）5・6限、教室：G棟セミナー室A レベル：遺伝カウンセリング演習1（基礎）・遺伝カウンセリング演習2（応用） 担当者：小杉真司・和田敦仁・山田崇弘・川崎秀徳・玉置知子・村上裕美・鳥嶋雅子・田村和朗・異純子・西郷和真・レクチャー担当者 【コースの概要】実際の遺伝カウンセリング症例を提示し、遺伝の問題、医学的問題、療養問題、社会的問題、法的問題、倫理的問題、心理的問題等について、他のカンファレンス参加者とともに徹底的な討論を行う。1年次後期からは、実際の遺伝カウンセリング実習で体験した症例について自ら提示を行い、カンファレンスを中心に運営する。これは、京都大学と近畿大学の遺伝カウンセラーコースのカリキュラムの中でも最も重要なものであり、両大学の院生が積極的に参加するものである。実習期の院生（2回生4月～10月ごろ、1回生11月ごろ～年度末、移行期は各コースの実情による）は、原則として毎回症例提示を行うこと。16:30-18:30ごろ：合同カンファレンス症例提示・検討会（1回4例～6例となるように調整し、進行は司会がタイムキーピングを行う）。18:30ごろより50分程度：京大・近大遺伝カウンセラーコースの修了者による遺伝カウンセラーとしての活動などに関するプレゼン、あるいは合同カンファレンス出席者・招聘演者等によるレクチャー 【教育・学習方法】症例提示・討論、カンファレンス記録の作成（症例ごとに順番で担当）										
<b>[到達目標]</b>										
症例の適切なプレゼンテーション、種々の問題点の整理と今後の対応方針の決定、討論への参加と論理的な主張、適切なカンファレンス記録の作成ができる。										
<b>[授業計画と内容]</b>										
<司会>カンファレンスレクチャー担当者 【第1回】 4月17日<小杉>小杉真司「合同カンファレンスのイントロダクション」 【第2回】 5月1日<和田>才津浩智「次世代シークエンスデータ解析」○ 【第3回】 5月15日<和田>和田「」 【第4回】 5月29日<西郷>濱野裕太「和歌山医大遺伝診療部における認定遺伝カウンセラーの役割」 【第5回】 6月12日<村上>張香理「ゲノム医療（難病領域）における認定遺伝カウンセラーの役割」○ 【第6回】 6月26日<山田>田原康玄「地域住民コホートにおけるゲノム・疫学研究の潮流と展望」 【第7回】 7月10日<山田>久具宏司「」○ 【第8回】 7月25日<田村>松本光史(兵庫県立がんセンター部長)「遺伝性腫瘍in2020: がん薬物療法専門家と臨床遺伝専門家が協働して生む力」 【第9回】 10月9日<鳥嶋>中川奈保子「」 【第10回】 10月23日<川崎>岡本新悟「男子性腺機能低下症の診断と治療—カルマン症候群とクラインフェルター症候群を中心にして」○ 【第11回】 11月13日<和田>斎藤伸治「」○ 【第12回】 12月4日<巽>丹羽由衣「神戸大学医学部附属病院におけるCGCとしての活動」										
遺伝カウンセリング演習2 (GC限定) (2)へ続く↓↓↓										

遺伝カウンセリング演習1 (GC限定) (3)										
(その他（オフィスアワー等）)										
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。										

遺伝カウンセリング演習2 (GC限定) (2)											
<p>【第1・3回】 1月25日&lt;本田&gt;本田明夏「」          【第1・4回】 1月8日&lt;小杉&gt;新年懇談会○          【第1・5回】 1月29日&lt;田村&gt;福嶋伸之(近大理工学部)「細胞内情報伝達とその破綻」          &lt;合同カンファレンスの具体的な進行方針&gt; 1) 目的：実習報告会ではない。同席者の感想等は除外          症例検討を主題とし、適切な遺伝カウンセリングがなされたか、誤った点や不足する点はなかったか等、専門家の意見、討議を開きそれに参加する。多くの人の意見を聞けるよう、今後の遺伝カウンセリングに実質的に生かせるよう討議の時間を確保する。          プレゼンテーション準備：開始前にあらかじめプレゼンテーションを行う全てのパワーポイントファイルを開けておき、速やかに次のプレゼンへ移れるようにする。          プレゼンテーション：客観的な事実を端的にまとめる。まず、背景と主訴を参加者に理解してもらう。遺伝カウンセリングの経過・問題点も簡潔に示す。発表時間15分以内、議論10分程度。4) スライド：議論が整理しやすいように箇条書きが望ましい。次の枚数を原則とする。前半：タイトル（日付・発表者・担当医名を含む）(1枚)、受診の背景・主訴・家系図を含めて(2枚)。後半：遺伝カウンセリング経過(1-2枚)・課題・問題点(1-2枚) 5) 進行：冗長なプレゼンに対しては簡潔に行なうよう指導し、建設的ディスカッションを行う。          6) アセスメントについて：質問や自分の意見・感想は全体の議論の話題にならたら自分の意見として発言する。どうしても最初から必要な場合は指導教官・同席医師と相談の上で行う。          7) 終了後：ディスカッションの内容を含んだスライドを1枚追加する。担当医確認の後、「遺伝カウンセリング記録」および「カンファレンス記録」の2箇所に保存する。(カンファ後1週間以内)          *個人情報に接することがあるため、初回参加時には「誓約書」を提出する。遺伝カウンセリング内容についての会話は、他のいるところではしないこと、内容を記したノートは、他者の目にふれないようにすること、ノートの貸し借りは禁止。</p>											
<b>[履修要件]</b>											
遺伝カウンセラーコース限定必修科目（事前確定科目）1回生は「遺伝カウンセリング演習1」、2回生は「遺伝カウンセリング演習2」											
<b>[成績評価の方法・観点]</b>											
プレゼンテーション、討論への積極的な参加、カンファレンス記録の作成などを総合的に評価する。											
<b>[教科書]</b>											
使用しない ハンドアウトの配布は、原則としてありません											
<b>[参考書等]</b>											
(参考書)											
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b>											
適宜指示する。											
遺伝カウンセリング演習2 (GC限定) (2)へ続く↓↓											

遺伝カウンセリング演習2 (GC限定) (3)											
<p>(その他 (オフィスアワー等))          ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>											

P-PUB01 8N009 PJ90											
授業科目名 遺伝カウンセリング実習1 (GC限定) <英訳> Genetic Counselling, Practice 1			担当者所属・職名・氏名 医学研究科 教授 小杉 真司								
担当 学年	専門職	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 通常不定	曜時限	その他	授業形態	実習	使用言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
【1. コースの概要】 遺伝カウンセリングの現場に同席し、その現状を体験とともに、予診の聴取（プレカウンセリング）、家系図の作成、電話フォローアップなどを実際のクライアントに対しておこなう。 担当者：小杉真司・和田敬仁・山田崇弘・川崎秀徳・玉置知子・三宅秀彦・山田重人・澤井英明・四本由郁・村上裕美・鳥嶋雅子・本田明夏 【2. 教育・学習方法】 実習（準備・プレカウンセリング・同席実習・症例記録作成・カンファレンスでの症例報告・討論・電話フォローアップ）。関連学会・セミナーに出席し、積極的に参加し、レポートをまとめる。 1月～3月は、「遺伝カウンセラー業務実習」として遺伝カウンセリング電話予約対応などの認定遺伝カウンセラー業務の実際についても実習する。											
<b>[到達目標]</b>											
クライアントへの適切な接し方を体得する。予診の聴取、家系図の作成が適切に可能となる。症例の問題点について、担当医らと討議できる。症例をまとめ、医学的・心理社会的・倫理的問題について文献を検索し、最新情報を入手できる。カンファレンスで、症例を提示し、討論を行なうことができる。関連する部局と適切な情報交換、連携が可能であり、チーム医療を実践できる。											
<b>[授業計画と内容]</b>											
<p><b>[遺伝カウンセリング実習]</b>          1年次の後半から遺伝カウンセリング実習を開始する。学生個人個人の知識、到達度や実習のavailabilityから判断して、実習の開始時期や頻度を決定する。2年間で60症例程度を経験する。ごく初期は同席のみであるが、できるだけ実際の遺伝カウンセリングに少しでも参加することが望まれる。そこで、予診や家系図作成などの初期インテーク（プレカウンセリング）を行う。個々のケースについて症例記録・ログブックを作成し、担当教員に確認の上、できるだけ早い（遅くとも1週間以内に）確定し、所定の場所に保存する。類型化シートも作成する。また、経験した症例をカンファレンスで発表し、討論する。1ケースあたり、（準備や検索を含めると）6時間程度が必要となる。家族性腫瘍、神経変性疾患、出生前診断・染色体異常、遺伝性難聴、眼科疾患、先天奇形、先天性代謝異常、その他、できるだけバラエティに富んだ疾患の症例の経験をするようにつづめる。          • 京都大学医学部附属病院遺伝子診療部（耳鼻科遺伝難聴外来含む）：月一金（コース全員で交代）          • 兵庫医科大学臨床遺伝部：火曜（1名）・高槻病院小児科・産婦人科（不定期）          遺伝カウンセリング後の電話フォローアップについては原則として遺伝カウンセラーコース院生が対応し、実質的なOJT(on the job training)、インターンシップを行う。          &lt;症例記録の書き方の注意：抜粋&gt;          1. ファイル名：カルテ番号+短い疾患名+受診日とする（例）999FAP120915          再診のときは、前回のものに追記したものに再診日と回数を記載。（例）999FAP1261013-2          2. 本文のタイトルの前にカルテ番号を入れる。          3. クライアント氏名は記載しないが、診療施設の名称などは全て実名記載する。          4. 時間（終了時間・所要時間）も入れる。          5. 家系図はパワーポイントで、別ファイルに。ファイル名は、上記のワードファイルと同じ。</p>											
遺伝カウンセリング実習1 (GC限定) (3)へ続く↓↓											

遺伝カウンセリング実習1 (GC限定) (2)											
<p><b>[学会・研修会への参加]</b>          より幅広い知識・経験を積むため、下記の学会・研修会等への参加は原則として2年間必修とする（経費は全て自己負担する）。学会発表、セミナーでの積極的な活動が奨励される。下記以外の学会・セミナーについても遺伝カウンセリングに関係の深いものについては参加を推奨する、また、これらの機会を利用し積極的な人脉作りを行うべきである。また、患者会・サポートグループなどへの積極的な参加することが勧められる。適宜情報を提供する。</p>											
<b>[履修要件]</b>											
遺伝カウンセラーコース限定必修（事前確定科目）1回生は「遺伝カウンセリング実習1」、2回生は「遺伝カウンセリング実習2」											
<b>[成績評価の方法・観点]</b>											
実習への積極的な参加などを総合的に評価する。											
<b>[教科書]</b>											
実際のクライアントに接した経験ほど重要な資源はない。											
<b>[参考書等]</b>											
(参考書)											
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b>											
<p><b>[2020年度の必須参加予定]</b> (変更ある場合はその都度連絡します)</p> <p>6/19(金)-20(土)日本遺伝性腫瘍学会＊シティプラザ大阪          7/3(金)-5(日)日本遺伝カウンセリング学会＊沖縄コンベンションセンター          8/21(金)-23(日)遺伝カウンセリング研修会(2回生のみ)金沢大学          9/11(金)-12(土)日本遺伝子診療学会＊トーキネットホール仙台          9/18(金)-20(日)遺伝医学セミナー三井ガーデンホテル千葉          11/19(木)-23(日)日本人類遺伝学会・全国遺伝子医療部門連絡会議＊ 名古屋国際会議場          1/30(土)-31(日)遺伝カウンセリングアドバンストセミナー(1回生のみ)郡山(星稜合病院)          (2020年度入学者が2回生になった際の参加学会・研修会は上記と同一ではありません。)          経費補助を受けて学会・セミナー等へ参加した場合は、レポートを提出すること。レポートはA4用紙で参加日数枚分目安とし、速やかに提出すること(最大1ヶ月以内)。また、これらのレポートについては、報告書として冊子化されることがあることを了解すること。2回生は＊のいずれかの学会一度は研究発表をおこなうことが望ましい。</p>											
<b>(その他 (オフィスアワー等))</b>											
クライアントのいかなる情報についても守秘を徹底すること。遺伝カウンセリング内容についての会話は、部外者のいるところではしないこと、内容を記したノート類は、部外者の目にふれないようにすること。ノートの貸し借りは禁止。守秘できない場合は、退学処分とする。											
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング P-PUB01 8N010 PJ90										
授業科目名 <英訳> 遺伝カウンセリング実習2 (GC限定) Genetic Counselling, Practice 2				担当者所属・ 職名・氏名 医学研究科 教授 小杉 真司						
配当 学年	専門職	単位数	4	開講年度・ 開講期	2020・ 通年不定	曜时限	その他	授業形態	実習	使用 言語
[授業の概要・目的]										
【I. コースの概要】 遺伝カウンセリングの現場に同席し、その現状を体験するとともに、予診の聴取（プレカウンセリング）、家系図の作成、電話フォローアップなどを実際のクライアントに対しておこなう。 担当者：小杉真司・和田敬仁・山田崇弘・川崎秀徳・玉置知子・三宅秀彦・山田重人・澤井英明・四本由郁・村上裕美・鳥嶋雅子・本田明夏 【II. 教育・学習方法】 実習（準備・プレカウンセリング・同席実習・症例記録作成・カンファレンスでの症例報告・討議・電話フォローアップ）。関連学会・セミナーに出席、積極的に参加し、レポートをまとめる。 1月～3月は、「遺伝カウンセラーカリキュラム」として遺伝カウンセリング電話予約対応などの認定遺伝カウンセラー業務の実際についても実習する。										
[到達目標]										
クライアントへの適切な接し方を体得する。予診の聴取、家系図の作成が適切に可能となる。症例の問題点について、担当医らと討議できる。症例をまとめ、医学的・心理社会的・倫理的問題について文献を検索し、最新情報を入手できる。カンファレンスで、症例を提示し、討論を行うことができる。関連する部局と適切な情報交換、連携が可能であり、チーム医療を実践できる。										
[授業計画と内容]										
【遺伝カウンセリング実習】 1年次の後半ころから遺伝カウンセリング実習を開始する。学生個人個人の知識・到達度や実習のavailabilityから判断して、実習の開始時期や頻度を決定する。2年間で60症例程度を経験する。ごく初期は同席のみであるが、できるだけ実際の遺伝カウンセリングに少しでも参加することが望まれる。そこで、予診や系図作成などの初期インテーク（プレカウンセリング）を行う。個々のケースについて症例記録・ログブックを作成し、担当教員に確認の上、できるだけ早く（遅くとも1週間以内に）確定し、所定の場所に保存する。類型化シートも作成する。また、経験した症例をカンファレンスで発表し、討論する。1ケースあたり、（準備や検索を含めると）6時間程度が必要となる。家族性腫瘍、神経変性疾患、出生前診断、染色体異常、遺伝性難聴、眼科疾患、先天奇形、先天性代謝異常、その他、できるだけバラエティに富んだ疾患の症例の経験をするようにつとめる。 ・京都大学医学部附属病院遺伝子診療部（耳鼻科遺伝難聴外来含む）：月一金（コース全員で交代） ・兵庫医科大学臨床遺伝部：火曜（1名）・高槻病院小児科・産婦人科（不定期） ・遺伝カウンセリング後の電話フォローアップについては原則として遺伝カウンセラーコース院生が対応し、実質的なOJT(on the job training)、インターンシップを行う。 <症例記録の書き方の注意：抜粋> 1. ファイル名：カルテ番号+短い疾患名+受診日とする（例）999FAP120915 再診のときは、前回のものに追記したものに再診日と回数を記載。（例）999FAP1261013-2 2. 本文のタイトルの前にカルテ番号を入れる。 3. クライアント氏名は記載しないが、診療施設の名称などは全て実名記載する。 4. 時間（終了時間、所要時間）も入れる。 5. 家系図はパワーポイントで、別ファイルに。ファイル名は、上記のワードファイルと同じ。										

遺伝カウンセリング実習2 (GC限定) (2)										
【学会・研修会への参加】 より幅広い知識・経験を積むため、下記の学会・研修会等への参加は原則として2年間必修とする（経費はできるだけサポートする）。学会発表、セミナーでの積極的な活動が奨励される。下記以外の学会・セミナーについても遺伝カウンセリングに関係の深いものについては参加を推奨する。また、これらの機会を利用し積極的な人脉作りを行うべきである。また、患者会・サポートグループなどへ積極的に参加することが勧められる。適宜情報を提供する。										
【履修要件】 遺伝カウンセラーコース限定必修（事前確定科目）1回生は「遺伝カウンセリング実習1」、2回生は「遺伝カウンセリング実習2」										
【成績評価の方法・観点】 実習への積極的な参加などを総合的に評価する。										
【教科書】 実際のクライアントに接した経験ほど重要な資源はない。										
【参考書等】 (参考書)										
【授業外学修（予習・復習）等】 【2020年度の必須参加予定】（変更ある場合はその都度連絡します） 6/19(金)-20(土)日本遺伝性腫瘍学会＊シティプラザ大阪 7/3(金)-5(日)日本遺伝カウンセリング学会＊沖縄コンベンションセンター 8/21(金)-23(日)遺伝カウンセリング研修会(2回生のみ)金沢大学 9/11(金)-12(土)日本遺伝子診療学会＊トーケネットホール仙台 9/18(金)-20(日)遺伝医学セミナー三井ガーデンホテル千葉 11/19(木)-23(日)日本人類遺伝学会・全国遺伝子医療部門連絡会議＊ 名古屋国際会議場 1/30(土)-31(日)遺伝カウンセリングアドバンストセミナー(1回生のみ)郡山(星合病院) (2020年度入学者が2回生になった際の参加学会・研修会は上記と同一ではありません。) 経費補助を受けて学会・セミナー等へ参加した場合は、レポートを提出すること。レポートはA4用紙で参加日数枚数分を目安とし、速やかに提出すること(最大1ヶ月以内)。また、これらのレポートについては、報告書として冊子化されることがあることを了解すること。2回生は＊のいずれかの学会で一度は研究発表をおこなうことが望ましい。										
【その他（オフィスアワー等）】 クライアントのいかなる情報についても守秘を徹底すること。遺伝カウンセリング内容についての会話は、部外者のいるところではしないこと、内容を記したノート類は、部外者の目にふれないようにすること。ノートの貸し借りは禁止。守秘できない場合は、退学処分とする。										

遺伝カウンセリング実習2 (GC限定) (3)										
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。										





## 臨床統計家育成(CB)コース

科目ナンバリング		P-PUB01 8H140 LB90									
授業科目名 <英訳>	臨床研究実地研修 I (CB限定) Clinical Research Training I					担当者所属・職名・氏名	医学研究科 特定教授 田中 司朗 附属病院 教授 森田 智視 附属病院 講師 魚住 篤史 附属病院 助教 阿部 寛康 附属病院 特定助教 中倉 章祥 国立循環器病研究センター 大前 勝弘 国立循環器病研究センター 朝倉 こう子				
	配当学年	専門職	単位数	2	開講年度・開講期	2020・通年集中	曜時限	集中講義	授業形態	実習	使用言語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
本研修の目的は、病院での実地研修を通して、臨床統計家育成コースの座学で習得した統計的考え方が現場でどのように応用されているかを実際に学ぶことです。そして、実際の体験・経験から、臨床試験における試験統計家の責務と役割を理解し、臨床試験の計画・実施・報告で試験統計家として必要となる基本的能力(態度、技能、知識)を習得することを目指します。											
研修は、京都大学医学部附属病院と国立循環器病研究センターの2箇所で行われます。受講者はあらかじめどちらの施設で研修されるかを選択ください。京都大学医学部附属病院での研修は、革新的な新医療技術（医薬品など）開発のための臨床試験の計画と実施に関する内容で主に構成されます。国立循環器病研究センターでの研修は、循環器疾患の医薬品や医療機器の臨床試験の計画と実施を中心とした内容で構成されます。研修内容の詳細はホームページに掲載します。											
<b>[到達目標]</b>											
* 臨床試験の計画と実施の過程、臨床試験の運営・実施体制、研究者・研究支援者、試験統計家などの責任範囲と役割などを理解する。 * 臨床試験実施計画書に記載すべき統計的事項を理解し、臨床試験実施計画書の作成に貢献できるための基本的知識と技術を習得する。 * 統計解析を適切に計画し、それらを実行し、結果を纏めることができたための基本的知識と技術を習得する。 * 臨床試験における研究倫理、利益相反、臨床試験における個人情報保護の基本的事項を理解し、信頼性の高い臨床試験の計画と実施に貢献できる。 * さまざまな説明の方法や手段を駆使し、臨床試験における統計的考え方を人にわかりやすく伝えができるような態度と方法を身につける。											
<b>[授業計画と内容]</b>											
京都大学医学部附属病院 7月から9月までの5日（1限～6限、8:45～19:45）で集中講義実習で実施します。											
1日目 1限 研修事前準備 2限 臨床統計家としての心構え1 3限 医学研究における倫理 4限 臨床検査データと検査部見学 5限 臨床統計家としての心構え2 6限 報告書作成・個別面談											
臨床研究実地研修 I (CB限定) (2)へ続く↓↓↓											

臨床研究実地研修 I (CB限定) (2)											
2日目 1限 研修事前準備 2限 モニタリング業務について 3限 シーズ開発について 4限 先端医療研究の現場 (CIRRA見学) 5限 統計コンサルティング業務 6限 報告書作成											
3日目 1限 研修事前準備 2限 医療イノベーションと知的財産 3限 臨床統計家としての心構え3 4限 iPSC細胞を用いた革新的医療技術の開発 5限 放射線診断と現場見学 6限 報告書作成											
4日目 1限 研修事前準備 2限 Translational Researchの歴史と将来性 3限 規制当局対応業務について 4限 プロジェクトマネジメント業務について 5限 統計コンサルティングの実践 6限 報告書作成											
5日目 1限 研修事前準備 2限 データマネジメント業務について 3限 臨床試験コーディネータ (CRC) の役割について 4限 治験業の管理体制の現場 5限 総括 (質疑応答) 6限 報告書作成・個別面談											
国立循環器病研究センター 合計6日間で実施します。7月～1月で実施します（1回90分）(9:30～11:00/11:15～12:45/13:45～15:00/15:15～17:00)											
1日目 第1回 研修概要説明・病院見学：研修の目的と内容 第2回 循環器疾患基礎①：不整脈の基礎 第3回 循環器疾患基礎②：心不全の基礎 第4回 医療機器研究開発：動物実験施設見学											
2日目 第5回 臨床試験立案①：臨床試験立案における基本的事項 第6回 臨床試験立案②：臨床試験立案における業務手順 第7回 ランダム化割付①：臨床試験におけるランダム化割付の役割											
臨床研究実地研修 I (CB限定) (3)へ続く↓↓↓											

臨床研究実地研修 I (CB限定) (3)											
第8回 ランダム化割付②：一般的なランダム化割付方法											
3日目 第9回 グループワーク：ランダム化割付システム演習① 第10回 グループワーク：ランダム化割付システム演習② 第11回 標本サイズ設計①：臨床試験における標本サイズ設計方法 第12回 標本サイズ設計①：臨床試験における標本サイズ設計手順											
4日目 第13回 グループワーク：標本サイズ設計演習① 第14回 グループワーク：標本サイズ設計演習② 第15回 統計解析計画書①：統計解析計画書に記載すべき基本的事項 第16回 統計解析計画書②：臨床試験の統計解析にかかる標準業務手順											
5日目 第17回 CRC患者同伴 第18回 CRC患者同伴 第19回 グループワーク⑥：ランダム化割付システム演習③ 第20回 グループワーク⑥：ランダム化割付システム演習④											
6日目 第21回 グループワーク⑦：標本サイズ設計演習③ 第22回 グループワーク⑧：標本サイズ設計演習④ 第23回 総合発表①：ランダム化割付システム演習成果報告 第24回 総合発表②：標本サイズ設計演習成果報告											
<b>[履修要件]</b>											
特になし											
<b>[成績評価の方法・観点]</b>											
実習にて作成する報告書または発表の内容に基づいて評価する。平常点（出席状況など）も考慮する。											
<b>[教科書]</b>											
使用しない											
<b>[参考書等]</b>											
(参考書)											
臨床研究実地研修 I (CB限定) (4)へ続く↓↓↓											

臨床研究実地研修 I (CB限定) (4)											
【授業外学修（予習・復習）等】											
実習中に指示する。											
（その他（オフィスアワー等））											
人間健康科学系専攻学生の受講可否： 不可											
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		P-PUB01 8H147 PB90									
授業科目名 <英訳>	臨床研究実地研修II (CB限定) Clinical Research Training II				担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 特定教授 田中 司朗 附属病院 教授 森田 智視 附属病院 講師 魚住 篤史 附属病院 助教 阿部 寛康 附属病院 特定助教 中倉 章祥 国立循環器病研究センター 大前 勝弘 国立循環器病研究センター 朝倉 こう子					
	配当年	1回生以上	単位数	2		開講年度・ 開講期	2020・ 通年集中	曜時限	集中講義	授業形態	使用言語
<b>【授業の概要・目的】</b>											
本研修の目的是、病院での実地研修を通して、臨床統計家育成コースの座学で習得した統計的考え方が現場でどのように応用されているかを実際に学ぶことです。そして、実際の体験・経験から、臨床試験における試験統計家の責務と役割を理解し、臨床試験の計画・実施・報告で試験統計家として必要とされる基本的能力(態度、技能、知識)を獲得することを目指します。なお臨床研究実地研修IIは、Iに続いて、より高度な内容を扱います。											
研修は、京都大学医学部附属病院と国立循環器病研究センターの2箇所で行われます。受講者はあらかじめどちらの施設で研修されるかを選択ください。京都大学医学部附属病院での研修は、革新的な新医療技術（医薬品など）開発のための臨床試験の計画と実施に関する内容で主に構成されます。国立循環器病研究センターでの研修は、循環器疾患の医薬品や医療機器の臨床試験の計画と実施を中心とした内容で構成されます。研修内容の詳細はホームページに掲載します。											
<b>【到達目標】</b>											
* 臨床試験の計画と実施の過程、臨床試験の運営・実施体制、研究者・研究支援者、試験統計家などの責任範囲と役割などを理解する。 * 臨床試験実施計画書に記載すべき統計的事項を理解し、臨床試験実施計画書の作成に貢献できるための基本的知識と技術を習得する。 * 統計解析を適切に計画し、それらを実行し、結果を纏めることができための基本的知識と技術を習得する。 * 臨床試験における研究倫理、利益相反、臨床試験における個人情報保護の基本的事項を理解し、信頼性の高い臨床試験の計画と実施に貢献できる。 * さまざまな説明の方法や手段を駆使し、臨床試験における統計的考え方を人にわかりやすく伝えることができるような態度と方法を身につける。											
<b>【授業計画と内容】</b>											
京都大学医学部附属病院 7月から9月(予定)までの5日(1限~6限、8:45~19:45)で集中講義実習で実施します。											
1日目 1限 研修事前準備 2限 事前課題発表・ディスカッション 3限 標準業務手順書について 4限 臨床家による実際の臨床試験紹介 5~6限 プロトコル作成とデータベース構築実習											
臨床研究実地研修II (CB限定) (2)へ続く↓↓											

臨床研究実地研修II (CB限定) (2)										
2日目 1限 研修事前準備 2限 データベース実習結果の発表・ディスカッション 3~6限 統計解析計画実習										
3日目 1限 研修事前準備 2限 統計解析計画発表・ディスカッション 3限 SASプログラム実習 4限 統計解析結果の品質保証 5~6限 統計解析実習										
4日目 1限 研修事前準備 2限 総括報告書について 3限 臨床試験の論文報告書実習 4~6限 統計解析報告実習										
5日目 1~4限 統計解析報告発表・ディスカッション 5限 総括 (質疑応答) 6限 報告書作成										
6日目 合計6日間で実施します。7月~9月で実施します(1回90分)(9:30~11:00/11:15~12:45/13:45~15:00/15:15~17:00)。										
7日目 第1回 研修概要説明・新病院見学：研修の目的と内容 第2回 循環器疾患基礎①：脳血管疾患の基礎 第3回 循環器疾患基礎②：脳神経疾患の基礎 第4回 倫理・患者同意										
8日目 第5回 統計解析①：統計解析における基本的事項 第6回 統計解析②：統計解析における業務手順 第7回 統計解析報告書・総括報告書・論文公表 第8回 統計解析相談・臨床研究相談										
9日目 第9回 臨床試験のデータマネジメント：データマネジメントの基礎 第10回 臨床試験のデータマネジメント：データマネジメント業務手順 第11回 グループワーク①：データマネジメント演習① 第12回 グループワーク②：データマネジメント演習②										
10日目 第13回 グループワーク③：データマネジメント演習③										
臨床研究実地研修II (CB限定) (3)へ続く↓↓										

臨床研究実地研修II (CB限定) (3)										
第14回 グループワーク④：データマネジメント演習④ 第15回 グループワーク⑤：統計解析演習① 第16回 グループワーク⑥：統計解析演習②										
5日目 第17回 臨床試験のモニタリング 第18回 臨床試験のモニタリング見学 第19回 グループワーク⑦：統計解析演習③ 第20回 グループワーク⑧：統計解析演習④										
6日目 第21回 グループワーク⑨：統計解析演習⑤ 第22回 グループワーク⑩：統計解析演習⑥ 第23回 総合発表①：データマネジメント演習成果報告 第24回 総合発表②：統計解析演習成果報告										
<b>【履修要件】</b> 臨床研究実地研修Iを修了していること										
<b>【成績評価の方法・観点】</b> 実習にて作成する報告書または発表の内容に基づいて評価する。平常点(出席状況など)も考慮する。										
<b>【教科書】</b> 使用しない										
<b>【参考書等】</b> (参考書) 実習中に指示する。										
<b>【授業外学修（予習・復習）等】</b> 実習中に指示する。										
(その他（オフィスアワー等）) 人間健康科学系専攻学生の受講可否： 不可										
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。										

臨床統計家の実務スキル (CB限定) (2)																				
担当者所属・ 職名・氏名																				
医学研究科 教授 佐藤 正哉 医学研究科 助教 大宮 將義 医学研究科 特定助教 今井 徹																				
配当年	専門職	単位数	1	開講年度・ 開講期	2020・ 前期	曜時限	月3	授業形態	実習	使用言語										
<b>【授業の概要・目的】</b>	臨床統計家の実務において最低限必要となる統計プログラミングの知識を学び、プログラミング、簡単な集計及び解析の実習を行います。また、後期開講の統計科目で行うプログラミングの準備も兼ねています。統計ソフトウェアは主にSASを使用し、Rも一部で使用します。																			
<b>【パワーポイントスライドによる講義と実習】</b>																				
<b>【到達目標】</b>																				
統計ソフトウェアのプログラミングを学ぶことで、以下ができるようになる ・解析に適したデータセットの作成 ・単純集計、簡単な図表の作成 ・基本的な統計解析 ・絶対測定データ解析の基礎 ・生存時間解析の基礎																				
<b>【授業計画と内容】</b>																				
第1回 4月13日 3限 SAS入門 (土居) 第2回 4月20日 3限 基本統計量の算出および簡単な作図 (土居) 第3回 4月27日 3限 相関と回帰 (土居) 第4回 5月11日 3限 SASによるデータハンドリング1 (土居) 第5回 5月18日 3限 SASによるデータハンドリング2 (土居) 第6回 5月25日 3限 SAS実習 (大宮、土居、今井) 第7回 6月1日 3限 t検定とWilcoxonの順位和検定 (土居) 第8回 6月8日 3限 制割の算出およびロジスティック回帰 (土居) 第9回 6月15日 3限 一般線形モデル (土居) 第10回 6月22日 3限 経時データの解析1 (土居) 第11回 6月29日 3限 経時データの解析2 (土居) 第12回 7月6日 3限 生存時間解析1 (土居) 第13回 7月13日 3限 生存時間解析2 (土居) 第14回 7月20日 3限 R基礎 (土居、大宮、今井)																				
臨床統計家の実務スキル (CB限定) (3)へ続く↓↓																				

臨床統計家の実務スキル（CB限定）(2)
<b>[履修要件]</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床統計家育成コースの学生さんに限定します</li> <li>・統計ソフトウェアSAS、Rをインストールしたノートパソコンを持参してください</li> </ul>
<b>[成績評価の方法・観点]</b> 平常点およびレポート
<b>[教科書]</b> 教科書は使用しませんが、指定参考書の購入を強く推奨します。
<b>[参考書等]</b> <p>(参考書) 高浪洋平、舟尾暢男(2015)『統計解析ソフト「SAS」』（カットシステム）ISBN:978-4-87783-503-3（【指定参考書】購入を強く推奨します） 舟尾暢男(2016)『The R Tips 第3版: データ解析環境Rの基本技・グラフィックス活用集』（株式会社オーム社）ISBN:978-4-274-21958-0 船渡川伊久子、船渡川隆(2015)『経時データ解析』（朝倉書店）ISBN: 978-4254128550（※「統計モデルとその応用」の参考資料にもなります。） 大橋靖雄、浜田知久馬、魚住龍史(2016)『生存時間解析[応用編] SASによる生物統計』（東京大学出版会）ISBN: 978-4130623179（※「生存時間解析」の参考資料にもなります。）</p>
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b> プログラムの習得にはかなりの時間がかかります。後期の講義で役立つ内容ですので、特に復習に時間をかけ、たくさんのプログラムを書いてください。
<b>(その他（オフィスアワー等）)</b> ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		P-PUB01 8H144 SB90									
授業科目名 <英訳>	統計的推測の基礎・演習（CB限定） Practicum in Fundamentals of Statistical Inference										担当者所属・ 職名・氏名
配当年 I回生以上	単位数 1	開講年度・ 開講期	2020・ 前期	曜时限	木5・6	授業形態	演習	使用言語	日本語及び英語		
<b>[授業の概要・目的]</b> この授業では、「統計的推測の基礎」の講義内容を中心に、統計関連科目を学ぶ上で、その基礎となる事項に関連した演習問題に取り組む。「統計的推測の基礎」の講義進捗に合わせて、前半では統計的推測全般に係る基礎事項の演習問題に取り組み、後半では統計的推測（推定・仮説検定・信頼区間）の具体的な演習問題に取り組む。 この授業の全体を通じての目的は、「統計的推測の基礎」で扱う各テーマの具体的な問題を通じての理解および定着と、それらを通じて得られる統計的推測の基本的な考え方を身に付けることである。前半の演習では、統計関連科目を学ぶ上で必要な計算能力を身につけ、後半の演習では、臨床統計学が応用される現実的な問題に取り組むことで、統計的推測がどのように用いられるかを知り、その有用性を理解する。 受講生のバックグラウンドは様々であると想定されるため、多くの教員を配置し、各受講生の進捗に合わせて演習を進めます。											
<b>[授業形式]</b> （6月4日まで6限、11日からは5限に開講）											
<b>[到達目標]</b> ・統計的推測法および関連する統計手法に必要な技術を理解し、応用することができる ・基本的な統計量の意味や性質を理解し、それらを自らの手で計算することができます ・統計的推測の基本事項が、実際の臨床研究等のどのような場面で必要になるかを理解し、応用上重要な基本的な問題を解くことができる											
<b>[授業計画と内容]</b> 第1回 4月9日 基礎数学の確認と確率の計算 第2回 4月16日 離散型確率変数の基本的な性質 第3回 4月23日 連続型確率変数の基本的な性質 第4回 4月30日 複数の確率変数I 第5回 5月14日 複数の確率変数II 第6回 5月21日 正規標本に関する確率分布 第7回 5月28日 統計的推定の基本事項 第8回 6月 4日 統計的仮説検定の基本事項I 第9回 6月11日 統計的仮説検定の基本事項II 第10回 6月18日 線型回帰分析の基礎 第11回 6月25日 線型回帰分析の基礎II 第12回 7月 2日 漸近の方法の基本事項（極限定理、最尤法とその性質） 第13回 7月 9日 漸近の方法の基本事項II（最尤法に基づく検定） 第14回 7月16日 漸近の方法の基本事項III（デルタ法、最尤法以外の推定法など）											
統計的推測の基礎・演習（CB限定）(2)へ続く↓↓											

統計的推測の基礎・演習（CB限定）(2)
<b>[履修要件]</b> 臨床統計家育成コース限定科目です
<b>[成績評価の方法・観点]</b> 毎回、演習問題の解答を提出してもらい、その内容に応じて成績評価を行います
<b>[教科書]</b> 個々の進捗に合わせて、演習中に紹介します
<b>[参考書等]</b> <p>(参考書) 個々の進捗に合わせて、演習中に紹介します</p>
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b> ・同日に開催される「統計的推測の基礎」と合わせて履修することで、予習は必要ありません。ただし、微積分や線形代数等の基本的な計算技術に不安があるときは、教員と相談しながら、各自勉強を進めてください。 ・解けなかった問題に関しては、演習中もしくは演習後に教員に質問し、解決した上で必ず反復演習を行ってください。一度解けた問題でも、期間をおいて再度取り組んでください
<b>(その他（オフィスアワー等）)</b> ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		P-PUB01 8H146 LB90									
授業科目名 <英訳>	メタアナリシス Meta-analysis										担当者所属・ 職名・氏名
配当年 I回生以上	単位数 1	開講年度・ 開講期	2020・ 通年集中	曜时限	集中講義	授業形態	演習	使用言語	日本語及び英語		
<b>[授業の概要・目的]</b> 系統的レビューのための統計手法であるメタアナリシスについて、教科書「新版メタ・アナリシス入門」に沿って講義・実習を行う。CB選択、MPH選択。											
<b>[到達目標]</b> ・STATAを用いてメタアナリシスを行う技術を身につける。											
<b>[授業計画と内容]</b> ・講義形式と実習形式、実習は統計ソフトウェアSTATAを用いたデータ解析を行うため、各自でPCを用意すること。STATAのインストールについては、第1回で説明する。実習のアシスタントは、臨床統計スタッフが行う。 第1回 8月6日3限 メタアナリシスの代表的な方法（3～6章）（丸尾） 第2回 8月6日4限 メタアナリシスの代表的な方法（3～6章）（田中） 第3回 8月7日3限 メタアナリシスの代表的な方法（3～6章）（田中） 第4回 8月7日4限 メタアナリシスの代表的な方法（3～6章）（田中） 第5回 8月14日3限 多変量・ネットワークメタアナリシス（7章、9～10章）（田中） 第6回 8月14日4限 多変量・ネットワークメタアナリシス（7章、9～10章）（田中）											
<b>[履修要件]</b> 特になし											
<b>[成績評価の方法・観点]</b> 平常点（50%）、レポート（50%）											
<b>[教科書]</b> 丹後俊郎『新版メタ・アナリシス入門—エビデンスの統合をめざす統計手法—』（朝倉書店）ISBN:425412760X											
<b>[参考書等]</b> (参考書)											
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b> STATAの基本的な使用法を理解しておくとスムーズに実習に取り組める。											
<b>(その他（オフィスアワー等）)</b> 人間健康科学系専攻学生の受講可否： 不可											
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											





## 知的財産経営学プログラム

科目ナンバリング P-PUB01 8M001 LJ90										
授業科目名 <英訳>	アントレプレナーシップ Entrepreneurship			担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 特任教授 寺西 豊 医学研究科 特定教授 鈴木 忍 医学研究科 特定講師 山口 太郎 非常勤講師 吉川 友貞 非常勤講師 四本 賢一					
	配当年	専門職	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 前期不定	曜時限	月 6	授業形態	講義
<b>[授業の概要・目的]</b>										
コースの概要										
・前半では、汎用性が高い経営管理手法の習得に力点を置く。講義とケーススタディ演習を組み合わせ、アントレプレナーに必要な思考様式と基本的な経営管理手法の習得に費やす。										
・後半では、講義とワークショップ（ビジネスプランもしくはビジネスコンセプトの作成を中心）を組み合わせた構成とする。講義では、バイオ・医療産業セクターの産業構造の特徴や最新トピックについても触れる。										
・年度ごとに重点テーマを変えているが、本年度はデザイン思考とビジネスモデル及びベンチャーの事業開発の手法の2点である。前者については、デザイン思考に基づくビジネスモデル作成のスキルを習得する。後者については、ベンチャー固有の資金調達手法（含：VCからの調達、公的金融機関、リース、産業ファイナンス等）と事業計画作成スキルを、講義と演習を通じて身につけてもらいたい。										
<b>教育・学習方法</b>										
・本講座は、講義、ケーススタディ演習、ワークショップから構成される。ケーススタディ演習とワークショップに関しては、小グループによるプレゼンテーションがある。										
<b>[到達目標]</b>										
・コースで習得した思考様式・経営管理手法・業界関連知識を活用することにより、医療系起業家としてのスキルを習得する。										
・これにより、事業シーズ探索から事業開発計画の立案まで出来る能力を獲得する。										
・のような人材を当講座から輩出し、起業家と研究者との両面の資質を備えた人材を育成し、事業化成功の確率向上に寄与することが、本講座の最終目的である。										
<b>[授業計画と内容]</b>										
第1回 4月13日ガイダンス／アントレプレナーシップ、デザイン思考										
第2回 4月20日ビジネスモデルの類型と収益構造、顧客戦略										
第3回 4月27日最適なビジネスモデルの選択と戦略（エスノグラフィー）										
第4回 5月11日ショートケース演習（損益計算書の活用）										
第5回 5月18日財務諸表の読み方（外部講師）										
第6回 5月25日会社設立に関する法務・会計・税務（外部講師）										
第7回 6月1日個人のビジネスアイデア発表										
第8回 6月8日資金調達（外部講師）										
第9回 6月15日サイエンスカフェ方式のアイデアの展開（チームアップ）										
第10回 6月22日中間発表										
第11回 6月29日バイオベンチャーの歩み（外部講師）										
アントレプレナーシップ(2)へ続く↓↓↓										

アントレプレナーシップ(2)										
第12回 7月6日新規事業展開（外部講師）										
第13回 7月13日产学連携活動の現状と大学発ベンチャー										
第14回 7月20日ビジネスモデルコンペ発表										
第15回 7月20日ビジネスモデルコンペ発表										
※14回、15回は日程の都合により、同日（7月20日）に行う予定です。 ※外部講師の都合等で日程変更の可能性あり。										
<b>[履修要件]</b>										
知財必修・MPH選択										
<b>[成績評価の方法・観点]</b>										
以下の3点を総合的に勘案して評価する。 ①平常点（出席を含む）、発言頻度（ケーススタディ演習によるプレゼンテーション、ディスカッションへの積極的参加等） ②チームワーク ③ビジネスモデル発表（orレポート提出）										
<b>[教科書]</b>										
必須テキスト：なし。講師が作成したPPT資料で代用。その他、適時講義中に参考資料を提示										
推薦テキスト： 「バイオデザイン」ステファノス・ゼニオス、ジョシュ・マコーワー、その他（薬事日報社） 「コーポレートファイナンス第6版上・下」リチャード・ブリーリー、スチュワート・マイヤーズ（日経BP社） 「ビジネスモデル・ジェネレーション：ビジネスモデル設計書」アレックス・オスター・ワルダー（翔泳社） 「リーン・スタートアップ」エリック・リース（日経BP社）										
<b>[参考書等]</b>										
(参考書) 授業中に紹介する										
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b>										
ビジネスモデル作成にあたり、担当チームでの検討作業が必須となる。										
<b>(その他（オフィスアワー等）)</b>										
・タイトな講義内容ですが、合理的なカリキュラムを練っております。單なる知識の習得と言いうよりも、ビジネス社会で通じる実践的な思考を習得出来るよう工夫しています。 ・17年度受講者が講義内で作成したビジネスモデルを基本としたものが、日刊工業新聞主催のビジネスコンペへ入賞。また、23年度受講者のビジネスモデルは、大阪商工会議所・大阪NPOセンター等が主催する「CBフォーラムおおさか2011」での事業紹介として取り上げられ、大阪NPOセンターの事業化支援対象事業となりました。										
アントレプレナーシップ(3)へ続く↓↓↓										

アントレプレナーシップ(3)										
アントレプレナーシップ(3)										
<b>科目ナンバリング</b> P-PUB01 8M026 LJ90										
<b>授業科目名</b> メディカル分野技術経営学概論 Introduction to Technology Management in Medical Science										
担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 山本 博一 医学研究科 特定講師 池田 隆文									
配当年	専門職	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 前期不定	曜時限	木 6	授業形態	講義	使用言語
<b>[授業の概要・目的]</b>										
近年、様々な新しい技術の出現と医療領域への応用が進み、医療関連産業には、医薬品・医療機器産業といった従来のカテゴリーを超えた新しいビジネスモデルの登場など、大きな変化が生じている。本授業では、医薬品（新薬）及び医療機器の研究・開発・標準化・特許、ライセンス、産業連携、バイオベンチャーなどの基礎を学ぶとともに、これら新しい流れについてその概略を学ぶ。学内の講師とともに、医療産業や大学、行政で活躍されている方を複数外部講師として招へじし、現実の活動に触ることにより、医療産業の開発プロセスを支える最新技術・戦略・組織について講義を行う。										
医薬品及び医療機器、再生医療産業には、ライフサイエンスの最先端の研究成果のみならず、行政の觀点、倫理の觀点から見た課題解決や、ベンチャーや産業連携組織の構築など、様々な分野の研究の成果が集積している。また、新しいビジネスモデルの登場とともに、従来の枠を超えたオープンイノベーションの枠組みが重要となってきている。医療産業に興味のある多様な専門性を持つた受講生が、産業の全体像を理解し、自らの専門性が本産業において果たす役割と重要性を理解できることを目的とする。										
<b>[到達目標]</b>										
上記を通して、医療関連産業の最近の動向を学ぶとともに、同産業に必要とされる技術・ビジネス、また大学の研究成果の移転、大学発ベンチャー創出などの基礎知識を持ち、医療関連ビジネスにかかる基礎的な能力を得る。研究者を目指すのであれば、自身の研究の産業化、技術移転に必要な要素を学び、企業との共同研究の企画などの参考となる事象を理解できる。										
<b>[授業計画と内容]</b>										
第1回 4月9日 本講座の概要										
第2回 4月16日 医薬品開発の基礎I										
第3回 4月23日 医薬品開発の基礎II										
第4回 4月30日 医療産業における国際標準化の重要性										
第5回 5月7日 医療機器の業事規制について										
第6回 5月14日 医療とAI										
第7回 5月21日 バイオベンチャーの役割										
第8回 5月28日 医薬品産業におけるモダリティの多様性について										
第9回 6月4日 デジタルヘルスと医薬品産業										
第10回 6月11日 抗体医薬										
第11回 6月25日 個別化医療と製薬企業										
第12回 7月2日 米国のベンチャーキャピタルの動向										
第13回 7月9日 創業におけるオープンイノベーション（1）										
第14回 7月16日 創業におけるオープンイノベーション（2）										
第15回 7月30日 医療産業の研究開発における課題と将来										
＊外部講師の都合により日程変更等の可能性があります。										
メディカル分野技術経営学概論(2)へ続いて↓↓↓										

メディカル分野技術経営学概論 (2)
<b>【履修要件】</b> 知財必修・MPH選択 医療関連産業に興味をお持ちの方はどなたでも受講可能です。
<b>【成績評価の方法・観点】</b> 平常点（出席を含む）、発表とレポートにより総合的に評価する。
<b>【教科書】</b> 使用しない
<b>【参考書等】</b> <b>（参考書）</b> 授業中に紹介する
<b>【授業外学修（予習・復習）等】</b> 適宜予習復習を求める
<b>（その他（オフィスアワー等））</b> 前半（1回から5回）はLIMS（知財経営&国際標準化）、2回から3回は創薬医学との共通講義となります。 人間健康科学系専攻学生の受講可否：可 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング P-PUB01 8M024 SJ90								
授業科目名 特許法特論・演習（前期） ~英訳~ Special Lecture and Practicum for the Patent Law I	担当者所属・職名・氏名		非常勤講師 藤井 淳					
配当年 学年 専門職 単位数 2 開講年度・開講期 2020・前期不定曜時限 水 6 授業形態 特論 使用言語 日本語								
<b>【授業の概要・目的】</b>								
I. コースの概要 製造メーカーのほか、大学を含む研究機関において有効な知財戦略を構築する上で、研究者の知財に関する意識、知識の習得が必要不可欠となっている。つまり、知財戦略を進めるに際しては、知財担当者任せでは不十分であり、発明内容に精通した発明者（研究者）によるサポートも必要不可欠である。 特に、ライフサイエンス分野（医薬、化学等を含む）では、実験データの存在意義が極めて大きく、その取り扱いのいかんによって知財戦略の明暗を分けることが多い。 そこで、当講座では、特許法の基本的事項に加え、研究者が必要最小限知っておくべき特許実務の解説を行う。								
II. 学習到達目標（このコース終了時までに習得が期待できること） ・一般的な特許実務に加え、化学・バイオ系分野に特有の特許実務を理解し、研究機関・企業における事業活動等を有効にプロテクトするために必要な特許の基礎知識を身に付ける。 ・弁理士、特許庁審査官・審判官等の知財専門家と円滑な意思疎通を図るために必要な最低限の知識を習得する。								
III. 教育・学習方法 ・パワーポイント資料、WEB資料を中心とした講義 ・各自の事前学習を含む事例資料を使用した事例紹介								
<b>【到達目標】</b> 一般的な特許実務に加え、化学・バイオ系分野に特有の特許実務を理解し、研究機関・企業における事業活動等を有効にプロテクトするために必要な特許の基礎知識を身に付ける。 さらに、弁理士、特許庁審査官・審判官等の知財専門家と円滑な意思疎通を図るために必要な最低限の知識を習得する。								
<b>【授業計画と内容】</b> 4月8日 第1回 特許法概要：特許制度の原理、特許戦略のあり方 4月15日 第2回 発明のカテゴリーと特許権の効力、化学・バイオ特許で多用される特殊なクレーム表現形式（用途発明、プロダクトバイプロセス、ファンクションクレーム）の特許性及び権利範囲の考え方 4月22日 第3回 特許特許法上の発明とは：化学・バイオにおける発明と発見との区別、作用機序の発見と特許性、日本における治療方法の取扱い、再生医療関連の発明の取扱い、臨床研究における成果物の取扱い 5月13日 第4回 記載要件(1)：明細書の記載、実施可能要件、実施例の記載（実験データの取扱い：実験データの量と質の問題、測定条件の特定、医薬発明と薬理データ、官能評価のあり方、市販材料の特定、実験データの記載方法等） ----- 特許法特論・演習（前期）(2)へ続く↓↓↓								

特許法特論・演習（前期）(2)
<b>【参考書等】</b> （参考書） 授業中に紹介する
<b>【授業外学修（予習・復習）等】</b> 上記の配布予定の特許庁テキストの「第1節 特許制度の概要」等の該当箇所を一読してください。
<b>（その他（オフィスアワー等））</b> ・本講座と併せて知的財産経営学基礎を受講することを推奨します。
人間健康科学系専攻学生の受講可否：可 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

特許法特論・演習（前期）(3)
<b>【参考書等】</b> （参考書） 授業中に紹介する
<b>【授業外学修（予習・復習）等】</b> 上記の配布予定の特許庁テキストの「第1節 特許制度の概要」等の該当箇所を一読してください。
<b>（その他（オフィスアワー等））</b> ・本講座と併せて知的財産経営学基礎を受講することを推奨します。
人間健康科学系専攻学生の受講可否：可 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング P-PUB01 8M025 SJ90										
授業科目名 特許法特論・演習（後期） <英訳> Special lecture and practicum for the Patent Law II				担当者所属・職名・氏名 非常勤講師 田中 順也						
学年	専門職	単位数	2	開講年度・開講期	2020・後期不定	曜時限	水 6	授業形態	特論	使用言語
<b>[授業の概要・目的]</b>										
授業の概要 ・化学・バイオ系（ライフサイエンス）の分野を中心として、研究成果である発明の抽出から特許出願、さらには特許権取得に至るまでの特許実務について演習を交えて学習する。特に、特許調査及び特許性の判断、実験データ等に基づく明細書（発明説明書）の作成、事例研究について具体例を題材として特許戦略の実務について理解する。										
教育・学習方法 ・パワーポイント資料を中心にした講義ならびに実例を使った演習 ・各自の事前学習を含む事例資料を使用したケース研究講義										
<b>[到達目標]</b>										
学習到達目標（このコース終了時までに習得が期待できること） 個人学習・研究を含む演習を通じて、特許戦略の実務について理解を深め、その実務に最低限必要な基礎知識・能力を身に付ける。										
<b>[授業計画と内容]</b>										
第1回 1月 7日 特許明細書の読み方と書き方(1)：実際の特許明細書を参照して特許明細書の読み方と書き方を解説 第2回 1月14日 特許明細書の読み方と書き方(2)：実際の特許明細書を参照して特許明細書の読み方と書き方を解説 第3回 1月21日 特許明細書（発明説明書）の作成（1）：模擬的な実験データ及び発明完成までのシナリオに基づく発明の本質部分の抽出と整理 第4回 1月28日 特許明細書（発明説明書）の作成（2）：模擬的な実験データ及び発明完成までのシナリオに基づく発明の本質部分の抽出と整理 第5回 1月4日 特許明細書（発明説明書）の作成（3）：模擬的な実験データ及び発明完成までのシナリオに基づく発明の本質部分の抽出と整理 第6回 1月11日 特許明細書（発明説明書）の作成（4）：模擬的な実験データ及び発明完成までのシナリオに基づく発明の本質部分の抽出と整理 第7回 1月18日 ライフサイエンス分野における特許のポイント(1) 第8回 1月25日 特許明細書の分析(1)：特許明細書を分析し、プレゼンテーション・議論する。 第9回 1月22日 特許調査及び特許性の判断(1)：1つの特許公開公報を選び、特許調査及び特許性の判断を行い、プレゼンテーション・議論する。 第10回 1月 9日 特許調査及び特許性の判断(2)：1つの特許公開公報を選び、特許調査及び特許性の判断を行い、プレゼンテーション・議論する。 第11回 1月16日 ライフサイエンス分野における特許のポイント(2) 第12回 1月 6日 事例研究(1)：バイオ・化学関連の審決取消訴訟の事例を題材として、個人学習・プレゼンテーションを踏まえて議論する。										
-----特許法特論・演習（後期）(2)へ続く↓↓-----										

特許法特論・演習（後期）(2)										
第13回 1月13日 事例研究(2)：バイオ・化学関連の審決取消訴訟の事例を題材として、個人学習・プレゼンテーションを踏まえて議論する。										
第14回 1月20日 ライフサイエンス分野における特許戦略上の実務ポイント(2)										
第15回 1月27日 事例研究(3)：バイオ・化学関連の審決取消訴訟の事例を題材として、個人学習・プレゼンテーションを踏まえて議論する。										
<b>[履修要件]</b>										
知財必修・MPH選択 事前に履修することが推奨される科目：「特許法特論・演習（前期）」										
<b>[成績評価の方法・観点]</b>										
レポート（課題に対するプレゼンテーション）、ケース研究への参加を総合的に評価する。										
<b>[教科書]</b>										
必須テキスト：なし。最低限必要な資料は講義にて配布する。 推奨テキスト： ・特許の知識（竹田和彦著 ダイヤモンド社） ・産業財産権標準テキスト特許編（発明協会） ・知的財産権法文集（発明協会）										
<b>[参考書等]</b>										
（参考書）										
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b>										
特許公報、裁判例等を題材としてた課題について、授業で発表してもらうため、授業前に事例研究を十分に行なうことが必要となる。										
<b>（その他（オフィスアワー等））</b>										
・特許実務について演習を交えて学習します。不安な方は初回に相談して下さい。 ・特許に関する基礎的知識がない方は、事前に特許法特論・演習（前期）を履修して下さい。										
人間健康科学系専攻学生の受講可否：可										
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。										

科目ナンバリング P-PUB01 8M004 SJ90										
授業科目名 契約実務演習 <英訳> Business Contract Practice				担当者所属・職名・氏名 医学研究科 特任教授 阿部 誠二 非常勤講師 宗定 勇 医学研究科 特定教授 早乙女 周子						
学年	専門職	単位数	2	開講年度・開講期	2020・後期不定	曜時限	火 6	授業形態	演習	使用言語
<b>[授業の概要・目的]</b>										
コースの概要 知的財産の保護、運用、移転といった実務の各場面において、より効果的なマネジメント、紛争発生の回避、あるいは紛争解決のために、契約法の基本的理解に基づいた契約能力が要求される。										
本講義では、契約法の基礎、リーガルリサーチの方法、独占禁止法の概要および共同研究契約、特許実施許諾契約などにおける留意点や契約交渉の基礎的技術等を創薬分野の事例に基づいて学ぶ。										
教育・学習方法 講義および演習参加										
<b>[到達目標]</b>										
・契約法の基礎を理解する ・契約のポイントを交渉から契約締結までの流れとともに理解する ・簡単な契約書を作成することができる										
<b>[授業計画と内容]</b>										
第1回（阿部） 10月 6日 契約法概説 第2回（宗定） 10月 13日 知的資本経営と契約 第3回（阿部） 10月 20日 独占禁止法 第4回（阿部） 10月 27日 契約と特許 第5回（阿部） 11月 10日 秘密保持契約 第6回（阿部） 11月 17日 MTA (Material Transfer Agreement) 第7回（早乙女） 11月 24日 リーガル・サーチ 第8回（早乙女） 12月 1日 交渉術 第9回（阿部） 1月 8日 共同研究開発契約（1） 第10回（阿部） 1月 15日 共同研究開発契約（2） 第11回（阿部） 1月 22日 共同研究開発契約（3） 第12回（阿部） 1月 5日 特許実施許諾契約（1） 第13回（阿部） 1月 12日 特許実施許諾契約（2） 第14回（阿部） 1月 19日 契約交渉演習（1） 第15回（阿部） 1月 26日 契約交渉演習（2）										
※外部講師の都合等で日程変更の可能性あり。										
-----契約実務演習(2)へ続く↓↓-----										

契約実務演習(2)										
[履修要件]										
知財必修・MPH選択 事前或いは同時に履修することが推奨される科目：知的財産経営学基礎、特許法特論・演習										
<b>[成績評価の方法・観点]</b>										
平常点（出席を含む）、課題の提出、演習への参加、発表										
<b>[教科書]</b>										
必須テキスト：なし。資料等は教員より提供する 推奨テキスト： ・「知っておきたい特許契約の基礎知識」独立行政法人工業所有権情報 報・研修館http://www.ipit.go.jp/										
<b>[参考書等]</b>										
（参考書） 授業中に紹介する										
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b>										
適宜指示する										
<b>（その他（オフィスアワー等））</b>										
人間健康科学系専攻学生の受講可否：可（事前に連絡してください）										
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。										

科目ナンバリング P-PUB01 8M007 SJ90											
授業科目名 知的財産法演習 <英訳> Practicum for Intellectual Properties Protection Law			担当者所属・職名・氏名		非常勤講師 當麻 博文 非常勤講師 宗定 勇						
配当年	専門職	単位数	2	開講年度・開講期	2020・後期不定	曜時間	月 6	授業形態	講義	使用言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
I. コースの概要 ・化学・バイオ系（ライフサイエンス）分野における知的財産が我が国において、どのように保護、活用されているのかを裁判例等を踏まえつつ概観し、その現状、論点等について学習する。 ・過去の判決例からそのエッセンスや傾向を分析し、知的財産を適切に保護および活用するために必要な基本的な方法論を学ぶ。 ・ライフサイエンス分野における知的財産を取り巻く現状についても、併せて学習する。											
<b>[到達目標]</b>											
II. 学習到達目標（このコース終了時までに習得が期待できること） ・過去の重要判決例の主要論点を分析し、論理的にその意義を理解すると共に、具体的な事例演習を通して知的財産を適切に保護する実務能力を身に付ける。 ・判決例からそのエッセンスや近時の傾向を学ぶことにより、ライフケイエンス分野特有の知的財産の保護および活用方法についての実践力を身に付ける。 ・ライフケイエンス分野に関する知的財産を取り巻く現状について理解を深める。											
<b>III. 教育・学習方法</b> ・パワーポイント資料を中心にした講義、および事例資料を使用した討議や演習を通じて理解を深める。											
<b>[授業計画と内容]</b>											
第1回 1月 5日ガイダンス、総論 第2回 1月 5日発明者認定の重要性について 第3回 1月12日宗定先生：知的資本経営を目指して 第4回 1月19日熊谷先生：審判の役割について 第5回 1月26日審決・判決の読み方 審判制度 第6回 1月27日審決取消訴訟（新規性、進歩性） 第7回 1月 9日審決取消訴訟（進歩性） 第8回 1月16日審決取消訴訟（記載要件、補正、訂正） 第9回 1月16日事例研究（進歩性）（発表、討論） 第10回 1月30日審決取消訴訟（存続期間延長登録出願） 第11回 12月 7日特許権侵害訴訟（1）：特許権の効力、特許発明の技術的範囲 第12回 12月 14日特許権侵害訴訟（2）：均等論、抗弁等 第13回 12月14日特許権侵害訴訟（3）：間接侵害等 第14回 1月18日事例研究（侵害訴訟）（発表、討論） 第15回 1月25日熊谷先生：特許制度全般について 試験なし											
※外部講師の都合等で日程変更等の可能性あり。											
----- 知的財産法演習(2)へ続く ↓↓↓ -----											

知的財産法演習(2)										
[履修要件]										
知財必修・MPH選択 特許法上の実務に関する基礎知識（特許要件、審査基準等）を有していることが望ましい。 事前あるいは同時に履修することが推奨される科目：「特許法論・演習（前期、後期）」										
[成績評価の方法・観点]										
平常点（出席を含む）、および課題レポートの提出により、総合的に評価する。										
[教科書]										
必須テキスト：なし。必要な資料等は講義にて配布する。 推奨テキスト：別冊ジュリスト 特許判例百選 第5版 [No.244] (2019年8月発行)										
[参考書等]										
(参考書) 授業中に紹介する										
[授業外学修（予習・復習）等]										
講義で紹介する予定の判決例を予習し、争点を把握しておく。										
[その他（オフィスアワー等）]										
・化学・バイオ等についての高度な専門知識は要しない（技術内容については必要に応じて適宜説明する）。 ・講義予定は、暫定的なものであり、変更があり得るため、注意のこと。 ・10月5日、11月16日及び12月14日は、5限及び6限の連続講義となる予定です。										
人間健康科学系専攻学生の受講可否：可										
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。										

科目ナンバリング P-PUB01 8M017 LJ90											
授業科目名 知的財産経営学 基礎 <英訳> Intellectual Property Management in Medical Science			担当者所属・職名・氏名		医学研究科 特定教授 早乙女 周子 非常勤講師 藤井 淳 非常勤講師 田中 順也						
配当年	専門職	単位数	2	開講年度・開講期	2020・前期不定	曜時間	火 6	授業形態	講義	使用言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
・ライフケイエンス分野の産学連携活動のニーズや事例、留意点を学習する。 ・研究成果を知的財産として保護するために、必要な特許制度の基礎的な知識を学習する。 ・実験ノートの書き方やマテリアルの入手・提供、共同研究について知的財産の観点からの留意点を学習する。 ・発明概要説明書作成の実習を通じて、研究成果を広く保護するためにはどのように発明を記載すべきかを学習する。 ・講義形式を主とし、実習や小グループによる演習も通じて理解を深める。											
<b>[到達目標]</b>											
・各自の研究生活において、他人の権利の侵害行為の回避、自身の研究成果の権利確保と活用に関して、自己の判断で問題点を整理し、専門家の助言を適時に得ながら円滑に進めていくことのできる能力が得られる。 ・自らの発明を実に知的財産として確保できるようになる。 ・特許の企業へのライセンスや共同研究契約締結を容易に進められるようになる。 ・研究マテリアルの入手や提供がスムーズに行えるようになる。											
<b>[授業計画と内容]</b>											
第1回 4月 14日イントロダクション（早乙女） 講義の内容、ねらいの確認 第2回 4月21日知的財産とは（藤井） 知的財産権・特許制度の概要、特許戦略の基本、職務発明の基礎知識 第3回 4月28日特許の実務ポイント（藤井） 発明と発見、作用機序の取扱い、医療関連発明、実験データの取扱い 第4回 5月12日特許明細書の基礎（田中） 特許明細書の構成、内容 第5回 5月19日先行技術調査の手法（早乙女） 特許出願の検索方法 第6回 5月26日外国特許戦略（藤井） 外国出願の方法・コスト、出願国の決め方 第7回 6月2日先行技術調査課題の解説、他者の権利侵害回避、試験研究の例外について（早乙女） 第8回 6月9日 MTAについて（早乙女） 研究マテリアルの価値、入手、提供、管理システム 第9回 6月16日共同研究（早乙女） 共同研究契約のポイント、各種研究関連契約の基礎 第10回 6月23日実験ノート（早乙女） 実験ノートの扱い、研究発表と特許出願 第11回 6月30日 大学の知の権利化ケース研究【1】（早乙女） 医学発明の例を用いて、小グループで発明概要書を作成 第12回 7月7日 ライフケイエンス特許に関するトピックスI（早乙女） 第13回 7月14日 ライフケイエンス特許に関するトピックスII（早乙女） 第14回 7月21日大学の知の権利化ケース研究【2】（田中） グループ発表、解説 第15回 7月28日技術移転（早乙女） 技術移転、特許のライセンス、TLOの機能、利益相反 ----- 知的財産経営学 基礎(2)へ続く ↓↓↓ -----											

知的財産経営学 基礎(2)										
[履修要件]										
知財選択・MPH選択										
[成績評価の方法・観点]										
平常点（出席を含む：配分 40%）、発表とレポート（配分 60%）により、総合的に評価する。										
[教科書]										
特に無し。必要な資料は講義にて配布する。										
[参考書等]										
(参考書) 飼戸 康一『これから生命化学研究者のためのバイオ特許入門講座』（羊土社）ISBN:4897063590 廣瀬 隆行『企業人・大学人のための知的財産権入門 一特許権を中心』（東京化学同人）ISBN:4807907565										
[授業外学修（予習・復習）等]										
推奨テキストにより、適宜予習復習すること。										
[その他（オフィスアワー等）]										
・知的財産について興味がある学生ならどなたでも受講できます。 ・積極的な質問、討議を歓迎します。										
人間健康科学系専攻学生の受講可否：可										
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。										

科目ナンバリング P-PUB01 8M021 LJ90										
授業科目名 <英訳>	アントレプレナーシップ特論 Special Lecture for Entrepreneurship			担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 特定教授 早乙女 周子 医学研究科 特任教授 寺西 豊 医学研究科 特定講師 山口 太郎 経営管理大学院 特定助教 市原 勇一					
配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 前期集中	曜时限	集中講義	授業形態	特論	使用 言語
<b>[授業の概要・目的]</b>										
<ul style="list-style-type: none"> <li>製造業のビジネスゲームを通じて、管理会計の基礎について学習する。</li> <li>ビジネスゲームでは製造設備（工場）、原材料の購入、従業員の雇用、商品の生産、販売までを行なう。各行動の費用、売上を記帳し、12ヶ月が経過したところで貸借対照表（B/S）及び損益計算書（P/L）を作成し、経常利益を算出する。</li> <li>経営の疑似体験を通じて、経営戦略の検討、ビジネスモデルの構築及び会計の基礎知識を習得する。</li> <li>経済の専門知識がなくても作成できる財務諸表作成シートを使用することにより、学生のバックグラウンドによらず、会計の基礎知識を習得することができる。さらに、ゲームを通じた演習により、実践的な会計の知識を習得することができる。</li> </ul>										
<b>[到達目標]</b>										
経営の疑似体験を通じて、ビジネスに必要な会計の知識を実践的に習得する。 そのことにより、実際にアントレプレナーとして起業する際に、事業を成功に導くことができるようなビジネスモデルの構築、予算管理を行うことができる。										
<b>[授業計画と内容]</b>										
第1回 8月4日導入講義 第2回 8月4日ビジネスゲームルールの説明 第3回 8月4日ビジネスゲームデモ 第4~6回 8月5日ビジネスゲーム I~III 第7回 8月5日管理会計 第8回 8月5日 投資と企業経営 第9~12回 8月6日ビジネスゲームIV~VII 第13回 8月6日ビジネスゲーム発表資料作成 第14回 8月7日ベンチャーエコノミーの実際 第15回 8月7日ビジネスゲーム経営結果の発表と振り返り										
<b>[履修要件]</b>										
知財選択・MPH選択 ビジネスゲームは2名1チームで行なうため、全講義出席可能であることを必須条件とします。 本講義は演習科目ですので、講義で必要な管理会計の知識はアントレプレナーシップを受講して、予め習得しておいてください。										
-----アントレプレナーシップ特論(2)へ続く-----										

アントレプレナーシップ特論(2)										
<b>[成績評価の方法・観点]</b>										
平常点（出席を含む：配分 40%）、発表とレポート（配分 60%）により、総合的に評価する。										
<b>[教科書]</b>										
必須テキスト：無し。必要な資料は講義にて配布する。										
<b>[参考書等]</b>										
(参考書)										
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b>										
アントレプレナーシップの講義内容、特にビジネスモデル、会計に関する内容について理解しておくこと。 講義開始前にビジネスゲームのルールのDVDを視聴し、ルールブックも配布するので、ビジネスゲームのルールをよく理解しておくこと。										
<b>(その他（オフィスアワー等）)</b>										
人間健康科学系専攻学生の受講可否：可										
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。										





# **FY2020 Syllabi for Master Course**

**Kyoto University School of Public Health**

**NB.** The English translation is a courtesy translation and please always refer to the Japanese version, which remains the official version.

# **Mission and educational program of the Kyoto University School of Public Health**

(<http://sph.med.kyoto-u.ac.jp/>)

## **1. Mission of the school**

The mission of the Kyoto University School of Public Health (KUSPH) is to improve people's health and welfare through the following activities and through their interactions between medical science and healthcare, as well as society and the environment.

### **○ Teaching**

Providing education of broad disciplines to help students to be specialists and/or leaders in healthcare, policy making, research, and education of public health.

### **○ Research**

Creating new knowledge and skills through deep understanding of the economic, environmental, behavioral, and social factors affecting people's health.

### **○ Translating Research into Practice and Policy**

Disseminating research outputs to practical programs and policies related to the health and medical care in society.

### **○ Professional Practice**

Contributing to improving health at multiple levels (individual, organizational, regional, national, and global) through specialized knowledge and skills.

Health-related problems cover broad issues. In order to face the challenges in health and to meet students' diverse interests, the school offers a wide range of classes promoting education and research taught by faculty with diverse background including biostatistics, epidemiology, genome epidemiology, environmental science, healthcare economics and quality management, health promotion and behavioral science, AIDS and infectious diseases, and health policy and international health.

## **2. Educational Programs**

The school consists of a two-year Professional Degree Course (=Master Course) for practitioners and a three-year Doctoral Course for researchers and educators. Students should take the classes of the Core Area 1 (2 classes) and 2 (1 class), and at least one class from the Core Area 3-5 depending on the credit requirement of core educational program for each Course (Master course 10 credits and doctor course 7 credits).

Categories	Code	Title	Organizer	Credits	Remarks
Core Area 1	H118000	Epidemiology I	Prof. Nakayama	1	Required
	H119000	Epidemiology II	Lec. Fukuhara	1	Required
Core Area 2	H001000	Biostatistics	Prof. Sato	2	Required
Core Area 3	H070000	Infectious Disease Epidemiology	Prof. Furukawa	1	
	H124000	Occupational health and environmental health sciences	Assoc. Prof. Harada	1	
Core Area 4	H125000	Healthcare System and Policy	Prof. Imanaka	1	
	H128000	Healthcare Systems and Policies around the World	Prof. Imanaka	1	
	H126000	Economic Evaluation in Health Care	Prof. Imanaka	1	
	H127000	Health Policy and Academia	HPA steering committee	2	
	H109000	Drug Policy and Regulation	Prof. Kawakami	1	2nd semester
Core Area 5	H075000	Behavioral Science	Assoc. Prof. Watanabe	1	
	H076000	Basic Medical Ethics	Prof. Kosugi	1	
	H077000	Medical Communication (Basic)	Assoc. Prof. Iwakuma	1	

- Please refer to URL: <http://sph.med.kyoto-u.ac.jp/syllabus.html> for additional classes available from other schools within Kyoto University. These courses cannot be counted towards credits necessary for completion of the Master's program.

## 2-1. Standard educational program for the MPH (Professional Degree) Course

For the “Masters of Public Health (MPH [Professional Degree])” be awarded, students are required to enroll for at least two years in the MPH Course, earning 30 of the below listed credits, and complete the determined educational curriculum for this course. However, the maximum number of classes can be registered in one year or in one semester in principle is 42 credits.

Category of classes	For students with medical background*	For students without medical background
Core Areas (All 5 areas should be included) <sup>a</sup>	10	10
Mandatory (Basic Medicine I <sup>b</sup> , II, Introduction to Clinical Medicine) <sup>c</sup>	—	6
Task research**	4	4
Elective	16	10
Total	30	30

<sup>a</sup> Earning more than 10 credit hours from Core Area classes will be counted toward 'elective' category credits.

<sup>b</sup> Basic Medicine I will not be offered after FY2020, so the credit of Basic Medicine I (Anatomy), Basic Medicine I (Physiology I), or Basic Medicine I (Neurophysiology I) will be counted alternatively.

<sup>c</sup> The credit earned by students with medial background will not be counted towards the requirement of 30 credits for the completion of an MPH degree.

- \* Students with medical background including graduates of medicine, nursing, dentistry, pharmacy (6-year course) and other medical departments. Students who are graduates of the departments other than the above and wish to be recognized as those with medical background must obtain a permission authorized by the school.
- \*\* **Task research:** Students will choose the most appropriate department for their research topic, receive mentoring for developing a research question and research protocol, data collection and analysis, and interpretation of the results. At the end of the program, students are required to present their research projects completed. Students are allowed to deliver such presentation only if they are expected to complete their graduate course in the same academic year as the one in which the said presentations are planned to be conducted.
- \*\*\* Accreditation of completed credits: Up to 10 credits can be accredited if you have completed courses in other graduate schools which correspond with Core Areas 1 through 5. If you want accreditation, you need to submit the necessary papers upon entrance into MPH.

### **Special courses and programs**

The following special courses and programs are available in the MPH course. Due to the differences in admission examination system, course changes are not allowed.

#### Special courses

- Master of Public Health 1-Year Course
- Master of Clinical Research Course
- Genetic Counselor Course
- Clinical Biostatistics Course

#### Special programs

- Management of Technology and Intellectual Property Program
- Young Leader Program for Healthcare Management
- Genome Informatician Program

### **2-2. MPH-DrPH Course**

This is a special program which starts from 2010 that allows students to proceed to the DrPH Course after graduating from MPH Course in one year. Applicants should meet one of the following criteria; 1. have a master degree other than MPH from this school, 2. Medical or dental doctor with clinical practice experience of 2 years or more.

Applicants who wish to proceed to the Doctor Course immediately after the Master Course, meet the above criteria, AND exhibit excellent performance in the entrance exam and course work, are reviewed by the Education Affair Committee for qualification and accepted for this Course if they fulfill the credit requirement for Master Course AND pass the entrance exam to the Doctor Course.

Students who wish to be reviewed for qualification should get (or expected to get) 8 or more credits of the Core Area classes AND submit an application form, form stating the reasons for application, and recommendation letter from the potential mentor. Applicants having a master degree other than MPH from this school should show a copy of the master degree diploma and the applicants who are medical or dental doctors should show the documents certifying the clinical practice experience of 2 years or more. Application should be submitted to the Registration Office by Friday, August 7<sup>th</sup> (Applicants should contact the Office of

Student Affairs before submitting the application.)

If the applicant does not proceed to the Doctor Course after passing the exam, MPH degree will not be provided.

Note: Research protocol is not mandatory but could be attached to the recommendation letter.

### **2-3. Educational program for Doctoral Course**

For a “Doctorate in Public Health (**DrPH or PhD**)” be awarded, students are required to enroll for the course for three years or more, receive mentoring for research, meet the following credit requirement, submit a doctoral paper, and pass the review and examination.

However, the maximum number of classes can be registered in one year or in one semester in principle is 42 credits.

Categories		For students who are not the graduates of KUSPH		For KUSPH graduates
		For students with medical background*	For students without medical background	
Seminar for doctor course students		6	6	6
Master course program	Core (5 areas)	7 The classes of Core Area 1 (2 classes) and 2, and at least one class from the Core Area 3-5	7 The classes of Core Area 1 (2 classes) and 2, and at least one class from the Core Area 3-5	—
	Mandatory (3 classes**)	—	6	—
Total		13	19	6

\* Students with medical background include graduates of medicine, nursing, dentistry, pharmacy (6-year course) and other medical departments. Students who are graduates of the departments other than above and wish to be recognized as those with medical background are required to apply after admission.

\*\* 3 classes include Basic Medicine I, Basic Medicine II and Introduction to Clinical Medicine. Basic Medicine I will not be offered after FY2020, so the credit of Basic Medicine I (Anatomy), Basic Medicine I (Physiology I), or Basic Medicine I (Neurophysiology I) will be counted alternatively.

Accreditation of completed credits: Up to 7 credits can be accredited if you have completed courses in other graduate schools which correspond with Core Areas 1 through 5. If you want accreditation, you need to submit the necessary papers upon entrance into DrPH.

## Curriculum for Master degree program in the fiscal year of FY2020

Category of classes	Code	Title	Semester		Organizer	Credits	Remarks	English syllabus	Level
			1st	2nd					
Core Area 1 (mandatory)	H118	Epidemiology I	●*		Prof. Nakayama	1	Required	●	B
Core Area 2 (mandatory)	H119	Epidemiology II	●1		Lec. Fukuhara	1	Required	●	B
Core Area 3 (at least one class)	H001	Fundamentals of Biostatistics	●		Prof. Sato	2	Required	●	B
Core Area 4 (at least one class)	H070	Infectious Disease Epidemiology	●*		Prof. Furukawa	1		●	B
	H124	Occupational health and environmental health sciences	●1		Assoc. Prof. Harada	1		●	B
	H125	Healthcare System and Policy	●2		Prof. Imanaka	1		●	B
	H127	Health Policy and Academia	●		Prof. Imanaka	2		●	B
	H109	Drug Policy and Regulation	●1		Prof. Kawakami	1		●	I
	H126	Economic Evaluation in Health Care	●1		Prof. Imanaka	1	Non-Japanese or TOEFL iBT ≥ 100	●	I
	H128	Healthcare Systems and Policies around the World	●1		Prof. Imanaka	1		●	I
Core Area 5 (at least one class)	H075	Behavioral Science	●1		Assoc. Prof. Watanabe	1		●	B
Mandatory	H076	Basic Medical Ethics	●1		Prof. Kosugi	1		●	B
	H077	Medical Communication: Introduction	●1		Assoc. Prof. Iwakuma	1		●	B
	H153	Basic Medicine I (Anatomy)	●		Prof. Kosugi	2	Choose one of them: mandatory for students without medical background. Elective for those with medical background.	●	B
	H154	Basic Medicine I (Physiology I)	●		Prof. Kosugi	2		●	B
	H155	Basic Medicine I (Neurophysiology I)	●		Prof. Kosugi	2		●	B
	H007	Basic Medicine II	●		Prof. Ueshima and Lec. Kawata	2	Mandatory for students without medical background. Elective for those with medical background.	●	B
	H008	Introduction to Clinical Medicine	●		Lec. Watanabe, Lec. Chiba	2		●	B
	Task Research		2nd year	Mentors in each Department	4	See annex table	-	-	-
Elective	H009	Socio-epidemiology I	●		Prof. Furukawa	2		●	A
	H011	Introduction to Statistical Computing and Data Managements	●		Prof. Sato	2		●	I
	H084	Statistical Methods for Observational Studies	●*		Prof. Sato	2		●	A
	H093	Literature Research	●1		Assoc. Prof. Takahashi	1		●	B
	H094	Critical Appraisal	●2		Prof. Nakayama	1		●	B
	H115	Methods of Health Science Research	●*		Prof. Nakayama	1		●	B

Category of classes	Code	Title	Semester		Organizer	Credits	Remarks	English syllabus	Level
			1st	2nd					
Elective	H129	Evaluation of Quality in Health Care	●2		Prof. Imanaka	1		●	1
	H148	Introduction to Toxicology	●		Assoc. Prof. Harada	2		●	B
	H103	Medical Sociology	●2		Assoc. Prof. Iwakuma	1		●	B
	S004	Statistical Genetics I	●*		Prof. Yamada	2		●	1
	H112	Clinical Trial Methodology	●		Prof. S. Tanaka	2		●	1
	H134	Statisticians Standard of Conducts	●		Prof. Sato	1		●	A
	H143	Designing Health communication	Int*		Prof. Nakayama	1		●	A
	H136	Fundamentals of Statistical Inference	●		Prof. Sato	2		●	1
	H137	Survival Analysis	Int		Prof. Sato	1		●	A
	H138	Statistical Modeling and Applications	Int		Prof. Sato	1		●	A
	H142	Medical Doctors in Government and Occupational Settings	Int		Prof. Imanaka	2		●	A
	H145	Multiplicity in clinical trials	●1		Assoc. Prof. Doi	1		●	1
	M001	Entrepreneurship	●		Prof. Teranishi	2	TMMS	●	B
	M026	Introduction to Technology Management in Medical Science	●		Prof. Yamamoto	2	TMMS	●	B
	M017	Intellectual Property Management in Medical Science	●		Prof. Saotome	2	TMMS	●	B
	M021	Special Lecture for Entrepreneurship	Int		Prof. Saotome	2	TMMS	●	A
	M024	Special Lecture and Practicum for the Patent Law I	●		Lec. Fujii	2	TMMS	●	B
	N015	Genetic Medicine, Ethics and Society	●*		Prof. Kosugi	2	GC	●	B
	H040	Introduction to Human Genetics	●		Prof. Kosugi	2	GC	●	B
	N021	Clinical Genetics and Genetic Counselling	●*		Prof. Kosugi	3	GC	●	B
	N017	Special Seminar for Genetic Medicine	Int		Prof. Kosugi	2	GC, 2nd year students	●	A
	H019	Socio-epidemiology II	●		Prof. Nakayama	2		●	A
	H020	Field Medicine	●		Assoc. Prof. Sakamoto	2		●	B
	H021	Intermediate Biostatistics	●		Assoc. Prof. Doi	2		●	1
	H022	Health Data Processing Laboratory	●		Assoc. Prof. Doi	2		●	A

Category of classes	Code	Title	Semester		Organizer	Credits	Remarks	English syllabus	Level
			1st	2nd					
Elective	H133	Health, Medical and Welfare System	●1	Assoc. Prof. Satonura	2			●	B
	H028	International Health	●2	Assoc. Prof. Satonura	2			●	B
	H149	Toxicology	●	Assoc. Prof. Harada	2			●	I
	H032	On the Bench Training Course	●	Assoc. Prof. Harada	2			●	A
	H099	Development strategy, plan, and regulatory affairs of drugs and medical devices	●	Prof. Kawakami	2			●	A
	H079	Drug Development, Evaluation and Regulatory Science	●2	Prof. Kawakami	1			●	I
	M004	Practicum for Contract Business	●	Prof. Abe	2	TMMS		●	B
	M007	Practicum for Intellectual Properties Protection Law	●	Lec. Toma	2	TMMS		●	I
	M025	Special lecture and practicum for the Patent Law II	●	Lec. J. Tanaka	2	TMMS		●	I
	M022	Genome Science and Medicine	●	Prof. Matsuda	2			●	A
Restricted for special programs	N018	Practicum for Medical Ethics	●	Prof. Kosugi	2	GC		●	A
	S005	Statistical Genetics II	●*	Prof. Yamada	2			●	I
	H130	Health informatics I	●	Prof. Nakayama	2			●	I
	H151	Health informatics II	●*	Assoc. Prof. Takahashi	2			●	I
	H098	Applied Medical Communication	●	Assoc. Prof. Iwakuma	2			●	I
	H132	Introduction to EBM: How to use evidence in your daily life	●*	Prof. Furukawa	2			●	B
	H150	Behavioral Economics in Health and Care	●2	Prof. Imanaka	1			●	B
	H152	Environment and Infection	●	Prof. Yamazaki	2			●	I
	H156	Introduction to Qualitative Research	●2	Prof. Nakayama	1			●	A
	H135	Statistical Methods in Clinical Trials	●2	Prof. S. Tanaka	1			●	A
Restricted for special programs	H063	Fieldwork	Int	Assoc. Prof. Tabara	2			●	I
	H061	Field Training for Public Health Practice	Int	Mentors in each Department	1-2	Internship		●	-
	Z203	Global health	●	Prof. Nakayama	2			●	
	H082	Healthcare Management Special Curriculum I	Int	Prof. Imanaka	2	YLP		●	A
	H083	Healthcare Management Special Curriculum II	Int	Prof. Imanaka	2	YLP		●	A
Restricted for special programs	H053	Case Studies in Healthcare Management	Int	Prof. Imanaka	2	YLP		●	A

Category of classes	Code	Title	Semester		Organizer	Credits	Remarks	English syllabus	Level
			1 <sup>st</sup>	2 <sup>nd</sup>					
Restricted for special programs	K026	Seminar in Study Design I	●		Prof. Kawakami	1	MCR	●	A
	K028	Special Seminar in Study Design I	●		Assoc. Prof. Yamamoto	1	MCR	●	A
	K030	Economic Evaluation of Medical Technologies	●1		Prof. Inanaka	1	MCR	●	A
	K027	Seminar in Study Design II	●		Prof. Kawakami	1	MCR	●	A
	K029	Special Seminar in Study Design II	●		Assoc. Prof. Yamamoto	1	MCR	●	A
	K020	Special lectures on EBM and clinical practice guidelines	●		Prof. Nakayama	1	MCR	●	A
	K025	Data management for Clinical Research	●		Assoc. Prof. Takeuchi	1	MCR and CB	●	A
	K034	Clinical research advanced	●1		Prof. Iwami	2	MCR	●	A
	K016	Systematic Reviews	●*		Assoc. Prof. Watanabe	2	MCR	●	A
	K033	Special Seminar of Data Analysis	●2		Assoc. Prof. Yamamoto	1	MCR	●	I
	N022	Practicum for Human Genetics	●		Prof. Kosugi	1	GC		A
	N006	Practicum for Clinical Genetics	●*		Prof. Kosugi	1	GC		A
	N020	Communication for Genetic Counselors	●*		Prof. Kosugi	3	GC		B
	N007	Practicum for Medical Ethics 1	●		Prof. Kosugi	2	GC		B
	N008	Practicum for Medical Ethics 2	●		Prof. Kosugi	2	GC		A
	N009	Practice of Genetic Counseling 2	●		Prof. Kosugi	2	GC		B
	N010	Practice of Genetic Counseling 2	●		Prof. Kosugi	4	GC		A
	H139	Practical Skills for Clinical Biostatisticians	●		Assoc. Prof. Doi	1	CB	●	B
	H144	Practicum in Fundamentals of Statistical Inference	●*		Prof. Sato	1	CB	●	I
	H146	Meta-analysis	Int		Prof. S. Tanaka	1	CB and MCR	●	A
	H140	Clinical Research Training I	Int		Prof. S. Tanaka	2	CB	●	A
	H147	Clinical Research Training II	Int		Prof. S. Tanaka	2	CB	●	A

- MCR, Master Program for Clinical Research; TMMS, Dept. of Technology Management in Medical Science; GC, Genetic Counseling Course; YLP, Young Leader Program; , Global Health Interdisciplinary Unit; CB, Clinical Biostatistics.
- Please refer the following correspondence table about the closed classes.
- Be careful on class days marked with \* in the semester column.
- Level of classes means as follows. B: Basic, no prior knowledge required. I: Intermediate, some prior knowledge and experience required. A: Advanced, applicable to practice and research in society.

**Correspondence Table.**

<b>Code</b>	<b>Classes</b>	<b>Closed classes until FY2019</b>
H124	Occupational health and environmental health sciences	Environmental Health
H126	Economic Evaluation in Health Care	Quality and Economic Evaluation in Health Care
H129	Evaluation of Quality in Health Care	
H125	Healthcare System and Policy	Policy and Management in Health Care I
H127	Health Policy and Academia	Health Policy and Administration
H130	Health Informatics I	Health Informatics
H151	Health Informatics II	Introduction to e-health
M026	Introduction to Technology Management in Medical Science	Introduction to Technology Management
H133	Health, Medical and Welfare System	Health Policy
H118	Epidemiology I	Epidemiology
H119	Epidemiology II	Epidemiology
K026	Seminar in Study Design I	Epidemiology
K027	Seminar in Study Design II	Epidemiology
S004	Statistical Genetics I	Informatics I for genetic epidemiology, Statistical Genetics I, Introductory Omics-Statistics I, Introductory Genetics-Statistics I
S005	Statistical Genetics II	Informatics II for genetic epidemiology, Statistical Genetics II, Introductory Omics-Statistics II, Introductory Genetics-Statistics II
H153	Basic Medicine I (Anatomy)	Basic Medicine I
H154	Basic Medicine I (Physiology I)	Basic Medicine I
H155	Basic Medicine I (Neurophysiology I)	Basic Medicine I

- These classes will be considered equivalent.

**Annex table. Codes for Task Research and Doctor Course Seminars**

Departments	Task research (for Professional Degree Course student)	Department code	Doctor Course Seminar (for Doctor course students)
Biostatistics	I001	J001	
Healthcare epidemiology	I002	J002	
Pharmaco-epidemiology	I003	J003	
Genome epidemiology	I004	J004	
Healthcare economics	I005	J005	
Medical ethics	I006	J006	
Health informatics	I007	J007	
Medical communication	I016	J016	
Health and environmental sciences	I009	J009	
Health promotion and behavioral science	I010	J010	
Preventive medicine	I011	J011	
Socio-epidemiology	I012	J012	
Health policy and international health	I013	J013	
Ecology with Emphasis on the Environment	I014	J014	
Field Medicine	I015	J015	
Management of Technology and Intellectual Property	M018		
Genetic Counselor Course	N901		
Clinical Biostatistics Course	I017		

◇ Curriculum of MPH Course for the First Semester of FY2020

		Mon	Tue	Wed	Thu	Fri
1 8:45~10:15	[MPH Elective] Introduction to EBM: How to use evidence to EBM: How daily life (Check syllabus for lecture start date) Prof. Furukawa [B]	[Core areas, Required and elective] (First half of the first semester) Assoc. Prof. Watanabe [A]	[MPH Elective] Observational Epidemiology (second half of the first semester) Prof. Iwakuma [Practicum room]	[GC Restricted (Required)] Communication for Genetic Counselors (Check syllabus for lecture start date) Prof. Kosugi [Practicum room]	[STIPS Course] Research Methods for Policy A Prof. Kawakami	[MPH Elective] Observational Epidemiology (second half of the first semester) Prof. Furukawa [B]
2 10:30~12:00	[MCR Restricted (Elective)] Fundamentals of Biostatistics Prof. Sato [A]	[Core areas, Required] Healthcare Systems and Policies around the World (First half of the first semester) Prof. Imanaka [C/D]	[Core areas, Required and Elective] Healthcare System and Policy (Second half of the first semester) Prof. Imanaka [C/D]	[MPH Elective] [GC Required] Occupational and Environmental Health (First half of the first semester) Assoc. Prof. Harada [Frontier]	[Core areas, Required] Environmental Health (First half of the first semester) Assoc. Prof. Harada [Frontier]	[MPH Elective] Epidemiology II (first half of the first semester) Lec. Furukawa [A]
3 13:00~14:30	[MPH Elective] [MCR Elective] [GC Elective] Socio-epidemiology 1 Prof. Furukawa [Frontier] (First half of the first semester)	[CB Restricted] Practical Skills for Clinical Biostatisticians Assoc. Prof. Doi [Practicum room]	[Core areas, Required and Elective] Economics in Health Care (Second half of the first semester) Prof. Imanaka [C/D]	[MPH Elective] [GC Required] Introduction to Human Genetics Prof. Kosugi [Practicum room]	[STIPS Course] Research Methods for Policy Prof. Kawakami	[MPH Elective] [Core areas, Required and Elective] Health Policy and Academia HPA steering committee [A]
4 14:45~16:15	[MPH Elective] [GC Elective] Basic Medicine 1 (Physiology) Prof. Furukawa [Frontier] (First half of the first semester)	[MCR Elective] [MCR Required] Critical Appraisal (Second half of the first semester) Prof. Nakayama [A]	[Core areas, Required and Elective] Evaluation of Medical Technologies (Second half of the first semester) Prof. Imanaka [C/D]	[MPH Elective] Evaluation of Quality in Health Care Prof. Kosugi [School of Human Health Sciences Room No.9]	[MCR restricted] Special Seminar in Study Design 1 Assoc. Prof. Yamamoto [B]	[MPH Elective] [Core areas, Required] Statistical Inference Prof. Sato [Practicum room]
5 16:30~18:00	[MCR Restricted (Required)] Seminar in Study Design 1 Prof. Kawakami [B]	[MPH Elective] Medical Sociology (Second half of the first semester) Assoc. Prof. Iwakuma [Practicum room]	[Core areas, Required and Elective] Medical Communication: Introduction (First half of the first semester) Assoc. Prof. Iwakuma [Practicum room]	[MPH Elective] [GC Required] Clinical Trials Prof. S. Tanaka [A]	[GC Restricted (Required)] Practicum in Fundamentals of Statistical Inference (Second half of the first semester) Prof. Sato [Practicum room]	[MPH Elective] [Core areas, Required] Basic Medical Ethics (First half of the first semester) Prof. Kosugi [A]
6 18:45~19:45	[MCR Restricted (Elective)] Special Seminar of Data Analysis Assoc. Prof. Yamamoto [Practicum room]	[MPH Elective] Entrepreneurship Prof. Imanishi [B]	[MPH Elective] Intellectual Property Management in Medical Science Prof. Saitome [B]	[MPH Elective] [GC Required] Special Lecture and Practicum for the Patent Law I Lec. Fujii [B]	[GC Restricted] Practicum in Fundamentals of Statistical Inference (First half of the first semester) Prof. Sato [Practicum room]	[MPH Elective] [Core areas, Required] Introduction to Technology Management in Medical Science Prof. Yamamoto [B]

\*The credit earned by students with media background will not be counted towards the requirement of 30 credits for the completion of an MPH degree.

[Frontier] : Seminar room on the 1st floor of the Frontier Bldg.  
 [A] : Seminar room A on the 2nd floor of the G Bldg.  
 [B] : Seminar room B on the 2nd floor of the G Bldg.  
 [C/D] : Seminar room C/D on the 2nd floor of the G Bldg.  
 [Practicum room] : Practicum room on the 3rd floor of the G Bldg.

\*\*Earning more than 10 credit hours from Core Area classes will be counted toward 'elective' category credits.

[Core areas, Required and Elective] Infectious Disease Epidemiology (2-days intensive seminar in Aug or Sep) Prof. Furukawa.  
 [Elective] Special Lecture for Entrepreneurship (Aug, 4days) Prof. Saitome, Medical Innovation Center  
 [Management Young Leaders Course] Case Studies in Healthcare Management Prof. Imanaka  
 [Management Young Leaders Course] Healthcare Management Special Curriculum 1 Prof. Imanaka  
 [MPHElective] Special Seminar for Genetic Medicine (First semester of second year) Prof. Kosugi.  
 [GC restricted] Practice of Genetic counseling 1-2 Prof. Kosugi.

[STIPS Course] Advanced Seminar on Science, Technology and Innovation Policy (summer) Prof. Kawakami

[STIPS Course] Special Seminar on Science, Technology and Innovation Policy (summer) Prof. Kawakami

[Management Course] Seminar on Science, Technology and Communication Seminar Prof. Kawakami

[Elective] Field work Assoc. Prof. Tabara

[CB restricted (required)] Clinical Research Training (II) Prof. S. Tanaka

[Elective] Medical Doctors in Government and Occupational Settings Prof. Imanaka

◇ Curriculum of MPH Course for the Second Semester of FY2020

	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri
1 8:45~10:15	[MPH Elective] Introduction to EBM: How to use evidence in your daily life / Use evidence in your daily life / Check syllabus for lecture start date) Prof. Furukawa [B]	[MCR restricted (Elective)] Systematic Reviews Assoc. Prof. Watanabe [B]	[MPH Elective] Intermediate Biostatistics Assoc. Prof. Doi [A]	[Core areas, Required and Elective] [MPH Elective] Communication for Genetic Counselors Assoc. Prof. Harada [Frontier] Prof. Kosugi [Practicum room]	[Core areas, Required and Elective] [MPH Elective] Basic Medicine I (Neurophysiology) Prof. Kosugi [School of Human Health Sciences Room No.9]
2 10:30~12:00	[MPH Elective] Socio-epidemiology II Prof. Furukawa Pending lectures	[MPH Elective] Drug Policy and Regulation (first half of the second semester) Prof. Kawakami [A]	[Core areas, Required and Elective] [MPH Elective] Drug Development, Evaluation and Regulatory Sciences (second half of the second semester) Prof. Kawakami [A]	[Required for students without medical background] Basic Medicine II* Lec. Kawata and Prof. Ueshima [A]	[MPH Elective] Environment and Infection Prof. Yamazaki [the Center for Southeast Asian Studies, Seminar room 213]
3 13:00~14:30	[MPH Elective] Field Medicine Assoc. Prof. Sakamoto [Room 203, Center for Southeast Asian Studies]	[MCR restricted (Elective)] Special Seminar in Study Design II Assoc. Prof. Yamamoto [B]	[MPH Elective] Health Data Processing Laboratory Assoc. Prof. Doi [Practicum room]	[Global Health Prof. Nakayama [Frontier]]	[MPH Elective] Statistical Methods in Clinical Trials Prof. Tanaka [B]
4 14:45~16:15	[MPH Elective] Applied Medical Communication Assoc. Prof. Iwakuma [B]	[MPH Elective] Statistical Genetics II Prof. Yenada [South Research Bldg.]	[MPH Elective] Development strategy plan, and regulatory affairs of drugs and medical devices Prof. Kawakami [Practicum room]	[STPs Course] ELSI in Health Policy Assoc. Prof. Sakamura [Frontier]	[MPH Elective] International Health (second half of the second semester) Assoc. Prof. Sakamura [Frontier]
5 16:30~18:00	[MCR restricted (Required)] Seminar in Study Design II Prof. Kawakami [B]	[MPH Elective] Statistical Genetics II Prof. Yenada [South Research Bldg.]	[GC required (restricted)] Practicum for Clinical Genetics (First year) Prof. Kosugi [Practicum room]	[GC required (restricted)] Practicum for Clinical Research Assoc. Prof. Takeuchi [B]	[GC required] Advanced Medical Ethics Assoc. Prof. Harada [Frontier], Laboratory of the Dept. of Environmental Health
6 18:15~19:45	[MPH Elective] Clinical research advanced Prof. Iwami [B]	[MPH Elective] Practicum for Intellectual Properties Protection Law Lec. Toma [MIC]	[MPH Elective] Practicum for Contract Business Prof. Abe [MIC]	[GC required (restricted)] Practicum for the Patent Law Lec. J. Tanaka [MIC]	[GC required] Practicum for Medical Ethics Assoc. Prof. Kosugi [Practicum room]

\*The credit earned by students with more than 10 credit hours from Lec. Toma

[Intensive courses]

- [Frontier]: Seminar room on the 1st floor of the frontier Bldg.
- [A] : Seminar room A on the 2nd floor of the G Bldg.
- [B] : Seminar room B on the 2nd floor of the G Bldg.
- [C/D] : Seminar rooms C/D on the 2nd floor of the G Bldg.
- [Practicum room] : Practicum room on the 3rd floor of the G Bldg.
- [MIC] : Medical Innovation Center (Hospital West Campus)

[\*The credit earned by students with more than 10 credit hours from Lec. Toma

[Management Young Leaders Course] Case Studies in Healthcare Management, Prof. Imanaka

[Management Young Leaders Course] Healthcare Management Special Curriculum II, Prof. Imanaka

[GCC Restricted] Practice of Genetic Counseling 1-2 Prof. Kosugi

[Elective] Field work, Assoc. Prof. Tabara

[Elective] Field Training for Public Health Practice (Internship), Mentors in each department

[Elective] Designing Health communication Prof. Nakayama

[CB MCR restricted] Meta-analysis Prof. S. Tonika

[MPH Elective] Health Informatics I Prof. Nakayama [A]	[MPH Elective] Communication for Genetic Counselors (Check syllabus for lecture start date) Prof. Kosugi [Practicum room]
[MPH Elective] Health Informatics II Assoc. Prof. Harada [Frontier]	[MPH Elective] Statistical Modeling and Applications Assoc. Prof. Sakamura [Frontier]

Course number		P-PUB01 8H118 LB90			
Course title (and course title in English)	疫学 I (疫学入門) 【領域1】 Epidemiology I	Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor, NAKAYAMA TAKEO Graduate School of Medicine Professor, SATO TOSIYUKA Shiga Medical University, Professor MIURA KATSUYUKI Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital and Institute of Gerontology Associate Professor, ISHIZAKI TATSURO Graduate School of Medicine Associate Professor, TABARA YASUHARU Agency for Health, Safety and Environment Assistant Professor, OKABAYASHI SATOE Agency for Health, Safety and Environment Assistant Professor, MATSUZAKI KEIICHI		
Target year	Professional degree students	Number of credits	1	Year/semesters	2020/Irregular, First semester
Days and periods	金3・4	Class style	Lecture	Language of instruction	Japanese and English
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
This course is one of the required classes of school of public health. Epidemiology is defined as follows: the study of the distribution and determinants of health-related states or events in specified population, and the application of this study to control of health problems. Epidemiology is regarded as the basis of public health / clinical research and evidence-based practice. This is a scientific discipline that explores the cause, risk factor, prognosis of disease, and related factors. The course comprises systematic lectures on principles and methodologies of epidemiology for beginners.					
<b>[Course objectives]</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>Understanding basic concepts and methodologies of epidemiology</li> <li>Being familiar with terminology of epidemiology.</li> <li>Being capable of applying epidemiologic methods for clinical practice, research and health policy.</li> </ul>					
<b>[Course schedule and contents]</b>					
1 April 10 3rd introduction (NAKAYAMA) 2 April 10 4th cohort study / case-control study (NAKAYAMA) 3 April 17 3rd Epidemiology leaned by historical cases (SATO) 4 April 24 3rd intervention study (OKABAYASHI) 5 April 24 4th Follow-up study (MATSUZAKI) 6 May 8 3rd recent topics epidemiology (NAKAYAMA) 7 May 8 4th descriptive epidemiology, geriatric epidemiology (ISHIZAKI) 8 May 15 3th special topic (NAKAYAMA) May 22 3rd Test Special lecture (MIURA, TABARA)					
Continue to 疫学 I (疫学入門) 【領域1】(2) ↓↓↓					

疫学 I (疫学入門) 【領域1】(2)
<b>[Course requirements]</b>
None
<b>[Evaluation methods and policy]</b>
examination 80%, short report for each lecture 20%
<b>[Textbooks]</b>
The material necessary for the lecture will be provided by lecturers.
<b>[References, etc.]</b>
(Reference books) Kawamura T.『Ebidsensu wo tsukuru』(Igaku shoin) Nakayama T & Tsutani K.『Rinsho kenkyu to ekigaku kenkyu no tameno kokusai rurushu』(Life science shuppan) Kosei Tokei Kyokai.『Zusetsu Kokumin Eisei no doko』(Kosei Tokei Kyokai) Yano E & Hashimoto H.『Rothman no ekigaku』(Shinohara shuppan shinsha) Rodolfo Saracci.『Yonde wakaru! Ekigakunyomon』(Taishukan shoten)
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>
Rather than spending more time on your preparation, please put more energy into the review.
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>
We hope that students will understand the importance and characteristics of epidemiology that examines "human populations".
This course is open to graduate students with the school of human health science.
*Please visit KULASIS to find out about office hours.

Course number		P-PUB01 8H119 LB90			
Course title (and course title in English)	疫学 II (研究デザイン) 【領域1】 Epidemiology II	Instructor's name, job title, and department of affiliation	Part-time Lecturer, FUKUHARA SHUNICHI		
Target year	Professional degree students	Number of credits	1	Year/semesters	2020/The first half of first semester
Days and periods	Fri.1,2	Class style	Lecture	Language of instruction	Japanese and English
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
The Aim of this course is to learn core competency and practical skills in designing almost all types of projects in the field of SPH, except qualitative research.					
<b>[Course objectives]</b>					
To convert vague questions to structured abstracts. 1) To convert vague questions to answerable and structured research questions (RQ) 2) To understand concepts and how you convert concepts into measurable variables 3) To convert RQ into conceptual model 4) To understand the theory and practice in measuring variables 5) To understand the third factors 6) To understand how you can refine quality of comparison in analytical study					
<b>[Course schedule and contents]</b>					
1 April 17 (1st period) Designing research - 7 steps (Fukuhara) 2 April 17 (2nd period) Structuring and Modeling your research question (RQ)(Fukuhara) 3 April 24(1st period) Group Learning: Structuring RQ(not mandatory, no credits) 4 April 24(2nd period) Group Learning: Modeling RQ(not mandatory, no credits) 5 May 22(1st period) Taxonomy of observational epidemiology research(Onishi) 6 May 22(2nd period) Index to measure effect(Fukuhara) 7 June 5(1st period) Causes to undermine the quality of comparison (Fukuma) 8 June 5(2nd period) Designing measurement (Fukuhara) 9 June 12(1st period) Causes to improve the quality of comparison (Fukuma) 10 June 12(2nd period) Examination					
<b>[Course requirements]</b>					
MPH, MCR Required You need to had taken or take "Epidemiology I".					
<b>[Evaluation methods and policy]</b>					
Attendance 40%, Examination 60%					
<b>[Textbooks]</b>					
Instructed during class					
Continue to 疫学 I (研究デザイン) 【領域1】(2) ↓↓↓					

疫学 II (研究デザイン) 【領域1】(2)
<b>[References, etc.]</b>
(Reference books) Fukuhara S.『Guidepost for clinical research: Learning study design by 7 steps』(www.i-hope.jp/publication) Hulley S.『Designing Clinical Research 2nd ed.』(William & Wilkins) Fukuhara S.『Conceiving and structuring your research question』(www.i-hope.jp/publication) Matsumura S.『Building conceptual model』(www.i-hope.jp/publication) Fukuhara S.『Guidepost for clinical research: Learning study design by 7 steps』(www.i-hope.jp/publication) Hulley S.『Designing Clinical Research 2nd ed.』(William & Wilkins) Fukuhara S.『Conceiving and structuring your research question』(www.i-hope.jp/publication) Matsumura S.『Building conceptual model』(www.i-hope.jp/publication)
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>Didactic lectures</li> <li>Discussion at each lecture</li> </ul>
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>
This class is not open to students from Graduate School of Human Health Science.
*Please visit KULASIS to find out about office hours.

Course number	P-PUB01 8H001 LJ90				
Course title (and course title in English)	医療統計学 (コア) 【領域2】 Fundamentals of Biostatistics		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor,SATO TOSIYA	
Target year	Professional degree students	Number of credits	2	Year/semesters	2020/First semester
Days and periods	Tue.2	Class style	Lecture	Language of instruction	Japanese
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
<p>It is widely recognized that medical statistics are essential for the practice of and research on social healthcare. However, medical statistics textbooks are filled with suspect mathematical formulas and are difficult to comprehend. All but some enthusiasts shy away from them such textbooks. However, in reality, medical statistics are rather interesting. In order to communicate this to all students, we explain the concepts of medical statistics in plain language without broaching mathematical and technical issues. No prior preparation is required. In any case, please attend class, listen to the conversation, watch the slides, and think together. We will hand out slides at the end of the lectures, so you are not obliged to take notes. Please review the material provided. You may feel like you understand the content during the lecture, but to ensure that you do understand, it is important that you check your understanding repeatedly. We will review the previous session at the beginning of each session, so if you do not understand something taught in previously, please ask questions. Technical content will be supplemented in the afternoon during the medical statistics practicum. [Lecture format using PowerPoint slides]</p>					
<b>[Course objectives]</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>Improvements in medical statistics for allergies.</li> <li>Further your understanding of causality and control.</li> <li>Learn typical designs for epidemiological research and clinical trials.</li> <li>Learn how to explain the fundamental concepts of medical statistics on your own.</li> </ul>					
<b>[Course schedule and contents]</b>					
<p>Session 1, April 14: The Importance of Control      Session 2, April 21: Helicobacter Pylori and Stomach Cancer      Session 3, April 28: Introduction to Epidemiological Research Design      Session 4, May 12: Post-Launch Clinical Studies for Osteoporosis Drugs      Session 5, May 19: Introduction to Clinical Trial Design      Session 6, May 26: Exposure Effects, Treatment Efficacy Index      Session 7: Concepts in Statistical Hypothesis Testing      Session 8, June 9: The Relationship Between A Test and Confidence Interval      Session 9, June 16: The ASA statement on p values "The other side of P&lt;0.05"      Session 10, June 23: Sample Sizes Required for Studies      Session 11, June 30: The Validity of Cohort Studies      July 7: No lecture      Session 12, July 14: The Validity of Case Control Studies      Session 13, July 21: New Designs for Epidemiological Studies      Session 14, July 28: What is Confounding?</p>					
Continue to 医療統計学 (コア) 【領域2】(2) ↓↓↓					

医療統計学 (コア) 【領域2】(2)
<b>[Course requirements]</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>We do not accept students pursuing majors at the Department of Human Health Science.</li> <li>Students taking the Medical Science Major or the Doctoral Course should contact us via e-mail in advance.</li> <li>Students must take the mini-test and submit a report, even if they are not seeking credit.</li> <li>Those who are not taking "Medical Statistics" may not attend the second semester course titled "Methods of Adjusting for Confounding."</li> </ul>
<b>[Evaluation methods and policy]</b>
Mini-test: 30% and Reports: 70% <ul style="list-style-type: none"> <li>The mini-test is held at the end of June.</li> <li>Students should choose one from among several themes (presented at the beginning of July), review relevant documents, and summarize their opinions in a report.</li> </ul>
<b>[Textbooks]</b>
Slides will be distributed at the end of all lectures.
<b>[References, etc.]</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>(Reference books)</li> </ul> <p>Tosiya Sato, "宇宙怪人しまりす 医療統計を学ぶ" (Iwanami Science Library 114) ISBN:978-4-00-007454-7, Tosiya Sato "宇宙怪人しまりす 医療統計を学ぶ 検定の巻" (Iwanami Science Library 194, Hiroo Tsukabiki, Toshiharu Fujita, Tosiya Sato "これからの臨床試験" (Asakura Shoten) ISBN:978-4-254-32185-6, Rossman, KJ "Rossman's Epidemiology, Second Edition" (Shinoharashinsa) ISBN:978-4-8841-2372-7</p>
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>
Do not forget to review previous sessions.
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>
*Please visit KULASIS to find out about office hours.

Course number	P-PUB01 8H124 LB90				
Course title (and course title in English)	感染症疫学 【領域3】 Infectious Disease Epidemiology		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor,FURUKAWA TOSHIAKI	
Target year	Professional degree students	Number of credits	1	Year/semesters	2020/Intensive, year-round
Days and periods	Intensive	Class style	Lecture	Language of instruction	Japanese and English
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
<p>Details undecided.          Please check an official announcement.</p>					
<b>[Course objectives]</b>					
<p>Details undecided.          Please check an official announcement.</p>					
<b>[Course schedule and contents]</b>					
<p>Lecture schedule          2-days intensive lectures in Aug or Sep (Date and time undecided)</p>					
<p>Details undecided.          Please check an official announcement.</p>					
<b>[Course requirements]</b>					
<p>MPH elective but required</p>					
<b>[Evaluation methods and policy]</b>					
<p>Details undecided.          Please check an official announcement.</p>					
<b>[Textbooks]</b>					
<p>Details undecided.          Please check an official announcement.</p>					
<b>[References, etc.]</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>(Reference books)</li> </ul> <p>Details undecided.          Please check an official announcement.</p>					
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>					
<p>Details undecided.          Please check an official announcement.</p>					
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>					
<p>Details undecided.          Please check an official announcement.</p>					
Continue to 産業・環境衛生学 【領域3】(2) ↓↓↓					

*Please visit KULASIS to find out about office hours.
---

産業・環境衛生学 【領域3】(2)
<b>[Textbooks]</b> Handouts
<b>[References, etc.]</b> (Reference books)
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b> Knowledge on chemistry is not necessarily required, but it is recommended to review it after class.
<b>(Other information (office hours, etc.))</b> "Occupational health and environmental health sciences", "Introduction to Toxicology", "Toxicology" and "On the Bench Training" are in series. Those who wish to take "Toxicology" and "On the Bench Training" should take "Occupational health and environmental health sciences".  *Please visit KULASIS to find out about office hours.

Course number P-PUB01 8H125 LJ90	
Course title (and course title in English)	医療制度・政策 【領域4】 Healthcare System and Policy
Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor,IMANAKA YUICHI Graduate School of Medicine Program-Specific Associate Professor,SASAKI NORIKO Graduate School of Medicine Associate Professor,KUNISAWA SUSUMU Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer,OOTSUBO TETSUYA
Target year	Professional degree students
Days and periods	Number of credits 1 Year/semesters 2020/Intensive, First semester
Intensive	Class style Lecture Language of instruction Japanese
<b>[Overview and purpose of the course]</b> This course facilitates the understanding of fundamental matters and important issues in Japan's healthcare system and policies across various settings, which span from individual healthcare institutions to national and municipal governments. <Content> - Policies, systems, projects, and developments in health care and welfare - Healthcare funding - Healthcare systems (provision, insurance, and payment) and healthcare costs - Management systems and policies in healthcare quality, safety, and efficiency - Healthcare evaluations - Various healthcare-related plans, including regional healthcare initiatives and plans - Structural framework of healthcare management: Organization and finances	
<b>[Course objectives]</b> • Students will understand and be able to explain key issues in healthcare systems, policies, and management, including the relevant history, current situation, theories and concepts, research and evaluation methods, as well as problems and measures. • Students will also be able to systematically and critically interpret the significance of fundamental research and social systems. • Students will be able to apply relevant knowledge to solve problems in public health research and practice.	
<b>[Course schedule and contents]</b> 1. June 17 Healthcare policies: National finances and health care 2. June 24 Health care and financial resources: Insurance systems 3. July 01 Policies and administration: Healthcare quality and safety 4. July 08 Health policies: Determinants of health 5. July 15 Frameworks to understand evidence-based policies and overall systems 6. July 22 The use of economic evaluations and HTA in health care in Japan and other countries 7. July 29 Healthcare policy development process: Regarding regional healthcare initiatives	
Note: This schedule is subject to change. Overview of the schedule will be shown at the first day. ----- Continue to 医療制度・政策 【領域4】(2) ↓↓	

医療制度・政策 【領域4】(2)
<b>[Course requirements]</b> This course is open to Students in School of Public Health. Attendance rate 80% or more.
<b>[Evaluation methods and policy]</b> 1. Report (60%) 2. Classroom participation (40%)
<b>[Textbooks]</b> Reading materials will be distributed as needed.
<b>[References, etc.]</b> (Reference books) ・医療制度・医療政策・医療経済（丸善出版,2013） ・Handbook of Health Services Research (Springer Science+Business Media) ・病院の教科書（医学書院,2010） ・医療安全のエビデンス・患者を守る実践方策(医学書院,2005) ・医療の原価計算（社会保険研究所,2003） ・「NEW予防医学・公衆衛生学 改訂第4版」（編集:小泉昭夫/馬場園明/今中雄一/武林亨） 南江堂, 2018.
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b> Both good preparation and review are needed.
<b>(Other information (office hours, etc.))</b> Our department has been accepting graduate students who are interested in research related to health care policies, health care management, and health care quality/safety/cost. ( <a href="http://med-econ.umin.ac.jp/int/">http://med-econ.umin.ac.jp/int/</a> )  *Please visit KULASIS to find out about office hours.

Course number P-PUB01 8H127 LB90	
Course title (and course title in English)	社会健康医学と健康政策 【領域4】 Health Policy and Academia
Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor,IMANAKA YUICHI Graduate School of Medicine Professor,KAWAKAMI, KOJI Graduate School of Medicine Professor,SATO TOSIYA Graduate School of Medicine Associate Professor,WADA TAKAHITO Graduate School of Medicine Professor,NAKAYAMA TAKEO Graduate School of Medicine Associate Professor,WATANABE NORIO Graduate School of Medicine Associate Professor,IWAKUMA MIHO Graduate School of Medicine Program-Specific Professor,SAOTOME CHIKAKO Kyoto University Hospital Program-Specific Associate Professor,YAMADA TAKAHIRO Center for Southeast Asian Studies Associate Professor,SAKAMOTO RYOUTA Graduate School of Medicine Associate Professor,HARADA KOUJI Graduate School of Medicine Associate Professor,YAMAMOTO YOUSUKE
Target year	Professional degree students
Days and periods	Number of credits 2 Year/semesters 2020/First semester
Thu.3	Class style Lecture Language of instruction Japanese and English
<b>[Overview and purpose of the course]</b> Students will learn about health and healthcare-related systems and policies, as well as the supporting roles of research, human resource development, and other specialized activities. Lectures will be conducted by each of the departments in the School of Public Health based on their individual perspectives, insight, achievements, and research. The lectures will address the systems, policies, and social structures associated with health and health care. In addition, the lectures will examine the contributions of research, human resource development, and other specialized activities that support these systems, policies, and social structures.	
<b>[Course objectives]</b> Through all the lectures provided by the various departments, students will gain a multifaceted and comprehensive understanding of the systems and policies pertaining to health and health care.	
<b>[Course schedule and contents]</b> April 09 Public Health and Health Policy: Overview April 16 環境保健の制度と政策 April 23 Making of air quality standard ----- Continue to 社会健康医学と健康政策 【領域4】(2) ↓↓	

社会健康医学と健康政策 【領域4】(2)	
April 30 Public Health and Intellectual Property	
May 07 Modern history of health policies	
May 14 Policies and regulations in occupational health	
May 21 Health communication and health policy	
May 28 Infant and school health check-up for individual and health policy development	
June 04 Field-based Health Policy	
June 11 Maternal and child health -system and policy in Japan	
June 25 Preventive measures for adults: specific health guidance and cancer screening	
July 02 QOL evaluation and health policy	
July 09 Global mental health	
July 16 Health policy: theory, research and reality	
July 30 Community and Public Health	
Note: This schedule is subject to change. Overview of the schedule will be shown at the first day.	
[Course requirements]	
This course is only open to Students in School of Public Health. Attendance rate 80% or more.	
[Evaluation methods and policy]	
1. Report (40%) 2. Classroom participation (60%)	
[Textbooks]	
Reading materials will be distributed as needed.	
[References, etc.]	
(Reference books) Reading materials will be distributed as needed. 「NEW予防医学・公衆衛生学 改訂第4版」（編集:小泉昭夫/馬場園明/今中雄一/武林亨）南江堂、2018。	
[Study outside of class (preparation and review)]	
Both good preparation and review are needed.	
[Other information (office hours, etc.)]	
This course is jointly conducted by the entire School of Public Health.  *Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course number		P-PUB01 8H109 LB90					
Course title (and course title in English)	医薬政策・行政 【領域4】 Drug Policy and Regulation		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor,KAWAKAMI, KOJI			
Target year	Professional degree students		Number of credits	1	Year/semesters		
Days and periods	Wed.2		Class style	Lecture	Language of instruction Japanese and English		
[Overview and purpose of the course]							
Director and Instructors: (Director) Koji Kawakami (Professor, Pharmacopidemiology) Masashi Tetsuhashi (MHLW), Yasuhiro Nishijima (MHLW), Keisuke Matsubayashi (Assistant Professor, Pharmacopidemiology)							
The policy and regulatory systems in Japan, EU, and the US involving healthcare, safety, science, food safety, and industry will be discussed.							
[Course objectives]							
To understand the ideas of drug/medical device/food policy and regulations; medical industrialization and translational research policy.							
[Course schedule and contents]							
Lecture schedule :  October 7 Drug policy and regulations (Kawakami) October 14 Drug regulation in the United States (Kawakami) October 21 Policy and development of medical devices (Kawakami) October 28 Drug regulation in Japan (Tetsuhashi) November 11 Food safety regulations (Nishijima) November 18 Health insurance system and coverage of pharmaceuticals (Matsubayashi)							
[Course requirements]							
You must take this course along with the course H079 "Drug Development, Evaluation and Regulatory Sciences" otherwise the entire grasp of the drug research, development, and regulations will not be achieved.							
[Evaluation methods and policy]							
Participation (50%) and report (50%)							
----- Continue to 医薬政策・行政 【領域4】(2) ↓↓↓							

Course number		P-PUB01 8H126 LB90					
Course title (and course title in English)	保健・医療の経済評価 【領域4】 Economic Evaluation in Health Care		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor,IMANAKA YUUICHI Graduate School of Medicine Program-Specific Associate Professor,SASAKI NORIKO Graduate School of Medicine Associate Professor,KUNISAWA SUSUMU Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer,OOTSUBO TETSUYA			
Target year	Professional degree students		Number of credits	1	Year/semesters		
Days and periods	Wed.3		Class style	Lecture	Language of instruction Japanese and English		
[Overview and purpose of the course]							
<ul style="list-style-type: none"> <li>Lectures will address the theories and frameworks that support economic evaluations in health care, and students will learn the major research methods used in evaluating healthcare-related economic performance.</li> <li>Economic evaluations of health care are usually conducted under practical constraints, and students will learn the approaches to conducting research under these conditions.</li> <li>This course will examine economic evaluations in a wide range of healthcare-related topics.</li> </ul>							
[Course objectives]							
<ul style="list-style-type: none"> <li>Students will be able to explain key issues in the theories, frameworks, and research methods that support economic evaluations in health care.</li> <li>Students will understand the possible biases associated with research involving economic evaluations of health care.</li> <li>Economic evaluations are conducted on various aspects of health care, including treatment techniques, pharmaceuticals, medical supplies, medical examinations, and health policy programs. Students will understand and be able to explain the differences and respective applications of the main research methods used in these evaluations, including cost analyses, cost-effectiveness analyses, cost-utility analyses, and cost-benefit analyses. Students will also learn the core concepts of cost calculations and outcome measurements, time-based concepts, discount rates, sensitivity analyses, incremental cost-effectiveness ratios, and the appropriate interpretation of analytical results.</li> <li>Based on the above, students will be able to conduct critical reviews of research articles in this field and explain their significance. Students will also be able to apply their acquired knowledge and techniques when developing research protocols and conducting research.</li> </ul>							
[Course schedule and contents]							
1. April 08 Evaluating the economic performance of health care 1 2. April 15 Evaluating the economic performance of health care 2 3. April 22 Economic evaluation methods in health care 4. May 13 Modeling in economic evaluations 5. May 20 Methodologies in cost-effectiveness and cost-utility analyses 1 6. May 27 Methodologies in cost-effectiveness and cost-utility analyses 2 7. Jun 03 Economic evaluation in health care: Journal article review and discussion							
----- Continue to 保健・医療の経済評価 【領域4】(2) ↓↓↓							

医薬政策・行政 【領域4】(2)	
[Textbooks]	
Not used	
[References, etc.]	
(Reference books) Saeke Yasuo et al. 「Invitation to new drug development.」 ( Kyoritsu Press, 2006 ) Koji Kawakami, Hisashi Urushihara, Shiro Tanaka et al. ed. 「Strom's Textbook of Pharmacopidemiology」 ( NANZANDO Co.,Ltd., 2019.) Introduced during class	
[Study outside of class (preparation and review)]	
Preparation in advance and review after lecture	
[Other information (office hours, etc.)]	
Koji Kawakami (3F, Bldg G) appointment required by email. e-mail: kawakami.koji.4c@kyoto-u.ac.jp intermediate	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

<b>保健・医療の経済評価 【領域4】(2)</b>
8. Jun 10 Economic evaluation in health care: Journal article review and discussion 2 Note: This schedule is subject to change. Overview of the schedule will be shown at the first day.
<b>[Course requirements]</b>
This course is only open to Students in School of Public Health who are not involved in MCR course. Students in School of Human Health Sciences cannot apply for this course. Attendance rate 80% or more.
<b>[Evaluation methods and policy]</b>
1. Report (60%) 2. Classroom participation (40%)
<b>[Textbooks]</b>
Reading materials will be distributed as needed
<b>[References, etc.]</b>
(Reference books) <ul style="list-style-type: none"> <li>• Drummond MF, et al. Methods for the Economic Evaluation of Health Care Programmes, 4th Ed. Oxford, 2015.</li> <li>• Myriam Hunink. Decision Making in Health and Medicine: Integrating Evidence and Values. Cambridge, 2001.</li> <li>• 医療制度・医療政策・医療経済（丸善出版,2013）</li> <li>• Handbook of Health Services Research (Springer Science+Business Media)</li> <li>• 「NEW予防医学・公衆衛生学 改訂第4版」（編集:小泉昭夫/馬場園明/今中雄一/武林亨）南江堂. 2018.</li> </ul>
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>
Both good preparation and review are needed.
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• Places available for students without former experiences of studying economics.</li> <li>• Our department has been accepting graduate students who are interested in research related to health care policies, health care management, and health care quality/safety/cost. (<a href="http://med-econ.umin.ac.jp/int/">http://med-econ.umin.ac.jp/int/</a>)</li> </ul> <p>Note: Topics related to process and outcome measures, clinical practice variation, healthcare evaluations and assessments, hospital functional assessments, and healthcare quality &amp; safety are included in the course "Evaluation of Quality in Health Care" (Wed.3, the last half of first semester). If you would like to learn about these topics, consider to apply for this course.</p> <p>*Please visit KULASIS to find out about office hours.</p>

<b>Course number</b>	P-PUB01 8H128 LB90			
<b>Course title (and course title in English)</b>	世界における医療制度・政策 【領域4】 Healthcare Systems and Policies around the World	<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Professor,IMANAKA YUICHI Graduate School of Medicine Program-Specific Associate Professor,SASAKI NORIKO Graduate School of Medicine Associate Professor,KUNISAWA SUSUMU Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer,OOTSUBO TETSUYA	
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	1	<b>Year/semesters</b>
<b>Days and periods</b>	Intensive	<b>Class style</b>	Lecture	<b>Language of instruction</b>
<b>[Overview and purpose of the course]</b>				
Through studies of various healthcare systems, the students will learn mechanisms how they work and strategic options how to improve them. A healthcare system is a social system with multiple functions, multiple players and multiple drivers to change.				
<b>[Course objectives]</b>				
1 ) To understand frameworks to grasp and assess healthcare systems 2 ) To understand and assess various healthcare systems around the world 3 ) To understand strategic options how to improve them				
<b>[Course schedule and contents]</b>				
1 Apr 08 Universal Health Coverage & Health Care System in Japan 2 Apr 15 International Comparative Analyses of Health Systems 3 Apr 22* Community Based Integrated Care System 4 May 13* Health Insurance in Japan 5 May 20* To Strengthen Health System for Safe and Quality Care toward Universal Health Coverage (UHC) 6 May 27* The next step of the global health system 7 Jun 03* Health Informatics and (Health) Policy 8 Jun 10 Group work & Presentation *Includes students' short presentations about the healthcare system of their own country Note: This schedule is subject to change.				
Continue to 世界における医療制度・政策 【領域4】(2) ↓↓				

<b>世界における医療制度・政策 【領域4】(2)</b>
<b>[Course requirements]</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• non-Japanese speakers</li> <li>• Japanese with TOEFL iBT score ≥100</li> <li>• Attendance rate 80% or more</li> </ul>
<b>[Evaluation methods and policy]</b>
Classroom participation (40%) Presentation (30%) Report (30%)
<b>[Textbooks]</b>
Reading materials will be distributed as needed.
<b>[References, etc.]</b>
(Reference books) <ul style="list-style-type: none"> <li>• Tracking Universal Health Coverage #8211 First Global Monitoring Report #8211 (WHO,2015)</li> <li>• The World Health Report 2000- Health Systems: Improving Performance (WHO,2000)</li> <li>• 「NEW予防医学・公衆衛生学 改訂第4版」（編集:小泉昭夫/馬場園明/今中雄一/武林亨）南江堂. 2018.</li> </ul>
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>
Good preparation and review are necessary
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>
Our department has been accepting graduate students who are interested in research related to health care policies, health care management, and health care quality/safety/cost. ( <a href="http://med-econ.umin.ac.jp/int/">http://med-econ.umin.ac.jp/int/</a> )
*Please visit KULASIS to find out about office hours.

<b>Course number</b>	P-PUB01 8H075 LB90			
<b>Course title (and course title in English)</b>	行動科学 【領域5】 Behavioral Science	<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Associate Professor,WATANABE NORIO Graduate School of Medicine Professor,FURUKAWA TOSHIKAI Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer,OGAWA YUSUKE	
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	1	<b>Year/semesters</b>
<b>Days and periods</b>	Tue.1	<b>Class style</b>	Lecture	<b>Language of instruction</b>
<b>[Overview and purpose of the course]</b>				
I. Course Description This course will introduce outlines of representative behavior theories/concepts, with particular focus on those which have demonstrated effectiveness in practices.  II. Methods of Instruction Lecture, group discussion				
<b>[Course objectives]</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>• To be able to explain the outlines of representative behavioral theories.</li> <li>• To be able to apply behavioral theories in the areas in which the participants are interested.</li> </ul>				
<b>[Course schedule and contents]</b>				
April 14 Introduction, Health belief model April 21 Transtheoretical model, Theory of planned behavior May 12 Cognitive-behavioral model, Cognitive behavioral therapy May 19 Social cognitive model May 26 Stress and coping June 2 Psychiatric symptoms, behavioral disorders June 9 Overview (1) June 23 Overview (2), Examination				
<b>[Course requirements]</b>				
MPH Elective but Required				
<b>[Evaluation methods and policy]</b>				
Participation 50 %, Examination 50% (To get credit 60% in total will be required)				
Continue to 行動科学 【領域5】(2) ↓↓				

行動科学 【領域5】(2)	
<b>[Textbooks]</b> lecture materials	
<b>[References, etc.]</b> (Reference books) Required text: None.	
Suggested reading: • Glanz et al. Health behavior and health education-theory, research and practice 4th edition, Jossey-Bass, San Francisco, 2008 • Matsumoto et al. Basics of health behavior theories for medical and welfare personnel. (医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎)、医歯薬出版、2002	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b> Review lessons.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b> The class is not open to students from Graduate School of Human Health Science. *Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course number	P-PUB01 8H076 LB90		
Course title (and course title in English)	基礎医療倫理学 【領域5】 Basic Medical Ethics	Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor,KOSUGI SHINJI
Target year	Professional degree students	Number of credits	1
Days and periods	Thu.5	Class style	Lecture
<b>[Overview and purpose of the course]</b> This course is aimed to study ethical points of view for practice and research of public health.			
<b>[Course objectives]</b> Able to explain major theories for medical ethics. Able to write documents for one's research appropriately for the purpose of evaluation at ethics committee. Able to explain ethical problems on healthcare of children and patients on terminal stage, and research on genetics.			
<b>[Course schedule and contents]</b> April 16 Important theories for medical ethics April 23 Ethics for neonates and children (1) April 30 Ethics for OB/GYN May 7 Ethics for terminal care May 14 History of bioethics May 21 Research ethics and ethics committee June 4 Ethics for neonates and children (2)			
<b>[Course requirements]</b> None			
<b>[Evaluation methods and policy]</b> General attitude (including attendance): 40% Report: 60%			
<b>[Textbooks]</b> Not used			
<b>[References, etc.]</b> (Reference books)			
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b> Report deadline • Middle report: 5/20 • Final report: 6/30			
<b>(Other information (office hours, etc.))</b> *Please visit KULASIS to find out about office hours.			

Course number	P-PUB01 8H077 LB90		
Course title (and course title in English)	医学コミュニケーション・基礎 【領域5】 Medical Communication: Introduction	Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Associate Professor,IWAKUMA MIHO
Target year	Professional degree students	Number of credits	1
Days and periods	Tue.5	Class style	Lecture
<b>[Overview and purpose of the course]</b> I. Course Description The course provides an introduction to medical communication, both its theoretical frameworks and applications, for those from diverse interests, backgrounds, and/or disciplines.			
<b>[Course objectives]</b> II. Course Goals and Objectives Understand frameworks, theories, and concepts that are relevant to medical communication Understand socio-cultural characteristics in medicine (using sociology and communication perspectives)			
<b>[Course schedule and contents]</b> 1) 4/14 Course introduction + getting to know 2) 4/21 Medicine, society, and communication 1 3) 4/28 Lecture on Hospital volunteer (Emiko Takaya Kyoto University Hospital "Nicotoma") 4) 4/30 Medicine, society, and communication 2 5) 5/12 Many "times & spaces" : non-verbal communication, continued 6) 5/19 Nuts and bolts of communication studies: verbal, non-verbal, and channel 7) 5/26 Course-wrap			
<b>[Course requirements]</b> None			
<b>[Evaluation methods and policy]</b> Course Grade Participation 50% Term paper 50% "one-word declaration" 5% + title of the paper 10% + final version 35%			
<b>[Textbooks]</b> Not used			

医学コミュニケーション・基礎 【領域5】(2)
<b>[References, etc.]</b> (Reference books)
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b> students are recommended to read readings of communication studies that are related to his or her interests.
<b>(Other information (office hours, etc.))</b> Message This instructor differentiates "health communication," which is mainly interested in doctor-patient communication, from "medical communication" with a broader, sociological focus; therefore, it is recommended that when interested in the aforementioned doctor-patient communication, s/he take other SPH classes. Suitable for students who are interested in social science perspectives in medicine and science Consult with me ASAP for any disability-related accommodation @ mhiwakuma@yahoo.co.jp or ext. 4668. A guest lecture is given in Japanese provided with an English handouts.
*Please visit KULASIS to find out about office hours.

Course number				
Course title (and course title in English)	医学基礎 I 「解剖学」 Anatomy	Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor,KOSUGI SHINJI Graduate School of Medicine Professor,YAMADA SHIGEHITO	
Target year	Professional degree students	Number of credits	2	
Days and periods		Class style	Lecture	
		Language of instruction	Japanese	
<b>[Overview and purpose of the course]</b>				
人体は様々な細胞から組織、器官が構成されており、それらが協調して働くことで一個体として機能している。人体の構造と機能に関する総合的理得を目指し、特に、その構造異常や機能異常について起こる「疾患」を念頭において概説する。学生諸君の知的好奇心を刺激する一方で、臨床に有益な関連事項を織り交ぜて解説したい。				
<b>[Course objectives]</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・人体の構造及び機能の基本を理解する。</li> <li>・異常により引き起こされる疾患の病態について解剖学的に説明できる。</li> </ul>				
<b>[Course schedule and contents]</b>				
Anatomy Wed 3, 4 <Lecture Schedule> 4/8,4/15,4/22,5/13,5/20,5/27,6/3				
1. Chapter1 Introduction to the Body ; Chapter2 Chemistry of Life 2. Chapter3 Cells ; Chapter4 Tissues 3. Chapter5 Organ Systems ; Chapter6 Skin and Membranes 4. Chapter7 Skeletal System 5. Chapter8 Muscular System 6. Chapter9 Nervous System 7. Chapter9 Nervous system(cont'd) 8. Chapter10 Senses ; Chapter11 Endocrine System 9. Chapter12 Blood ; Chapter13 Cardiovascular System 10. Chapter13 Cardiovascular System (cont'd) 11. Chapter14 Lymphatic System and Immunity ; Chapter15 Respiratory System 12. Chapter16 Digestive System ; Chapter17 Nutrition and Metabolism 13. Chapter18 Urinary System ; Chapter21 Reproductive System 14. Chapter22 Growth, Development, and Aging 15. 試験およびフィードバック				
<b>[Course requirements]</b>				
None				
----- Continue to 医学基礎 I 「解剖学」(2) -----				

医学基礎 I 「解剖学」(2)	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Attitude & Attendance 30%, Reports 70%	
<b>[Textbooks]</b>	
K.T.Patton, G.A. Thibodeau 「Structure & Function of the Body, 16th ed., Paperback」 (ELSEVIER) ISBN: 978-0323597791 (2019年11月発売の新刊を使用する。)	
<b>[References, etc.]</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>(Reference books)</li> </ul>	
K.T.Patton, G.A. Thibodeau 「Structure & Function of the Body, 16th ed., Paperback」 (ELSEVIER) ISBN: 978-0323597791 (2019年11月発売の新刊を使用する。)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>【参考書】</li> </ul>	
塩田浩平「グレイ解剖学 原著第3版」 (エルゼビア・ジャパン) ISBN:978-4860343064 (必要に応じて参照のこと。重いので毎回の講義に持参しなくてもよい。解剖実習では必要か。) 藤田恒夫「人門人体解剖学 改訂第5版」 (南江堂) ISBN:978-4-524-24237-5 (英語がどうしても辛くなった時に参照するのに適切。)	
<b>[Related URLs]</b>	
<a href="https://evolve.elsevier.com/cs/">https://evolve.elsevier.com/cs/</a> (教科書を購入すると、ウェブサイトへのアクセス方法が入手できます。)	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義前には、教科書の該当範囲を通読してくることが望ましい。</li> <li>・講義後には付録してある演習問題を解き、講義事項を確認する。</li> </ul>	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
初回講義より教科書を使用するので購入して持参すること。	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course number				
Course title (and course title in English)	医学基礎 I 「生理学 I 」 Physiology I	Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor,KOSUGI SHINJI	
Target year	Professional degree students	Number of credits	2	
Days and periods		Class style	Lecture	
		Language of instruction	Japanese	
<b>[Overview and purpose of the course]</b>				
Details undecided. Please check an official announcement.				
<b>[Course objectives]</b>				
Details undecided. Please check an official announcement.				
<b>[Course schedule and contents]</b>				
Physiology I Mon 3, 4 <Lecture Schedule> 4/13,4/20,4/27,5/11,5/18,5/25,6/1				
Details undecided. Please check an official announcement.				
<b>[Course requirements]</b>				
None				
<b>[Evaluation methods and policy]</b>				
Attitude & Attendance 30%, Reports 70%				
<b>[Textbooks]</b>				
Details undecided. Please check an official announcement.				
<b>[References, etc.]</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>(Reference books)</li> </ul>				
Details undecided. Please check an official announcement.				
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>				
Details undecided. Please check an official announcement.				
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>				
Details undecided. Please check an official announcement.				
*Please visit KULASIS to find out about office hours.				

Course number				
Course title (and course title in English)	医学基礎 I 「神経生理学 I 」 Neurophysiology I	Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor,KOSUGI SHINJI	
Target year	Professional degree students	Number of credits	2	
Days and periods	Thu.1	Class style	Lecture	
		Language of instruction	Japanese	
<b>[Overview and purpose of the course]</b>				
Details undecided. Please check an official announcement.				
<b>[Course objectives]</b>				
Details undecided. Please check an official announcement.				
<b>[Course schedule and contents]</b>				
Neurophysiology I Thu 1 <Lecture Schedule> 10/1,10/8,10/15,10/22,10/29,11/5,11/12,11/26,12/3, 12/10,12/17,12/24,1/7,1/14				
Class Room: 人間健康科学第9教室				
Details undecided. Please check an official announcement.				
<b>[Course requirements]</b>				
None				
<b>[Evaluation methods and policy]</b>				
Attitude & Attendance 30%, Reports 70%				
<b>[Textbooks]</b>				
Details undecided. Please check an official announcement.				
<b>[References, etc.]</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>(Reference books)</li> </ul>				
Details undecided. Please check an official announcement.				
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>				
Details undecided. Please check an official announcement.				
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>				
Details undecided. Please check an official announcement.				
*Please visit KULASIS to find out about office hours.				

Course number	P-PUB01 8H007 LB87				
Course title (and course title in English)	医学基礎 II Basic Medicine II		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor, KOSUGI SHINJI Kyoto University Hospital Program-Specific Professor, UESHIMA KENJI BUKYOU UNIVEIRSTY KAWATA MITSUHIRO	
Target year	Professional degree students	Number of credits	2	Year/semesters	2020/Second semester
Days and periods	Thu.2	Class style	Lecture	Language of instruction	Japanese and English
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
Director and Instructors: Kenji Ueshima (Professor, Center for Accessing Early Promising Treatment, Kyoto University Hospital) Mitsuhiko Kawata (Professor, School of Health Sciences, Bunkyo University)					
This course introduces the basics of human anatomy, physiology, endocrinology, biochemistry, immunology as a basis for the understanding of human diseases. To understand human body, practice to observe human skeleton and brains will be scheduled.					
<b>[Course objectives]</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>To understand the basics of circulatory system</li> <li>To understand the basics of the structure and function of skeletal, muscular, nervous and sensory systems with their some disorders</li> </ul>					
<b>[Course schedule and contents]</b>					
Course Schedule (*Schedule may be changed) 1 October 1 Circulatory system (Introduction) 2 October 8 Circulatory system 1 (valvular heart disease, congenital heart disease, and vascular disease) 3 October 15 Circulatory system 2 (ischemic heart disease and emergency medicine) 4 October 22 Circulatory system 3 (hypertension and arrhythmia) 5 October 29 Skeletal system 1 (bone/cartilage histology and axial skeleton) 6 November 5 Skeletal system 2 (upper and lower limb skeletons, joints) 7 November 12 Muscular system 1 (muscle histology and movements) 8 November 19 Muscular system 2 (upper and lower limb muscles, torso muscles) 9 November 26 Nervous system 1 (neuronal structure and function) 10 December 3 Nervous system 2 (structure and function of brain and spinal cord) 11 December 10 Nervous system 3 (structure and function of peripheral nerves and autonomic nervous system) 12 December 17 Nervous system 4 (pathophysiology of diseases of nervous system) 13 December 24 Sensory system 1 (structure and function of visual system) 14 January 7 Sensory system 2 (structure and function of auditory, olfactory and gustatory systems) 15 January 14 Sensory system 3 (structure and function of somatosensory system and skin)					
Continue to 医学基礎 II(2) ↓↓↓					

医学基礎 II(2)
1 through 4: Professor Ueshima, 5 through 15: Professor Kawata
<b>[Course requirements]</b>
Second Semester, Required for students without medical background
<b>[Evaluation methods and policy]</b>
Attitude & Attendance 30%, Reports 70%
<b>[Textbooks]</b>
カラーで学ぶ解剖生理学（第2版）*（コメディカルサポート研究会）メディカル・サイエンス・インターナショナル（ELSEVIER）2017 * Audio Chapter Summaries in English are available at the site of evolve.elsevier.com/PattonThibodeau/humanbody
<b>[References, etc.]</b>
(Reference books)
Suggested readings:
<ul style="list-style-type: none"> <li>佐藤昭夫、佐伯由香編. 人体の構造と機能. 医歯薬出版, 2006.</li> <li>・ティボドー、バットン(コメディカルサポート研究会訳). カラーで学ぶ解剖生理学. 医学書院, 2002.</li> <li>・A.シェフラー、S.シュミット(三木明徳、井上食央訳). からだの構造と機能. 西村書店, 2002.</li> <li>・クロスマン、ネアリー(野村巖、水野昇訳). 神経解剖カラーーテキスト 第2版. 医学書院, 2008.</li> <li>・大地陸男（著）. 生理学テキスト. 文光堂, 2013.</li> <li>・福田康一郎（監修）. 標準生理学. 医学書院, 2014.</li> <li>Eric Kandel, James Schwartz 他. Principles of Neural Science 5th edition. McGraw-Hill Professional, 2012. (日本語版) 金澤一郎、宮下保司（監修）. カンデル神経学. メディカルサイエンスインターナショナル, 2014.</li> <li>・泰羅雅登、中村克樹（監修、翻訳）. カールソン神経科学テキスト 脳と行動. 丸善出版, 2013.</li> <li>・人体の正常構造と機能（改訂第3版）全10巻縮刷版. 日本医事新報社, 2017</li> <li>・プロメテウス解剖学コアアトラス 第2版. 医学書院, 2014</li> <li>・絵でみる脳と神経：しくみと障害のメカニズム 第4版. 2017</li> </ul>
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>
Preparation in advance and review after lecture
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>
*The class is open to students from Graduate School of Human Health Science.
*Please visit KULASIS to find out about office hours.

Course number	P-PUB01 8H008 LB87				
Course title (and course title in English)	臨床医学概論 Introduction to Clinical Medicine		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor, KOSUGI SHINJI Part-time Lecturer, WATANABE HIROKI Part-time Lecturer, CHIBA TSUTOMU	
Target year	Professional degree students	Number of credits	2	Year/semesters	2020/Second semester
Days and periods	Wed.4	Class style	Lecture	Language of instruction	Japanese and English
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
Instructors: Hirotaki Watanabe (Director, Watanabe Memorial Choumei Research Laboratory) Tsutomu Chiba (President, Kansai Electric Power Hospital)					
This course will offer introductory level of modern clinical medicine, in order to facilitate collaboration between healthcare specialists (i.e. medical doctors, nurses, or other professionals working on healthcare, public health, or social welfare) and students without previous experience in health care field. Lectures will cover disorders of major organ systems, focused on their etiology, treatment, prevention, as well as their societal impact, to help understand recent and historical public health issues, such as population, environment, or aging society.					
<b>[Course objectives]</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>To understand the roles and the problems of the clinical medicine and health care in Japan from the societal perspective.</li> <li>Can discuss the current situation and future perspectives of modern medical science and healthcare.</li> </ul>					
<b>[Course schedule and contents]</b>					
Course Schedule (subject to change) 1 October 7 Human, society and diseases 2 October 14 History of the treatment for urinary bladder stones 3 October 21 Medicine, education, medical care 4 October 28 Introduction to toxicology and narcotic drugs / Individualism and groupism -The basic mentality of Japanese people- (Optional by audience's choice) 5 November 4 New era for preventive oncology 6 November 11 Overview of renal and urological disorders 7 November 18 Oncology and cancer 8 November 25 Genetic diseases 9 December 2 Infectious disease 10 December 9 Immunology and related diseases 11 December 16 Digestive diseases (1) 12 December 23 Digestive diseases (2) 13 January 6 Nutrition and diseases 14 January 13 Water balance and electrolyte control and related diseases 15 January 20 Group presentation and wrap-up					
Continue to 臨床医学概論(2) ↓↓↓					

臨床医学概論(2)
1 through 6 and 15: Professor Watanabe, 7 through 15: Professor Chiba
<b>[Course requirements]</b>
Second Semester, Required for students without medical background
<b>[Evaluation methods and policy]</b>
Attitude & Attendance 50%, Report 50%
<b>[Textbooks]</b>
Necessary course materials will be distributed in class.
<b>Suggested readings (not mandatory):</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>河田光博、武田英二編. 臨床医学入門 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち 第2版(栄養科学シリーズ NEXT). 講談社サイエンティフィック, 2009.</li> <li>渡辺渉、勝見泰和、山村義治編. チーム医療従事者のための臨床医学全科. 金芳堂, 2006.</li> </ul>
<b>[References, etc.]</b>
(Reference books)
<ul style="list-style-type: none"> <li>Harrison's Internal Medicine 19th edition, McGraw Hill Education</li> <li>Goldman-Cecil, Medicine, 25th edition, Elsevier</li> <li>・ガイドン 生理学.エルセヴィアジャパン</li> <li>・ハーバー 生化学. 丸善</li> <li>・渡辺渉 検診で見つかるがんの8割は良性がんである—過剰診断時代の予防がん学一、晶文社, 2019</li> </ul>
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>
Preparation in advance and review after lecture
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>
*Attendance of the students with medical background will also be welcomed. The class is open to students from Graduate School of Human Health Science.
*Please visit KULASIS to find out about office hours.

Course number		P-PUB01 8H011 PJ90			
Course title (and course title in English)	医療統計学実習 Introduction to Statistical Computing and Data Management		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor,SATO TOSIYA Graduate School of Medicine Associate Professor,DOI MASAAKI Graduate School of Medicine Assistant Professor,Omiva Masatomo	
Target year	Professional degree students	Number of credits	2	Year/semesters	2020/First semester
Days and periods	Tue.3,4	Class style	Practical training	Language of instruction	Japanese
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
<p>The purpose of medical statistics practice is to see and experience the active practice of concepts learned during lectures. This practice is recommended to further your understanding of medical statistics. We practice simple aggregation, analysis, and programming using the JMP statistical software. You will be asked to create reports on this practice using Microsoft Word. We will create figures and tables using Microsoft Excel. We will create presentations using Microsoft PowerPoint. We will also learn how to use this software. Kyoto University has a license agreement for the JMP statistical software. Students of the Graduate School of Medicine are required to download and install JMP on the laptop they will use during the course for their exercises, from the following link:</p> <p><a href="http://www.med.kyoto-u.ac.jp/software/JMP/">http://www.med.kyoto-u.ac.jp/software/JMP/</a> on the Graduate School of Medicine homepage. Since this software can be installed on personal computers, please install it on your laptop and bring it with you to practice.</p>					
<b>[Course objectives]</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>Understand the importance of data checks and management.</li> <li>Create charts, presentations, and reports of excellent quality using word processing, spreadsheet, and presentation software.</li> <li>Further your understanding of the fundamental concepts of medical statistics by performing simple statistical calculations and aggregations using statistical software.</li> </ul>					
<b>[Course schedule and contents]</b>					
<p>Session 1, April 14: Introduction, Using spreadsheet software</p> <p>Session 2, April 21: Using the JMP statistical software</p> <p>Session 3, April 28: Group Exercise 1: Topic Selection and Data Collection</p> <p>Session 4, May 12: Group Exercise 2: Data Collection</p> <p>Session 5, May 19: Group Exercise 3: Aggregation and Analysis</p> <p>Session 6, May 26: Group Exercise 4: Presentation</p> <p>Session 7, June 2: Let us Randomize</p> <p>Session 8, June 9: The Mystery of Risk Ratios, Risk Differences, and Odds Ratios</p> <p>Session 9, June 16: Testing the Difference in Ratios and the True Meaning of the Null Hypothesis</p> <p>Session 10, June 23: The 95% Confidence Interval Does Not Contain the True Value With 95% Probability</p> <p>Session 11, June 30: Analyzing a 2x2 Table</p> <p>July 7: No lecture</p> <p>Session 12, July 14: Calculating Sample Size and finding out how many Subjects are Necessary</p> <p>Session 13, July 21: Let us Try Random Sampling</p> <p>Session 14, September 15: Presentation 1 (Seminar Room A, 10:30 Start)</p>					
Continue to 医療統計学実習(2) ↓↓↓					

医療統計学実習(2)	
Session 15, September 16: Presentation 2 (Seminar Room A, 10:30 Start)	
<b>[Course requirements]</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>Since space in the seminar room is limited to 32 people, priority is given to those with Social Health and Medicine majors.</li> <li>Each year, there are more students who wish to take this course than places and therefore some will not be accepted. However, each year there are students who may no longer be able to participate during the course for that year. Please refrain from taking this course if there is any possibility of you not being able to participate.</li> <li>We do not accept students pursuing a major at the Department of Human Health Science.</li> <li>Please contact us in advance should you wish to attend the Master's program in Medical Science or the Doctorate in Medicine program.</li> <li>If you have never written a report before, please read a book on how to write a report.</li> </ul>	
Note: This practice will be announced in September.	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Reports and presentations	
<ul style="list-style-type: none"> <li>Students will be asked to submit a report in each session.</li> <li>Each group will make a presentation.</li> <li>Each individual will make a presentation (September)</li> </ul>	
<b>[Textbooks]</b>	
Other, required software: JMP "Practice guidance" will be distributed in each session.	
<b>[References, etc.]</b>	
(Reference books)	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
A report is to be submitted in each session.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>If you have not taken the Medical Statistics Practicum, you will not be able to take the "Analysis Planning Practicum" in the second semester.</li> <li>Participation midway through the course is not permitted, so please ensure that you attend from the first session onward.</li> </ul>	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course number		P-PUB01 8H084 LJ90			
Course title (and course title in English)	観察研究の統計的方法 Statistical Methods in Observational Studies		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor,SATO TOSIYA	
Target year	Professional degree students	Number of credits	2	Year/semesters	2020/Intensive, First semester
Days and periods	Intensive	Class style	Lecture	Language of instruction	Japanese
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
<p>Various observational studies are conducted in clinical and epidemiological studies. There are many situations in which experimental trials, typified by clinical trials, cannot be conducted, and observational studies play an important role in clinical and epidemiological studies. Observational research, unlike experimental research, is susceptible to various biases, and there are many points that particular to observational research that one should be cautious about.</p> <p>This course explains the design of observational studies, methods of statistical analysis, and aims at the acquisition of the knowledge of medical statistics necessary to plan, conduct, analyze, and report observational studies. [Intensive lectures on June 5, 12, 19, and 26 (Friday)]</p>					
<b>[Course objectives]</b>					
<p>Understand:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Ideas in research design to avoid bias,</li> <li>Statistical methods to adjust for bias,</li> <li>The concept of causal inference in observational research, and</li> <li>Methods of sampling and analysis of subjects using various research designs.</li> </ul>					
<b>[Course schedule and contents]</b>					
<p>Intensive lectures on June 5, 12, 19, and 26 (Friday) Periods 3-6 (Periods 3 and 4 on June 28 alone)</p> <p>Session 1, June 5, Period 3: Mathematics and analysis of 2x2 tables</p> <p>Session 2, June 5, Period 4: Bias in observational research</p> <p>Session 3, June 5, Period 5: Distribution Analysis</p> <p>Session 4, June 5, Period 6: Exercise 1</p> <p>Session 5, June 12, Period 3: Matching</p> <p>Session 6, June 12: The Generalized Linear Model</p> <p>Session 7, June 12, Period 5: Survival Analysis</p> <p>Session 8, June 12, Period 6: Exercise 2</p> <p>Session 9, June 19, Period 3: New Epidemiological Study Design 1</p> <p>Session 10, June 19, Period 4: New Epidemiological Study Design 2</p> <p>Session 11, June 19, Period 5: Bayesian Analysis</p> <p>Session 12, June 19, Period 6: Exercise 3</p> <p>Session 13, June 26, Period 3: Analysis by Propensity Score</p> <p>Session 14, June 26, Period 4: Instrumental Variable Methods</p>					
<b>[Course requirements]</b>					
<p>* As this is a challenging course that requires basic knowledge of statistics (probability distribution, likelihood, asymptotic variance etc.), students should have completed "Fundamentals of Statistical Inference" in the first semester.</p>					
Continue to 観察研究の統計的方法(2) ↓↓↓					

観察研究の統計的方法(2)	
* Those who wish to attend must consult the staff before registration.	
* We do not accept those with human health science majors.	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Exercise reports on mathematics and analysis.	
<b>[Textbooks]</b>	
Materials will be distributed in each session.	
<b>[References, etc.]</b>	
(Reference books)	
Tosiya Sato, "S宇宙怪人しまりす 医療統計を学ぶ 検定の巻" (Iwanami Shoten) ISBN:978-4-00-029594-9, Toshiro Tango, Shigeyuki Matsui eds."新版 医學統計ハンドブック" (Asakura Shoten) ISBN:978-4-254-12299-9, Rothman KJ, Greenland S, Lash TL "Modern Epidemiology, 3rd ed." (Lippincott, Williams & Wilkins) ISBN:978-0-7817-5564-1	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Solve the exercises.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course number		P-PUB01 8H093 LB90						
Course title (and course title in English)	文献検索法 Literature Search		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Associate Professor, TAKAHASHI YOSHIMITSU Graduate School of Medicine Professor, NAKAYAMA TAKEO				
Target year	Professional degree students	Number of credits	1	Year/semesters	2020/The first half of first semester			
Days and periods	Mon. 4	Class style	Lecture	Language of instruction	Japanese and English			
<b>[Overview and purpose of the course]</b>								
Literature Search • This course is one of the elective classes of School of Public Health. • As being based on fundamental knowledge of epidemiology and evidence-based medicine, this course provides students with skills of literature search. • The useful databases such as PubMed, Cochrane library, Igaku Chuo Zasshi, and the other information resources that are available on-line will be introduced. • We hope students who attend this course will lay the foundation for promoting their own public health research by learning skills of information search. • Lecture and practical in Japanese. I will try to offer several handouts in English.								
<b>[Course objectives]</b>								
• To acquire skills of searching medical or health information from various database or internet.								
<b>[Course schedule and contents]</b>								
1) Apr 13. Orientation 2) Apr 20. Introduction to Igaku Chuo Zasshi 3) Apr 27. Introduction to PubMed (1) 4) May 11. Clinical question, clinical guidelines, and systematic review 5) May 18. Introduction to PubMed (2) 6) May 25. Introduction to Cochrane library 7) Jun 1. Introduction to software for literature management (Mendeley) 8) Jun 8. Basic of critical appraisal and statements								
<b>[Course requirements]</b>								
None								
<b>[Evaluation methods and policy]</b>								
Participation in class and discussion, short report for each lecture (30%) & Report (70%)								
Continue to 文献検索法(2) ↓↓↓								

文献検索法(2)
<b>[Textbooks]</b>
Not used Nothing particular
<b>[References, etc.]</b>
(Reference books) (in Japanese) Nakayama T, Tsutani K 「Rinsho kenkyu to ekigaku kenkyu notameno kokusai ruru shu」 (Lifescience shuppan)
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>
You should bring ECS-ID (student ID and password) which is given. Rather than spending more time on your preparation, please put more energy into the review.
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>
This course is open to graduate students with the school of human health science. This course is basically conducted in Japanese. We will provide some information in English to international students. If you have questions, send an e-mail to takahashi.yoshimitsu.3m@kyoto-u.ac.jp.
*Please visit KULASIS to find out about office hours.

Course number		P-PUB01 8H094 LB90						
Course title (and course title in English)	文献評価法 Critical Appraisal		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor, NAKAYAMA TAKEO Graduate School of Medicine Associate Professor, TAKAHASHI YOSHIMITSU Japan Red Cross Nagoya Daini Hospital, Vice-Director NOGUCHI YOSHINORI Ichishii Hospital, Director SHIKATA SATORU Nara Medical University, Lecturer TANAKA YU Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital and Institute of Gerontology ISHIZAKI TATSURO National Center for Child Health and Development, Researcher SASAKI HATOKO				
Target year	Professional degree students	Number of credits	1	Year/semesters	2020/Intensive, First semester			
Days and periods	Intensive	Class style	Lecture	Language of instruction	Japanese and English			
<b>[Overview and purpose of the course]</b>								
• This course is one of the elective classes of School of Public Health. • This course provides students with skills of critical appraisal of literature or information retrieved, as being based on fundamental knowledge of epidemiology and evidence-based medicine								
<b>[Course objectives]</b>								
To acquire skills of critical appraisal of literature or information retrieved.								
<b>[Course schedule and contents]</b>								
I April 13 Orientation II June 15 Evaluation of papers of clinical trials by CASP III June 22 Evaluation of bias using cases (1) IV June 29 Evaluation of bias using cases (2) V July 6 Cochrane Reviews by The Cochrane Collaboration VI July 13 Evaluation of papers of Meta-analysis by CASP VII July 20 Evaluation of clinical guidelines by AGREE VIII August 3 (4th,5th) Seminar of Meta-analysis								
<b>[Course requirements]</b>								
None								
<b>[Evaluation methods and policy]</b>								
Participation in class and discussion, short report for each lecture (30%) & Report (70%)								
Continue to 文献評価法(2) ↓↓↓								

文献評価法(2)
<b>[Textbooks]</b>
The material necessary for the lecture will be provided by lecturers.
<b>[References, etc.]</b>
(Reference books) (in Japanese) Nakayama T, Tsutani K 「Rinsho kenkyu to ekigaku kenkyu notameno kokusai ruru shu」 (Lifescience shuppan)
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>
Rather than spending more time on your preparation, please put more energy into the review.
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>
We hope students who attend this course will lay the foundation for promoting their own public health research by learning skills of critical appraisal.
This course is open to graduate students with the school of human health science.
*Please visit KULASIS to find out about office hours.

Course number		P-PUB01 8H115 LB90						
Course title (and course title in English)	ヘルスサイエンス研究の進め方 Methods of Health Sciences Research		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor, NAKAYAMA TAKEO Part-time Lecturer, MIYAZAKI KIKUCHI Statcom Co. Ltd UETANI KAE				
Target year	Professional degree students		Number of credits	1	Year/semesters	2020/Intensive, First semester		
Days and periods	Intensive		Class style	Lecture	Language of instruction	Japanese and English		
<b>[Overview and purpose of the course]</b>								
<ul style="list-style-type: none"> <li>Basic knowledge about how to communicate concisely and accurately.</li> <li>The ins and outs of ethics in research and publishing.</li> <li>How to create clear, scientific and logical texts, figures and tables, slides and posters for the effective publication of research results.</li> </ul>								
<b>[Course objectives]</b>								
<ul style="list-style-type: none"> <li>Obtain a thorough understanding of the significance of health sciences research.</li> <li>Obtain an understanding of and observe for the ethics in research and publishing.</li> <li>Obtain an understanding of the basic methods of preparing presentations, papers, and grant proposals.</li> <li>Obtain an understanding of the differences between academic and general writing methods.</li> </ul>								
<b>[Course schedule and contents]</b>								
1. May 29 3rd History and significance of health science research 2. May 29 4th Ethics in research and publishing I (introduction) 3. June 5 3rd Ethics in research and publishing II (ICMJE) 4. June 5 4th Logical writing: How to write effectively and efficiently, how to write a journal article and abstract 5. June 12 3rd Logical writing: Paragraph structure 6. June 12 4th History of medical research in Kyoto University 7. June 19 3rd Display data in tables and graphs 8. June 19 4th How to write a grant proposal								
<b>[Course requirements]</b>								
This course is open to graduate students with the school of human health science. Students who want to join are expected to actively participate in class discussions.								
<b>[Evaluation methods and policy]</b>								
Participation in class and discussion 60%, Report 40%								
Continue to ヘルスサイエンス研究の進め方 (2) ↓↓↓								

ヘルスサイエンス研究の進め方 (2)						
<b>[Textbooks]</b>		Reading materials will be distributed as needed				
<b>[References, etc.]</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>(Reference books) Lang TA 「How to Write, Publish, &amp; Present in the Health Sciences: A Guide for Clinicians &amp; Laboratory Researchers」 (The American College of Physicians)</li> <li>Lang TA, Secic M 「How to Report Statistics in Medicine: Annotated Guidelines for Authors, Editors, and Reviewers」 (The American College of Physicians)</li> <li>Nakayama T, Tsutani K 「Rinsho kenkyu to ekigaku kenkyu no tameno kokusai rurushu」 (Life Science Shuppan)</li> </ul>				
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>		One hour for each lesson. For the first lesson preparation, read the ICMJE Recommendation on this website [ <a href="http://www.icmje.org/recommendations/">http://www.icmje.org/recommendations/</a> ].				
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>		Please check the lecture schedule. Students are advised to develop and express their own ideas and opinions during classes.  *Please visit KULASIS to find out about office hours.				

Course number		P-PUB01 8H129 LB90						
Course title (and course title in English)	医療の質評価 Evaluation of Quality in Health Care		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor, IMANAKA YUICHI Graduate School of Medicine Program-Specific Associate Professor, SASAKI NORIKO Graduate School of Medicine Associate Professor, KUNISAWA SUSUMU Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer, OOTSUKI TETSUYA				
Target year	Professional degree students		Number of credits	1	Year/semesters	2020/Intensive, First semester		
Days and periods	Intensive		Class style	Lecture	Language of instruction	Japanese and English		
<b>[Overview and purpose of the course]</b>								
<p>[Outline and Purpose of the Course]</p> <p>This course facilitates the understanding of fundamental matters and important on-site issues in healthcare quality, safety, equity, and efficiency at various levels, such as medical staff, healthcare institutions, municipal governments, and national governments.</p> <p>&lt;Content&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Healthcare quality, equity, and efficiency</li> <li>Ability to explain the fundamentals of quasi-experimental design</li> <li>Management systems and policies in healthcare quality, safety, and efficiency</li> <li>Healthcare evaluations and hospital functional assessments</li> <li>Healthcare informatics and healthcare quality evaluations</li> <li>Healthcare quality indicators (QIs) and their applications</li> </ul>								
<b>[Course objectives]</b>								
<ul style="list-style-type: none"> <li>Students will understand and be able to explain key issues in evaluations of quality in health care, including the necessary theories and concepts, research and evaluation methods, as well as problems and measures.</li> <li>Students will be able to systematically and critically interpret the significance of fundamental research and social systems.</li> <li>Students will be able to apply relevant knowledge to solve problems in public health research and practice.</li> </ul>								
<b>[Course schedule and contents]</b>								
1. June 07 Healthcare quality, efficiency, and equity 2. June 24 Organizational culture and quality/safety in health care culture 3. July 01 Healthcare quality evaluation methods, outcomes research, and risk adjustments 4. July 08 Indicators of healthcare quality (QIs and CIs) 5. July 15 Information systems and healthcare evaluations 6. July 22 Evaluation of quality in health care: Journal article review and discussion 1 7. July 29 Evaluation of quality in health care: Journal article review and discussion 2								
Continue to 医療の質評価 (2) ↓↓↓								

医療の質評価 (2)											
Note: This schedule is subject to change. Overview of the schedule will be shown at the first day.											
<b>[Course requirements]</b>		This course is mainly open to Students in School of Public Health. Students from other courses (including students in School of Human Health Sciences) are limited to maximum 3 students. Attendance rate 80% or more.									
<b>[Evaluation methods and policy]</b>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Report (60%)</li> <li>Classroom participation (40%)</li> </ol>									
<b>[Textbooks]</b>		Reading materials will be distributed as needed.									
<b>[References, etc.]</b>											
<ul style="list-style-type: none"> <li>(Reference books) <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療安全のエビデンス - 患者を守る実践方策 (医学書院,2005)</li> <li>・病院の教科書 (医学書院,2010)</li> <li>・Handbook of Health Services Research (Springer Science+Business Media)</li> <li>・「NEW予防医学・公衆衛生学 改訂第4版」 (編集:小泉昭夫/馬場園明/今中雄一/武林亨) 南江堂, 2018.</li> </ul> </li> </ul>											
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>		Both good preparation and review are needed.									
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>		Our department has been accepting graduate students who are interested in research related to health care policies, health care management, and health care quality/safety/cost. ( <a href="http://med-econ.univ.ac.jp/int/">http://med-econ.univ.ac.jp/int/</a> )									
*Please visit KULASIS to find out about office hours.											

Course number					
Course title (and course title in English)	毒性学入門 Introduction to Toxicology		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Associate Professor,HARADA KOUJI	
Target year	Professional degree students	Number of credits	2	Year/semesters	2020/First semester
Days and periods	Wed.4	Class style	Lecture	Language of instruction	Japanese and English
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
I. Course Description The hazardous effects of chemicals on human health have been traditionally investigated in toxicology while therapeutic ones have been investigated in pharmacology. In this course, selected known episodes of environmental pollutions, metals and organic substances will be given. We will discuss the toxicities of common chemicals in our modern lives: mercury, dioxin, lead, thallium and cannabinoids. The aim of this course is to provide a scientific basis of modern toxicology.					
<b>[Course objectives]</b>					
II. Course Goals and Objectives Introduction to basic toxicology Knowledge for the toxic effects of some environmental pollutants, metals and organic substances familiar to us. Knowledge for developmental toxicology and carcinogenesis Analytical skill for toxicokinetics and toxicodynamics Skill for regulatory strategy to minimize the toxic effects of chemicals					
<b>[Course schedule and contents]</b>					
Course Schedule 1 Orientation 2 Alcohol toxicity and genetics 3 Insulin 4 Neonicotinoid pesticide 5-6 Mercury poisonings 7-8 Arsenic poisonings 9 Opioid and cannabinoid 10 Cause of Chireiden's Death in India during summer 11 Aconitine 12 Medicines from natural products 13-14 Group work 15 Report criticism					
----- Continue to 毒性学入門(2) ↓ ↓ ↓					

毒性学入門(2)	
<b>[Course requirements]</b>	
None	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
V. Course Grade Attendance and active participation in the lecture 70%; Report assignment 30 %	
<b>[Textbooks]</b>	
Not used IV. Course Text and Readings Handouts	
<b>[References, etc.]</b>	
(Reference books)	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Group discussion will be performed by students in Out-of-Class.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
VI. Message "Introduction to Toxicology", "Toxicology" and "On the Bench Training" are in series. Those who wish to take "Toxicology" and "On the Bench Training" may better take "Introduction to Toxicology".  *Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course number		P-PUB01 8H103 LB90			
Course title (and course title in English)	医療社会学・基礎 Medical Sociology		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Associate Professor,IWAKUMA MIHO	
Target year	Professional degree students	Number of credits	1	Year/semesters	2020/Intensive, First semester
Days and periods	Intensive	Class style	Lecture	Language of instruction	Japanese and English
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
Course Description Medical sociology is a "scholarly discipline which investigates global issues concerning sickness, health, and medicine using sociological theories and methods." ("Sociology of health and medicine" by Yamazaki et al, 2001) This course covers, in addition to sociology, such areas as anthropology, communication studies, history, philosophy, and/or ethics.					
<b>[Course objectives]</b>					
Course Goals and Objectives Understand general ideas about medical sociology Understand frameworks, theories, and concepts that are relevant to medical sociology Find own research domain in medical sociology Provide perspectives and vocabularies for medicine from humanities and social sciences					
<b>[Course schedule and contents]</b>					
1) 6/9 Introduction 2) 6/16 Basics of medical sociology 3) 6/23 Guest lecture on IPE/IPW 4) 6/30 enhancement in medicine 5) 7/7 Sick role, stigma & other concepts of medical sociology 6) 7/14 Medical sociology and communication 7) 7/21 Illness and sickness					
<b>[Course requirements]</b>					
None					
----- Continue to 医療社会学・基礎(2) ↓ ↓ ↓					

医療社会学・基礎(2)	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Course Grade Participation 50% Term paper 50% title 15% + final version 35%	
<b>[Textbooks]</b>	
Not used	
<b>[References, etc.]</b>	
(Reference books)	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Lectures, group-work, and/or discussion	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
Message class participation by the student is highly valued Suitable for students who are interested in social science perspectives in medicine and science Consult with me ASAP for any disability-related accommodation @ mhiwakuma@yahoo.co.jp or ext. 4668. A guest lecture is given in Japanese. contents & dates are subjects to change  *Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course number		G-MED41 8S004 LE87			
Course title (and course title in English)	統計遺伝学 I Statistical Genetics I		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor, YAMADA RIYOU	
Target year	Doctoral students	Number of credits	2	Year/semesters	2020/Intensive, First semester
Days and periods	Intensive	Class style	lecture and seminar	Language of instruction	Japanese and English
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
This course is consisted of three components to master the basics of statistical genetics; (1) basic mathematics, (2) basics of statistics and (3) application of statistics to genetic studies. The course divides these three components into six modules and provides one of them for each semester.					
Basic mathematics A: Linear algebra and graph theory Basic mathematics B: Calculus and information geometry  Basics of statistics A: Data types and statistical tests Basics of statistics B: Inference  Application of statistics A: Statistical aspects of Mendelian traits and Cancer syndromes Application of statistics B: Statistica. aspects of complex genetic traits and gene expression biomarkers.					
Schedule plan is as below:					
2018 1st semester Basic mathematics A, 2nd semester Basics of statistics A 2019 1st semester Basic mathematics B, 2nd semester Application B 2020 1st semester Basic mathematics A, 2nd semester Basics of statistics B 2021 1st semester Basic mathematics B, 2nd semester Application A					
In the course, the language R is used for data analysis, simulation and visualization.					
This semester: BASIC MATHEMATICS A.					
<b>[Course objectives]</b>					
Basic mathematics A: To understand matrix calculation least squares, PCA, and the basics of graph theory. Basic mathematics B: To understand calculus for probability density functions, likelihood functions and maximum likelihood estimation, approximation, and the basics of information geometry.  Basics of statistics A : To understand data types, statistical tests, asymptotic tests, exact tests, and contingency table tests  Basics of statistics B : To understand point and interval estimates, Bayesian estimates, maximum likelihood					
Continue to 統計遺伝学 I (2) ↓↓↓					

統計遺伝学 I (2)					
estimates and likelihood functions.					
Application A: To understand statistical aspects for risk evaluation of Mendelian traits and cancer syndromes. Application B: To understand statistical aspects for risks evaluation of complex genetic traits and expressional profiles.					
In every module, the basics of R language should be mastered.					
<b>[Course schedule and contents]</b>					
Basic mathematics A The first half: Linear algebra, including matrix calculation, variance-covariance matrix, least square method, system of equation, PCA, optimization The second half: Graph theory, including basics of graph theory, tree, minimum spanning tree, random graph, and network and graph objects in R language.					
Basic mathematics B The first half: Calculus, including expect of probability density functions, likelihood function and maximum likelihood estimate and calculus for them, calculus for probability density function, cumulative density function and hazard functions, partial derivative and HWE, calculus for least square methods and Taylor expansion. The second half: Information geometry, including its basics, Fisher information, dual flatness, exponential families and KL divergence.					
Basics of statistics A Data types including categorical types and simplex, 2x2 table tests and chi-square test and exact test, HWE-test and its exact test, 2x3 table test and genetic models, uniform distribution and multiple testing and Bonferroni's correction.					
Basics of statistics B Point and interval estimates, Bayesian approach and binomial and beta distributions, haplotype frequency estimation and EM algorithm and LD block.					
Application A The first half: Mendelian traits, including pedigree, genotypes and phenotypes of Mendelian traits, NGS and disease-responsible variants. The second half: Cancer syndrome, including its basics and risk evaluation, decision-support tool, Bayesian estimation and Bayesian network.					
Application B The first half: Complex genetic traits, including genetic models, population and cohort, 2x3 table association tests and multiple-locus model. The second half: Transcriptome analysis and expression profiles, including their basics, differential expression analysis, clustering and heatmap, supervised learning and validation.					
Continue to 統計遺伝学 I (3) ↓↓↓					

統計遺伝学 I (3)					
<b>[Course requirements]</b>					
It is desirable to have background of molecular biology and genetics but not required if ready for self-learning them.					
Bring a laptop PC with wifi.					
Basic computer skills and programming in R are necessary. If no, self-learn them along the course.					
<b>[Evaluation methods and policy]</b>					
Activities in the class hours, homeworks and exam at the end of the course are count.					
<b>[Textbooks]</b>					
For basics of statistics A and B "遺伝統計学の基礎 ISBN 978-4274068225 in Japanese and its English version handout will be used.					
<b>[References, etc.]</b>					
(Reference books) For basic mathematics, get handouts @ <a href="http://statgenet-kyotouniv.wikidot.com/2018">http://statgenet-kyotouniv.wikidot.com/2018</a> .					
For application A and B, get handouts @ <a href="http://statgenet-kyotouniv.wikidot.com/2017">http://statgenet-kyotouniv.wikidot.com/2017</a> .					
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>					
Homework every week.					
<b>[Other information (office hours, etc.)]</b>					
None.					
*Please visit KULASIS to find out about office hours.					

未更新					
Course number		P-PUB01 8H112 LB90			
Course title (and course title in English)	臨床試験		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Program-Specific Professor,TANAKA SHIROU Graduate School of Medicine Professor,FURUKAWA TOSHIAKI Graduate School of Medicine Associate Professor,NISHIYAMA CHIKA 京都府立医科大学 教授 TERAMUKAI SATOSHI 名古屋医療センター 臨床疫学研究室 室長 SAITO AKIKO	
Target year	Professional degree students	Number of credits	2	Year/semesters	2020/First semester
Days and periods	Wed.5	Class style	Lecture	Language of instruction	Japanese and English
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
This course consists of lectures on methodology of clinical trials in accordance with Chapter 3, 5, 6, 9, 10 and 12 to 15 of "Clinical Trials: A Practical Approach". In addition, 3 lecturers who experienced in investigator-initiated clinical trials in cardiovascular disease, cancer, and translational research areas provide lectures on the practical aspects of clinical trials based on their experience. This course also includes a workshop of developing study protocols of hypothetical clinical trials with small-sized groups. MCR required, CB required, MPH elective.					
<b>[Course objectives]</b>					
To understand methodology of clinical trials To understand contents of study protocol and learn how to develop a study protocol through a workshop of protocol development					
<b>[Course schedule and contents]</b>					
April 11 Overview (Furukawa) April 18 Organization and Planning (Tanaka) April 25 Experience in Education Intervention Trials in Cardiovascular Disease (Nishiyama) May 9 Issues in Conducting Cancer Clinical Trials and Their Solutions (Saito) May 16 Cancer Phase I, II, III Trials (Tanaka) May 23 Endpoints, Randomization and Blinding May 30 Publication and Interpretation of Findings (Furukawa) June 6 Statistical Consideration in Protocol Development (Teramukai) June 13 Statistical analysis 1 (Tanaka) June 20 Statistical analysis 2 (Tanaka) June 27 Workshop (protocol development, Tanaka, Aida, Imai) July 4 Workshop (protocol development, Tanaka, Aida, Imai) July 11 Workshop (protocol development, Tanaka, Aida, Imai) July 18 Workshop (protocol development, Tanaka, Aida, Imai) July 25 Workshop (presentation, Furukawa, Tanaka, Aida, Imai)					
Continue to 臨床試験(2) ↓↓↓					

臨床試験(2)	
<b>[Course requirements]</b> None	
<b>[Evaluation methods and policy]</b> Attendance 50%, Report 50%	
<b>[Textbooks]</b> Stuart J. Pocock 『Clinical Trials: A Practical Approach』 (Wiley) A copy of the textbook will be provided.	
<b>[References, etc.]</b> <b>(Reference books)</b>	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b> Please read the textbook "Clinical Trials: A Practical Approach".	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b> *Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course number		P-PUB01 8H134 LJ90			
Course title (and course title in English)	統計家の行動基準 Statisticians Standard of Conducts		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor,SATO TOSIYA Kyoto University Hospital Project Associate Professor,SATOU KEIKO Graduate School of Medicine Associate Professor,DOI MASAAKI Graduate School of Medicine Assistant Professor,Omiya Masatomo	
Target year	Professional degree students	Number of credits	1	Year/semesters	2020/Intensive, First semester
Days and periods	Intensive	Class style	Lecture	Language of instruction	Japanese
<b>[Overview and purpose of the course]</b> According to the 19th Century British Prime Minister Benjamin Disraeli, "There are lies, damned lies and statistics." However, statistics are used in various fields as fundamental information for decision-making and policy, and are vital to maintaining and improving human well-being and the environment. For statistics to not devolve into lies, statisticians, experts who perform research and tasks involving statistics, must not only have the appropriate knowledge and skills, but also professionalism. Saying this feels somewhat rigid, but as a result of recent instances of misconduct related to research, external regulations have only become stricter, such as mandatory attendance at research ethics seminars on standards adherence. This course aims to have students think for themselves about what statisticians should be, based on the basic premise that the only person who can ensure one's adherence is oneself. There is a need not only for science while designing clinical trials for humans, but also for heart. Medicines that were supposed to bring health have brought tragedy, and we shall study examples where statisticians may have been responsible for the harm caused. We shall consider how statisticians should behave, and what students wish to engage with through discussions and group work. [Intensive lectures on July 3, 17, and 31 (Fri)]					
<b>[Course objectives]</b> Understand • Conflicts between science and ethics in clinical research, • What statisticians have done in drug evaluations in the past, • Ways to explain the role of statisticians in clinical research, and • Ways to consider and internalize standards of behavior as a statistician.					
<b>[Course schedule and contents]</b> Intensive lectures: July 3 (Friday, Periods 3 and 4), 17 (Friday, Periods 3 and 4), and 31 (Friday, Periods 3, 4, and 5) Session 1, July 3, Period 3: Planning a Valid Clinical Trial 1 Session 2, July 3, Period 4: Planning a Valid Clinical Trial 2 Session 3, July 17, Period 3: Drugs and Safety (Professor Tsugumichi Sato, Tokyo University of Science) Session 4, July 17, Period 4: The Involvement of Statisticians in Damage Caused by Thalidomide Session 5, July 31, Period 3: The Core of ICH Statistical Guidelines Session 6, July 31, Period 4: Cultivating Professionalism Among Statisticians Session 7, July 31, Period 5: Group Work					
Continue to 統計家の行動基準(2)↓ ↓ ↓					

統計家の行動基準(2)	
<b>[Course requirements]</b> Students who are not statisticians are also welcome.	
<b>[Evaluation methods and policy]</b> Reports	
<b>[Textbooks]</b> Materials will be distributed in each session.	
<b>[References, etc.]</b> <b>(Reference books)</b> Friedman LM, Furberg CD, DeMets DL, Reboussin DM, Granger CB 『Fundamentals of Clinical Trials, 5th ed.』 (Springer, 2015), Hideo Kunitoh, Keiko Sato, Kenichi Yoshimura, "誰も教えてくれなかつた癌臨床試験の正しい作法" (Chugai Igaku, 2016)	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b> Read the "Statisticians' Code of Conduct" issued by The Biometric Society of Japan and the "Statistical Principles in Clinical Trials" issued by ICH E9. <a href="http://www.biometrics.gr.jp/news/all/standard_20150310.pdf">http://www.biometrics.gr.jp/news/all/standard_20150310.pdf</a> <a href="https://www.pmda.go.jp/int-activities/int-harmony/ich/0031.html">https://www.pmda.go.jp/int-activities/int-harmony/ich/0031.html</a>	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b> *Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course number		P-PUB01 8H143 LJ90			
Course title (and course title in English)	健康デザイン論 Designing Health communication		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor,NAKAYAMA TAKEO	
Target year	Professional degree students	Number of credits	1	Year/semesters	2020/Intensive, year-round
Days and periods	Intensive	Class style	Lecture	Language of instruction	Japanese
<b>[Overview and purpose of the course]</b> • To learn the way of thinking & basic concept about Communication Design Approach in Healthcare • Using this approach as a clue, we will discuss the potential of this approach to promote targets' "understandings" and "actions", and lead them to "expected results" • Lecture & workshop style.					
<b>[Course objectives]</b> The goals of this course are to understand concepts and approaches such as "insight", "understanding / behavior promotion", "co-creation / collaboration", etc. regarding how to achieve "health communication" to maximize health outcomes.					
<b>[Course schedule and contents]</b> (First half) 1.September 3 4th Introduction 2.September 3 5th Communication design Approach ～the way to design & activate consumer's understanding and behavior 3.September 4 2nd Consumer insights ～the attitudes to and way of understanding of the target insights 4.September 4 3rd Planning ～the way of thinking about designing/planning projects to invite the consumers more healthy (Second half) 5.February 18 4th Review of the previous term 6.February 18 5th workshops 7.February 19 2nd workshops 8.February 19 3rd Presentation & Lecture summary (*Tentative schedule)					
<b>[Course requirements]</b> None					
Continue to 健康デザイン論(2)↓ ↓ ↓					

健康デザイン論(2)
<b>[Evaluation methods and policy]</b> Report (50%) Presentation (50%)
<b>[Textbooks]</b> Text books will be introduced in the first class.
<b>[References, etc.]</b> <b>(Reference books)</b> will be introduced in the first class.
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b> Review and home assignments.
<b>(Other information (office hours, etc.))</b> Project researchers (Research on health communication[Dentsu])will be cooperated.  *Please visit KULASIS to find out about office hours.

Course number		P-PUB01 8H136 LJ90			
Course title (and course title in English)	統計的推測の基礎 Fundamentals of Statistical Inference	Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor,SATO TOSIYA 統計数理研究所 HENMI MASAYUKI Graduate School of Medicine Associate Professor,DOI MASAAKI Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor,IMAI TORU National Cerebral and Cardiovascular Center OOMAE KATSUHIRO		
Target year	Professional degree students	Number of credits	2	Year/semesters	2020/First semester
Days and periods	Thu.4	Class style	lecture and seminar	Language of instruction	Japanese
<b>[Overview and purpose of the course]</b> In this course, students will learn the fundamentals of statistics-related subjects. The first will deal with the fundamentals of probability theory, which form the foundation for methods of statistical inference. The second half will deal with the basic concepts of statistical inference such as statistical estimation, hypothesis testing, and confidence intervals. Probability theory in the first half is not based on mathematically rigorous measurement theories, but rather uses calculus and linear algebra (undergraduate-level mathematics) with the aim of teaching students the fundamentals of probability necessary to understand methods of statistical inference. The latter half of statistical inference emphasizes the fundamental ideas and theoretical aspects of the basic concepts. The aim of this course is preparation and consolidation while focusing on the fundamentals that we cannot stop to think about in the course of other statistics-related subjects. Since students in this course are expected to come from various backgrounds, lessons will proceed with as much consideration for their circumstances as possible. [Lecture format, using PowerPoint slides and whiteboards]					
<b>[Course objectives]</b> • Understand the meaning of and ways of thinking that underlie basic concepts related to probability and statistics, and be able to explain these in your own words. • Be able to carry out calculations relating to statistics and probability distribution etc., while framing your own thoughts when necessary. • While studying other statistics-related subjects, be capable of studying various statistic methods on your own, and understand their mechanisms without viewing them as a black box.					
<b>[Course schedule and contents]</b> Session 1, April 9: Lecture Overview and Probability and Stochastic Variable Concepts (Itsumi) Session 2, April 16: Fundamentals of Discrete Random Variables and their Distribution (Itsumi) Session 3, April 23: Fundamentals of Continuous Random Variables and their Distribution (Itsumi) Session 4, April 30: Handling Multiple Random Variables I (Itsumi) Session 5, May 14: Handling Multiple Random Variables II (Itsumi) Session 6, May 21: Probability Distributions for Normal Samples (Itsumi) Session 7, May 28: Fundamentals of Statistical Estimates (Ohmae) Session 8, June 4: Fundamentals of Statistical Hypothesis Testing I (Imai) Session 9, June 11: Fundamentals of Statistical Hypothesis Testing II (Imai) Session 10, June 18: Fundamentals of Linear Regression Analysis (Itsumi)					
----- Continue to 統計的推測の基礎(2) ↓ ↓ ↓					

統計的推測の基礎(2)
Session 11, June 25: Fundamentals of Linear Regression Analysis II (Itsumi) Session 12, July 2: Fundamental Asymptotic Methods I (Limit Theorem, Maximum Likelihood, and its Properties) (Itsumi) Session 13, July 9: Fundamental Asymptotic Methods II (Tests based on Maximum Likelihood) (Itsumi) Session 14, July 16: Fundamental Asymptotic Methods III (Delta method, methods of estimation other than the maximum likelihood method) (Itsumi)
<b>[Course requirements]</b> • Students must have basic knowledge of calculus and linear algebra. • We do not accept human health science majors.
<b>[Evaluation methods and policy]</b> Reports
<b>[Textbooks]</b> Lecture materials will be distributed.
<b>[References, etc.]</b> <b>(Reference books)</b> Other materials will be introduced during lectures
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b> • We expect students taking this course to learn various things, but we would like for them to emphasize on the parts that they do not fully understand while taking advantage of this class. • Attendance at lectures alone is insufficient to understand and master the content of mathematical lessons. It is necessary to work through these one by one, checking calculations and logic after each lecture. The content covered in this lecture is very important to understand other statistics-related courses involving mathematical elements, so students are advised to work diligently on reviewing all that they learn. • In addition to this class, other seminars are arranged for as part of the Clinical Statistician Training course. Those who are unsure of the basics, or are experiencing difficulty with the exercises themselves should also make use of these seminars.
<b>(Other information (office hours, etc.))</b> *Please visit KULASIS to find out about office hours.

Course number		P-PUB01 8H137 LJ90			
Course title (and course title in English)	生存時間解析 Survival Analysis	Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor,SATO TOSIYA 大阪大学大学院医学系研究科 HATTORI SATOSHI Graduate School of Medicine Associate Professor,DOI MASAAKI Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor,IMAI TORU		
Target year	Professional degree students	Number of credits	1	Year/semesters	2020/Intensive, Second semester
Days and periods	Intensive	Class style	Lecture	Language of instruction	Japanese
<b>[Overview and purpose of the course]</b> Survival time analysis is a method of statistical analysis of the duration before an event of interest takes place (survival time). It plays an important role in various medical studies such as clinical trials of antineoplastic drugs. Survival time is not usually observed for all subjects because of research constraints, and a unique methodology has been developed to draw inferences based on this truncated data. In this course, students will learn the fundamental concepts of survival time analysis and try to establish an understanding through practice using SAS programming language for statistical analysis. [Intensive lectures on October 9 and 23 and November 6 and 13 (Fri)]					
<b>[Course objectives]</b> Understand: • Likelihood in truncated survival time analysis and methods of maximum likelihood estimation for parametric models, • The Kaplan-Meier method and the concept of logrank tests, • The concept of hazards and the Cox proportional hazards model, and • Ways to apply survival time analysis method using SAS.					
<b>[Course schedule and contents]</b> Session 1, October 9 Period 3 Survival Time Data Examples and Characteristics Session 2, October 9 Period 4 Non-Parametric Estimation Session 3, October 23 Period 3 Logrank Tests Session 4, October 23 Period 2 Review of the First Half of the Course and Exercises Using SAS Session 5, November 6 Period 3 The Cox Proportional Hazards Model Session 6, November 6 Period 4 Residual Analysis in Survival Time Analysis Session 7, November 13 Period 4 Sample Size Design in Randomized Trials					
<b>[Course requirements]</b> • Students must have completed "Fundamentals of Statistical Inference" in the first semester. • Students must be familiar with basic calculus.					
<b>[Evaluation methods and policy]</b> Students will be asked to submit a report in each session.					
----- Continue to 生存時間解析(2) ↓ ↓ ↓					

生存時間解析(2)
<b>[Textbooks]</b> Materials will be distributed in each session.
<b>[References, etc.]</b> <b>(Reference books)</b> Yasuo Ohashi, Chikuma Hamada, "生存時間解析—SASによる生物統計" (University of Tokyo Press) ISBN:978-4130602006, Collett D, (Translated by Etsuo Miyaoka) "医薬統計のための生存時間データ解析 原著第2版" (Kyoritsu Shuppan) ISBN:978-4320010359, Klein J, Moeschberger ML, (Translated by Mamoru Uchinami) "生存時間解析" (Maruzen Publishing) ISBN:978-4621061886, Therneau TM, Grambsch PM "Modeling Survival Data: Extending the Cox Model" (Springer) ISBN:978-1-4419-3161-0, Yasuo Ohashi, Chikuma Hamada, Ryuji Uozumi, "生存時間解析 応用編-SASによる生物統計" (University of Tokyo Press) ISBN: 978-4130623179
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b> Review lessons taught in previous sessions.
<b>(Other information (office hours, etc.))</b> *Please visit KULASIS to find out about office hours.

Course number	P-PUB01 8H138 LJ90				
Course title (and course title in English)	統計モデルとその応用 Statistical Modeling and Applications	Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor,SATO TOSIYA 岩手医科大学 TAKAHASHI FUMIAKI Graduate School of Medicine Associate Professor,DOI MASAAKI Graduate School of Medicine Assistant Professor,Omiva Masatomo		
Target year	Professional degree students	Number of credits	1	Year/seminesters	2020/Intensive, Second semester
Days and periods	Intensive	Class style	Lecture	Language of instruction	Japanese
<b>[Overview and purpose of the course]</b> The use of a regression model is one of the methods of adjusting for "confounding." A typical regression model works for one continuous outcome variable. In medical research, however, there may be cases in which one is interested in the presence or absence of risk, or in which an interesting result is measured repeatedly, and a more complicated model may be required depending on the characteristics of the results. In this course, we explain regression models for various outcome variables and their methods of analysis by combining a range of examples. [Intensive lectures on October 2, 16, and 30, and November 20 (Fri)]					
<b>[Course objectives]</b> Understand: • The role of regression models, • Regression models for various data characteristics and their methods of analysis, and • Ways to perform analysis using statistical analysis software and interpret the results.					
<b>[Course schedule and contents]</b> Session 1, October 2, Period 3: Examples and Characteristics of Periodic Measurement Data Session 2, October 2, Period 4: The General Linear Model for Correlated Continuous Data (1) Average Structure and Covariance Structure Modeling Session 3, October 16, Period 3: The General Linear Model for Correlated Continuous Data (2) Random effect models Session 4, October 16, Period 4: Analysis of Periodic Measurement Data with Missing Values Session 5, October 30, Period 3: The Generalized Linear Model for Correlated Categorical Data (1) Neighboring Models and GEE Session 6, October 30, Period 4: The Generalized Linear Model for Correlated Categorical Data (2) Random effect models Session 7, November 20, Period 3: Review of Analysis of Periodic Measurement Data and Practice using SAS					
<b>[Course requirements]</b> • Students should have completed "Fundamentals of Statistical Inference" in the first semester. • Students must have basic knowledge of linear algebra.					
Continue to 統計モデルとその応用(2) ↓↓					

統計モデルとその応用(2)
<b>[Evaluation methods and policy]</b> Students will be asked to submit a report in each session.
<b>[Textbooks]</b> Materials will be distributed in each session.
<b>[References, etc.]</b> <b>(Reference books)</b> Dobson AJ, "一般化線形モデル入門 原著第2版" (Kyoritsu Shuppan) ISBN:978-4320018679, McCulloch C, Searle S, and Neuhaus J, "Generalized, Linear, and Mixed Models" (Wiley) ISBN:978-0-470-07371-1, Ikuo Funatogawa, Takashi Funatogawa "経時データ解析" (Asakura Shoten) ISBN:978-4254128550
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b> Review lessons taught in previous sessions.
<b>(Other information (office hours, etc.))</b> *Please visit KULASIS to find out about office hours.

Course number	P-PUB01 8H142 LJ90				
Course title (and course title in English)	行政医学・産業医学 Medical Doctors in Government and Occupational Settings	Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor,IMANAKA YUICHI Agency for Health, Safety and Environment Professor,KAWAMURA TAKASHI Part-time Lecturer,KOIZUMI AKIO Graduate School of Medicine Professor,NAKAYAMA TAKEO		
Target year	Professional degree students	Number of credits	2	Year/seminesters	2020/Intensive, First semester
Days and periods	Intensive	Class style	Lecture	Language of instruction	Japanese
<b>[Overview and purpose of the course]</b> The aim of this course is to provide students with intensive learning and practicing of occupational medicine and health policy. Students will 1) deal with a set of framework aiming at problem-solving in the practical and social context 2) learn about medical doctors' practice in the field of government on health policy 3) learn about medical doctors' practice in the field of occupational medicine 外部講師：渡邊能行（京都府健康福祉部前保健医療対策監、京都先端科学大学）、猪飼宏（京都府中丹西保健所）、森口次郎（京都工場保健会）、波床将材（京都市こころの健康増進センター）					
<b>[Course objectives]</b> By the end of this course, students will be able to: *have deep knowledge and understanding about the problems in these fields, and explain them to others *have a keen insight figuring out what is the critical cause *consult specialists appropriately in order to solve the problems					
<b>[Course schedule and contents]</b> This course is an immersive program held on Aug.5 and Aug.6. Students are required to participate in all the programs from the first period to the last (fifth or sixth). The program includes lectures and group works on following subjects 【Health policy】 -Practice of health policy -Introduction of health policy practice -Adult / elderly health, maternal and child health, school health and dental health -Promotion of the Integrated Community Care System, Implementation of Regional Health Vision / Plan -Mental health, Plans and actions for people with diseases, incurable diseases and special needs -Health promotion, Plans and actions for lifestyle-related diseases, elderly people who need support and people with disabilities -Infectious disease control, Measures against food poisoning, disasters and public health crisis -Exercises and group works of health policy					
Continue to 行政医学・産業医学(2) ↓↓					

<b>行政医学・産業医学(2)</b>
-Fieldworks
[Occupational medicine]
-Practice of occupational medicine
-Introduction of occupational medicine practice
-Environmental health in workplaces and regions
-Management of chemical substances, Prevention of exposure to harmful factors, Measures for health hazard
-Labor hours management, especially of medical doctors
-Health management through medical examinations
-Mental health at workplace
-Exercises and group works of occupational medicine
-Fieldworks
*Note that the schedule is subject to change. The latest schedule will be introduced at the beginning of the course.
<b>[Course requirements]</b>
This course is mainly for students in the School of Public Health. Students from other courses (including students in School of Human Health Sciences) are also welcomed though the number will be limited. Attendance rate 80% or more.
<b>[Evaluation methods and policy]</b>
The grade will be based mainly on active participation in the class (60%) and reports (40%).
<b>[Textbooks]</b>
Instructed during class No textbook is required for this course. Handouts will be distributed by the instructors as needed.
<b>[References, etc.]</b>
(Reference books) Introduced during class References will be introduced by the instructors as needed. • NEW予防医学・公衆衛生学改訂第4版 (南江堂,2018年)
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>
Explain first
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>
*Please visit KULASIS to find out about office hours.

<b>Course number</b>	P-PUB01 8H145 LB90				
<b>Course title (and course title in English)</b>	多重性の考え方 Multiplicity in clinical trials	<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Associate Professor,DOI MASAAKI Graduate School of Medicine Professor,SATO TOSIYA Graduate School of Medicine Assistant Professor,Omiya Masatomo Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor,IMAI TORU		
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	1	<b>Year/semesters</b>	2020/The first half of first semester
<b>Days and periods</b>	Fri.2	<b>Class style</b>	Lecture	<b>Language of instruction</b>	Japanese and English
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
Multiple validation tests are often necessary within a single clinical trial, such as in a confirmatory clinical trial in which multiple doses of a study drug are run and compared to a placebo group. In such cases, it is extremely important to perform analysis that considers the multiplicity of the type-I error rare ( $\alpha$ error) properly. In this course, we aim to make students capable of considering the multiplicity of tests at each stage of a clinical trial, namely planning, analysis, and the interpretation of results. Some practical training will also be provided using SAS. The fifth session will be delivered by Professor Isao Yokota of Hokkaido University, and the seventh session will be delivered by Professor Kouhei Uemura of the University of Tokyo.					
[Lecture format, using PowerPoint slides]					
<b>[Course objectives]</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>Gain skills to distinguish between cases where adjustment for test multiplicity is necessary and cases where it is not.</li> <li>Understand basic statistical methods and learn to choose appropriate methods.</li> <li>Learn to analyze real data using basic statistical methods using SAS procedures.</li> <li>Learn to evaluate the performance of each method using Monte Carlo simulations.</li> </ul>					
<b>[Course schedule and contents]</b>					
Session 1, April 10, Period 2: Fundamentals of Test Multiplicity of (Doi) Session 2, April 17, Period 2: Overview of Basic Statistical Methods (Doi) Session 3, April 24, Period 2: Closed Testing Procedure (Doi) Session 4, May 1, Period 2: Practicum using SAS (Doi, Omiya, Imai) Session 5, May 8, Period 2: Interval Analysis (Yokota) Session 6, May 15, Period 2: Multiplicity (Doi) in Subgroup Analysis and Dose-Response Relationship Studies (Doi) Session 7, May 29, Period 2: The Application of Multiplicity Adjustment in Practice (Uemura)					
Continue to 多重性の考え方(2)↓↓↓					

<b>多重性の考え方(2)</b>
<b>[Course requirements]</b>
• Students must have completed the "Fundamentals of Statistical Inference" course. • Students must be familiar with data handling and random number generation in SAS.
<b>[Evaluation methods and policy]</b>
Class participation and reports.
<b>[Textbooks]</b>
Lecture materials will be distributed.
<b>[References, etc.]</b>
(Reference books) Yasushi Nagata. (2007) "統計的多重比較法の基礎" (Scientist Ltd.) ISBN:978-4914903466, Kentaro Sakamaki, Takashi Sozu and Toshimitsu Hamasaki, "多重比較法" (Asakura Shoten) ISBN: 978-4254128628, Dmitrienko, A., Molenberghs, G., Chuang-Stein, C., & Offen, W. W. (2005) "Analysis of clinical trials using SAS: A practical guide." (SAS Institute), translated by Kaoru Morikawa and Tasaki Takenobu (2009) 治験の統計解析 #8211理論とSAS#174による実践, Kodansha, Dmitrienko, A., Tamhane, A. C., & Bretz, F. (Eds.). (2009) "Multiple testing problems in pharmaceutical statistics." (CRC press)
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>
Students should review the content of the "Fundamentals of Statistical Inference" course and CB course students should review the content of the "Practical Skills for Clinical Statisticians" course thoroughly. Students must review the lessons learned in each lecture.
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>
*Please visit KULASIS to find out about office hours.

<b>Course number</b>	P-PUB01 8N015 LJ90				
<b>Course title (and course title in English)</b>	遺伝医療と倫理・社会 Genetic Medicine, Ethics and Society	<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Professor,KOSUGI SHINJI		
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	2	<b>Year/semesters</b>	2020/First semester
<b>Days and periods</b>	水曜 2限	<b>Class style</b>	Lecture	<b>Language of instruction</b>	Japanese
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
<p>【基本情報】 授業日時：水曜2限を原則とする（例外予定にご注意ください） 教室：G棟3階演習室 レベル：基礎 担当者：小杉真司・和田敬仁・山田崇弘・澤井英明（兵庫医科大学）</p> <p>【コースの概要】 遺伝医療・先端医療においては、倫理的な配慮は不可欠である。遺伝医療を中心とした医療倫理の基本について学ぶ。特に種々のガイドラインの理解は極めて重要である。また、社会的な基盤を含む日本の遺伝医療の現状について理解する。</p>					
<b>[Course objectives]</b>					
遺伝医療・医学に関する倫理指針、遺伝学的検査、小児・産婦人科遺伝医療における倫理問題の基本、社会基盤について理解する。					
<b>[Course schedule and contents]</b>					
<p>【第1回】4月8日&lt;小杉1&gt;遺伝医療総論：遺伝カウンセラーコースの必修科目の最初のものとして、必ずしも「倫理」にかかわらず、全般的なイントロダクションを行う。また、遺伝医療における倫理問題の特徴、遺伝情報の共有、意図しない遺伝情報の開示などについて考える</p> <p>【第2回】4月15日&lt;小杉2&gt;ヒトゲノム・遺伝子解析研究の倫理指針と他のガイドライン：研究として行われるヒト遺伝子解析における倫理的問題点、研究と臨床の境界と区別について考える</p> <p>【第3回】4月22日&lt;臨床第一講堂&gt;&lt;小杉3&gt;遺伝医療に関するガイドラインについて：関連する種々のガイドラインに関する復習</p> <p>【第4回】5月13日&lt;小杉4&gt;企業で行われる遺伝子解析について：遺伝学的検査を臨床検査会社等の外部委託する場合の問題点、非医療機関で行われる遺伝子検査の問題点について考える</p> <p>【第5回】5月20日&lt;小杉5&gt;遺伝学的検査に関するガイドライン・遺伝子検査の意義：臨床的に行われる遺伝学的検査の実施に際して考慮されなければならない倫理的問題について、遺伝子診断の意味とその問題点について、発端者・家族における違いを明確にしながら考える</p> <p>【第6回】5月27日&lt;小杉6&gt;発症前遺伝子診断・について：発症前遺伝子診断・易罹患性診断の意味とその問題点について、神経変性疾患・家族性腫瘍など疾患における違いを明確にしながら考える</p> <p>【第7回】5月27日6限&lt;山田1&gt;人工妊娠中絶：本邦における人工妊娠中絶について、その倫理問題について考える</p> <p>【第8回(4月3日)】&lt;小杉7&gt;多因子疾患易罹患性診断・遺伝学的検査のACCE・ゲノムコホート研究について：遺伝学的検査についてはAnalytical Validity, Clinical Validity, Clinical Utility, Ethical, Legal &amp; Social Implicationsが重要。特に、多因子疾患においては今後の研究によるその確立が必要である。</p>					
Continue to 遺伝医療と倫理・社会(2)↓↓↓					

Course number P-PUB01 8H040 LJ90				
Course title (and course title in English)	基礎人類遺伝学 Introduction to Human Genetics	Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor, KOSUGI SHINJI	
Target year	Professional degree students	Number of credits	2	
Days and periods	Wed.3	Class style	Lecture	
[Overview and purpose of the course] 【基本情報】 授業日時：水曜3限を原則とする（例外予定にご注意ください） 教室：G棟3階演習室 レベル：基礎 担当者：小杉真司・和田敬仁・山田崇弘				
【コースの概要】 遺伝カウンセラーとしてあるいは遺伝医学・遺伝医療を志す者として最も基本的な事項について理解するための講義である。今後、遺伝情報を治療に役立てていくテラーメイド医療のために重要な細胞遺伝学、分子遺伝学、メンデル遺伝学、非メンデル遺伝、集団遺伝学などについて系統的な講義を行う。				
[Course objectives] ヒト遺伝学の基本的事項について完全に理解し、専門家でない人にもわかりやすく説明できる。				
[Course schedule and contents] 【第1回】4月8日<和田1>メンデル遺伝総論・家系図の描き方：メンデル遺伝と非メンデル遺伝総論・常染色体と性染色体・対立遺伝子の概念・遺伝性疾病の概念の理解・家系図の描き方 【第2回】4月8日4限<小杉>常染色体優性遺伝：常染色体優性遺伝 疾患の概念・特徴・浸透度・表現度・遺伝子と新生突然変異・anticipation（次世代の表現促進現象） 【第3回】4月8日5限<小杉>常染色体劣性遺伝：常染色体劣性遺伝 疾患の概念・特徴・保因者の概念 【第4回】4月8日6限<小杉>X連鎖性遺伝：X連鎖性遺伝の概念・X染色体とY染色体の特異性・性的決定機構・X連鎖性遺伝を示す具体的疾患 【第5回】4月15日<山田1>細胞遺伝学(1)：染色体と細胞分裂・分染法による染色体分析・染色体の核型記載方法・染色体異常概論 【第6回】4月15日4限<山田2>細胞遺伝学(2)：染色体数の異常の概念と発生機構・染色体構造異常の概念と発生機構・保因者の概念と次世代への影響 【第7回】4月15日5限<和田2>遺伝的リスクの推定再発確率の推定、ベイズの定理。近親婚に関する問題、先天異常についても触れる。 【第8回】4月22日(臨床第一講堂)<小杉>薬理遺伝学：既にはじまりつつあるテラーメイド医療で最も重要な領域であるpharmacogenetics/pharmacogenomicsの基本を正確に理解する 【第9回】5月13日<和田3>多因子遺伝、集団遺伝：多因子遺伝の概念、量的形質と易罹病性、遺伝と環境因子、ハーディー・ワインバーグの法則 【第10回】5月20日<山田3>ヒトゲノムの基礎：ヒトゲノムの情報について学ぶ、遺伝子の構造、				
Continue to 基礎人類遺伝学(2) ↓ ↓ ↓				

基礎人類遺伝学(2)	
機能、遺伝学的多様性について知る。	
【第1回】5月27日<小杉>遺伝学的検査(I)遺伝子変異の検索方法：シークエンス法、サザンプロット法 【第12回】6月3日<和田4>非メンデル遺伝(I)：ミトコンドリア遺伝、免疫遺伝学、形質遺伝学 【第13回】6月10日<山田4>分子遺伝学の基礎：PCR、サンガーシークエンス、次世代シークエンス、マイクロアレイ 【第14回】6月17日<小杉>遺伝学的検査(2)：変異のスクリーニング方法、変異と多型、変異の種類 【第15回】6月24日<山田5>腫瘍遺伝学の基礎：体細胞バリアントと生殖細胞系列バリアント、がん遺伝子とがん抑制遺伝子、遺伝性がん症候群 【第16回】7月1日<和田5>非メンデル遺伝(2)：エピジェネティクス、ゲノム刷り込み現象、片親性ダイソミー 【第17回】7月8日<和田>本試験：筆記試験 【第17回】7月29日<山田>再試験：筆記試験	
[Course requirements] 遺伝カウンセラーコース 1回生必修科目 選択科目として履修する場合は、「遺伝医療と倫理・社会」ととも履修することをお勧めします 人間健康科学系専攻学生の受講可否：要事前連絡	
[Evaluation methods and policy] 試験、レポート、発表、出席等を総合的に評価する	
[Textbooks] トングソン＆トンプソン『遺伝医学(第2版)』（メディカルサイエンスインターナショナル）ISBN:978-4-89592-875-5 (2017年4月発行) 福嶋義光編『遺伝カウンセリングマニュアル(改定第3版)』（南江堂）ISBN:978-4-524-26667-8	
[References, etc.] (Reference books) 新川詔夫『遺伝医学への招待(改定6版)』（南江堂）ISBN:978-4-524-24931-2 『症例でわかる新しい臨床遺伝学』ISBN:978-4-89592-574-7	
[Related URLs] <a href="http://www.geneclinics.org/GeneReviews">http://www.geneclinics.org/GeneReviews</a>	
[Study outside of class (preparation and review)] 適宜指示する	
Continue to 基礎人類遺伝学(3) ↓ ↓ ↓	

基礎人類遺伝学(3)	
[Other information (office hours, etc.)] 講義日程、講師、内容については、多少の変更がある可能性があります *Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course number		P-PUB01 8N021 LJ90						
Course title (and course title in English)	臨床遺伝学・遺伝カウンセリング Clinical Genetics and Genetic Counseling		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor,KOSUGI SHINJI				
Target year	Professional degree students	Number of credits	3	Year/semesters	2020/First semester			
Days and periods	水5-6	Class style	Lecture	Language of instruction	Japanese			
<b>[Overview and purpose of the course]</b>								
【基本情報】授業日時：水曜4限～5限を原則とする（例外予定にご注意ください） 教室：G棟3階演習室、レベル：基礎 担当者：小杉真司・和田敬仁・山田崇弘・澤井英明（兵庫医科大学）・高橋政代・川崎秀徳・岡野高之 【コースの概要】遺伝カウンセリングの基本的な考え方、モデル、現状などの総論的な講義を行う。また、代表的な疾患について、チーム医療としての遺伝医療に参加することのできるレベルの知識と考え方を身につけ、遺伝医療の現場で行われている問題を解決するため、臨床遺伝学の講義を行うとともに家族関係やチーム医療としての遺伝カウンセリングにもフォーカスをおく。各論として、単一遺伝性疾患、染色体異常、多発奇形、習慣性流産、家族性腫瘍、神経変性疾患、多因子疾患などについて講義する。								
<b>[Course objectives]</b>								
主要な遺伝性疾患の病態、原因、遺伝形式、遺伝的問題について説明できる。また、それらの疾患に関する遺伝カウンセリングの基本的な考え方、主な留意点について説明できる。								
<b>[Course schedule and contents]</b>								
【第1回】4月22日4限＜小杉＞臨床第一講堂)＞家族性腫瘍(1)総論：家族性腫瘍の概念・体細胞系列変異と生殖細胞系列変異、癌抑制遺伝子と癌遺伝子、発症前診断 【第2回】4月22日5限＜小杉＞家族性腫瘍(2)：家族性大腸がん家族性腫瘍の代表疾患としての家族性大腸ポリポーシスと遺伝性非腺腫性大腸癌、それらの遺伝カウンセリングについて学ぶ 【第3回】4月22日6限＜和田＞先天異常症候群：主要な先天奇形症候群の診断・療育や遺伝カウンセリングを学ぶ 【第4回】4月13日4限＜和田＞常染色体異常(1)：概念・病態・診断 数的異常と構造異常、遺伝カウンセリング、13,18,21トリソミーの診断治療と療育を学ぶ 【第5回】5月13日5限＜山田＞不妊症・生殖補助医療：歴史的背景・現状・具体的技術・法的規制・倫理問題とガイドライン常染色体異常症、遺伝カウンセリング 【第6回】5月13日6限＜山田＞出生前診断：現状・具体的技術・法的規制・倫理問題について学ぶとともに、遺伝カウンセリングの実際について学ぶ 【第7回】5月20日4限＜山田＞不育症(習慣流産)：不妊症と習慣流産 概念・病態・原因・治療・乏精子症による造精機能障害と転座型保因者における染色体異常妊娠等の遺伝学的要因の関与と遺伝カウンセリング 【第8回】5月20日5限＜和田＞常染色体異常(2)：微細欠失症候群やクロマチン病の診断・治療と療育を学ぶ 【第9回】5月20日6限＜和田＞性染色体異常病態・診断 具体的疾患：ターナー女性とクラインフェルター男性・病態・診断・治療と療育・生殖医療、遺伝カウンセリング 【第10回】5月27日4限＜小杉＞家族性腫瘍(3)：多発性内分泌腫瘍症他家族性腫瘍の具体的疾患とし								
Continue to 臨床遺伝学・遺伝カウンセリング(2) ↓↓↓								

臨床遺伝学・遺伝カウンセリング(2)						
て、多発性内分泌腫瘍1型および2型を中心とりあげ、概念・病態・遺伝形式・診断・治療、及び遺伝カウンセリングについて概説する 【第11回】5月27日5限＜山田＞胎児診断と周産期管理胎児情報をもとに実施される実施される産科周産期管理について学ぶ 【第12回】6月3日4限＜和田＞遺伝性神経疾患(1)：トリプレットリピート病、ファブリー病の遺伝カウンセリング 【第13回】6月3日5限＜山田＞遺伝診療と医療システム：臨床遺伝の医療システムについて学ぶ 【第14回】6月10日4限＜山田＞PC情報検索1：ネットセキュリティの基本 【第15回】6月10日5限＜山田＞PC情報検索2：検索エンジン、遺伝情報データベース 【第16回】6月10日6限＜川崎＞難病：難病と医療費助成・福祉制度 【第17回】6月17日4限＜小杉＞家族性腫瘍(4)：家族性乳がん・卵巣がん 【第18回】6月17日5限＜和田＞遺伝性神経疾患(2)：知的障害、自閉症・神経皮膚症候群などの遺伝カウンセリング 【第19回】6月24日4限＜山田＞PC情報検索3：遺伝診療に必要な医療データベース、患者会情報 【第20回】7月1日4限＜和田＞筋ジストロフィー：ドゥシャンヌ筋ジストロフィー、筋緊張性ジストロフィー、福山筋型筋ジストロフィー、ポンベ病の遺伝カウンセリング 【第21回】7月1日5限＜岡野＞遺伝性難聴：遺伝性難聴 概念・病態・遺伝形式・診断（症候性難聴と非症候性難聴）遺伝的異質性・治療と療育、遺伝カウンセリング 【第22回】7月8日4限＜和田＞遺伝性循環器疾患：Long QT症候群、マルファン症候群などの遺伝性循環器疾患の遺伝カウンセリング 【第23回】7月8日5限＜高橋政代＞遺伝性網膜疾患と再生医療：網膜色素変性・加齢黄斑変性 概念・病態・遺伝形式・診断・遺伝的異質性・治療・再生医療 【第24回】7月22日4限＜川崎＞本試験：筆記試験 【第24回】8月5日4限＜川崎＞再試験：筆記試験						
<b>[Course requirements]</b>						
遺伝カウンセラーコース1回生必修科目 選択科目として履修する場合は、「基礎人類遺伝学」とともに履修することをお勧めします 人間健康科学系専攻学生の受講可否：要事前連絡（基礎人類遺伝学とあわせて履修する必要あり）						
<b>[Evaluation methods and policy]</b>						
試験、レポート、発表、出席等を総合的に評価する						
<b>[Textbooks]</b>						
「基礎人類遺伝学」参照						
<b>[References, etc.]</b>						
(Reference books)						
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>						
適宜指示する						
----- Continue to 臨床遺伝学・遺伝カウンセリング(3) ↓↓↓						

臨床遺伝学・遺伝カウンセリング(3)						
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>						
講義日程、講師、内容については、多少の変更がある可能性があります。						
*Please visit KULASIS to find out about office hours.						

P-PUB01 8N017 LJ90								
Course number	P-PUB01 8N017 LJ90							
Course title (and course title in English)	遺伝医学特論（集中講義） Special Seminar for Genetic Medicine			Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor,KOSUGI SHINJI			
Target year	Professional degree students	Number of credits	2	Year/semesters	2020/Intensive, First semester			
Days and periods	Intensive	Class style	Lecture	Language of instruction	Japanese			
<b>[Overview and purpose of the course]</b>								
【基本情報】授業日時：前期集中（開講日時にご注意ください） 教室：臨床第一講堂 レベル：応用 担当者：小杉真司・和田敬仁・山田崇弘・鳥嶋雅子・川崎秀徳 【コースの概要】遺伝カウンセラーとして1年次に学んだ基礎的事項を確認し、医師と同レベルの高度な理解を得るための講義である								
<b>[Course objectives]</b>								
ヒト遺伝学の基本的事項について完全に理解し、医師とも正確な議論ができる。								
<b>[Course schedule and contents]</b>								
【第1回】4月13日1限＜小杉＞「臨床遺伝学と遺伝カウンセリング・メンデル遺伝の基礎」 【第2回】4月13日2限＜小杉＞「遺伝学的検査について」 【第3回】4月14日1限＜山田＞「細胞遺伝学と染色体異常の遺伝カウンセリング」細胞遺伝学の基礎を知り、染色体異常症についての遺伝カウンセリングを学ぶ 【第4回】4月14日2限＜山田＞「出生前医療と遺伝カウンセリング」出生前遺伝学の検査の実際と遺伝カウンセリングを学ぶ 【第5回】4月16日1木限＜和田＞「家系図の書き方・遺伝的リスクの推定」家系図の標準的記載法と遺伝的リスクの推定法を学ぶ 【第6回】4月16日2木限＜和田＞「先天奇形症候群の遺伝カウンセリング」主要な先天奇形症候群の概念、診断や病態、遺伝カウンセリングを学ぶ 【第7回】4月20日1月限＜小杉＞「当事者と共に歩む遺伝医療」 【第8回】4月20日2月限＜小杉＞「遺伝カウンセリングの実際」 【第9回】4月21日火1限＜和田＞「遺伝性神経疾患の遺伝カウンセリング」主要な遺伝性神経疾患の概念、診断や病態、遺伝カウンセリングを学ぶ 【第10回】4月21日火2限＜山田＞「生殖補助医療と遺伝カウンセリング」不育症・不妊症を含む疾患を対象とした生殖補助医療と遺伝カウンセリングを学ぶ 【第11回】4月22日水2限＜小杉＞「遺伝医療に関するガイドラインについて」 【第12回】4月22日水3限＜小杉＞「薬理遺伝学」 【第13回】4月22日水4限＜小杉＞「家族性腫瘍の遺伝カウンセリング」 【第14回】4月24日金1限＜鳥嶋＞「遺伝カウンセリングの場面での医療コミュニケーションと自己								
----- Continue to 遺伝医学特論（集中講義）(2) ↓↓↓								

遺伝医学特論（集中講義）(2)	
評価法(1)「共感的理解」、「対人援助職に最低限必要な態度」、「コミュニケーションを阻害する態度や言葉」など医療コミュニケーションの基本を学ぶ 【第15回】4月24日金2限<鳥嶋>「遺伝カウンセリングの場面での医療コミュニケーションと自己評価法(2)」遺伝カウンセリング場面での具体的なコミュニケーション方法と自己評価法について学ぶ 【第16回】5月1日金2限<和田・川崎>「本試験」筆記試験	
<b>[Course requirements]</b> 医学専攻（修士課程）のみ履修可。 分子生物学・分子遺伝学の基本的理解を前提とする。	
<b>[Evaluation methods and policy]</b> 試験、レポート、出席等を総合的に評価	
【合格基準】 1回の記述式試験において、100点満点中、60点以上となること 60点以上：合格 59点以下：不合格 5回以上授業を欠席した場合には、合格を認めない。	
<b>[Textbooks]</b> その他 *必須テキスト（必ず準備すること）： ○トングソン＆トングソン遺伝医学第2版(メディカルサイエンスインターナショナル)ISBN:978-4-89592-875-5 ○遺伝カウンセリングマニュアル(南江堂)改定第3版 ISBN:978-4-524-26667-8 *推薦テキスト・資料： ○遺伝医学への招待(南江堂)改定第5版ISBN: 978-4-524-26562-6 ○症例でわかる新しい臨床遺伝学(MEDSI) ISBN: 978-4-89592-574-7 ○GeneReviews http://www.geneclinics.org/	
<b>[References, etc.]</b> (Reference books) Introduced during class	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b> 適宜指示する	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b> *Please visit KULASIS to find out about office hours.	

遺伝医学特論（集中講義）(3)	
-----	

Course number		P-PUB01 8H019 LB90						
Course title (and course title in English)	社会疫学 II Socio-epidemiology II		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor,FURUKAWA TOSHIAKI				
Target year	Professional degree students	Number of credits	2	Year/semesters	2020/Second semester			
Days and periods	Mon.3	Class style	Lecture	Language of instruction	Japanese and English			
<b>[Overview and purpose of the course]</b> This class has not been decided. Please check an official announcement.								
<b>[Course objectives]</b> This class has not been decided. Please check an official announcement.								
<b>[Course schedule and contents]</b> Lecture schedule Lectures 1-15 (Date and time undecided)								
This class has not been decided. Please check an official announcement.								
<b>[Course requirements]</b> MPH Elective MCR Recommended GC Recommended								
<b>[Evaluation methods and policy]</b> This class has not been decided. Please check an official announcement.								
<b>[Textbooks]</b> This class has not been decided. Please check an official announcement.								
<b>[References, etc.]</b> (Reference books) This class has not been decided. Please check an official announcement.								
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b> This class has not been decided. Please check an official announcement.								
<b>(Other information (office hours, etc.))</b> This class has not been decided. Please check an official announcement.								
*Please visit KULASIS to find out about office hours.								

Course number		P-PUB01 8H020 LB90						
Course title (and course title in English)	人間生態学 Field Medicine		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Center for Southeast Asian Studies Associate Professor, SAKAMOTO RYOUTA				
Target year	Professional degree students	Number of credits	2	Year/semesters	2020/Second semester			
Days and periods	Mon.4	Class style	Lecture	Language of instruction	Japanese and English			
<b>[Overview and purpose of the course]</b> Field Medicine is based on the belief that patients in the hospital setting provides only a small glimpse into their world, and that the reality of illness and aging can be observed in their homes and communities as well. In this class, we will consider illness and ageing in relation to ecology and culture.								
<b>[Course objectives]</b> To nurture the potential to find and tackle with issues of one's own motive, we will learn the pioneer spirits and philosophy of our forefathers and people in our time.								
<b>[Course schedule and contents]</b> 1. Introduction 2. Field Medicine 3. Freedom and Pioneer Spirits 4. Studies started from a patient in front of you 5. Legionella beside you 6. Aging in high-altitude environments 7. Global environment issues inside us 8. Health and happiness among the elderly in Domkhar valley 9. Significance of friendship in area studies 10. Community based elderly care program in Bhutan 11. Learning livelihoods of people from a clinic 12. Limitations and roles of medical care 13. View of life and death and significance of medical care 14. Message from an elderly in Himalaya 15. General discussion								
<b>[Course requirements]</b> None								
<b>[Evaluation methods and policy]</b> Evaluation will be made based on question-and-answer participation in class and reports.								
<b>[Textbooks]</b> Not used								

人間生物学(2)
-----
<b>[References, etc.]</b>
(Reference books) 坂本龍太『ブータンの小さな診療所』(ナカニシヤ出版) ISBN:978-4779508974 奥宮清人『生老病死のエコロジー』(昭和堂) ISBN:978-4812210673
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>
Please treasure questions and ideas conceived in your mind during the classes. Please study further and consider well in your mind after the classes.
<b>(Other information (office hours, etc.)</b>
Ryota Sakamoto, MD, PhD  Center for Southeast Asian Studies Kyoto University 46 Shimoouchi-cho, Yoshida, Sakyo-ku, 606-8801 Kyoto, Japan TEL:+81 75-753-7368 FAX:+81 75-753-7168 E-mail:sakamoto65@cseas.kyoto-u.ac.jp
*Please visit KULASIS to find out about office hours.

P-PUB01 8H021 LJ90					
Course title (and course title in English)	交絡調整の方法 Intermediate Biostatistics		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Associate Professor,DOI MASAAKI Graduate School of Medicine Professor,SATO TOSIYA Graduate School of Medicine Assistant Professor,Omiya Masatomo Former Ministry of Health, Labour and Welfare MORI KAZUHIKO	
Target year	Professional degree students	Number of credits	2	Year/semesters	2020/Second semester
Days and periods	Tue.2	Class style	Lecture	Language of instruction	Japanese
<b>[Overview and purpose of the course]</b> Confounding leads to bias which interferes causal interpretation between exposure and outcome in observational studies. This course is designed to provide statistical methods for adjustment of confounding. Stratified analysis and regression modeling are introduced. Related topics, such as survival analysis, missing data, etc., are included. For conducting an epidemiologic or clinical research, developing a study protocol and a statistical analysis plan is necessary. We provide an essence for developing them.					
<b>[Course objectives]</b> - Understand the concept of confounding - Understand pros and cons of stratified analysis and regression modeling - Understand importance for study protocol and statistical analysis plan					
<b>[Course schedule and contents]</b> 1. October 2 Confounding and standardization 2. October 9 Estimation of common effect measures 3. October 16 Comparison of means 4. October 23 Introduction to regression modeling, Class exam 1 5. October 30 Generalized linear models 6. November 6 Survival analysis 1 7. November 13 Survival analysis 2 8. November 20 Handling missing data, Class exam 2 9. November 28 Data management and reporting 10. December 4 Study protocols 11. December 11 Statistical analysis plans 12. December 18 Review of pharmaceutical products and pharmacovigilance (13:00-14:30) 13. January 8 Variable selection, Class exam 3 14. January 15 Advanced methods for confounding adjustment 15. January 22 Discussion on statistical analysis plans					
----- Continue to 交絡調整の方法(2) ↓ ↓ ↓					

交絡調整の方法(2)
-----
<b>[Course requirements]</b>
All students in the course were expected to take "Fundamentals of Biostatistics"
<b>[Evaluation methods and policy]</b>
Class examinations - 3 times
<b>[Textbooks]</b>
Distributed materials in "Fundamentals of Biostatistics"
<b>[References, etc.]</b>
(Reference books) Rothman KJ, Greenland S, Lash TL.『Modern Epidemiology, 3rd ed.』(Lippincott Williams & Wilkins, 2008)
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>
Fundamentals of Biostatistics
<b>(Other information (office hours, etc.)</b>
*Please visit KULASIS to find out about office hours.

P-PUB01 8H022 PJ90					
Course title (and course title in English)	解析計画実習 Health Data Processing Laboratory		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Associate Professor,DOI MASAAKI Graduate School of Medicine Professor,SATO TOSIYA Graduate School of Medicine Assistant Professor,Omiya Masatomo Former Ministry of Health, Labour and Welfare MORI KAZUHIKO Pharmaceuticals and Medical Devices Agency ANDO YUKI Kobe University OMORI TAKASHI	
Target year	Professional degree students	Number of credits	2	Year/semesters	2020/Second semester
Days and periods	Tue.3,4	Class style	Practical training	Language of instruction	Japanese
<b>[Overview and purpose of the course]</b> This course provides students technical issues to develop a statistical analysis plan and a study protocol. This course provides practice to review new pharmaceutical products. At the end of this program, students develop their statistical analysis plans for their master's thesis and give presentation for them.					
<b>[Course objectives]</b> - Understand study guidelines - Apply stratified analysis and regression models using JMP statistical software and interpret results - Be familiar with review of submitted documents for approval on new pharmaceutical products - Develop analysis plans for master's theses					
<b>[Course schedule and contents]</b> 1. October 2 Study guidelines I 2. October 9 Study guidelines 2 3. October 16 Study guidelines 3 (Presentation) 4. October 23 Stratified analysis 5. October 30 Comparison of means 6. November 6 Regression analysis 7. November 13 Generalized linear models 8. November 20 Survival analysis 9. November 27 Missing data analysis 10. December 4 Review practice for new pharmaceutical products 1 11. December 11 Review practice for new pharmaceutical products 2 12. December 18 Review practice for new pharmaceutical products 3 (Presentation, 14:45-18:00) 13. January 8 Developing statistical analysis plan 1 14. January 15 Developing statistical analysis plan 2 15. January 22 Statistical analysis plan presentations					
----- Continue to 解析計画実習(2) ↓ ↓ ↓					

解析計画実習(2)	
<b>[Course requirements]</b> All students in the course were expected to take "Introduction to Statistical Computing."	
<b>[Evaluation methods and policy]</b> Reports and presentations	
<b>[Textbooks]</b> Distributed materials in "Fundamentals of Biostatistics" Distributed materials in "Introduction to Statistical Computing" Distributed materials in "Intermediate Biostatistics"	
<b>[References, etc.]</b> <b>(Reference books)</b> You must download and install the statistical software JMP on your own computer. Please see <a href="http://www.med.kyoto-u.ac.jp/software/JMP/">http://www.med.kyoto-u.ac.jp/software/JMP/</a> .	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b> Introduction to Statistical Computing	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b> *Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course number		P-PUB01 8H133 LB90			
Course title (and course title in English)	地域保健医療福祉論 Health,Medical and Welfare System		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Associate Professor,SATOMURA KAZUNARI	
Target year	Professional degree students		Number of credits	2	Year/semesters
Days and periods	Thu.3,4	Class style	Lecture	Language of instruction	Japanese and English
<b>[Overview and purpose of the course]</b> After conquering the "antiquated" infectious diseases, Japanese have been enjoying prolonged life. At the same time, unprecedented phenomena force us to the serious health danger. The first part of the course will outline the history of the health policy in Japan. Next, we will pick up some contemporary health care/policy issue and ask you to analyze and assess it and make presentations in groups of ideal suggestion for the better policy. In this process, you will learn the characteristics of the Japanese health policy.					
<b>[Course objectives]</b> The purpose of this course is to provide the students with an overview of the unique health policy process in Japan. At the end of the class, the students are required to be able to analyze and assess the health policy issues.					
<b>[Course schedule and contents]</b> #1/2 Outline of status quo of Japanese health policy #3/4 Current topics and the points at issue in health policy (1) #5/6 Current topics and the points at issue in health policy (2) #7/8 Examination and discussion on the points at issue (1) #9/10 Examination and discussion on the points at issue (2) #11/12 Examination and discussion on the points at issue (3) #13/14 Examination and discussion on the points at issue (4) #15 Feedback Hour  Confirm for subsequent schedule change					
<b>[Course requirements]</b> None					
<b>[Evaluation methods and policy]</b> Class participation, presentation, discussion 50%, Group/individual paper 50%					
----- Continue to 地域保健医療福祉論(2) ↓↓↓					

地域保健医療福祉論(2)	
<b>[Textbooks]</b> Handouts will be passed out as needed.	
<b>[References, etc.]</b> <b>(Reference books)</b> 『国民衛生の動向』(厚生統計協会) ( "KOKUMIN' EISEINODOKO" (Japanese) ) 『国民の福祉の動向』(厚生統計協会) ( "KOKUMIN'NOFUKUSHINODOKO" (Japanese) ) 『保険と年金の動向』(厚生統計協会) ( "HOKENTONENKIN'NODOKO" (Japanese) ) 『衛生行政大要』(日本公衆衛生協会) ( "EISEIGYOSEITAIYO" (Japanese) ) 『Statistical Abstracts on Health and Welfare in Japan』(Health and Welfare Statistics Association) ( English )	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b> Watch the news reports in newspapers, TV, internet with interest to help to the understanding of the course content.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b> Methods of Instruction:Lectures, Student-led presentations, Class discussions  Course format may varies depend on the number of students  *Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course number		P-PUB01 8H028 LB90			
Course title (and course title in English)	国際保健学 International Health		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Associate Professor,SATOMURA KAZUNARI	
Target year	Professional degree students		Number of credits	2	Year/semesters
Days and periods	Intensive	Class style	lecture and seminar	Language of instruction	Japanese and English
<b>[Overview and purpose of the course]</b> Violent activities of the terrorists have changed the whole situation of international health. The concept of human security is now given a high priority to the field activities of international health. In this course, after the outline of system and activities of the international cooperation/aid agencies, we invite international health/medical professionals to lecture on their own projects. At the same time, we focus on the process of the career path of each practitioner.					
<b>[Course objectives]</b> The purpose of this course is to expose the students with the different health situations bound by political, economical and cultural reasons in countries and help them to have ideas of contribution. At the end of the class, the students are required to know how to get useful and practical information of their prospective role and style for the future health/medical practice.					
<b>[Course schedule and contents]</b> #1 Outling of international health #2/3 A practical case (1) #4/5 A practical case (2) #6/7 A practical case (3) #8/9 A practical case (4) #10/11 A practical case (5) #12/13 A practical case (6) #14/15 A practical case (7)/Feedback Hour  Confirm for subsequent schedule change					
<b>[Course requirements]</b> For the better comprehension with comparison, course of "Health, Medical and Welfare System" is recommended to take.					
----- Continue to 国際保健学(2) ↓↓↓					

国際保健学(2)
<b>[Evaluation methods and policy]</b> Class participation and attitude 50% Group/individual paper 50%
<b>[Textbooks]</b> Handouts will be passed out as needed.
<b>[References, etc.]</b> <b>(Reference books)</b> 『国民衛生の動向』(厚生統計協会) ( "KOKUMIN" EISEINODOKO" (Koseitokeikyokai) (Japanese)) 『Statistical Abstracts on Health and Welfare in Japan』 (Health and Welfare Statistics Association)
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b> Watch the news reports in newspapers, TV, internet with interest to help to the understanding of the course content.
<b>(Other information (office hours, etc.))</b> Methods of Instruction: Lectures, Class discussions, Guest lectures Course format may varies depend on the number of students  *Please visit KULASIS to find out about office hours.

Course number				
Course title (and course title in English)	毒性学 Toxicology		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Associate Professor,HARADA KOJI
Target year	Professional degree students	Number of credits	2	Year/semesters
Days and periods	Thu.1	Class style	Lecture	Language of instruction Japanese and English
<b>[Overview and purpose of the course]</b> I. Course Description The understanding of practice and theory is essential for toxicology study. The course is aimed to provide the basis of modern toxicology research. In addition, advanced toxicology for toxicokinetics and chemical analysis will be given in the latter half of the course.				
<b>[Course objectives]</b> II. Course Goals and Objectives Knowledge of toxicological assessment Knowledge of toxicokinetics and mathematical models Knowledge of chemical analysis Skill to audit toxicological research				
<b>[Course schedule and contents]</b> 1 Orientation 2 Toxicology 1 3 Toxicology 2 4 Toxicology 3 5 Toxicology 4 6 Toxicology 5 7 "General Provisions" and "Organization and Personnel" "Facilities" and "Equipment" 8 "Testing Facilities Operation" and "Test and Control Articles" "Protocol for and Conduct of a Non-clinical Laboratory Study" 9 Toxicokinetics 1 10 Toxicokinetics 2 11 Research ethics in toxicology 12 Chemical analysis 1 13 Chemical analysis 2 14 Chemical analysis 3 15 Presentation				
----- Continue to 毒性学(2) ↓ ↓ -----				

毒性学(2)
<b>[Course requirements]</b> None
<b>[Evaluation methods and policy]</b> Attendance and active participation 50% Presentation 50%
<b>[Textbooks]</b> Not used
<b>[References, etc.]</b> <b>(Reference books)</b> Introduced during class IV. Course Text and Readings 1. Code of Federal Regulations ICH Guideline 2. Lu' s BASIC TOXICOLOGY 4th edition Frank C. Lu and Sam Kacew, Taylor and Francis, 2002
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b> Revision is recommended to follow biological mechanisms in target toxicities.
<b>(Other information (office hours, etc.))</b> Credits of "Occupational health and environmental health sciences" are required.  *Please visit KULASIS to find out about office hours.

Course number				
Course title (and course title in English)	ベンチトレーニングコース On the Bench Training Course		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Associate Professor,HARADA KOJI
Target year	Professional degree students	Number of credits	2	Year/semesters
Days and periods	金5-6	Class style	Lecture	Language of instruction Japanese and English
<b>[Overview and purpose of the course]</b> I. Course Description The practice of toxicology will be given for learning protocol writing, protocol presentation, protocol meeting, sample collection, sample measurement, audit, paper writing and review.				
<b>[Course objectives]</b> II. Course Goals and Objectives Skills in handling Gas Chromatography / Mass Spectrometry (GC-MS) Skill for protocol writing in accordance with the practice of toxicology Conduct laboratory works Skill the experimental data Skill the experimental data Skill to write a company paper				
<b>[Course schedule and contents]</b> Course Schedule 1 Orientation 2 Gas Chromatography 24-1, 24-2, 24-3 3 Gas Chromatography 24-4, 24-5 4 Mass Spectrometry 22-1, 22-2 5 Mass Spectrometry 22-3, 22-4 6 Discussion of theme 7 Presentation of background 8 Protocol Writing 9 Protocol Presentation 10 Sample collecting 11 Sample measurement (1) 12 Sample measurement (2) 13 Summarize the data 14 Presentation the data 15 Writing Paper				
<b>[Course requirements]</b> Elective. ----- Continue to ベンチトレーニングコース(2) ↓ ↓ -----				

ベンチトレーニングコース(2)	
<b>[Evaluation methods and policy]</b> Attendance and active participation 50% Presentation 50%	
<b>[Textbooks]</b> Not used IV. Course Text and Readings Handouts 1. Code of Federal Regulations ICH Guideline 2. Quantitative Chemical Analysis 6th edition Daniel C. Harris, W. H. Freeman and Company, 2003	
<b>[References, etc.]</b> (Reference books)	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b> Group discussion will be performed by students in Out-of-Class.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b> Credits of "Occupational health and environmental health sciences" are required.  *Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course number		P-PUB01 8H099 LB90			
Course title (and course title in English)	医薬品・医療機器の開発計画、薬事と審査 Development strategy, plan, and regulatory affairs of drugs and medical devices	Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor, KAWAKAMI, KOJI		
Target year	Professional degree students	Number of credits	2	Year/semesters	2020/Second semester
Days and periods	Wed.3,4	Class style	Lecture	Language of instruction	Japanese and English
<b>[Overview and purpose of the course]</b> Director and Instructors: (Director) Koji Kawakami (Professor, Pharmacoepidemiology), Shiro Tanaka (Program-specific Professor, Clinical Biostatistics), Junko Komura (Setsunan Univ.), Yasuhiro Fujiwara (PMDA), Hiro Kasai (Kyoto Univ., iACT), Haruko Yamamoto (National Cerebral and Cardiovascular Center), Takahiro Uchida (JOMDD), Ikuo Horii (Cambridge Univ.), Shigezuki Wakitani (Mukogawa Women's Univ.), Yoko Uryuhara (Doshisha Univ.), Christian Elze (Catenion), Yoshie Onishi (CreativCeutical), Shinya Kimura (JMDC), Hisashi Urushihara (Keio Univ.).  The development strategy, protocol design, project management, safety/efficacy assessment, and economic evaluation of drugs and medical devices will be lectured. The development of drug and medical device and the regulatory review in terms of manufacturing and control, nonclinical studies, clinical protocol, the new drug applications, and post-marketing will be discussed.					
<b>[Course objectives]</b> • The idea of drug/medical device development and regulatory review will be understood. • To understand the strategy, protocol development, and project management of drug development and clinical trials.					
<b>[Course schedule and contents]</b> October 7 Drug Development strategy and translational research (Tanaka) October 14 Industry R&D and regulatory reviewer training: nonclinical studies (Komura) October 21 Industry R&D and regulatory reviewer training: CMC (Kawakami) October 28 Industry R&D and regulatory reviewer training: protocol review of clinical trial (Fujiwara) November 11 Project management of clinical trial (Kasai) November 18 Industry R&D and regulatory reviewer training: medical devices (1) (Yamamoto) November 25 The Changing Dynamics of Bio-pharmaceutical Innovation (Elze) December 2 Data review and personalized medicine in drug development (Horii) December 9 Industry R&D and regulatory reviewer training: regenerative medicine (Wakitani) December 16 Life cycle management of drug (Uryuhara) December 23 Undecided January 6 Pharmacoeconomics and value-based drug pricing (Onishi) January 13 Finance of Japan and healthcare (Nakayama) January 20 Post-marketing surveillance (Urushihara) January 27 Drug development and evaluation based on ICT/EMR (Seki)					
Continue to 医薬品・医療機器の開発計画、薬事と審査(2) ↓↓					

医薬品・医療機器の開発計画、薬事と審査(2)	
<b>[Course requirements]</b> You must take this course along with the course H109 "Drug policy and regulations" and H079 "Drug development, evaluation and regulatory sciences" of Wednesday 2nd of the second semester for you to acquire fundamental understanding of the field.	
<b>[Evaluation methods and policy]</b> Participation (50%) and report (50%)	
<b>[Textbooks]</b> Not used	
<b>[References, etc.]</b> (Reference books) Saeko Yasuo et al. 『Invitation to new drug development.』 ( Kyoritsu Press, 2006 ) Koji Kawakami, Hisashi Urushihara, Shiro Tanaka et al. ed. 『Strom's Textbook of Pharmacoepidemiology』 (NANZANDO Co.,Ltd., 2019.)	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b> Preparation in advance and review after lecture	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b> Koji Kawakami (3F, Bldg G) appointment required by email. e-mail: kawakami.koji.4e@kyoto-u.ac.jp	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course number		P-PUB01 8H079 LB90			
Course title (and course title in English)	医薬品の開発と評価 Drug Development, Evaluation and Regulatory Sciences	Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor, KAWAKAMI, KOJI		
Target year	Professional degree students	Number of credits	1	Year/semesters	2020/Intensive, Second semester
Days and periods	Intensive	Class style	Lecture	Language of instruction	Japanese and English
<b>[Overview and purpose of the course]</b> Director and Instructors: (Director) Koji Kawakami (Professor, Pharmacoepidemiology) Hiromitsu Shirasawa (MSD, Japan), Ikuo Horii (Cambridge Univ.), Izumi Sato (Senior Lecturer, Pharmacoepidemiology), Christian Elze (Catenion), Yoshie Onishi (Creativ Ceutical), Ryo Nakayama (MOF), Hisashi Urushihara (Keio Univ.), Tomotsugu Seki (Assistant Professor, Pharmacoepidemiology)  The efficacy and safety of the drug, biologics, and medical devices are evaluated through the drug development process involving preclinical and clinical studies, manufacturing, and post-marketing surveillance. Also, cost/benefit consideration through the comparative effective research is necessary. Fundamental considerations of these issues along with research examples will be discussed.					
<b>[Course objectives]</b> To understand idea of the development, evaluation, cost/benefit of medicinal products.					
<b>[Course schedule and contents]</b> November 25 Healthcare Systems - Challenges and Reform (Elze) December 2 Drug development and toxicity/safety (Horii) December 9 Regulatory affairs in the global-wide pharmaceutical company (Shirasawa) December 16 Medical real-world data and Medicine evaluation (Kawakami) December 23 An introduction to Pharmacoepidemiology (Sato) January 6 Pharmacoeconomics and value-based drug pricing (Onishi) January 13 Finance of Japan and healthcare (Nakayama) January 20 Post-marketing surveillance (Urushihara) January 27 Drug development and evaluation based on ICT/EMR (Seki)					
Continue to 医薬品・医療機器の開発計画、薬事と審査(2) ↓↓					

<b>医薬品の開発と評価(2)</b>
<b>[Course requirements]</b> You must take this course along with the course H109 "Drug policy and regulation" otherwise the entire grasp of the drug research, development, and regulations will not be achieved.
<b>[Evaluation methods and policy]</b> Participation (50%) and report (50%)
<b>[Textbooks]</b> Not used
<b>[References, etc.]</b> <b>(Reference books)</b> Saeko Yasuo et al.『Invitation to new drug development.』( Kyoritsu Press, 2006 ) Koji Kawakami, Hisashi Urushihara, Shiro Tanaka et al. ed.『Strom's Textbook of Pharmacoepidemiology.』(NANZANDO Co.,Ltd., 2019.)
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b> Preparation in advance and review after lecture
<b>(Other information (office hours, etc.))</b> Koji Kawakami (3F, Bldg G) appointment required by email. e-mail: kawakami.koji.4e@kyoto-u.ac.jp intermediate
*Please visit KULASIS to find out about office hours.

<b>Course number</b> P-PUB01 8M022 LB90					
Course title (and course title in English)	ゲノム科学と医療 Genome Science and Medicine		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor,MATSUDA FUMIHIKO Graduate School of Medicine Associate Professor,TABARA YASUHARU Center for the Promotion of Interdisciplinary Education and Research Program-Specific Professor,NAGASAKI MASAO	
Target year	Professional degree students	Number of credits	2	Year/semesters	2020/Second semester
Days and periods	Thu.3	Class style	Lecture	Language of instruction	Japanese and English
<b>[Overview and purpose of the course]</b> DNA sequencing technology is increasingly popularized, the application of this technology in the clinical medicine is now coming into reality. The aim of this course is to provide knowledges which are necessary to understand Genomic Medicine. The link between basic science and clinical medicine will be focused, from the currently ongoing practice to future perspectives. A lecture is provided by expert researcher each week. Students are also required to participate in the symposium of Kyoto Course on Bioinformatics for Genomic Medicine.					
<b>[Course objectives]</b> - Understand the basic concepts behind Genomic Medicine - Learn about current and upcoming application of genome science in the clinical practice					
<b>[Course schedule and contents]</b> Oct-6 1/2 Genomic medicine (1)/(2) The Kyoto course on Bioinformatics for Genomic Medicine symposium Oct-18 3 Genetics of diseases (1) Polygenic diseases Dr Yoichiro Kamatani Oct-25 4 Genetics of diseases (2) Genomics of small vessel diseases Prof Stephanie Debette (Bordeaux University) Nov-1 5 Genetics of diseases (3) Quantitative traits Dr Yoichiro Kamatani Nov-15 6 Genetics of diseases (4) RNA splicing and diseases Prof Masatoshi Hagiwara Nov-29 7 Genetics of diseases(5) Single gene disorders Prof Naomichi Matsumoto (Yokohama City University) Dec-6 8 Genetics of diseases (6) Multi-omics approach to chronic diseases Dr Dominique Gaugier Dec-13 9 Genomic medicine (3) HTLV-1 related disease; epidemiology, genetics, and clinical medicine Prof Yoshihisa Yamano (St Marianna Medical University) Dec-20 10 Genomic medicine (4) Cancer genomics Dr Akihiro Fujimoto Dec-27 11 Genomic medicine (5) Pharmacogenomics Dr Taisei Mushirosa (RIKEN) Jan-10 12 Genomic medicine (6) Prediction for complex disorders Dr Yoichiro Kamatani Jan-17 13 Genomic medicine (7) Genome cohort study Prof Fumihiro Matsuda Jan-24 14 Genomic medicine (8) Genomics for drug discovery Prof Yukinori Okada (Osaka University) Jan-31 15 Feed back [Note] Order and content of the lectures can be changed according to the schedule of external lecturers					
<b>[Course requirements]</b> Completion of Statistical Genetics I and II is strongly recommended					
Continue to ゲノム科学と医療(2) ↓ ↓ ↓					

<b>ゲノム科学と医療(2)</b>
<b>[Evaluation methods and policy]</b> Expression his/her opinion during class Examination
<b>[Textbooks]</b> Handouts will be given during the class
<b>[References, etc.]</b> <b>(Reference books)</b> Introduced during class Introduced during class
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b> Lectures using textbooks, powerpoint presentations, and scientific reports.
<b>(Other information (office hours, etc.))</b> We welcome any questions both during and after class. *Please visit KULASIS to find out about office hours. *Please visit KULASIS to find out about office hours.

<b>Course number</b> P-PUB01 8N018 LJ90					
Course title (and course title in English)	医療倫理学各論 Practicum for Clinical Genetics		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor,KOSUGI SHINJI	
Target year	Professional degree students	Number of credits	2	Year/semesters	2020/Second semester
Days and periods	金5・6：開講日注意	Class style	Lecture	Language of instruction	Japanese
<b>[Overview and purpose of the course]</b> 【基本情報】 授業日時：金曜5/6限（原則隔週） 教室：棟3階演習室 レベル：応用 担当者：小杉貞司・和田敬仁・山田崇弘・竹之内沙弥香・山崎康仕（神戸大学）・浅井篤（東北大學）					
<b>[Course objectives]</b> 1) 医療倫理学の基礎を理解する ・ 医療倫理学の背景、医師患者関係の変容、患者の権利や医師の義務を理解する 2) 倫理的問題の対処方法を習得する ・ 問題の存在を認識し、考える枠組みを使って実際の問題を検討する ・ 議論を通じて解決の道筋をたてる ・ 臨床での実践方法を考える					
<b>[Course schedule and contents]</b> 【第1/2回】 10月2日<小杉>「倫理委員会・移植医療と倫理」倫理審査委員会の歴史、現状、法的根拠、組織、脳死からの臓器移植、生体肝移植、心臓死および生体からの臍島移植などの問題点を実例に基づいて考える 【第3/4回】 10月16日<山田>「産婦人科医療と倫理」産婦人科では、胚や胎児を対象とするために生じる倫理問題が存在する。これらの幅広い倫理的課題について考える。 【第5/6回】 10月30日<浅井>「医療資源配分の問題」 【第7/8回】 11月6日<山崎>「法と倫理」道德・倫理・法の関係、自然法論と法実証主義などについて総合的に考える 【第9/10回】 11月27日<和田>「小児科医療と倫理」小児医療における代諾、重症障害新生児の治療、治療拒否と虐待などの問題点について考える 【第11/12回】 12月18日<竹之内>「終末期医療」治療の中止、延命治療、安楽死、尊厳死、高齢者医療、DNRオーダー、事前指示、医学的無益性などについて考える 【第13/14回】 1月15日<山田>「二次的（偶發的）所見の問題」網羅的なゲノム情報が用いられる時代となり常に直面する二次的（偶發的）所見の取り扱いについて学ぶ 【第15/16回】 1月29日<小杉>「自主研究発表」履修院生による自己テーマについての研究発表					
Continue to 医療倫理学各論(2) ↓ ↓ ↓					

<b>医療倫理学各論(2)</b>
<b>[Course requirements]</b> 遺伝カウンセラーコース1回生必修科目 SPH選択科目 先修科目として「基礎医療倫理学」の履修を原則とする 人間健康科学系専攻学生の受講可否：要事前連絡
<b>[Evaluation methods and policy]</b> 研究発表、議論への参加の積極性、レポート、出席等を総合的に判定します。 自主研究発表(最後に実施)：医療倫理に関するどのようなテーマでも良いので、自ら問題点を探し、それについて調べたり、検討した結果を発表し、全体でディスカッションします。割り当てる時間(発表+ディスカッション)は、発表者の数に依存しますが、15-20分程度です。(原則としてパワーポイントを用いて発表し、ハンドアウト配布もお願いします)。他の専攻や研究科からの受講、聴講の場合も必須です。
<b>[Textbooks]</b> 配布するハンドアウトなど
<b>[References, etc.]</b> (Reference books)
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b> 適宜指示する
<b>(Other information (office hours, etc.))</b> その他メッセージ 事例検討は、ビデオ、漫画を用いることがあります 講義日程、講師、内容については、多少の変更がある可能性があります かならず、正式な受講届を提出すること。
*Please visit KULASIS to find out about office hours.

<b>Course number</b>	G-MED41 8S005 LE87		
Course title (and course title in English)	統計遺伝学 II Statistical Genetics II	Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor, YAMADA RIYOU
Target year	Doctoral students	Number of credits	2
Days and periods	Intensive	Class style	lecture and seminar
<b>[Overview and purpose of the course]</b> This course is consisted of three components to master the basics of statistical genetics; (1) basic mathematics, (2) basics of statistics and (3) application of statistics to genetic studies. The course divides these three components into six modules and provides one of them for each semester.			
Basic mathematics A: Linear algebra and graph theory Basic mathematics B: Calculus and information geometry			
Basics of statistics A: Data types and statistical tests Basics of statistics B: Inference			
Application of statistics A: Statistical aspects of Mendelian traits and Cancer syndromes Application of statistics B: Statistica. aspects of complex genetic traits and gene expression biomarkers.			
Schedule plan is as below:  2018 1st semester Basic mathematics A, 2nd semester Basics of statistics A 2019 1st semester Basic mathematics B, 2nd semester Application B 2020 1st semester Basic mathematics A, 2nd semester Basics of statistics B 2021 1st semester Basic mathematics B, 2nd semester Application A  In the course, the language R is used for data analysis, simulation and visualization.  This semester: BASICS OF STATISTICS A.			
<b>[Course objectives]</b> Basic mathematics A: To understand matrix calculation least squares, PCA, and the basics of graph theory. Basic mathematics B: To understand calculus for probability density functions, likelihood functions and maximum likelihood estimation, approximation, and the basics of information geometry. Basics of statistics A : To understand data types, statistical tests, asymptotic tests, exact tests, and contingency table tests Basics of statistics B : To understand point and interval estimates, Bayesian estimates, maximum likelihood estimates and likelihood functions.			
Continue to 統計遺伝学 II (2) ↓↓↓			

<b>統計遺伝学 II (2)</b>
Application A: To understand statistical aspects for risk evaluation of Mendelian traits and cancer syndromes. Application B: To understand statistical aspects for risks evaluation of complex genetic traits and expressional profiles.
In every module, the basics of R language should be mastered.
<b>[Course schedule and contents]</b>
Basic mathematics A The first half: Linear algebra, including matrix calculation, variance-covariance matrix, least square method, system of equation, PCA, optimization The second half: Graph theory, including basics of graph theory, tree, minimum spanning tree, random graph, and network and graph objects in R language.
Basic mathematics B The first half: Calculus, including expect of probability density functions, likelihood function and maximum likelihood estimate and calculus for them, calculus for probability density function, cumulative density function and hazard functions, partial derivative and HWE, calculus for least square methods and Taylor expansion. The second half: Information geometry, including its basics, Fisher information, dual flatness, exponential families and KL divergence.
Basics of statistics A Data types including categorical types and simplex, 2x2 table tests and chi-square test and exact test, HWE-test and its exact test, 2x3 table test and genetic models, uniform distribution and multiple testing and Bonferroni's correction.
Basics of statistics B Point and interval estimates, Bayesian approach and binomial and beta distributions, haplotype frequency estimation and EM algorithm and LD block.
Application A The first half: Mendelian traits, including pedigree, genotypes and phenotypes of Mendelian traits, NGS and disease-responsible variants. The second half: Cancer syndrome, including its basics and risk evaluation, decision-support tool, Bayesian estimation and Bayesian network.
Application B The first half: Complex genetic traits, including genetic models, population and cohort, 2x3 table association tests and multiple-locus model. The second half: Transcriptome analysis and expression profiles, including their basics, differential expression analysis, clustering and heatmap, supervised learning and validation.
<b>[Course requirements]</b> It is desirable to have background of molecular biology and genetics but not required if ready for self-learning them.
Bring a laptop PC with wifi.
Basic computer skills and programming in R are necessary. If no, self-learn them along the course.
Continue to 統計遺伝学 II (3) ↓↓↓

<b>統計遺伝学 II (3)</b>
<b>[Evaluation methods and policy]</b> Activities in the class hours, homeworks and exam at the end of the course are count.
<b>[Textbooks]</b> For basics of statistics A and B "遺伝統計学の基礎" ISBN 978-4274068225 in Japanese and its English version handout will be used.
<b>[References, etc.]</b> (Reference books) For basic mathematics, get handouts @ <a href="http://statgenet-kyotouniv.wikidot.com/2018">http://statgenet-kyotouniv.wikidot.com/2018</a> . For application A and B, get handouts @ <a href="http://statgenet-kyotouniv.wikidot.com/2017">http://statgenet-kyotouniv.wikidot.com/2017</a> .
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b> Homework every week.
<b>(Other information (office hours, etc.))</b> *Please visit KULASIS to find out about office hours.

Course number		P-PUB01 8H130 LB90			
Course title (and course title in English)	健康情報学 I Health informatics I	Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor, NAKAYAMA TAKEO Graduate School of Medicine Associate Professor, TAKAHASHI YOSHIMITSU Part-time Lecturer, MIYAZAKI KIKUCHI Daito Bunka University, Professor, SUGIMORI HIROKI Tokyo Arikake University of Medical and Health Sciences, Professor TSUTANI KIICHIRO Japan MBTI Association, Director SONODA YUKI Center for Cancer Control and Information Services, Director WAKAO FUMIHIKO Kyoto University Hospital Associate Professor, KATO GENTA Information System Engineering Inc. Representative Director and President KURODA SATOSHI Shizuoka General Hospital, Section head NAKATANI EIJI		
Target year	Professional degree students	Number of credits	2	Year/semesters	2020/Second semester
Days and periods	Fri.2	Class style	Lecture	Language of instruction	Japanese and English
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
This course comprises systematic lectures on health / medical information, collection, accumulation, transmission, retrieval and appraisal of data and knowledge. Being based on epidemiology and EBM, methods of utilizing information about health and medicine via medical literature, mass media or internet. Health literacy, circulation of information and information ethics including protection of individual information will be also addressed. Moreover, the workshop of the "MBTI", which is very popular among healthcare professionals in the US and western countries, will be held to understand intra and inter personal pattern of information recognition and processing, and communication.					
Methods of Instruction Lectures, practices, small group discussion.					
<b>[Course objectives]</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>Being based on knowledge of epidemiology and EBM, to acquire skills of utilizing various health / medical information.</li> <li>To be capable of collecting and appraising health information via mass media or internet and of utilizing them as materials for decision making, problem solving and promoting communication.</li> <li>To understand intra and inter personal pattern of information recognition and processing, and communication in terms of the "MBTI".</li> </ul>					
Continue to 健康情報学 I (2) ↓ ↓ ↓					

健康情報学 I (2)
<b>[Course schedule and contents]</b>
1 October 2 Information / health literacy: Introduction 1 2 October 9 Information / health literacy: Introduction 2 3 October 16 Quality of life and "patient reported outcome" in health 4 October 23 Internet and e-health 5 November 6 Evidence-based practice and clinical practice guidelines 6 November 13 Narrative information: the significance and possibility 7 November 20 Dissemination of cancer information: the current state of enlightenment and problem 8 December 4 Topics of technical communications 9 December 11 Communicating Risks and Benefits 10 December 18 Health literacy and risk communication 11 January 8 Health information and communication on complementary and alternative medicine 12 January 22 Secondary use of healthcare data 13 January 28 "MBTI", special workshop (1) 14 January 29 "MBTI" special workshop (2) 15 February 5 Individual presentation and wrap-up Note: This schedule is subject to change. The class will be scheduled to avoid overlapping "Health informaticsII".
<b>[Course requirements]</b>
None (it is desirable to have basic knowledge of epidemiology or evidence-base medicine).
<b>[Evaluation methods and policy]</b>
Short report for each lecture 80%, Oral Presentation 20%
<b>[Textbooks]</b>
The material necessary for the lecture will be provided by lecturers. Purchase of the textbook of MBTI is required (approximately, 3,000Yen).
<b>[References, etc.]</b>
(Reference books) Baruch Fishhoff, Noel T Brewer, Julie S Downs『Communicating Risks and Benefits: An Evidence-Based User's Guide』(US Department of Health and Human Services, Food and Drug Administration)
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>
Rather than spending more time on your preparation, please put more energy into the review.
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>
Information is defined as "those which reduce uncertainty". This course provides students with the opportunity to consider how to develop, transmit and utilize information appropriately. Moreover, the special workshop of the "MBTI" must benefit students to widen perspectives of personal pattern of information recognition, processing and communication. This course is open to graduate students with the school of human health science.
*Please visit KULASIS to find out about office hours.

Course number					
Course title (and course title in English)	健康情報学 II Health informatics II	Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Associate Professor, TAKAHASHI YOSHIMITSU Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer, OKADA HIROSHI Graduate School of Medicine Assistant Professor, NISHIKAWA YOSHITAKA		
Target year	Professional degree students	Number of credits	2	Year/semesters	2020/Second semester
Days and periods		Class style	Lecture	Language of instruction	Japanese and English
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>Participants will learn about elementary knowledge of the Internet and e-health, and ICT in healthcare will be introduced. Participants will learn about secondary data analysis and medical big data in Japan.</li> <li>Community pharmacies in developed countries are playing an important role not only in supplying medicines but also in public health communities. In this lecture, it will be introduced the results of some intervention studies in community pharmacies for patients with NCDs. It also will be introduced Nudge and the patient approach on health behavioral theory which was used in the Japanese intervention studies.</li> <li>Disaster and health informatics: Participants will learn about health outcomes following a disaster and discuss necessary health information during and after the disaster. Participants will also learn about health information on disaster risk reduction. The course will provide the knowledge and skills to write case studies and case reports.</li> <li>Lecture and practical in Japanese. I will try to offer several handouts in English</li> </ul>					
<b>[Course objectives]</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>Leaning knowledge of the Internet and concepts of e-health. Leaning knowledge and analysis of medical big data, public statistics and secondary data.</li> <li>To know the change of the clinical practice and policy in community pharmacy in the world. Leaning the basic knowledge of behavioral economics: Nudge and the health behavioral theory.</li> <li>Through the course, participants will gain the following: A) basic knowledge about disaster and health, B) basic knowledge about writing case studies.</li> </ul>					
<b>[Course schedule and contents]</b>					
Oct 9, 4th. Developing pharmacy practice in the community Oct 16, 4th. Intervention studies in community pharmacy for patients with NCDs Oct 23, 4th. Patient care in community pharmacy: Nudge and Health promotion Oct 30, 4th. Patient care in community pharmacy in developed countries Nov 6, 4th. Disaster and health informatics 1: Health outcome following disaster and health information during disaster Nov 13, 4th. Disaster and health informatics 2: Health information on disaster risk reduction Nov 20, 4th. Disaster and health informatics 3: Knowledge about writing case studies Dec 18, 3rd. Elementary knowledge of the Internet Dec 18, 4th. Guidelines and checklists of healthcare ICT Jan 8, 3rd-4th. Medical big data and secondary data analysis (1)(2) Jan 15, 3rd-4th. Cases of healthcare ICT (1)(2) Jan 22, 3rd. Group work (Developing a form of an Internet survey)					
Continue to 健康情報学 II (2) ↓ ↓ ↓					

健康情報学 II (2)
Jan 22, 4th. Life-course epidemiology and social epidemiology
<b>[Course requirements]</b>
Registration of Health Informatics I.
<b>[Evaluation methods and policy]</b>
Participation in the class and discussion, 30%; Reports or presentations, 70%.
<b>[Textbooks]</b>
Not used
<b>[References, etc.]</b>
(Reference books) Introduced during class
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>
I will show educational materials for preparation during the class
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>
This course is basically conducted in Japanese. If you have questions, send an e-mail to takahashi.yoshimitsu.3m@kyoto-u.ac.jp.
*Please visit KULASIS to find out about office hours.

Course number P-PUB01 8H098 SB90			
Course title (and course title in English)	医学コミュニケーション演習 Applied Medical Communication	Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Associate Professor, IWAKUMA MIHO
Target year	Professional degree students	Number of credits	2
Days and periods	Tue.5	Class style	Seminar
		Language of instruction	Japanese and English
<b>[Overview and purpose of the course]</b>			
This course is suitable for students who are interested in learning qualitative methods (e.g., SCAT) and equipped with moderate Japanese writing and reading skills.			
Additionally, building from Core Medical Communication, in this semester we discuss medicine from various non-biomedical perspectives, such as Disability Studies.			
<b>[Course objectives]</b>			
Course Goals and Objectives To deepen contents & concepts discussed in Medical communication (core) To specify your own research domain, and review the research topic in-depth To understand & be familiarize with qualitative methodologies			
<b>[Course schedule and contents]</b>			
1) 10/6 Introduction 2) 10/13 Steps for coding and theorization (SCAT) Workshop 1 3) 10/20 SCAT Workshop 2 4) 10/27 SCAT Workshop 3 5) 11/10 SCAT presentation 6) 11/17 interview data analysis 1 7) 11/24 interview data analysis 2 8) 12/1 interview data analysis 3 9) 12/8 KH coder workshop 1 10) 12/15 KH coder workshop 2 11) 12/22 KH coder workshop 3 12) 1/5 research protocol presentation 1 13) 1/12 research protocol presentation 2 14) 1/19 interview data analysis presentation 15) 1/26 KH coder analysis presentation			
Note: This schedule is subject to change.			
Continue to 医学コミュニケーション演習(2) ↓↓↓			

医学コミュニケーション演習(2)
<b>[Course requirements]</b>
None
<b>[Evaluation methods and policy]</b>
Course Grade 1. participation 30% 2. research protocol presentation 20% 3. term paper 50% paper title (20%) + final version (30%)
<b>[Textbooks]</b>
Not used
<b>[References, etc.]</b>
(Reference books)
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>
students are required to write a research proposal as a term paper.
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>
Messages This instructor differentiates "health communication," which is mainly interested in doctor-patient communication, from "medical communication" with a broader, sociological focus; therefore, it is recommended that when interested in the aforementioned doctor-patient communication, s/he take other SPH classes. Suitable for students who are interested in a social science perspective in medicine and science; therefore, his or her final paper contains such themes (or terms) as a "relationship, community, communication, society, psychology, etc." Consult with me ASAP for any disability-related accommodation mhiwakuma@yahoo.co.jp or ext. 4668 Workshops are be delivered in Japanese, and moderate Japanese proficiency, especially in writing and reading, is required.  *Please visit KULASIS to find out about office hours.

Course number P-PUB01 8H132 LB90			
Course title (and course title in English)	エビデンスユーザ入門 Introduction to EBM: How to use evidence in your daily life	Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor, FURUKAWA TOSHIAKI
Target year	Professional degree students	Number of credits	2
Days and periods	開講日注記	Class style	Lecture
		Language of instruction	Japanese and English
<b>[Overview and purpose of the course]</b>			
The term "Evidence-Based Medicine" (EBM) is now so popular that every scientist calls his favorite data "evidence". This course aims to provide basic knowledge for evidence users, namely to learn what constitutes evidence, how to find it, how to use it and what to do when you cannot find such in the clinical decisions for individual patients and in the policy decisions. We expect that, once you become proficient evidence users, you will also become ambitious evidence makers. Given the various backgrounds of the KUSPH students, we also expect that EBM can be practiced for all kinds of human services including alternative & complimentary medicine, education, economic policies, environmental policies etc.			
*** We expect to form one group for English-speaking students. ***			
<b>[Course objectives]</b>			
1. To learn standard checkpoints for critical appraisal in diagnosis, treatment (intervention), prognosis, and systematic reviews. 2. To submit one report for each of the above domains that deals with the student's own clinical question and describes how he/she formulated a clinical question, how he/she found the evidence, how he/she critically appraised the evidence and how he/she applied the evidence.			
<b>[Course schedule and contents]</b>			
The class will basically proceed as follows: 1. The students will take turns to present the summary of checkpoints for critical appraisal in diagnosis, treatment (intervention), prognosis and systematic reviews based on the designated standard textbook of EBM. 2. The students will be divided into small groups and each group will present an example of practicing EBM in each of the domains above. 3. After learning the basic process of EBM for the five domains as described above, each student will present a report that deals with the student's own clinical question. As a lot of time of self-learning will be required, we expect the students to be so prepared and the class will be held, in principle, every two weeks. Please pay good attention to the class schedule.			
1. April 20 The spirit of EBM [Prof Furukawa] 2. May 11 Checkpoints for critical appraisal for articles in treatment (intervention) [Student Group 1]			
Continue to エビデンスユーザ入門(2) ↓↓↓			

エビデンスユーザ入門(2)
3. May 25 Examples of practicing EBM for treatment (intervention) [Groups 2, 3] 4. June 8 Examples of practicing EBM for treatment (intervention) [Groups 4, 1] 5. July 6 Checkpoints for critical appraisal for articles in diagnosis [Students Group 2] 6. July 20 Examples of practicing EBM for diagnosis [Groups 3, 4] 7. Aug 3 Examples of practicing EBM for diagnosis [Groups 1, 2] --- to be held Enshu-shitsu (3rd floor of Building G) 8. Sept 8 Checkpoints for critical appraisal for articles in prognosis [Students Group 3] 9. Oct 19 Examples of practicing EBM for prognosis [Groups 4, 1] 10. Nov 2* Examples of practicing EBM for prognosis [Groups 2, 3] 11. Nov 16* Checkpoints for critical appraisal for articles in systematic reviews [Students Group 4] 12. Nov 16 Checkpoints for critical appraisal for articles in network meta-analysis [Prof Furukawa] 13. Dec 7 Examples of practicing EBM for systematic reviews [Groups 1, 2] 14. Dec 21 Examples of practicing EBM for systematic reviews [Groups 3, 4] 15. January 18* Reserve date 16. January 18 Reserve date
*starts at 8:45. All the other classes start at 10:30.
<b>[Course requirements]</b>
We recommend MPH elective for "Literature Search" and "Critical Appraisal."
<b>[Evaluation methods and policy]</b>
Class participation (40%) Four reports for diagnosis, treatment (intervention), prognosis, and systematic reviews (60%)
<b>[Textbooks]</b>
Gordon Guyatt et al.『Users' Guides to the Medical Literature: Essentials of Evidence-Based Clinical Practice, 3rd Edition』(McGraw-Hill Professional) (All the chapters we designate for the class are included in the following "Manual" too. If you have purchased the "Manual", you need not purchase the "Essentials".)
<b>[References, etc.]</b>
(Reference books) Gordon Guyatt et al.『Users' Guides to the Medical Literature: A Manual for Evidence-Based Clinical Practice, 3rd Edition』(McGraw-Hill Professional) 古川壽亮『エビデンス精神医療』(医学書院)
<b>(Related URLs)</b>
<a href="http://cbmh.med.kyoto-u.ac.jp/toolbox.html">http://cbmh.med.kyoto-u.ac.jp/toolbox.html</a> (Please use various tools available in our Department website.)
Continue to エビデンスユーザ入門(3) ↓↓↓

エビデンスユーザ入門(3)
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>
As a lot of time of self-learning will be required, we expect the students to be so prepared.
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>
Participation from Graduate course of Human Health Sciences is accepted.
*Please visit KULASIS to find out about office hours.

Course number					
Course title (and course title in English)	質的研究入門 Introduction to Qualitative Research		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor, NAKAYAMA TAKEO Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor, KOHNO AYAKO	
Target year	Professional degree students	Number of credits	1	Year/semesters	2020/Intensive, First semester
Days and periods	Intensive	Class style	Lecture	Language of instruction	Japanese and English
<b>[Overview and purpose of the course]</b> This course outlines the basics of qualitative research methods and lectures on various analysis techniques.					
<b>[Course objectives]</b> Explain the fundamentals of qualitative research methodology. To understand the key methodology of qualitative research and to be able to interpret qualitative research findings critically. Being able to conduct qualitative research with the guidance of qualitative research experts.					
<b>[Course schedule and contents]</b> 1st Lecture: June 17 What is Qualitative Research? Philosophy of Qualitative Research (Epistemology & Ontology) 2nd Lecture: June 24 Qualitative Research Methodology (Thematic Analysis, Ethnography, Phenomenology, Grounded Theory) & Role of Theory 3rd Lecture: July 1 Planning and Designing Qualitative Research (How to Develop Research Question in Qualitative Research) Writing a Research Proposal 4th Lecture: July 8 Interviewing, Focus Group and Unobtrusive Methods 5th Lecture: July 15 Method of Data Analysis (Coding, Use of CAQDAS) 6th Lecture: July 22 Rigour and Ethics in Qualitative Research Appraisal and Validity of Qualitative Research 7th Lecture: July 29 Basics of Mixed Methods 8th Lecture: August 5 Meta Synthesis of Qualitative Research New Types of Qualitative Research Methods (Photovoice, Participatory Action Research etc.) Writing and Communicating Qualitative Research					
<b>[Course requirements]</b> This course is mainly for students in the School of Public Health. Students from other courses (including students in School of Human Health Sciences) are also welcome although the number will be limited to 5 students. For those who wish to take this course in PhD or DrPH degree, please e-mail beforehand and consult with the instructor.					
----- Continue to 質的研究入門(2) ↓↓↓					

質的研究入門(2)
<b>[Evaluation methods and policy]</b>
The grade will be based mainly on active participation in the class (50%), and reports (50%).
<b>[Textbooks]</b>
Instructed during class No textbook is required for this course. Handouts will be distributed by the instructors as needed.
<b>[References, etc.]</b>
(Reference books) Liamputpong P. Qualitative research methods. Fifth edition. Melbourne: Oxford university press; 2020. Liamputpong P. Research methods in health: foundations for evidence-based practice. 3rd edition. 2017.
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>
Review and home assignment.
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>
The 8th (August 5) lecture will be in the exercise room (Ensyu-shitsu) on the 3rd floor of Building G. Please be careful. Students from other courses (including students in School of Human Health Sciences) are also welcome although the number will be limited to 5 students.
*Please visit KULASIS to find out about office hours.

Course number					
Course title (and course title in English)	環境・感染症論 Environment and Infection		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Center for Southeast Asian Studies Professor, YAMAZAKI WATARU	
Target year	Professional degree students	Number of credits	2	Year/semesters	2020/Second semester
Days and periods	Fri.1	Class style	Lecture	Language of instruction	Japanese and English
<b>[Overview and purpose of the course]</b> Students will gain an understanding of the factors that impact the occurrence and propagation of infectious diseases. This will be accomplished via lectures by a faculty member, student presentations, and related discussions. Students will gain a deeper understanding of the historical influences and social changes that can result in infectious disease.					
<b>[Course objectives]</b> Students will be given the tools to grasp infectious diseases from an ecological perspective. In order to accomplish this, they will learn how to perform comprehensive analyses of the various factors involved, including the natural environments in which pathogens live, human-created artificial environments, human resistance to infections, etc. Students will thus acquire skills towards a broad understanding of infectious diseases.					
<b>[Course schedule and contents]</b> Classes 1-9 are lectures, and Classes 10-14 are seminar-style classes, wherein students will present reports. Class 15 is set aside for general (comprehensive) study and review. Class 1: Background factors required for infectious disease study (lecture) Class 2: Water and health (lecture) Class 3: Global environmental issues (lecture) Class 4: Food hygiene and sanitation (lecture) Class 5: Zoonosis (lecture) Class 6: Animal infections and animal welfare (lecture) Class 7: Infectious diseases in developed countries (lecture) Class 8: Relationships between development and infectious diseases in emerging countries (lecture) Class 9: Molecular epidemiology analysis of infectious diseases (lecture) Class 10: Analysis of factors impacting the occurrence and propagation of specific infectious diseases I (seminar) Class 11: Analysis of factors impacting the occurrence and propagation of specific infectious diseases II (seminar) Class 12: Analysis of factors impacting the occurrence and propagation of specific infectious diseases III (seminar) Class 13: Analysis of factors impacting the occurrence and propagation of specific infectious diseases IV (seminar) Class 14: Analysis of factors impacting the occurrence and propagation of specific infectious diseases V (seminar) Class 15: Comprehensive study (seminar)					
----- Continue to 環境・感染症論(2) ↓↓↓					

環境・感染症論 (2)	
<b>[Course requirements]</b> None	
<b>[Evaluation methods and policy]</b> 1. Evaluations (grades) will be based on attendance (30%) and determinations of students' level of understanding, proactive contributions, insights, and ability to express opinions during student report presentations (50% of grade) and group discussions (20%). 2. Students who do not present a report are treated as not having performed their final examination. Such students will not be graded.	
<b>[Textbooks]</b> Not used No textbook is assigned. As supplementary to in-class material, documents shall be distributed containing the main points of each lecture, and copies of selected academic papers, etc., will be distributed as necessary.	
<b>[References, etc.]</b> <b>(Reference books)</b> Introduced during class	
<b>(Related URLs)</b> <a href="https://en.kyoto.cseas.kyoto-u.ac.jp/about/staff-page/yamazaki-wataru/">https://en.kyoto.cseas.kyoto-u.ac.jp/about/staff-page/yamazaki-wataru/</a> <a href="http://sph.med.kyoto-u.ac.jp/en/field/class-16/">http://sph.med.kyoto-u.ac.jp/en/field/class-16/</a>	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b> Students are encouraged to perform preparatory studies and reviews using distributed documents, introduced books and texts, etc.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b> Contact Address: Watan Yamasaki, Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University, Main Building, 2nd Floor, Room 1221, 46 Yoshida-Shimoadachicho, Sakyo-ku, Kyoto City 606-8501 〒606-8501 京都市左京区吉田下阿達町46 京都大学東南アジア地域研究研究所 本館2階1221号室 山崎 渉 Tel: Office (075) 753-9618, Lab (075) 761-2700 Fax: (075) 761-2701 Email: yamasaki@cseas.kyoto-u.ac.jp	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course number					
Course title (and course title in English)	行動経済学と健康医療介護 Behavioral Economics in Health and Care		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor,IMANAKA YUUICHI	
Target year	Professional degree student	Number of credits	1	Year/semesters	2020/Intensive, First semester
Days and periods	Intensive	Class style	Lecture	Language of instruction	Japanese
<b>[Overview and purpose of the course]</b> 健康・医療・介護の領域における、行動経済学の応用について、理論と実践事例を学ぶ。					
<b>[Course objectives]</b> 健康・医療・介護の諸課題の解決に向けて、行動経済学の応用を検討できるようになる。					
<b>[Course schedule and contents]</b> <ul style="list-style-type: none"><li>理論を学ぶ</li><li>国内外の実践事例を学ぶ</li><li>研究事例を学ぶ</li><li>応用の計画を自ら考える</li></ul>					
<b>[Course requirements]</b> 原則、出席80%以上を前提とする					
<b>[Evaluation methods and policy]</b> 講義へのコミットメント (40%) レポート (60%)					
<b>[Textbooks]</b> Introduced during class					
<b>[References, etc.]</b> <b>(Reference books)</b> Introduced during class					
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b> 初回に説明する					
<b>(Other information (office hours, etc.))</b> *Please visit KULASIS to find out about office hours.					

未更新					
<b>Course number</b> P-PUB01 8H135 LJ90					
<b>Course title (and course title in English)</b> 臨床試験の統計的方法 Statistical Methods in Clinical Trials					
<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b> Graduate School of Medicine Program-Specific Professor,TANAKA SHIROU Graduate School of Medicine Professor,SATO TOSIYU Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor,IMAI TORU					
<b>Target year</b> Professional degree student <b>Number of credits</b> 1 <b>Year/semesters</b> 2020/Intensive, Second semester					
<b>Days and periods</b> Intensive <b>Class style</b> Lecture <b>Language of instruction</b> Japanese					
<b>[Overview and purpose of the course]</b> We hold lectures and practical training with the aim of understanding the design of Phase II and Phase III clinical trials and learning sample size calculations. Lecture videos and assignments will be distributed before the first session, so students should use them for preparation and review. Knowledge of clinical trials and statistics equivalent to the first semester courses "Clinical Trials," "Fundamentals of Statistical Inference," and "Statistical Models and their Applications" is a prerequisite. This is a mandatory course for CB and an elective course for MPH.					
<b>[Course objectives]</b> <ul style="list-style-type: none"><li>Learn to calculate sample sizes in Phase II and Phase III clinical trials.</li><li>Understand frequency theory in study design and the differences from Bayesian statistical concepts.</li></ul>					
<b>[Course schedule and contents]</b> <ul style="list-style-type: none"><li>Classes will be held in Seminar Room B in Building G.</li><li>Preliminary preparation + lecture and practicum format.</li><li>Preliminary study uses the KoALA online learning environment (<a href="https://koala.higedu.kyoto-u.ac.jp">https://koala.higedu.kyoto-u.ac.jp</a>).</li><li>We calculate sample size in the practicums in Sessions 1 to 4, but no knowledge of software is assumed. In Sessions 6 and 7, we read clinical trial papers and interpret results.</li><li>Practicum tutoring is performed by clinical statistics staff.</li></ul>					
Session 1, October 7: Sample Size Design 1 Continuous Data (Tanaka, Imai, Aida) Session 2, October 14: Sample Size Design 2 Binary Data (Tanaka, Imai, Aida) Session 3, October 21: Sample Size Design 3 Survival Time Data (Tanaka, Imai, Aida) Session 4, October 28: Sample Size Design 4 Phase II Clinical Studies, Bayesian Statistics (Tanaka, Imai, Aida) Session 5, November 4: Interpreting the Results of Clinical Trials (Presentation) Session 6, November 11: Interpreting the Results of Clinical Trials (Presentation) Session 7, November 20: Reserve date					
<b>[Course requirements]</b> Students must have completed the following courses in the first semester: "Clinical Trials," "Fundamentals of Statistical Inference," and "Statistical Models and their Applications."					
----- Continue to 臨床試験の統計的方法(2) ↓ ↓ ↓					

臨床試験の統計的方法(2)	
<b>[Evaluation methods and policy]</b> Class participation: 50% and Reports: 50%	
<b>[Textbooks]</b> Machin D, Campbell MJ, Tan SB, Tan SH. "Sample Sizes for Clinical, Laboratory and Epidemiology Studies, 4th Edition," (John Wiley & Sons). We will make an announcement on acquiring textbooks during Session 1.	
<b>[References, etc.]</b> <b>(Reference books)</b>	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b> Prepare for and review lessons using the lecture videos and assignments distributed before the first session. Details will be announced via email.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b> Human health science majors are not eligible to participate in this course.	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course number	P-PUB01 8H063 FB90				
Course title (and course title in English)	フィールドワーク Fieldwork		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Associate Professor,TABARA YASUHARU Graduate School of Medicine Professor,MATSUDA FUMIHIKO	
Target year	Professional degree students	Number of credits	2	Year/semesters	2020/Intensive, year-round
Days and periods	Intensive	Class style	Practical training	Language of instruction	Japanese and English
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
This course offers opportunity to learn a way for data acquisition in a cohort study by participating in a field investigation of the Nagahama study, a community-based cohort study by Kyoto University Graduate School of Medicine. Students are required to participate the health check-up survey at Nagahama City approximately 5 to 6 days during September to January, and to interview with participants and to do several physiological measurements.					
<b>[Course objectives]</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>Experiencing the real activities in field epidemiology</li> <li>Learning community healthcare delivered by local governments</li> <li>Learning how to collect reliable information, how to protect individual information appropriately, how to construct long-term relationship through the communication with people in a community</li> </ul>					
<b>[Course schedule and contents]</b>					
1. April, 1st week Orientation @Seminar room A 2. Guidance of the field work @Seminar room A 3-14. Fieldwork in Nagahama City 15. Discussion					
<b>[Course requirements]</b>					
Japanese conversation skill to communicate with participants					
<b>[Evaluation methods and policy]</b>					
Participation in discussion and fieldwork 90%, Report 10%					
<b>[Textbooks]</b>					
None					
<b>[References, etc.]</b>					
(Reference books) None					
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>					
This class requires participation in the community-based health check-up examination in Nagahama city, Shiga prefecture. Making a report based on field work is to be regarded as review of the class.					
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>Students have to attend the first and second class. If you cannot attend them, please contact us before them.</li> </ul>					
*Please visit KULASIS to find out about office hours.					

Course number	P-PUB01 8H061 PB90				
Course title (and course title in English)	社会健康医学課外実習 Field Training for Public Health Practice			Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor,KOSUGI SHINJI
Target year	Professional degree students	Number of credits	2	Year/semesters	2020/Intensive, year-round
Days and periods	Intensive	Class style	Practical training	Language of instruction	Japanese and English
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
<p>I. コースの概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>就業体験を通じて、学んだ専門知識等を活かし、応用力を高める。</li> <li>キャリアデザインの具体化につなげる機会とする。</li> <li>所属分野の指導教員と、場合によっては、加えて他分野の主担当教員とも、十分に相談の上、履修届を出してください。</li> </ul> <p>(計画未確定のままに急いで、学年初め・学期初めに履修届を出す必要はありません。)</p>					
<p>II. 学習到達目標（このコース終了時までに習得が期待できること）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>社会の現場で必要な技能の向上を図る。</li> <li>大学院で得た知識・技能を、いかにして実務に役立たせるかを確認する。</li> <li>志望する就業の現場での雰囲気や必要な技能を知る。</li> <li>実務を通じて、社会貢献をする。</li> </ul>					
<p>III. 教育・学習方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>就業体験を通じて、学んだ専門知識等を活かし、応用力を高める。</li> </ul>					
<b>[Course objectives]</b>					
学習到達目標（このコース終了時までに習得が期待できること）					
<ul style="list-style-type: none"> <li>社会の現場で必要な技能の向上を図る。</li> <li>大学院で得た知識・技能を、いかにして実務に役立たせるかを確認する。</li> <li>志望する就業の現場での雰囲気や必要な技能を知る。</li> <li>実務を通じて、社会貢献をする。</li> </ul>					
<b>[Course schedule and contents]</b>					
所属分野の指導教員等と、十分に相談の上、インターンシップの計画を立ててください。					
----- Continue to 社会健康医学課外実習(2) ↓↓					

社会健康医学課外実習(2)
<b>[Course requirements]</b>
KULASISでの履修登録はできません。履修する場合は、窓口に申し出てください。
<b>[Evaluation methods and policy]</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>終了後速やかに報告書・レポート（報告書の様式は教務掛を通じて入手すること）を作成し、かつ、インターン先の責任者と指導教員の確認を得ること。</li> <li>合否のみ、判定する。</li> </ul>
<b>[Textbooks]</b>
・諸々の学習資源は、就業体験を通じて得られる。
<b>[References, etc.]</b>
(Reference books) ・諸々の学習資源は、就業体験を通じて得られる。
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>
適宜予習復習を求める
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>
その他メッセージ
<ul style="list-style-type: none"> <li>他の履修科目の日程と重複しないように計画してください。重複した場合、インターンシップを優先するわけではありません。必要な際は、該当する科目責任者に相談してください。</li> <li>履修登録（単位取得）せずに、インターンシップを行ってもかまいません。</li> <li>実質的な業務が計60時間以上で2単位。計30時間以上で1単位とします。</li> <li>上記の時間の目安と、就業体験の内容と質を、主担当教員（指導教員等）が評価し、合否と単位数（1単位か2単位）を判定します。</li> <li>報告書の様式（教務掛で受取ること）を主担当教員（指導教員等）に提出し、履修届けを同時に行ってください。</li> </ul>
*Please visit KULASIS to find out about office hours.

Course number	P-PUB01 8H082 LB90				
Course title (and course title in English)	医療経営特別カリキュラム I Healthcare management Special Curriculum I			Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor,IMANAKA YUUICHI Graduate School of Medicine Program-Specific Associate Professor,SASAKI NORIKO Graduate School of Medicine Associate Professor,KUNISAWA SUSUMU Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecture,OTSUBO TETSUYA
Target year	Professional degree students	Number of credits	2	Year/semesters	2020/Intensive, First semester
Days and periods	Intensive	Class style	Practical training	Language of instruction	Japanese and English
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>This course is for healthcare management major.</li> <li>It is based on action learning in relation to the real world practice.</li> <li>Topics will include:</li> <li>- Leadership at different levels</li> <li>- Financial Management, Financial Planning</li> <li>- Accounting and Costing</li> <li>- Organizational Culture</li> <li>- Patient Satisfaction and Customer Relationship</li> <li>- Safety and Quality Management System</li> <li>- Risk Management System</li> <li>- Policy and External Environment Analysis</li> <li>- Marketing in Health Care</li> <li>- Information Technology and Data Analysis/Utilization</li> <li>- Starting up a New Function, Project Finance</li> <li>- Facility Management</li> <li>- Networking, Merge and Acquisition</li> <li>- Strategic Planning</li> <li>- Implementation of Change</li> <li>- Strategic Management</li> </ul>					
<b>[Course objectives]</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>Explain key issues in healthcare management, including theories/frameworks and internal and external environment</li> <li>Making outputs through teamwork</li> <li>Making outputs through individual work</li> <li>Constructively discuss current issues, and propose their potential resolutions</li> <li>Critically and systematically appraise healthcare management issues</li> <li>Apply the above knowledge and skills for your own planning and action in healthcare management</li> </ul>					
----- Continue to 医療経営特別カリキュラム I (2) ↓↓					

医療経営特別カリキュラム I (2)
<b>[Course schedule and contents]</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>Based on the real world practice, data and people</li> <li>Information Collection and Analysis, Quantitative Data Analysis, Planning</li> <li>Interviews, Presentations, Making reports, Discussion</li> </ul>
<b>[Course requirements]</b>
This is specifically designed and required for Healthcare Management Young Leaders Course.
<b>[Evaluation methods and policy]</b>
Program participation and performance
<b>[Textbooks]</b>
Reading materials will be distributed as needed.
<b>[References, etc.]</b>
(Reference books)
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>
Good preparation and review are necessary.
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>
*Please visit KULASIS to find out about office hours.

Course number		P-PUB01 8H083 LB90			
Course title (and course title in English)	医療経営特別カリキュラム II Healthcare management Special Curriculum II			Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor,IMANAKA YUICHI Graduate School of Medicine Program-Specific Associate Professor,SASAKI NORIKO Graduate School of Medicine Associate Professor,KUNISAWA SUSUMU Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer,OOTSUBO TETSUYA
Target year	Professional degree students	Number of credits	2	Year/semesters	2020/Intensive, Second semester
Days and periods	Intensive	Class style	Practical training	Language of instruction	Japanese and English
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>This course is for healthcare management major.</li> <li>It is based on action learning in relation to the real world practice.</li> <li>Topics will include:           <ul style="list-style-type: none"> <li>Leadership at different levels</li> <li>Financial Management, Financial Planning</li> <li>Accounting and Costing</li> <li>Organizational Culture</li> <li>Patient Satisfaction and Customer Relationship</li> <li>Safety and Quality Management System</li> <li>Risk Management System</li> <li>Policy and External Environment Analysis</li> <li>Marketing in Health Care</li> <li>Information Technology and Data Analysis/Utilization</li> <li>Starting up a New Function, Project Finance</li> <li>Facility Management</li> <li>Networking, Merge and Acquisition</li> <li>Strategic Planning</li> <li>Implementation of Change</li> <li>Strategic Management</li> </ul> </li> </ul>					
<b>[Course objectives]</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>Explain key issues in healthcare management, including theories/frameworks and internal and external environments</li> <li>Making outputs through teamwork</li> <li>Making outputs through individual work</li> <li>Constructively discuss current issues, and propose their potential resolutions</li> <li>Critically and systematically appraise healthcare management issues</li> <li>Apply the above knowledge and skills for your own planning and action in healthcare management</li> </ul>					
Continue to 医療経営特別カリキュラム II (2) ↓↓					

医療経営特別カリキュラム II (2)
<b>[Course schedule and contents]</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>Based on the real world practice, data and people</li> <li>Information Collection and Analysis, Quantitative Data Analysis, Planning</li> <li>Interviews, Presentations, Making reports, Discussion</li> </ul>
<b>[Course requirements]</b>
This is specifically designed and required for Healthcare Management Young Leaders Course.
<b>[Evaluation methods and policy]</b>
Program participation and performance
<b>[Textbooks]</b>
Reading materials will be distributed as needed.
<b>[References, etc.]</b>
(Reference books)
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>
Good preparation and review are necessary.
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>
*Please visit KULASIS to find out about office hours.

Course number		P-PUB01 8H053 LB90			
Course title (and course title in English)	医療経営ケーススタディ Case Studies in Healthcare Management			Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor,IMANAKA YUICHI Graduate School of Medicine Program-Specific Associate Professor,SASAKI NORIKO Graduate School of Medicine Associate Professor,KUNISAWA SUSUMU Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer,OOTSUBO TETSUYA
Target year	Professional degree students	Number of credits	2	Year/semesters	2020/Intensive, year-round
Days and periods	Intensive	Class style	Seminar	Language of instruction	Japanese and English
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>This case study is on healthcare management.</li> <li>It is based on analysis, discussion and constructive critique on real cases originally developed.</li> <li>Topics will include:           <ul style="list-style-type: none"> <li>Overview of Healthcare Management: Key Issues</li> <li>Leadership</li> <li>Finance</li> <li>Organizational Culture</li> <li>Safety and Quality Management System</li> <li>Policy and External Environment Analysis</li> <li>Marketing in Health Care</li> <li>Information Technology and Data Analysis/Utilization</li> <li>Starting up a New Function, Project Finance</li> <li>Facility Management</li> <li>Networking, Merge and Acquisition</li> <li>Strategic Planning/ Management</li> <li>Implementation of Change</li> </ul> </li> </ul>					
<b>[Course objectives]</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>Explain key issues in healthcare management, including theories/frameworks and internal and external environments</li> <li>Constructively discuss current issues, and propose their potential resolutions</li> <li>Critically and systematically appraise healthcare management issues</li> <li>Apply the above knowledge and skills for your own planning and action in healthcare management</li> </ul>					
Continue to 医療経営ケーススタディ(2) ↓↓					

医療経営ケーススタディ(2)
<b>[Course schedule and contents]</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• Case Studies</li> <li>• Reports</li> </ul> <p>The cases for this course are originally developed. It might use cases developed elsewhere including ones abroad</p>
<b>[Course requirements]</b>
This is specifically designed and required for Healthcare Management Young Leaders Course.
<b>[Evaluation methods and policy]</b>
Program participation and performance
<b>[Textbooks]</b>
Reading materials will be distributed as needed.
<b>[References, etc.]</b>
(Reference books)
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>
Good preparation and review are necessary.
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>
This class is not open to students from graduate school of human health science.
*Please visit KULASIS to find out about office hours.

Course number	P-PUB01 8K026 LB90				
Course title (and course title in English)	Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor,KAWAKAMI, KOJI Graduate School of Medicine Professor,NAKAYAMA TAKEO Graduate School of Medicine Associate Professor,TAKAHASHI YOSHIMITSU Agency for Health, Safety and Environment Professor,IWAMI TAKU Agency for Health, Safety and Environment Assistant Professor,OKABAYASHI SATO Agency for Health, Safety and Environment Assistant Professor,MATSUZAKI KEIICHI Graduate School of Medicine Professor,IMANAKA YUUICHI Graduate School of Medicine Professor,FURUKAWA TOSHIAKI Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer,OGAWA YUSUKE Graduate School of Medicine Associate Professor,WATANABE NORIO Graduate School of Medicine Program-Specific Associate Professor,SASAKI NORIKO Graduate School of Medicine Associate Professor,TAKEUCHI MASATO Agency for Health, Safety and Environment Assistant Professor,KOBAYASHI DAISUKE Graduate School of Medicine Associate Professor,YAMAMOTO YOUSUKE Agency for Health, Safety and Environment Associate Professor,SAKAGAMI YUU			
Target year	Professional degree students	Number of credits	1	Year/semesters	
Days and periods	Mon.5	Class style	Lecture	Language of instruction	
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
This course will discuss study designs and protocols in clinical epidemiology based on student's clinical questions.					
<b>[Course objectives]</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>• To be able to convert clinical questions to structured research question</li> <li>• To be able to build study protocol from research question</li> <li>• To be able to communicate study plan effectively with peers</li> </ul>					
<b>[Course schedule and contents]</b>					
① April 8 Guidance ② April 22 Discussion ③ May 13 Discussion ④ May 20 Discussion ----- Continue to 臨床研究計画法 I (2) ↓ ↓					

臨床研究計画法 I (2)
<b>[Course schedule and contents]</b>
⑤ May 27 Discussion ⑥ June 3 Lecture + Discussion ⑦ June 10 Discussion ⑧ June 17 Discussion ⑨ June 24 Discussion ⑩ July 1 Lecture + Discussion ⑪ July 8 Discussion ⑫ July 22 Discussion ⑬ July 29 Discussion ⑭ August 5 Discussion
<b>[Course requirements]</b>
Class for MCR restricted
<b>[Evaluation methods and policy]</b>
Course assignment (30%) Presentation (70%)
<b>[Textbooks]</b>
Not used
<b>[References, etc.]</b>
(Reference books)
Introduced during class
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>
Methods of Instruction
<ul style="list-style-type: none"> <li>• Didactic lectures</li> <li>• Student's presentation and discussion</li> </ul>
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>
There are no pre-requisites for this course.
*Please visit KULASIS to find out about office hours.

Course number	P-PUB01 8K028 SB90			
Course title (and course title in English)	Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Associate Professor,YAMAMOTO YOUSUKE Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer,OGAWA YUSUKE Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor,SEKI TOMOTSUGU		
Target year	Professional degree students	Number of credits	1	Year/semesters
Days and periods	Thu.4	Class style	Seminar	Language of instruction
<b>[Overview and purpose of the course]</b>				
This course will discuss study designs and protocols in clinical epidemiology based on student's clinical questions.				
<b>[Course objectives]</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>• To be able to convert clinical questions to structured research question</li> <li>• To be able to build study protocol from research question</li> <li>• To be able to communicate study plan effectively with peers</li> </ul>				
<b>[Course schedule and contents]</b>				
① April 16 Guidance ② April 23 Supplementary class ③ May 7 Discussion ④ May 14 Discussion ⑤ May 21 Discussion ⑥ May 28 Discussion ⑦ June 4 Discussion ⑧ June 11 Discussion ⑨ June 18 Discussion ⑩ June 25 Discussion ⑪ July 2 Discussion ⑫ July 9 Discussion ⑬ July 16 Supplementary class ----- Continue to 臨床研究計画法演習 I (2) ↓ ↓				
<b>[Course requirements]</b>				
Class for MCR restricted				
<b>[Evaluation methods and policy]</b>				
Course assignment (100%)				

臨床研究計画法演習 I (2)	
<b>[Textbooks]</b> Not used	
<b>[References, etc.]</b> <b>(Reference books)</b> Introduced during class	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b> Methods of Instruction • Student's presentation and discussion	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b> There are no pre-requisites for this course. *Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course number		P-PUB01 8K030 LB90			
Course title (and course title in English)	医療技術の経済評価 (MCR限定) Economic Evaluation of Medical Technologies			Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor,IMANAKA YUICHI Graduate School of Medicine Program-Specific Associate Professor,SASAKI NORIKO Graduate School of Medicine Associate Professor,KUNISAWA SUSUMU Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer,OOTSUBO TETSUYA
Target year	Professional degree students	Number of credits	1	Year/semesters	2020/First semester
Days and periods	Wed.4	Class style	Lecture	Language of instruction	Japanese and English
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>Lectures will address the theories and frameworks that support economic evaluations in health care, and students will learn the major research methods used in evaluating healthcare-related economic performance.</li> <li>Economic evaluations of healthcare and medical technologies are usually conducted under practical constraints, and students will learn the approaches to conducting research under these conditions.</li> <li>This course will examine economic evaluations in a wide range of healthcare-related topics.</li> </ul>					
<b>[Course objectives]</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>Students will be able to explain key issues in the theories, frameworks, and research methods that support economic evaluations of medical technologies including medication.</li> <li>Students will understand the possible biases associated with research involving economic evaluations of medical technologies including medication.</li> <li>Economic evaluations are conducted on various aspects of health care, including treatment techniques, pharmaceuticals, medical supplies, medical examinations, and health policy programs. Students will understand and be able to explain the differences and respective applications of the main research methods used in these evaluations, including cost analyses, cost-effectiveness analyses, cost-utility analyses, and cost-benefit analyses. Students will also learn the core concepts of cost calculations and outcome measurements, time-based concepts, discount rates, sensitivity analyses, incremental cost-effectiveness ratios, and the appropriate interpretation of analytical results.</li> <li>Based on the above, students will be able to conduct critical reviews of research articles in this field and explain their significance. Students will also be able to apply their acquired knowledge and techniques when developing research protocols and conducting research.</li> </ul>					
<b>[Course schedule and contents]</b>					
1. April 08 Evaluating the economic performance of health care 1 2. April 15 Evaluating the economic performance of health care 2 3. April 22 Economic evaluation methods in health care 4. May 13 Modeling in economic evaluations 5. May 20 Methodologies in cost-effectiveness and cost-utility analyses 1 6. May 27 Methodologies in cost-effectiveness and cost-utility analyses 2 7. Jun 03 Economic evaluation in health care: Journal article review and discussion 1 8. Jun 10 Economic evaluation in health care: Journal article review and discussion 2					
Continue to 医療技術の経済評価 (MCR限定) ②↓↓					

医療技術の経済評価 (MCR限定) (2)	
Note: This schedule is subject to change. Overview of the schedule will be shown at the first day.	
<b>[Course requirements]</b> This course is only open to students involved in MCR course. Attendance rate 80% or more.	
<b>[Evaluation methods and policy]</b> 1. Report (60%) 2. Classroom participation (40%)	
<b>[Textbooks]</b> Reading materials will be distributed as needed	
<b>[References, etc.]</b> <b>(Reference books)</b> • Drummond MF, et al. Methods for the Economic Evaluation of Health Care Programmes, 4th Ed. Oxford, 2015. • Myriam Hunink. Decision Making in Health and Medicine: Integrating Evidence and Values. Cambridge, 2001. • 医療制度・医療政策・医療経済（丸善出版,2013） • Handbook of Health Services Research (Springer Science+Business Media) • 「NEW予防医学・公衆衛生学 改訂第4版」（編集:小泉昭夫/馬場園明/今中雄一/武林亨）南江堂. 2018.	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b> Both good preparation and review are needed.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b> • Places available for students without former experiences of studying economics. • Our department has been accepting graduate students who are interested in research related to health care policies, health care management, and health care quality/safety/cost. ( <a href="http://med-econ.umin.ac.jp/int/">http://med-econ.umin.ac.jp/int/</a> )	
Note: Topics related to process and outcome measures, clinical practice variation, healthcare evaluations and assessments, hospital functional assessments, and healthcare quality & safety are included in the course "Evaluation of Quality in Health Care" (Wed.3, the last half of first semester). If you would like to learn about these topics, consider to apply for this course.	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course number		P-PUB01 8K027 LB90			
Course title (and course title in English)	臨床研究計画法 I I Seminar in Study Design II			Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor,KAWAKAMI, KOJI Graduate School of Medicine Professor,NAKAYAMA TAKEO Graduate School of Medicine Associate Professor,TAKAHASHI YOSHIMITSU Agency for Health, Safety and Environment Professor,IWAMI TAKU Agency for Health, Safety and Environment Assistant Professor,OKABAYASHI SATOE Agency for Health, Safety and Environment Assistant Professor,MATSUZAKI KEIICHI Graduate School of Medicine Professor,IMANAKA YUICHI Graduate School of Medicine Professor,FURUKAWA TOSHIAKI Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer,OGAWA YUSUKE Graduate School of Medicine Associate Professor,WATANABE NORIO Graduate School of Medicine Program-Specific Associate Professor,SASAKI NORIKO Graduate School of Medicine Associate Professor,TAKEUCHI MASATO Agency for Health, Safety and Environment Assistant Professor,KOBAYASHI DAISUKE Graduate School of Medicine Associate Professor,YAMAMOTO YOUSUKE Agency for Health, Safety and Environment Associate Professor,SAKAGAMI YUU
Target year	Professional degree students	Number of credits	1	Year/semesters	2020/Second semester
Days and periods	Mon.5	Class style	Lecture	Language of instruction	Japanese and English
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
This course will discuss study designs and protocols in clinical epidemiology based on student's clinical questions.					
<b>[Course objectives]</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>To be able to convert clinical questions to structured research question</li> <li>To be able to build study protocol from research question</li> <li>To be able to communicate study plan effectively with peers</li> </ul>					
<b>[Course schedule and contents]</b>					
① October 21 Discussion ② October 28 Discussion ③ November 11 Discussion ④ November 18 Discussion					
Continue to 臨床研究計画法 I I (2)↓↓					

臨床研究計画法 II (2)		
⑤ November 25	Discussion	
⑥ December 2	Discussion	
⑦ December 9	Discussion	
⑧ December 16	Discussion	
⑨ December 23	Discussion	
⑩ January 6	Discussion	
⑪ January 20	Discussion	
⑫ January 27	Discussion	
[Course requirements]		
Class for MCR restricted		
[Evaluation methods and policy]		
Course assignment (30%) Presentation (70%)		
[Textbooks]		
Not used		
[References, etc.]		
(Reference books) Introduced during class		
[Study outside of class (preparation and review)]		
Methods of Instruction • Didactic lectures • Student's presentation and discussion		
[Other information (office hours, etc.)]		
There are no pre-requisites for this course.  *Please visit KULASIS to find out about office hours.		

P-PUB01 8K029 SB90					
Course title (and course title in English)	Instructor's name, job title, and department of affiliation		Graduate School of Medicine Associate Professor,YAMAMOTO YOUSUKE Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer,OGAWA YUSUKE Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor,SEKI TOMOTSUGU		
Target year	Professional degree students	Number of credits	1	Year/semesters	2020/Second semester
Days and periods	Mon.4	Class style	Seminar	Language of instruction	Japanese and English
[Overview and purpose of the course]					
This course will discuss study designs and protocols in clinical epidemiology based on student's clinical questions.					
[Course objectives]					
<ul style="list-style-type: none"> <li>To be able to convert clinical questions to structured research question</li> <li>To be able to build study protocol from research question</li> <li>To be able to communicate study plan effectively with peers</li> </ul>					
[Course schedule and contents]					
① September 28 Discussion ② October 5 Discussion ③ October 12 Discussion ④ October 19 Discussion ⑤ October 26 Discussion ⑥ November 9 Discussion ⑦ November 16 Discussion ⑨ November 30 Discussion ⑩ December 7 Discussion ⑪ December 14 Discussion ⑫ December 21 Supplementary class ⑬ January 4 Supplementary class					
[Course requirements]					
Class for MCR restricted					
[Evaluation methods and policy]					
Course assignment (100%)					
Continue to 臨床研究計画法演習 II (2) ↓↓					

臨床研究計画法演習 II (2)		
[Textbooks]	Not used	
[References, etc.]		
(Reference books) Introduced during class		
[Study outside of class (preparation and review)]		
Methods of Instruction • Student's presentation and discussion		
[Other information (office hours, etc.)]		
There are no pre-requisites for this course.  *Please visit KULASIS to find out about office hours.		

P-PUB01 8K020 LB90					
Course title (and course title in English)	Instructor's name, job title, and department of affiliation		Graduate School of Medicine Professor,NAKAYAMA TAKEO Part-time Lecturer,MIYAZAKI KIKUO The Otsu District Court,Judge NISHIOKA SHIGEYASU		
Target year	Professional degree students	Number of credits	1	Year/semesters	2020/Second semester
Days and periods	Fri.3	Class style	special lecture	Language of instruction	Japanese and English
[Overview and purpose of the course]					
<ul style="list-style-type: none"> <li>This course focuses on evidence-based medicine (EBM) and clinical practice guidelines.</li> <li>This course will provide exercise to assess and develop clinical practice guidelines.</li> <li>This course will give opportunity to consider communication issues between clinicians and patient/family, legal issues and resource allocation.</li> </ul>					
Didactic lectures and group work					
[Course objectives]					
<ul style="list-style-type: none"> <li>Explain the relationship between EBM and clinical practice guidelines</li> <li>Understand the basic concepts of development and assessment of evidence-based clinical practice guidelines</li> <li>Explain possibilities and subjects of clinical practice guidelines from the social viewpoints.</li> </ul>					
[Course schedule and contents]					
1 October 2 EBM and Clinical Practice Guidelines (CPGs) 2 October 9 Assessment of CPGs 3 October 16 Development of CPGs 4 October 23 Legal Issues on CPGs 5 November 6 From CPGs to Quality Indicators 6 November 13 Evidence from RCTs for clinical practice guidelines: a case in palliative care 7 November 20 CPGs, Patients' View and Shared Decision-Making 8 December 4 Wrap-up Discussion (*This schedule is subject to change)					
The class will be scheduled to avoid overlapping "Health informaticsII".					
[Course requirements]					
The class is limited to MCR students.					
[Evaluation methods and policy]					
Short report for each lecture (100%)					
Continue to EBM・診療ガイドライン特論 (MCR限定) (2) ↓↓					

EBM・診療ガイドライン特論（MCR限定）(2)	
<b>[Textbooks]</b> The material necessary for the lecture will be provided by lecturers.	
<b>[References, etc.]</b> <b>(Reference books)</b> Nakayama T & Tsutani K 『Rinsho kenkyu to ekigaku kenkyu no tameno kokusai rurushu』 (raihu saien shuppan)	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b> Rather than spending more time on your preparation, please put more energy into the review.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b> Students who learn this course are expected to be not only good users of clinical practice guidelines but also good developers of clinical practice guideline.  *Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course number		P-PUB01 8K025 LJ90		
Course title (and course title in English)	臨床研究データ管理学（MCR・統計家限定） Data management for Clinical Research	Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Associate Professor, TAKEUCHI MASATO	
Target year	Professional degree students	Number of credits	1	Year/semesters 2020/The first half of second semester
Days and periods	Thu.5	Class style	Lecture	Language of instruction Japanese and English
<b>[Overview and purpose of the course]</b> This course consists of lectures and exercises on methodology of data management for clinical research. Exercises will include determination of data items, designing case report forms, preparation of datasets for statistical analysis, data entry and data check, and handling of outputs from statistical analysis. MCR restricted and elective.				
<b>[Course objectives]</b> To understand methodology of data management for clinical researches through lectures and exercises.				
<b>[Course schedule and contents]</b> October 5 Overview (Tanaka) October 12 Determination of Data Items (Tanaka) October 19 Designing Case Report Form (Tanaka) October 26 Designing Case Report Form (Tanaka) November 2 Data Entry and Data Check (Tanaka) November 9 Preparation of Datasets for Statistical Analysis (Tanaka) November 16 Handling of Output from Statistical Analysis (Tanaka)				
<b>[Course requirements]</b> None				
<b>[Evaluation methods and policy]</b> Attendance 50%, Report 50%				
<b>[Textbooks]</b> Not used				
<b>[References, etc.]</b> <b>(Reference books)</b>				
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b> Please review what you learned before handling data in your research.				
<b>(Other information (office hours, etc.))</b> Laptop PC with Excel is required in the exercise. Contact the director if not available. This course is not open to students in School of Human Health Science.  *Please visit KULASIS to find out about office hours.				

臨床研究特論（MCR限定）(2)				
<b>[Textbooks]</b> Not used				
<b>[References, etc.]</b> <b>(Reference books)</b> 川村 孝『臨床研究の教科書』（医学書院） 川村 孝『エビデンスをつくる：隣りやすい臨床研究のピットフォール』（医学書院）				
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b> 自らの研究に反映し、同僚の研究を支援する				
<b>(Other information (office hours, etc.))</b> *Please visit KULASIS to find out about office hours.				

Continue to 臨床研究特論（MCR限定）(2) ↓↓↓

Course number	P-PUB01 8K016 LB90			
Course title (and course title in English)	系統的レビュー (MCR限定) Systematic Reviews		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Associate Professor,WATANABE NORIO
Target year	Professional degree students	Number of credits	2	Year/semesters 2020/Irregular, year-round
Days and periods	月・2 開講日注記	Class style	Lecture	Language of instruction Japanese and English
<b>[Overview and purpose of the course]</b>				
I. Description of the course This course consists of 10 3-hour sessions over the course of 6 months, in which the participants will learn and finish up a protocol of a systematic review on a topic of his/her own choice.				
II. Methods of Instruction  Each 3-hour session will be divided into the presentation of the protocol and the lecture. After the lecture, the participants are expected to elaborate the protocol accordingly and be ready to present the relevant sections in the next session.				
<b>[Course objectives]</b> ○To complete a protocol of a systematic review in English and in accordance with the Cochrane Handbook. ○Those who wish to complete the review can further collaborate with the course director until (hopefully) it will be published in the Cochrane Library or in a journal.				
<b>[Course schedule and contents]</b> June 29 Introduction July 13 Formulating the clinical question, Objectives and Criteria for considering studies July 27 Search methods September 14 Selection of studies & extracting data October 12 Assessment of risk of bias October 26 Analysis (1) November 9 Analysis (2) December 14 Summary January 4 Presentation (1) January 25 Presentation (2) August 31 Optional extra day				
<b>[Course requirements]</b> This course starts in June, and taking courses in Biostatistics and Epidemiology in April through June is recommended.				
----- Continue to 系統的レビュー (MCR限定) (2) ↓↓↓				

系統的レビュー (MCR限定) (2)
<b>[Evaluation methods and policy]</b> Completed protocol 100% (To get credit 60% in total will be required)
<b>[Textbooks]</b> Higgins JPT, et al.『Cochrane Handbook for Systematic Reviews of Interventions』(Wiley) (Essential because the protocol will follow this Handbook. The latest version has been published since October 2019.) Essential software: Review Manager (RevMan) [Computer program]. Version 5.3. Copenhagen: The Nordic Cochrane Centre, The Cochrane Collaboration, 2014.(Essential because you will need this software to write up a protocol and, eventually, to analyze the data and publish the review)
<b>[References, etc.]</b> (Reference books)
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b> Registration with the Cochrane Collaboration is not easy, but worth trying. Learners may consider publishing the systematic review in journals instead.
<b>(Other information (office hours, etc.))</b> *Please visit KULASIS to find out about office hours.

Course number	P-PUB01 8K033 LJ90			
Course title (and course title in English)	データ解析法特論 (MCR限定) Special Seminar of Data Analysis		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Associate Professor,YAMAMOTO YOUSUKE
Target year	Professional degree students	Number of credits	1	Year/semesters 2020/The second half of first semester
Days and periods	月6	Class style	special lecture	Language of instruction Japanese
<b>[Overview and purpose of the course]</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>この講義では、統計解析ソフトウェアstataを用いて臨床研究のデータ解析を行う。</li> <li>実習の教材として用いる臨床研究データは、臨床研究の実例のデータを可能な限り用いる。</li> <li>学習の習熟度の確認のために、学習課題を課している。</li> <li>開講期間中は講習会コードを提供し、無償でstataの試用が可能である（ただし開講期間終了後も継続して使用を希望する場合には各自購入する必要あり）</li> </ul>				
<b>[Course objectives]</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>統計解析ソフトを用いて基礎的な臨床研究データの解析ができる。</li> <li>解析ソフトの出力結果を正確に解釈することができる。</li> </ul>				
<b>[Course schedule and contents]</b>				
第1回 5月25日統計ソフトの基本的な使い方 第2回 6月1日連続変数の検定と推定 第3回 6月8日カテゴリ変数の検定と推定 第4回 6月15日相関と回帰 第5回 6月22日重回帰分析 第6回 6月29日ロジスティック回帰分析 第7回 7月6日生存時間解析 第8回 7月13日サンプルサイズの推定・その他の解析				
<b>[Course requirements]</b>				
stataを用いて解析する予定のある人の履修をおすすめします。				
<b>[Evaluation methods and policy]</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>講義への積極的な参加 (50%)</li> <li>課題に対するレポート (50%)</li> </ul>				
----- Continue to データ解析法特論 (MCR限定) (2) ↓↓↓				

データ解析法特論 (MCR限定) (2)
<b>[Textbooks]</b> Not used. 基本的な学習資源はプリントにて配布。
<b>[References, etc.]</b> (Reference books) 東 尚弘、中村文明、林野泰明、杉岡 隆、山本洋介『臨床研究のためのstataマニュアル』(健康医療評価研究機構(iHope))
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>予習：不要</li> <li>復習：次回講義までに当該回の復習を行うこと。課題がある場合には次回講義までにレポートを提出すること。</li> </ul>
<b>(Other information (office hours, etc.))</b> 面談希望はまずメールでご連絡下さい。
*Please visit KULASIS to find out about office hours.

Course number		P-PUB01 8N022 SJ90			
Course title (and course title in English)	基礎人類遺伝学演習（GC限定） Fundamental Human Genetics, exercise		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor, KOSUGI SHINJI	
Target year	Professional degree students	Number of credits	1	Year/semesters	2020/Second semester
Days and periods	木 6	Class style	Seminar	Language of instruction	Japanese
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
<p>【基本情報】          授業日時：後期木曜6限（例外予定にご注意ください）          教室：G棟3階演習室          レベル：応用          担当者：小杉真司・和田敬仁・山田崇弘・澤井英明（兵庫医科大学）・川崎秀徳</p> <p>【コースの概要】          遺伝カウンセラーアシスタントとしての基礎知識となる遺伝子・染色体の分析について、演習を通じて体験することにより、具体的に理解することを目的とする。家系図作成、遺伝形式の推定、遺伝的リスクの推定などについて、演習を行うほか、臨床の現場で行われる画像診断、医学的フォローの実践についても学ぶ。</p> <p>【Course objectives】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>家系図作成、遺伝形式推定、再発確率計算を正確に行うことができる</li> <li>遺伝学的検査の方法について具体的に理解し、正確に説明することができる</li> </ul> <p>【Course schedule and contents】</p> <p>【第1回】6月24日曜曜6限＜澤井＞「骨系統疾患とレントゲンエコー検査」胎児の先天異常で頻度の高い骨系統疾患について概説し、その診断のために必要なレントゲン読影の知識を習得する。      【第2回】10月1日＊＜小杉 1＞「研究紹介」      【第3回】10月8日＜山田 1＞「胎児超音波検査」妊娠初期～中期にかけての超音波検査、特に染色体異常と関係するソフトマークについて理解する。妊娠後に施行される超音波検査とその意義について理解する。      【第4回】10月15日＜和田 1＞「家系図作成演習」標準の家系図記載法を学び、遺伝形式および遺伝的リスクの推定する演習。      【第5回】10月29日＜川崎 1＞「診療録からの情報収集・医療情報の収集」診療録からの情報収集のコツを学ぶ、一般的な医療情報の収集に関して整理する。      【第6回】11月5日＜和田 2＞「分子遺伝学的解析を学ぶ」英語文献の症例報告から、分子遺伝学的解析の方法とその解釈を学ぶ。      【第7回】11月12日＜山田 2＞「放射線・環境因子・感染症の胎児への影響」先天異常の原因において5%程度を占める環境因子について理解する。      【第8回】11月26日＜和田 3＞「染色体検査結果の解釈(1)」染色体検査の適応、検査法ならびに核型解析、染色体検査結果の解釈を学ぶ。      【第9回】12月3日＜山田 3＞「流産染色体検査」妊娠初期の流産では半数以上で染色体異常が生じている。流産患者における検査の意義について理解する。      【第10回】12月10日＜和田 4＞「染色体検査結果の解釈(2)」染色体検査以外の細胞遺伝学的検査法</p>					
Continue to 基礎人類遺伝学演習（GC限定）(2) ↓↓↓					

基礎人類遺伝学演習（GC限定）(2)
（特にCGHアレイ）を学ぶ。 【第1回】12月17日＜山田 4＞「羊水染色体検査」羊水染色体検査の実施方法を理解し、その検査に当たっての適切な説明について検討する。 【第12回】12月24日＜山田 5＞「バリエントの評価」検出されたバリエントの評価を行い、その解釈を学ぶ。 【第13回】1月7日＜和田 5＞「バリエントの評価」遺伝性疾患が疑われる症例の診断方法とその結果を検討する。 【第14回】1月21日＜小杉 3＞「個人面談」 【第15回】1月28日＜川崎 2＞「診療録・医療文書の書き方」医学情報を書く際のコツを学ぶ。 *開始時間遅延の可能性あり
<b>[Course requirements]</b> 遺伝カウンセラーコース1回生限定必修科目（事前確定科目）
<b>[Evaluation methods and policy]</b> 積極的な演習への参加、レポート、発表、出席等を総合的に評価する
<b>[Textbooks]</b> ハンドアウトを配布
<b>[References, etc.]</b> (Reference books)
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b> 適宜指示する
<b>(Other information (office hours, etc.))</b> 講義日程、講師、内容については、多少の変更があります
*Please visit KULASIS to find out about office hours.

Course number		P-PUB01 8N006 SJ90			
Course title (and course title in English)	臨床遺伝学演習（GC限定） Clinical Genetics, Exercise		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor, KOSUGI SHINJI	
Target year	Professional degree students	Number of credits	1	Year/semesters	2020/Second semester
Days and periods	木5・6: 開講日注記	Class style	Seminar	Language of instruction	Japanese
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
<p>【基本情報】別称：「遺伝カウンセリングロールプレイ演習」          授業日時：後期水曜5/6限（隔週は原則とする。例外予定にご注意ください）          教室：G棟3階演習室、レベル：応用          担当者：小杉真司・和田敬仁・山田崇弘・澤井英明（兵庫医科大学）・川崎秀徳・村上裕美・鳥嶋雅子（遺伝子診療専門医認定遺伝カウンセラー）・秋山奈々・本田明夏・福葉慧・松川愛未・吉田晶子・岡田千穂・佐藤智佳          SC：模擬患者ボランティア（SPH院生など）          【コースの概要】演習開始1日前には、オリエンテーションを行い、クライアントの人数・性別を決めるが、その後の変更是しない。          最初の1ケルはクライアントは可能であれば1人とする（設定が複雑にならないようにするため）（ただし、ダウノン症などは夫婦が原則であり1人クライアント設定は不適切）          クライアント役をSPH院生に呼びかけてリクルートする（性別は役と一致させる）。一部をGC院生が担当するか未定          遺伝カウンセリング担当者が類似疾患にかぶらないようにする（家族性腫瘍、神経筋疾患、周産期関連）、メンター役のクライアント調整役のほう（遺伝カウンセリング担当者担当メンターよりも）が寄与度が高いので、優先して決める（一人に偏らないように）          基本シナリオは担当教員が最低2週間に関係者全員に通知する（ロールプレイのねらいを必ず明示すること）。2画面を設定する。実際の遺伝カウンセリングは、臨床遺伝専門医と認定遺伝カウンセラーや役割分担しながら、チーム医療として行うが、ロールプレイの特性として一人で実施する必要があるため、遺伝学的検査の結果開示など、臨床遺伝専門医が実際には主に行っていることについても、「遺伝カウンセリング担当者」としてロールプレイでは行う。これは遺伝カウンセラーとして貴重な経験になるだけでなく、臨床遺伝専門医の立場を理解するのに役立つ。また、頻度の高い疾患については認定遺伝カウンセラーとして十分な知識を有しておくことは、クライアントから再度質問された場合などにも対応できる力となる。          1週間前まで（期限厳守）にクライアント調整役の院生は、GCメンター及び担当教員と相談の上で基本シナリオから詳細設定をし、クライアント役とメール等で打合せしておく。          検討過程で基本シナリオに変更がある場合は、関係者全員に事前に必ずしらせる。          詳細シナリオは家系図を入れて4ページ以内とする。          遺伝カウンセリング担当者・担当メンター・担当教員での事前打合せも実施する          当日、16:30-17:00にクライアント役、担当教員、クライアント調整役院生が副室で内容確認を行う。          当日、16:30-17:00に遺伝カウンセリング担当者の院生が教員や上級生、GCメンターと疾患説明の確認、遺伝カウンセリング場所の整備などを行う。          17:00-從前行っていた皆の前の前の疾患説明は行わないが、遺伝カウンセリングで使用する資料は配布資料とすること。クライアント調整役が基本シナリオ設定等の説明を手短に行う。          17:00-19:15の予定でロールプレイを2場面行う。（例：場面1(55分)+フィードバック(15分)+休憩(15分)+場面2(30分)+フィードバック(15分)=130分）</p>					
Continue to 臨床遺伝学演習（GC限定）(2) ↓↓↓					

臨床遺伝学演習（GC限定）(2)
・フィードバックは、遺伝カウンセリング担当者、クライアント役、M1オブザーバー、その他のオブザーバー、教員の順に行う。できるだけ全員に意見を求める場面1と2いずれかで全員に発言してもらう。重複コメントはあえて避ける必要ない。その際の進め方は、統一せず、指導教員の方針に従う。フィードバック方法の多様性も重要である • 19:15-19:30でフィードバック役、GCメンター、での情報交換 • 19:30-19:45授業終了後、メンターと院生M1全員、担当教員でのフィードバック
<b>[Course objectives]</b> 遺伝カウンセラーアシスタントとしての実践的な技術を身に付け、現場での実践的な対応能力を獲得する。臨床遺伝学の知識と遺伝カウンセリングの基本的技術を習得する。
<b>[Course schedule and contents]</b> 【第0回】8月26日限＜全員＞「ロールプレイの行い方とオリエンテーション、遺伝カウンセリング実習」ロールプレイの目的、方法と意義について。遺伝カウンセリング実習についてのオリエンテーション
【第1/2回】9月23日＜小杉＞「Lynch症候群」家系内に40～50歳代で大腸癌で死亡した複数の人があり、遺伝性の可能性を心配。遺伝学的検査の説明と実施、遺伝子変異があった場合の対応。 【第3/4回】10月7日＜和田＞「Duchenne型筋ジストロフィー」小児のDMDの診断法の理解と、X連鎖性疾患における母親あるいは女性同胞の保因者診断の進め方を学ぶ。 【第5/6回】10月21日＜山田＞「ターナー症候群」思春期をすぎても無月经で来院して、性染色体検査でターナー症候群と診断されたケースに診断の告知、疾患の説明、今後必要な治療について対応する。 【第7/8回】11月4日＜和田＞「強直性筋ジストロフィー」トリプレットリピート病であるDMにおける先天型と古典型の理解と発症前診断の進め方を学ぶ。 【第9/10回】11月25日＜山田＞「遺伝性乳がん・卵巣がん」乳がん患者が多数いる家系での遺伝性乳がんのリスクの評価および遺伝学的検査の適応。 【第11/12回】12月9日＜和田＞「トランソンサレーティン型家族性アミロイドニューロパシー」治療法のあるFAPにおける遺伝子診断の意義と発症前診断の進め方を学ぶ。 【第13/14回】12月23日＜澤井＞「習慣流産」妊娠初期に3回続けて流産したケースについて、流産の原因や次回妊娠での対応。必要であれば遺伝学的検査その他の検査についても対応する。着床前診断についても聞かれたので対応が必要となった。 【第15/16回】1月20日＜山田＞「ダウノン症候群」ダウノン症候群の出生前診断にかかる遺伝カウンセリングについて、ダウノン症の症状と将来の療育、発症の仕組みと次回妊娠での再発率等も含めて対応する。 • 参加者：担当者、関係全教員、遺伝カウンセラーアシスタント院生(M1)、クライアント調整役(M1)、オブザーバー(M1、M2、博士院生)、GCメンター • 記録：クライアント調整役（終了後参加教員へレポートを提出）、オブザーバー担当（ビデオ撮影およびファイルをサーバーに保存：復習用）
<b>[Course requirements]</b> 遺伝カウンセラーコース1回生限定必修科目（事前確定科目）
Continue to 臨床遺伝学演習（GC限定）(3) ↓↓↓

臨床遺伝学演習（GC限定）(3)
<b>[Evaluation methods and policy]</b> 演習における積極性、実践的能力、出席、レポート等を総合的に評価する
<b>[Textbooks]</b> Not used
<b>[References, etc.]</b> (Reference books)
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b> 適宜指示する
<b>(Other information (office hours, etc.))</b> *Please visit KULASIS to find out about office hours.

Course number	P-PUB01 8N020 LJ90		
Course title (and course title in English)	遺伝カウンセラーコミュニケーション概論 (GC限定) Communication for Genetic Counselors	Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor, KOSUGI SHINJI
Target year	Professional degree students	Number of credits	3
Days and periods	木1：開講日注意	Class style	lecture and seminar
Language of instruction			
<b>[Overview and purpose of the course]</b> 【基本情報】授業日時：前期木曜1限を毎週実施、後期木曜1限を隔週実施を原則とする（例外予定にご注意ください）。 教室：G棟3階演習室　レベル：基礎 担当者：小杉真司・村上裕美・鳥嶋雅子・秋山奈々・本田明夏・稻葉慧・松川愛未・吉田晶子・勝元さえこ・岡田千穂・佐藤智佳 【コースの概要】本講義では、コミュニケーションという観点から、遺伝カウンセリングの重要なテーマについて、院生自身が主体となってディスカッションを行い、互いの学びを共有していく。 遺伝カウンセラーとして、クライエント・家族の支援のためのコミュニケーションは勿論のこと、チーム医療のメンバーとして、異なった専門性を持つチームメンバーとのコミュニケーションのあり方についても学ぶ。また、本講義は、「遺伝カウンセリングロールプレイング演習」『遺伝カウンセリング実習・演習・実習を通して遺伝カウンセリング、そして遺伝カウンセラーについて学びを深めることを総合的な目標として掲げている。演習については、授業の進行状況に応じて、ロールプレイ・試行カウンセリング、ビデオ学習など様々な方法を用いる予定である。 【教育・学習方法】・テキストを予習し、レポート提出 ・講義内でのディスカッションおよび演習 ・時間外に以下の学習も併せて行う。 ビデオ学習「グロリアと3人のセラピスト」/医学部「遺伝医学」授業/試行カウンセリング実施および記録方法学習/遺伝カウンセリングと日本人のコミュニケーション発表会/遺伝カウンセリングロールプレイ振り返り/病院実習振り返り			
みなさまの積極的な参加を希望します。授業内容に関する質問も随時歓迎です。メールで問い合わせてください。			
<b>[Course objectives]</b> 1. 遺伝カウンセラーとして、クライエント・家族をどのように支援していくのか最低限必要と考えられる知識及び態度を身につける。 2. 医療チームのメンバーとしてどのような動きをすることが望ましいか最低限必要な知識及び態度を身につける。			
<b>[Course schedule and contents]</b> <前期> 【第1回】 5/7 【第2回】 5/14 【第3回】 5/21 【第4回】 5/28 【第5回】 6/4 【第6回】 6/11 【第7回】 6/25 【第8回】 7/2 【第9回】 7/9 【第10回】 7/16 「イントロ・基本的な考え方」遺伝カウンセラーのコミュニケーション：はじめに（自己紹介・授業・宿題について）p16-25, 基本的な考え方 p26-35 「内側（内的照合枠）からの理解」遺伝カウンセリングの基本的態度と内側（内的照合枠）からの理解:自分のコミュニケーションの特徴を知る 「共感的理解」理解を理解する 「ラボール形成・遺伝カウンセリングの流れ及び信頼関係（ラボール）の形成 「フォローアップ」遺伝カウンセリングの終了とフォローアップ、電話受付の留意点 「情報提供」遺伝カウンセリングにおける情報提供 「意思決定」遺伝カウンセリングにおける意思決定 「ノンバーバルコミュニケーション」ノンバーバルコミュニケーションの重要性、日本人のコミュニケーション 「倫理」遺伝カウンセリングにおける倫理 「Genomic Counseling」Genomic Counselorの役割・Genomic Counselingにおけるコミュニケーション 「臨床遺伝専門医とのコミュニケーション」臨床遺伝専門医とともに実施する遺伝カウンセリング 「出生前検査・遺伝カウンセリング室立ち上げ」出生前検査に伴う遺伝カウンセリング、遺伝カウンセリング室を作ろう！ 「障害」障害と社会の理解 「医療ソーシャルワーカーから学ぶ」医療ソーシャルワーカーの事例から学ぶ～クライエント支援のためのコミュニケーション～ <後期> 【第15回】 9/24 【第16回】 10/8 【第17回】 10/22 【第18回】 11/5 【第19回】 11/26 【第20回】 12/10 【第21回】 12/24 【第22回】 1/21 「日本人のコミュニケーション」日本人のコミュニケーションと遺伝カウンセリング 「家族面接」家族面接における遺伝カウンセラーの役割 「ライフステージ・メンタルヘルス・防衛機制の基本的考え方」ライフステージとメンタルヘルス、遺伝カウンセリングと防衛機制 「親から子に「遺伝」について伝える」親から子に「遺伝」について伝える 「発症前診断」進行性で治療法のない遺伝性疾患に関する発症前検査を希望して来談した人との遺伝カウンセリング 「視覚障害・当事者団体と関係機関との連携」視覚障害（網膜色素変性症）の遺伝カウンセリング Continue to 遺伝カウンセラーコミュニケーション概論 (GC限定) (3) ↓↓↓			

遺伝カウンセラーコミュニケーション概論 (GC限定) (2)
<b>[Evaluation methods and policy]</b> 「第1回」 5/7 「第2回」 5/14 「第3回」 5/21 「第4回」 5/28 「第5回」 6/4 「第6回」 6/11 「第7回」 6/25 「第8回」 7/2 「第9回」 7/9 「第10回」 7/16 「イントロ・基本的な考え方」遺伝カウンセラーのコミュニケーション：はじめに（自己紹介・授業・宿題について）p16-25, 基本的な考え方 p26-35 「内側（内的照合枠）からの理解」遺伝カウンセリングの基本的態度と内側（内的照合枠）からの理解:自分のコミュニケーションの特徴を知る 「共感的理解」理解を理解する 「ラボール形成・遺伝カウンセリングの流れ及び信頼関係（ラボール）の形成 「フォローアップ」遺伝カウンセリングの終了とフォローアップ、電話受付の留意点 「情報提供」遺伝カウンセリングにおける情報提供 「意思決定」遺伝カウンセリングにおける意思決定 「ノンバーバルコミュニケーション」ノンバーバルコミュニケーションの重要性、日本人のコミュニケーション 「倫理」遺伝カウンセリングにおける倫理 「Genomic Counseling」Genomic Counselorの役割・Genomic Counselingにおけるコミュニケーション 「臨床遺伝専門医とのコミュニケーション」臨床遺伝専門医とともに実施する遺伝カウンセリング 「出生前検査・遺伝カウンセリング室立ち上げ」出生前検査に伴う遺伝カウンセリング、遺伝カウンセリング室を作ろう！ 「障害」障害と社会の理解 「医療ソーシャルワーカーから学ぶ」医療ソーシャルワーカーの事例から学ぶ～クライエント支援のためのコミュニケーション～ <後期> 【第15回】 9/24 【第16回】 10/8 【第17回】 10/22 【第18回】 11/5 【第19回】 11/26 【第20回】 12/10 【第21回】 12/24 【第22回】 1/21 「日本人のコミュニケーション」日本人のコミュニケーションと遺伝カウンセリング 「家族面接」家族面接における遺伝カウンセラーの役割 「ライフステージ・メンタルヘルス・防衛機制の基本的考え方」ライフステージとメンタルヘルス、遺伝カウンセリングと防衛機制 「親から子に「遺伝」について伝える」親から子に「遺伝」について伝える 「発症前診断」進行性で治療法のない遺伝性疾患に関する発症前検査を希望して来談した人との遺伝カウンセリング 「視覚障害・当事者団体と関係機関との連携」視覚障害（網膜色素変性症）の遺伝カウンセリング Continue to 遺伝カウンセラーコミュニケーション概論 (GC限定) (3) ↓↓↓

遺伝カウンセラーコミュニケーション概論 (GC限定) (3)
／当事者団体と関係機関との連携 「喪失体験」喪失体験の理解 「病とともに生きる・まとめ」遺伝性の病とともに生きる、評価とまとめ
<b>[Course requirements]</b> 遺伝カウンセラーコース 1回生限定必修科目（事前確定科目）
<b>[Evaluation methods and policy]</b> 前期・後期あわせて終了時に評価する。学習目標の到達度50%,レポート40%,プレゼンテーション10%
<b>[Textbooks]</b> ・遺伝カウンセリングのためのコミュニケーション論-京都大学大学院医学研究科遺伝カウンセラーコース講義（メディカルドゥ） 978-4944157662 ・自分を見つめるカウンセリング・マインド ヘルスケア・ワークの基本と展開（医歯薬出版） ISBN: 978-4-263-2432-5 ・カウンセリングを学ぶ（東京大学出版会） 理論・体験・実習 第2版ISBN: 978-4-13-012045-6 ・ヘルス・コミュニケーション(九州大学出版社) 改訂版 ISBN: 978-4798500164
<b>[References, etc.]</b> (Reference books)
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b> 適宜予習復習を求める
<b>(Other information (office hours, etc.))</b> *Please visit KULASIS to find out about office hours.

Course number		P-PUB01 8N007 SJ90				
Course title (and course title in English)	遺伝カウンセリング演習1 (GC限定) Genetic Counselling, Exercise 1		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor,KOSUGI SHINJI		
Target year	Professional degree students	Number of credits	2	Year/seminesters	2020/Irregular, year-round	
Days and periods	・4週：金5・6	Class style	Seminar	Language of instruction	Japanese	
<b>[Overview and purpose of the course]</b>						
【基本情報】授業日時：金曜（原則第2、第4）5・6限、教室：G棟セミナー室A レベル：遺伝カウンセリング演習1（基礎）・遺伝カウンセリング演習2（応用） 担当者：小杉真司・和田敬仁・山田崇弘・川崎秀徳・玉置知子・村上裕美・島嶋雅子・田村和朗・巽純子・西郷和真・レクチャーダンボウ担当者 【コースの概要】実際の遺伝カウンセリング症例を提示し、遺伝的問題、医学的問題、療養問題、社会的問題、法的問題、倫理的問題、心理的問題等について、他のカンファレンス参加者とともに徹底的な討論を行う。1年次後期からは、実際の遺伝カウンセリング実習で体験した症例について自ら提示を行い、カンファレンスを中心に運営する。これは、京都大学と近畿大学の遺伝カウンセラーコースのカリキュラムの中で最も重要なものであり、両大学の院生が積極的に参加するものである。実習期の院生（2回生4月～10月ごろ、1回生11月ごろ～年度末、移行期は各コースの実情による）は、原則として毎回症例提示を行うこと。16:30-18:30ごろ：合同カンファレンス症例提示・検討会（1回4例～6例となるように調整し、進行は司会がタイムキーピングを行う）。18:30ごろより50分程度：京大・近大遺伝カウンセラーコースの修了者による遺伝カウンセラーとしての活動などに関するプレゼン、あるいは合同カンファレンス出席者・招聘演者等によるレクチャー 【教育・学習方法】症例提示・討論、カンファレンス記録の作成（症例ごとに順番で担当）						
<b>[Course objectives]</b>						
症例の適切なプレゼンテーション、種々の問題点の整理と今後の対応方針の決定、討論への参加と論理的な主張、適切なカンファレンス記録の作成ができる。						
<b>[Course schedule and contents]</b>						
<司会>カンファレンスレクチャーダンボウ担当者 【第1回】 4月17日<小杉>小杉真司「合同カンファレンスのイントロダクション」 【第2回】 5月1日<和田>才津浩智「次世代シーケンスデータ解析」○ 【第3回】 5月15日<和田>和田「エビデンスの破綻により発症する先天性疾患と治療法の開発」 【第4回】 5月29日<西郷>濱野裕太「和歌山医大遺伝診療部における認定遺伝カウンセラーの役割」 【第5回】 6月12日<村上>張香理「ゲノム医療（難病領域）における認定遺伝カウンセラーの役割」○ 【第6回】 6月26日<山田>田原康玄「地域住民コホートにおけるゲノム・疫学研究の潮流と展望」 【第7回】 7月10日<山田>久具宏司「」○ 【第8回】 7月25日<山田>松本光史(兵庫県立がんセンター部長)「遺伝性腫瘍in2020: がん薬物療法専門家と臨床遺伝専門家が協働して生む力」						
Continue to 遺伝カウンセリング演習1 (GC限定) (2) ↓↓↓						

遺伝カウンセリング演習1 (GC限定) (2)						
【第9回】 7月9日<島嶋>中川奈保子「京大病院におけるIRUD未診断疾患解析研究の取り組み」 【第10回】 10月23日<川崎>岡本新悟「男子性腺機能低下症の診断と治療—カルマン症候群とクラインフェルター症候群を中心とした一」○ 【第11回】 11月13日<和田>斎藤伸治「小児神経疾患の遺伝学とエビジェネティクス」○ 【第12回】 12月4日<巽>丹羽由衣「神戸大学医学部附属病院におけるCGCとしての活動」 【第13回】 12月25日<本田>本田明夏「」 【第14回】 1月8日<小杉>新年懇談会○ 【第15回】 1月29日<山田>福鶴伸之(近畿理工大)「細胞内情報伝達とその破綻」 【第16回】 2月26日<和田>吉澤伸也「」 【第17回】 3月12日<西郷>島嶋雅子「」 【第18回】 3月26日<山田>田原康玄「」 【第19回】 4月9日<島嶋>中川奈保子「」 【第20回】 4月23日<川崎>岡本新悟「」 【第21回】 5月13日<和田>斎藤伸治「」 【第22回】 5月27日<巽>丹羽由衣「」 【第23回】 6月10日<本田>本田明夏「」 【第24回】 6月24日<小杉>新年懇談会○ 【第25回】 7月8日<山田>福鶴伸之(近畿理工大)「細胞内情報伝達とその破綻」 【第26回】 7月26日<和田>吉澤伸也「」 【第27回】 8月9日<西郷>島嶋雅子「」 【第28回】 8月23日<山田>田原康玄「」 【第29回】 9月6日<島嶋>中川奈保子「」 【第30回】 9月20日<川崎>岡本新悟「」 【第31回】 10月14日<和田>斎藤伸治「」 【第32回】 10月28日<巽>丹羽由衣「」 【第33回】 11月11日<本田>本田明夏「」 【第34回】 11月25日<小杉>新年懇談会○ 【第35回】 12月9日<山田>福鶴伸之(近畿理工大)「細胞内情報伝達とその破綻」 【第36回】 12月23日<和田>吉澤伸也「」 【第37回】 1月6日<西郷>島嶋雅子「」 【第38回】 1月20日<山田>田原康玄「」 【第39回】 1月27日<島嶋>中川奈保子「」 【第40回】 2月10日<川崎>岡本新悟「」 【第41回】 2月24日<和田>斎藤伸治「」 【第42回】 3月3日<巽>丹羽由衣「」 【第43回】 3月17日<本田>本田明夏「」 【第44回】 3月31日<小杉>新年懇談会○ 【第45回】 4月14日<山田>福鶴伸之(近畿理工大)「細胞内情報伝達とその破綻」 【第46回】 4月28日<和田>吉澤伸也「」 【第47回】 5月11日<西郷>島嶋雅子「」 【第48回】 5月25日<山田>田原康玄「」 【第49回】 6月8日<島嶋>中川奈保子「」 【第50回】 6月22日<川崎>岡本新悟「」 【第51回】 7月6日<和田>斎藤伸治「」 【第52回】 7月20日<巽>丹羽由衣「」 【第53回】 8月3日<本田>本田明夏「」 【第54回】 8月17日<小杉>新年懇談会○ 【第55回】 8月31日<山田>福鶴伸之(近畿理工大)「細胞内情報伝達とその破綻」 【第56回】 9月14日<和田>吉澤伸也「」 【第57回】 9月28日<西郷>島嶋雅子「」 【第58回】 10月12日<山田>田原康玄「」 【第59回】 10月26日<島嶋>中川奈保子「」 【第60回】 11月9日<川崎>岡本新悟「」 【第61回】 11月23日<和田>斎藤伸治「」 【第62回】 12月7日<巽>丹羽由衣「」 【第63回】 12月21日<本田>本田明夏「」 【第64回】 1月4日<小杉>新年懇談会○ 【第65回】 1月18日<山田>福鶴伸之(近畿理工大)「細胞内情報伝達とその破綻」 【第66回】 1月22日<和田>吉澤伸也「」 【第67回】 1月25日<西郷>島嶋雅子「」 【第68回】 1月29日<山田>田原康玄「」 【第69回】 1月31日<島嶋>中川奈保子「」 【第70回】 2月14日<川崎>岡本新悟「」 【第71回】 2月28日<和田>斎藤伸治「」 【第72回】 3月10日<巽>丹羽由衣「」 【第73回】 3月24日<本田>本田明夏「」 【第74回】 3月27日<小杉>新年懇談会○ 【第75回】 4月10日<山田>福鶴伸之(近畿理工大)「細胞内情報伝達とその破綻」 【第76回】 4月24日<和田>吉澤伸也「」 【第77回】 4月27日<西郷>島嶋雅子「」 【第78回】 4月30日<山田>田原康玄「」 【第79回】 5月13日<島嶋>中川奈保子「」 【第80回】 5月27日<川崎>岡本新悟「」 【第81回】 6月10日<和田>斎藤伸治「」 【第82回】 6月24日<巽>丹羽由衣「」 【第83回】 7月8日<本田>本田明夏「」 【第84回】 7月22日<小杉>新年懇談会○ 【第85回】 7月26日<山田>福鶴伸之(近畿理工大)「細胞内情報伝達とその破綻」 【第86回】 8月9日<和田>吉澤伸也「」 【第87回】 8月23日<西郷>島嶋雅子「」 【第88回】 8月27日<山田>田原康玄「」 【第89回】 8月30日<島嶋>中川奈保子「」 【第90回】 9月13日<川崎>岡本新悟「」 【第91回】 9月27日<和田>斎藤伸治「」 【第92回】 10月11日<巽>丹羽由衣「」 【第93回】 10月25日<本田>本田明夏「」 【第94回】 11月8日<小杉>新年懇談会○ 【第95回】 11月22日<山田>福鶴伸之(近畿理工大)「細胞内情報伝達とその破綻」 【第96回】 11月26日<和田>吉澤伸也「」 【第97回】 11月29日<西郷>島嶋雅子「」 【第98回】 11月30日<山田>田原康玄「」 【第99回】 12月3日<島嶋>中川奈保子「」 【第100回】 12月17日<川崎>岡本新悟「」 【第101回】 1月3日<和田>斎藤伸治「」 【第102回】 1月17日<巽>丹羽由衣「」 【第103回】 1月21日<本田>本田明夏「」 【第104回】 1月24日<小杉>新年懇談会○ 【第105回】 1月28日<山田>福鶴伸之(近畿理工大)「細胞内情報伝達とその破綻」 【第106回】 1月31日<和田>吉澤伸也「」 【第107回】 2月14日<西郷>島嶋雅子「」 【第108回】 2月18日<山田>田原康玄「」 【第109回】 2月21日<島嶋>中川奈保子「」 【第110回】 2月25日<川崎>岡本新悟「」 【第111回】 3月3日<和田>斎藤伸治「」 【第112回】 3月7日<巽>丹羽由衣「」 【第113回】 3月10日<本田>本田明夏「」 【第114回】 3月13日<小杉>新年懇談会○ 【第115回】 3月17日<山田>福鶴伸之(近畿理工大)「細胞内情報伝達とその破綻」 【第116回】 3月21日<和田>吉澤伸也「」 【第117回】 3月24日<西郷>島嶋雅子「」 【第118回】 3月28日<山田>田原康玄「」 【第119回】 3月31日<島嶋>中川奈保子「」 【第120回】 4月4日<川崎>岡本新悟「」 【第121回】 4月8日<和田>斎藤伸治「」 【第122回】 4月11日<巽>丹羽由衣「」 【第123回】 4月15日<本田>本田明夏「」 【第124回】 4月18日<小杉>新年懇談会○ 【第125回】 4月22日<山田>福鶴伸之(近畿理工大)「細胞内情報伝達とその破綻」 【第126回】 4月26日<和田>吉澤伸也「」 【第127回】 4月29日<西郷>島嶋雅子「」 【第128回】 4月30日<山田>田原康玄「」 【第129回】 5月3日<島嶋>中川奈保子「」 【第130回】 5月7日<川崎>岡本新悟「」 【第131回】 5月11日<和田>斎藤伸治「」 【第132回】 5月14日<巽>丹羽由衣「」 【第133回】 5月18日<本田>本田明夏「」 【第134回】 5月21日<小杉>新年懇談会○ 【第135回】 5月25日<山田>福鶴伸之(近畿理工大)「細胞内情報伝達とその破綻」 【第136回】 5月29日<和田>吉澤伸也「」 【第137回】 5月30日<西郷>島嶋雅子「」 【第138回】 5月31日<山田>田原康玄「」 【第139回】 6月3日<島嶋>中川奈保子「」 【第140回】 6月7日<川崎>岡本新悟「」 【第141回】 6月11日<和田>斎藤伸治「」 【第142回】 6月14日<巽>丹羽由衣「」 【第143回】 6月18日<本田>本田明夏「」 【第144回】 6月21日<小杉>新年懇談会○ 【第145回】 6月25日<山田>福鶴伸之(近畿理工大)「細胞内情報伝達とその破綻」 【第146回】 6月29日<和田>吉澤伸也「」 【第147回】 6月30日<西郷>島嶋雅子「」 【第148回】 6月31日<山田>田原康玄「」 【第149回】 7月4日<島嶋>中川奈保子「」 【第150回】 7月8日<川崎>岡本新悟「」 【第151回】 7月12日<和田>斎藤伸治「」 【第152回】 7月15日<巽>丹羽由衣「」 【第153回】 7月19日<本田>本田明夏「」 【第154回】 7月22日<小杉>新年懇談会○ 【第155回】 7月26日<山田>福鶴伸之(近畿理工大)「細胞内情報伝達とその破綻」 【第156回】 7月30日<和田>吉澤伸也「」 【第157回】 7月31日<西郷>島嶋雅子「」 【第158回】 7月32日<山田>田原康玄「」 【第159回】 7月35日<島嶋>中川奈保子「」 【第160回】 7月39日<川崎>岡本新悟「」 【第161回】 8月2日<和田>斎藤伸治「」 【第162回】 8月5日<巽>丹羽由衣「」 【第163回】 8月9日<本田>本田明夏「」 【第164回】 8月12日<小杉>新年懇談会○ 【第165回】 8月16日<山田>福鶴伸之(近畿理工大)「細胞内情報伝達とその破綻」 【第166回】 8月20日<和田>吉澤伸也「」 【第167回】 8月23日<西郷>島嶋雅子「」 【第168回】 8月27日<山田>田原康玄「」 【第169回】 8月30日<島嶋>中川奈保子「」 【第170回】 8月34日<川崎>岡本新悟「」 【第171回】 8月38日<和田>斎藤伸治「」 【第172回】 8月41日<巽>丹羽由衣「」 【第173回】 8月45日<本田>本田明夏「」 【第174回】 8月48日<小杉>新年懇談会○ 【第175回】 8月52日<山田>福鶴伸之(近畿理工大)「細胞内情報伝達とその破綻」 【第176回】 8月56日<和田>吉澤伸也「」 【第177回】 8月59日<西郷>島嶋雅子「」 【第178回】 8月63日<山田>田原康玄「」 【第179回】 8月66日<島嶋>中川奈保子「」 【第180回】 8月70日<川崎>岡本新悟「」 【第181回】 8月74日<和田>斎藤伸治「」 【第182回】 8月77日<巽>丹羽由衣「」 【第183回】 8月81日<本田>本田明夏「」 【第184回】 8月84日<小杉>新年懇談会○ 【第185回】 8月88日<山田>福鶴伸之(近畿理工大)「細胞内情報伝達とその破綻」 【第186回】 8月92日<和田>吉澤伸也「」 【第187回】 8月95日<西郷>島嶋雅子「」 【第188回】 8月99日<山田>田原康玄「」 【第189回】 8月102日<島嶋>中川奈保子「」 【第190回】 8月106日<川崎>岡本新悟「」 【第191回】 8月110日<和田>斎藤伸治「」 【第192回】 8月113日<巽>丹羽由衣「」 【第193回】 8月117日<本田>本田明夏「」 【第194回】 8月120日<小杉>新年懇談会○ 【第195回】 8月124日<山田>福鶴伸之(近畿理工大)「細胞内情報伝達とその破綻」 【第196回】 8月128日<和田>吉澤伸也「」 【第197回】 8月131日<西郷>島嶋雅子「」 【第198回】 8月135日<山田>田原康玄「」 【第199回】 8月138日<島嶋>中川奈保子「」 【第200回】 8月142日<川崎>岡本新悟「」 【第201回】 8月146日<和田>斎藤伸治「」 【第202回】 8月149日<巽>丹羽由衣「」 【第203回】 8月153日<本田>本田明夏「」 【第204回】 8月156日<小杉>新年懇談会○ 【第205回】 8月160日<山田>福鶴伸之(近畿理工大)「細胞内情報伝達とその破綻」 【第206回】 8月164日<和田>吉澤伸也「」 【第207回】 8月167日<西郷>島嶋雅子「」 【第208回】 8月171日<山田>田原康玄「」 【第209回】 8月174日<島嶋>中川奈保子「」 【第210回】 8月178日<川崎>岡本新悟「」 【第211回】 8月182日<和田>斎藤伸治「」 【第212回】 8月185日<巽>丹羽由衣「」 【第213回】 8月189日<本田>本田明夏「」 【第214回】 8月192日<小杉>新年懇談会○ 【第215回】 8月196日<山田>福鶴伸之(近畿理工大)「細胞内情報伝達とその破綻」 【第216回】 8月200日<和田>吉澤伸也「」 【第217回】 8月203日<西郷>島嶋雅子「」 【第218回】 8月207日<山田>田原康玄「」 【第219回】 8月210日<島嶋>中川奈保子「」 【第220回】 8月214日<川崎>岡本新悟「」 【第221回】 8月218日<和田>斎藤伸治「」 【第222回】 8月221日<巽>丹羽由衣「」 【第223回】 8月225日<本田>本田明夏「」 【第224回】 8月228日<小杉>新年懇談会○ 【第225回】 8月232日<山田>福鶴伸之(近畿理工大)「細胞内情報伝達とその破綻」 【第226回】 8月236日<和田>吉澤伸也「」 【第227回】 8月239日<西郷>島嶋雅子「」 【第228回】 8月243日<山田>田原康玄「」 【第229回】 8月246日<島嶋>中川奈保子「」 【第230回】 8月250日<川崎>岡本新悟「」 【第231回】 8月254日<和田>斎藤伸治「」 【第232回】 8月257日<巽>丹羽由衣「」 【第233回】 8月261日<本田>本田明夏「」 【第234回】 8月264日<小杉>新年懇談会○ 【第235回】 8月268日<山田>福鶴伸之(近畿理工大)「細胞内情報伝達とその破綻」 【第236回】 8月272日<和田>吉澤伸也「」 【第237回】 8月275日<西郷>島嶋雅子「」 【第238回】 8月279日<山田>田原康玄「」 【第239回】 8月282日<島嶋>中川奈保子「」 【第240回】 8月286日<川崎>岡本新悟「」 【第241回】 8月290日<和田>斎藤伸治「」 【第242回】 8月293日<巽>丹羽由衣「」 【第243回】 8月297日<本田>本田明夏「」 【第244回】 8月300日<小杉>新年懇談会○ 【第245回】 8月304日<山田>福鶴伸之(近畿理工大)「細胞内情報伝達とその破綻」 【第246回】 8月308日<和田>吉澤伸也「」 【第247回】 8月311日<西郷>島嶋雅子「」 【第248回】 8月315日<山田>田原康玄「」 【第249回】 8月318日<島嶋>中川奈保子「」 【第250回】 8月322日<川崎>岡本新悟「」 【第251回】 8月326日<和田>斎藤伸治「」 【第252回】 8月329日<巽>丹羽由衣「」 【第253回】 8月333日<本田>本田明夏「」 【第254回】 8月336日<小杉>新年懇談会○ 【第255回】 8月340日<山田>福鶴伸之(近畿理工大)「細胞内情報伝達とその破綻」 【第256回】 8月344日<和田>吉澤伸也「」 【第257回】 8月347日<西郷>島嶋雅子「」 【第258回】 8月351日<山田>田原康玄「」 【第259回】 8月354日<島嶋>中川奈保子「」 【第260回】 8月358日<川崎>岡本新悟「」 【第261回】 8月362日<和田>斎藤伸治「」 【第262回】 8月365日<巽>丹羽由衣「」 【第263回】 8月369日<本田>本田明夏「」 【第264回】 8月372日<小杉>新年懇談会○ 【第265回】 8月376日<山田>福鶴伸之(近畿理工大)「細胞内情報伝達とその破綻」 【第266回】 8月380日<和田>吉澤伸也「」 【第267回】 8月383日<西郷>島嶋雅子「」 【第268回】 8月387日<山田>田原康玄「」 【第269回】 8月390日<島嶋>中川奈保子「」 【第270回】 8月394日<川崎>岡本新悟「」 【第271回】 8月398日<和田>斎藤伸治「」 【第272回】 8月401日<巽>丹羽由衣「」 【第273回】 8月405日<本田>本田明夏「」 【第274回】 8月408日<小杉>新年懇談会○ 【第275回】 8月412日<山田>福鶴伸之(近畿理工大)「細胞内情報伝達とその破綻」 【第276回】 8月416日<和田>吉澤伸也「」 【第277回】 8月419日<西郷>島嶋雅子「」 【第278回】 8月423日<山田>田原康玄「」 【第279回】 8月426日<島嶋>中川奈保子「」 【第280回】 8月430日<川崎>岡本新悟「」 【第281回】 8月434日<和田>斎藤伸治「」 【第282回】 8月437日<巽>丹羽由衣「」 【第283回】 8月441日<本田>本田明夏「」 【第284回】 8月444日<小杉>新年懇談会○ 【第285回】 8月448日<山田>福鶴伸之(近畿理工大)「細胞内情報伝達とその破綻」 【第286回】 8月452日<和田>吉澤伸也「」 【第287回】 8月455日<西郷>島嶋雅子「」 【第288回】 8月459日<山田>田原康玄「」 【第289回】 8月462日<島嶋>中川奈保子「」 【第290回】 8月466日<川崎>岡本新悟						

**遺伝カウンセリング演習2 (GC限定) (2)**

【第1回】10月23日<川崎>岡本新悟「男子性腺機能低下症の診断と治療一カルマン症候群とクライインフェルター症候群を中心にー」○  
 【第1回】11月13日<和田>斎藤伸治「」○  
 【第1回】12月4日<巽>丹羽由衣「神戸大学医学部附属病院におけるCGCとしての活動」  
 【第1回】12月25日<本田>本田明夏「」  
 【第1回】1月8日<小杉>新年懇談会○  
 【第1回】1月29日<田村>福嶋伸之(近大理学部)「細胞内情報伝達とその破綻」  
 <共同カンファレンスの具体的な進行方針>1)目的:実習報告会ではない。同席者の感想等は除外症例検討を主題とし、適切な遺伝カウンセリングがなされたか、誤った点や不足する点はなかったか等、専門家の意見、討議を聞きそれに参加する。多くの人の意見を聞けるよう、今後の遺伝カウンセリングに実質的に生かせるように討議の時間を確保する。  
 プレゼンテーション準備:開始前におらかじめプレゼンテーションを行う全てのパワーポイントファイルを開けておき、速やかに次のプレゼンへ移れるようにする。  
 プレゼンテーション:客観的な事実を端的にまとめる。まず、背景と主訴を参加者に理解してもらう。遺伝カウンセリングの経過、問題点を簡潔に示す。発表時間15分以内、議論10分程度。4)スライド:議論が整理しやすいように箇条書きが望ましい。次の枚数を原則とする。前半:タイトル(日付・発表者・担当医名を含む)(1枚)、受診者の背景・主訴・家系図を含めて(2枚)。後半:遺伝カウンセリング経過(1-2枚)、課題・問題点(1-2枚)5)進行:冗長なプレゼンに対しては簡潔に行なうよう指導し、建設的ディスカッションを行う。  
 6)アセスメントについて:質問や自分の意見、感想は全体の議論の話題になったら自分の意見として発言する。どうしても最初から必要がある場合は指導教官・同席医師と相談の上で行う。  
 7)終了後:ディスカッションの内容を含んだスライドを1枚追加する。担当医確認の後、「遺伝カウンセリング記録」および「カンファレンス記録」の2箇所に保存する。(カンファ後1週間以内)  
 \*個人情報に接することがあるため、初回参加時には「誓約書」を提出する。遺伝カウンセリング内容についての会話は、他者のいるところではしないこと、内容を記したノートは、他者の目にふれないようにすること、ノートの貸し借りは禁止。

**[Course requirements]**  
 遺伝カウンセラーコース限定必修科目(事前確定科目) 1回生は「遺伝カウンセリング演習1」、2回生は「遺伝カウンセリング演習2」

**[Evaluation methods and policy]**  
 プレゼンテーション、討議への積極的な参加、カンファレンス記録の作成などを総合的に評価する。

**[Textbooks]**  
 Not used  
 ハンドアウトの配布は、原則としてありません

**[References, etc.]**  
 (Reference books)

Continue to 遺伝カウンセリング演習2 (GC限定) (3) ↓↓↓

**遺伝カウンセリング演習2 (GC限定) (3)**

**[Study outside of class (preparation and review)]**  
 適宜指示する。

**(Other information (office hours, etc.))**  
 \*Please visit KULASIS to find out about office hours.

Continue to 遺伝カウンセリング演習2 (GC限定) (3) ↓↓↓

**Course number** P-PUB01 8N009 PJ90

<b>Course title (and course title in English)</b>	遺伝カウンセリング実習1 (GC限定) Genetic Counselling, Practice 1		<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Professor, KOSUGI SHINJI	
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	2	<b>Year/semesters</b>	2020/Irregular, year-round
<b>Days and periods</b>	Other	<b>Class style</b>	Practical training	<b>Language of instruction</b>	Japanese

**[Overview and purpose of the course]**  
 I. コースの概要  
 遺伝カウンセリングの現場に同席し、その現状を体験するとともに、予診の聴取(プレカウンセリング)、家系図の作成、電話フォローアップなどを実際のクライアントに対しておこなう。担当者: 小杉真司・和田敬仁・山田崇弘・川崎秀徳・玉置知子・三宅秀彦・山田重人・澤井英明・本田由郁・村上裕美・島崎雅子・本田明夏  
 II. 教育・学習方法  
 実習(準備・プレカウンセリング・同席実習・症例記録作成・カンファレンスでの症例報告・討議・電話フォローアップ)。関連学会・セミナーに出席、積極的に参加し、レポートをまとめる。1月~3月は「遺伝カウンセラーカリキュラム」として遺伝カウンセリング電話予約対応などの認定遺伝カウンセラー業務の実践についても実習する。

**[Course objectives]**  
 クライアントへの適切な接し方を体得する。予診の聴取、家系図の作成が適切に可能となる。症例の問題点について、担当医らと討議できる。症例をまとめ、医学的・心理社会的・倫理的问题について文献を検索し、最新情報を入手できる。カンファレンスで、症例を提示し、討論を行うことができる。関連する部署と適切な情報交換、連携が可能であり、チーム医療を実践できる。

**[Course schedule and contents]**  
 【遺伝カウンセリング実習】  
 1年次の後半から遺伝カウンセリング実習を開始する。学生個人個人の知識・到達度や実習のavailabilityから判断して、実習の開始時期や頻度を決定する。2年間で60症例程度を経験する。ごく初期は同席のみであるが、できるだけ実際の遺伝カウンセリングに少しでも参加することが望まれる。そこで、予診や家系図作成などの初期インテーク(プレカウンセリング)を行う。個々のケースについて症例記録・ログブックを作成し、担当教員に確認の上、できるだけ早く(週ごとも1週間に内)に確定し、設定の場所に保存する。類型化シートも作成する。また、経験した症例をカンファレンスで発表し、討論する。1ケースあたり、(準備や検索を含めると)6時間程度が必要となる。家族性腫瘍、神経変性疾患、出生前診断、染色体異常、遺伝性難聴、眼科疾患、先天奇形、先天性代謝異常、その他、できるだけバリエティに富んだ疾患の症例の経験をするようにつとめる。  
 • 京都大学医学部附属病院遺伝子診療部(耳鼻科遺伝難聴外来含む): 月一金(コース全員で交代)  
 • 兵庫医科大学臨床遺伝部: 火曜(1名)・高槻病院小児科・産婦人科(不定期)  
 遺伝カウンセリング後の電話フォローアップについては原則として遺伝カウンセラーコース院生が対応し、実質的なOJT(on the job training)、インターンシップを行う。  
 <症例記録の書き方の注意: 抜粋>  
 1. ファイル名: カルテ番号+短い疾患名+受診日とする(例) 999FAP120915  
 再診のときは、前回のものに追記したものに再診日と回数を記載。(例)999FAP1261013-2  
 2. 本文のタイトルの前にカルテ番号を入れる。

Continue to 遺伝カウンセリング実習1 (GC限定) (2) ↓↓↓

**遺伝カウンセリング実習1 (GC限定) (2)**

3. クライアント氏名は記載しないが、診療施設の名称などは全て実名記載する。  
 4. 時間(終了時間、所要時間)も入れる。  
 5. 家系図はパワーポイントで、別ファイルに。ファイル名は、上記のワードファイルと同じ。

**[学会・研修会への参加]**  
 より幅広い知識・経験を積むため、下記の学会・研修会等への参加は原則として2年間必修とする(経費はできるだけサポートする)。学会発表、セミナーでの積極的な活動が奨励される。下記以外の学会・セミナーについても遺伝カウンセリングに関係の深いものについては参加を推奨する、また、これらの機会を利用し積極的な人脉作りを行うべきである。また、患者会・サポートグループなどへ積極的に参加することが勧められる。適宜情報を提供する。

**[Course requirements]**  
 遺伝カウンセラーコース限定必修(事前確定科目) 1回生は「遺伝カウンセリング実習1」、2回生は「遺伝カウンセリング実習2」

**[Evaluation methods and policy]**  
 実習への積極的な参加などを総合的に評価する。

**[Textbooks]**  
 實際のクライアントに接した経験ほど重要な資源はない。

**[References, etc.]**  
 (Reference books)

**[Study outside of class (preparation and review)]**  
 【2020年度の必須参加予定】(変更ある場合はその都度連絡します)  
 6/19(金)-20(土)日本遺伝性腫瘍学会\*シティプラザ大阪  
 7/3(金)-5(日)日本遺伝カウンセリング学会沖縄コンベンションセンター  
 8/21(金)-23(日)遺伝カウンセリング研修会(2回生のみ)金沢大学  
 9/11(金)-12(土)日本遺伝子診療学会\*トータルネットホール仙台  
 9/18(金)-20(日)遺伝医学セミナー三井ガーデンホテル千葉  
 11/19(木)-23(日)日本人類遺伝学会・全国遺伝子医療部門連絡会議場  
 1/30(土)-31(日)遺伝カウンセリングアドバイストセミナー(1回生のみ)郡山(星合病院)  
 (2020年度入学者が2回生になった際の参加学会・研修会は上記と同一ではありません。)  
 経費補助を受けて学会・セミナー等へ参加した場合は、レポートを提出すること。レポートはA4用紙で参加日数枚数分を目安とし、速やかに提出すること(最大1ヶ月以内)。また、これらのレポートについては、報告書として冊子化されることがあることを了解すること。2回生は\*のいずれかの学会で一度は研究発表をおこなうことが望ましい。

Continue to 遺伝カウンセリング実習1 (GC限定) (3) ↓↓↓

<p><b>遺伝カウンセリング実習1 (GC限定) (3)</b></p> <hr/> <p><b>(Other information (office hours, etc.))</b> クライアントのいかなる情報についても守秘を徹底すること。遺伝カウンセリング内容についての会話は、部外者のいるところではないこと、内容を記したノート類は、部外者の目にふれないようにすること。ノートの貸し借りは禁止。守秘できない場合は、退学処分とする。</p> <p>*Please visit KULASIS to find out about office hours.</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2">Course number</th> <th colspan="3">P-PUB01 8N010 PJ90</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Course title (and course title in English)</td><td colspan="2">遺伝カウンセリング実習2 (GC限定) Genetic Counselling, Practice 2</td><td>Instructor's name, job title, and department of affiliation</td><td>Graduate School of Medicine Professor, KOSUGI SHINJI</td></tr> <tr> <td>Target year</td><td>Professional degree students</td><td>Number of credits</td><td>4</td><td>Year/semesters</td></tr> <tr> <td>Days and periods</td><td>Other</td><td>Class style</td><td>Practical training</td><td>Language of instruction</td></tr> </tbody> </table> <p><b>[Overview and purpose of the course]</b> 【I. コースの概要】 遺伝カウンセリングの現場に同席し、その現状を体験とともに、予診の聴取（プレカウンセリング）、家系図の作成、電話フォローアップなどを実際のクライアントに対しておこなう。 担当者：小杉眞司・和田敦仁・山田崇弘・川崎秀徳・玉置知子・三宅秀彦・山田重人・澤井英明・四本由郁・村上裕美・鳥飼雅子・本田明夏 【II. 教育・学習方法】 実習（準備・プレカウンセリング・同席実習・症例記録作成・カンファレンスでの症例報告・討議・電話フォローアップ）。関連学会・セミナーに出席、積極的に参加し、レポートをまとめる。 1月～3月は、「遺伝カウンセラー業務実習」として遺伝カウンセリング電話予約対応などの認定遺伝カウンセラー業務の実際にても実習する。</p> <p><b>[Course objectives]</b> クライアントへの適切な接し方を体得する。予診の聴取、家系図の作成が適切に可能となる。症例の問題点について、担当医らと討議できる。症例をまとめ、医学的・心理社会的・倫理的問題について文献を検索し、最新情報を入手できる。カンファレンスで、症例を提示し、討論を行うことができる。関連する部局と適切な情報交換、連携が可能であり、チーム医療を実践できる。</p> <p><b>[Course schedule and contents]</b> 【遺伝カウンセリング実習】 1年次の後半から遺伝カウンセリング実習を開始する。学生個人個人の知識・到達度や実習のavailabilityから判断して、実習の開始時期や頻度を決定する。2年間で60症例程度を経験する。ごく初期は同席のみであるが、できるだけ実際の遺伝カウンセリングに少しでも参加することが望まれる。そこで、予診や家系図作成などの初期インテーク（プレカウンセリング）を行う。個々のケースについて症例記録・ログブックを作成し、担当教員に確認の上、できるだけ早く（遅くとも1週間以内に）確定し、所定の場所に保存する。類型化シートも作成する。また、経験した症例をカンファレンスで発表し、討論する。1ケースあたり、（準備や検索を含めると）6時間程度が必要となる。家族性腫瘍、神経変性疾患、出生前診断・染色体異常、遺伝性難聴、眼科疾患、先天奇形、先天性代謝異常、その他、できるだけバラエティに富んだ疾患の症例の経験をするようにつどめる。 ・京都大学医学部附属病院遺伝子診療部（耳鼻科遺伝難聴外来含む）：月一金（コース全員で交代） ・兵庫医科大学臨床遺伝部：火曜（1名） 高槻病院小児科・産婦人科（不定期） 遺伝カウンセリング後の電話フォローアップについては原則として遺伝カウンセラーコース院生が対応し、実質的なOJT(on the job training)、インターネットを行なう。 &lt;症例記録の書き方の注意：抜粋&gt; 1. ファイル名：カルテ番号+短い疾患名+受診日とする（例）999FAP120915 再診のときは、前回のものに追記したものに再診日と回数を記載。（例）999FAP1261013-2 2. 本文のタイトルの前にカルテ番号を入れる。</p> <p style="text-align: right;">----- Continue to 遺伝カウンセリング実習2 (GC限定) (3) -----</p>	Course number		P-PUB01 8N010 PJ90			Course title (and course title in English)	遺伝カウンセリング実習2 (GC限定) Genetic Counselling, Practice 2		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor, KOSUGI SHINJI	Target year	Professional degree students	Number of credits	4	Year/semesters	Days and periods	Other	Class style	Practical training	Language of instruction
Course number		P-PUB01 8N010 PJ90																			
Course title (and course title in English)	遺伝カウンセリング実習2 (GC限定) Genetic Counselling, Practice 2		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor, KOSUGI SHINJI																	
Target year	Professional degree students	Number of credits	4	Year/semesters																	
Days and periods	Other	Class style	Practical training	Language of instruction																	

<p><b>遺伝カウンセリング実習2 (GC限定) (2)</b></p> <hr/> <p>3. クライアント氏名は記載しないが、診療施設の名称などは全て実名記載する。 4. 時間（終了時間、所要時間）も入れる。 5. 家系図はパワーポイントで、別ファイルに。ファイル名は、上記のワードファイルと同じ。</p> <p><b>[学会・研修会への参加]</b> より幅広い知識・経験を積むため、下記の学会・研修会等への参加は原則として2年間必修とする（経費はできるだけサポートする）。学会発表、セミナーでの積極的な活動が奨励される。下記以外の学会・セミナーについても遺伝カウンセリングに関係の深いものについては参加を推奨する、また、これらの機会を利用し積極的な人脈作りを行うべきである。また、患者会・サポートグループなどへ積極的に参加することが勧められる。適宜情報を提供する。</p> <p><b>[Course requirements]</b> 遺伝カウンセラーコース限定必修（事前確定科目）1回生は「遺伝カウンセリング実習1」、2回生は「遺伝カウンセリング実習2」</p> <p><b>[Evaluation methods and policy]</b> 実習への積極的な参加などを総合的に評価する。</p> <p><b>[Textbooks]</b> 実際のクライアントに接した経験ほど重要な資源はない。</p> <p><b>[References, etc.]</b> (Reference books)</p> <p><b>[Study outside of class (preparation and review)]</b> 【2020年度の必須参加予定】（変更ある場合はその都度連絡します） 6/19(金)-20(土)日本遺伝性腫瘍学会＊シティプラザ大阪 7/3(金)-5(日)日本遺伝カウンセリング学会＊沖縄コンベンションセンター 8/21(金)-23(日)遺伝カウンセリング研修会(2回生のみ)金沢大学 9/11(金)-12(土)日本遺伝子診療学会＊トータルネットホール仙台 9/18(金)-20(日)遺伝医学セミナー三井ガーデンホテル千葉 11/19(木)-23(日)日本人類遺伝学会・全国遺伝子医療部門連絡会議＊ 名古屋国際会議場 1/30(土)-31(日)遺伝カウンセリングアドバンストセミナー(1回生のみ)郡山（星総合病院） (2020年度入学者が2回生になった際の参加学会・研修会は上記と同一ではありません。) 経費補助を受けて学会・セミナー等へ参加した場合は、レポートを提出すること。レポートはA4用紙で参加日数枚分を自安とし、速やかに提出すること(最大1ヶ月以内)。また、これらのレポートについては、報告書として冊子化されることがあることを了解すること。2回生は＊のいずれかの学会で一度は研究発表をおこなうことが望ましい。</p> <p style="text-align: center;">----- Continue to 遺伝カウンセリング実習2 (GC限定) (3) -----</p>
---

<p><b>遺伝カウンセリング実習2 (GC限定) (3)</b></p> <hr/> <p><b>(Other information (office hours, etc.))</b> クライアントのいかなる情報についても守秘を徹底すること。遺伝カウンセリング内容についての会話は、部外者のいるところではないこと、内容を記したノート類は、部外者の目にふれないようにすること。ノートの貸し借りは禁止。守秘できない場合は、退学処分とする。</p> <p>*Please visit KULASIS to find out about office hours.</p>
--

未更新					
Course number	P-PUB01 8H139 LJ90				
Course title (and course title in English)	臨床統計家の実務スキル（CB限定） Practical Skills for Clinical Biostatisticians		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Associate Professor,DOI MASAAKI Graduate School of Medicine Professor,SATO TOSIYA Graduate School of Medicine Assistant Professor,Omiya Masatomo Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor,IMAI TORU	
Target year	Professional degree students	Number of credits	1	Year/semesters	2020/First semester
Days and periods	Mon.3	Class style	Practical training	Language of instruction	Japanese
<b>[Overview and purpose of the course]</b> Students will acquire the minimum knowledge of statistical programming required of clinical statisticians, and practice programming, simple aggregation, and analysis. This course will also prepare students for courses on programming in statistics that are offered in the second semester. We use SAS statistical software mainly, and R in some parts. [Lectures and practicums using PowerPoint slides]					
<b>[Course objectives]</b> By learning programming for statistical software, be learn how to: <ul style="list-style-type: none"> <li>Create data sets suitable for analysis,</li> <li>Create simple aggregations and charts,</li> <li>Basic statistical analysis,</li> <li>The basics of analysis of periodic measurement data, and</li> <li>The basics of survival time analysis.</li> </ul>					
<b>[Course schedule and contents]</b> Session 1, April 13, Period 3: Introduction to SAS (Doi) Session 2, April 20, Period 3: Calculation of basic statistics and creating simple charts (Doi) Session 3, April 27, Period 3: Correlation and Regression (Doi) Session 4, May 11, Period 3: Data Handling using SAS 1 (Doi) Session 5, May 18, Period 3: Data Handling using SAS 2 (Doi) Session 6, May 25, Period 3: SAS Practical (Omiya, Doi, Imai) Session 7, June 1, Period 3: The t-Test and the Wilcoxon Rank Sum Test (Doi) Session 8, June 8, Period 3: Calculating Ratios and Logistic Regression (Doi) Session 9, June 15, Period 3: The General Linear Model (Doi) Session 10, June 22, Period 3: Analysis of Temporal Data 1 (Doi) Session 11, June 29, Period 3: Analysis of Temporal Data 2 (Doi) Session 12, July 6 Period 3 Survival Analysis 1 (Doi) Session 13, July 13th Period 3 Survival Analysis 2 (Doi) Session 14, July 20 Period 3 Fundamentals in R (Doi, Omiya, Imai)					
Continue to 臨床統計家の実務スキル（CB限定）(2) ↓↓↓					

臨床統計家の実務スキル（CB限定）(2)
<b>[Course requirements]</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>This course is limited to students taking the Clinical Statistician Training course.</li> <li>Please bring a laptop with SAS and R installed to class.</li> </ul>
<b>[Evaluation methods and policy]</b>
Class participation and reports.
<b>[Textbooks]</b>
We do not use textbooks. However, it is strongly recommended that students purchase the reference books specified.
<b>[References, etc.]</b>
(Reference books) Yohei Takanami, Nobuo Funao (2015), "統計解析ソフト「SAS」" (Cutt Systems) ISBN:978-4-87783-503-3 [Designated Reference Book], purchase strongly recommended, Nobuo Funao (2016) "The R Tips 第3版: データ解析環境Rの基本技・グラフィックス活用集" (Ohm Co., Ltd.) ISBN: 978-4-274-21958-0, Ikuko Funatogawa and Takashi Funatogawa (2015) "経時データ解析" (Asakura Shoten) ISBN: 978-4254128550 * This also serves as reference material for "Statistical Models and their Applications." Yasuo Ohasi, Chikuma Hamada, Ryuuji Uozumi (2016) "生存時間解析[応用編] SASによる生物統計" (University of Tokyo Press) ISBN: 978-4130623179 * This also serves as reference material for "Survival Time Analysis."
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>
Learning the program takes a considerable amount of time. This content is useful for courses in the second semester, so students are advised to take time to review and write many programs.
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>
*Please visit KULASIS to find out about office hours.

未更新					
Course number	P-PUB01 8H140 LB90				
Course title (and course title in English)	臨床研究実地研修 I (CB限定) Clinical Research Training I		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Program-Specific Professor,TANAKA SHIROU Kyoto University Hospital Professor,Morita Satoshi Kyoto University Hospital Senior Lecturer,Uozumi Ryuuji Kyoto University Hospital Assistant Professor,ABE HIROYASU Kyoto University Hospital Program-Specific Assistant Professor,NAKAKURA Akiyoshi National Cerebral and Cardiovascular Center OOMAE KATSUHIRO National Cerebral and Cardiovascular Center ASAKURA KOUKO	
Target year	Professional degree students	Number of credits	2	Year/semesters	2020/Intensive, year-round
Days and periods	Intensive	Class style	Practical training	Language of instruction	Japanese
<b>[Overview and purpose of the course]</b> This training facilitates a hands-on understanding of how the statistical thinking acquired in the Clinical Statistician Training course can be applied to real-word situations through practical training at a hospital. From this practical experience, students will understand the roles and responsibilities of test statisticians in clinical trials, and will be equipped with the fundamental capabilities (attitude, skills, knowledge) necessary for one to plan, conduct, and report on clinical trials as a test statistician. Clinical Research On-Site Practicum II continues from I, and offers more advanced content. Training will take place at two locations: Kyoto University Hospital and the National Cerebral and Cardiovascular Center. Students are asked to choose the facility they wish to train at in advance. Training at the Kyoto University Hospital mainly comprises planning and conducting clinical trials for the development of innovative new medical technologies (pharmaceuticals, etc.). Training takes place at two locations: Kyoto University Hospital and the National Cerebral and Cardiovascular Center. Details of the training will be published on the website.					
<b>[Course objectives]</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>Understand the process of planning and conducting clinical trials, the operations and system relied on in carrying out clinical trials, and the roles and areas of responsibility of researchers, research assistants, and test statisticians.</li> <li>Understand the statistical items to be included in clinical trial protocols and obtain the fundamental knowledge and techniques required to be able to contribute to the creation of clinical trial protocols.</li> <li>Acquire the fundamental knowledge and skills to be able to plan and carry out a statistical analysis appropriately and summarize the results.</li> <li>Understand the fundamentals of research ethics and conflicts of interest in clinical trials and the protection of personal data, and be capable of contributing to the planning and execution of reliable clinical trials.</li> <li>Learn to use various explanatory methods and means and the attitudes and methods to convey statistical concepts in clinical trials in a way that is easily understood.</li> </ul>					
<b>[Course schedule and contents]</b> Kyoto University Hospital Intensive lectures and practicums will be held over five days between July and September (Periods 1-6, 8:45-15:15) Continue to 臨床研究実地研修 I (CB限定) (2) ↓↓↓					

臨床研究実地研修 I (CB限定) (2)
19:45)
Day 1
Period 1: Pre-Training Preparation
Period 2: Readiness as a Biostatistician (1)
Period 2: Ethics in medical research
Period 4: Seed Development
Period 5: Statistics Consulting Situations
Period 6: Creating Reports
Day 2
Period 1: Pre-Training Preparation
Period 2: Readiness as a Biostatistician (2)
Period 3: Monitoring Tasks
Period 4: Clinical Test Sites
Period 5: Statistics Consulting Situations
Period 6: Creating Reports
Day 3
Period 1: Pre-Training Preparation
Period 2: Readiness as a Biostatistician (3)
Period 3: Project Management Tasks
Period 4: The History and Future Potential of Translational Research
Period 5: Statistics Consulting Situations
Period 6: Creating Reports
Day 4
Period 1: Pre-Training Preparation
Period 2: Data Management Tasks
Period 3: The Role of CRC
Period 4: Investigational New Drug Management System Scenarios
Period 5: Statistics Consulting Situations
Period 6: Creating Reports
Day 5
Period 1: Pre-Training Preparation
Period 2: Corresponding with Authorities
Period 3: Radiodiagnosis Scenarios
Period 4: Advanced Medical Technology Scenarios
Period 5: Development of Innovative Medical Technologies Using iPS Cells
Period 6: Creating Reports
National Cerebral and Cardiovascular Center
This will be held over a total of six days. The first day will be in August, with the remaining five days held between December and January (Each session is 90 minutes long) (9:30-11:00/11:15-12:45/13:45-15:00/15:15-17:00)
Day 1
Continue to 臨床研究実地研修 I (CB限定) (3) ↓↓↓

臨床研究実地研修 I (CB限定) (3)	
Session 1: Training Overview and Explanation, Visit to a Hospital: Purpose and Content of Training Session 2: Cardiovascular Disease Fundamentals (1): The Basics of Arrhythmia Session 3: Cardiovascular Disease Fundamentals (2): The Basics of Cardiac Failure Session 4: Medical Device Research and Development: Visit to an Animal Experimentation Facility	
Day 2 Session 5: Clinical Trial Planning (1): Basic Matters of Clinical Trial Planning Session 6: Clinical Trial Planning (2): Basic Procedures in Clinical Trial Planning Session 7: Randomized Assignment (1): The Role of Randomized Assignment in Clinical Trials Session 8: Randomized Assignment (2): General Methods of Randomized Assignment	
Day 3 Session 9: Group Work: Randomized Assignment System Exercise (1) Session 10: Group Work: Randomized Assignment System Exercise (2) Session 11: Sample Size Design (1): Methods of Sample Size Design in Clinical Trials Session 12: Sample Size Design (1): Procedures for Sample Size Design in Clinical Trials	
Day 4 Session 13: Group Work: Sample Size Design Exercise (1) Session 14: Group Work: Sample Size Design Exercise (2) Session 15: Statistical Analysis Plans (1): Fundamental Points to Describe in a Statistical Analysis Plans Session 16: Statistical Analysis Plans (2): Standard Tasks and Processes for Statistical Analysis in Clinical Trials	
Day 5 Session 17: Accompanying CRC Patients Session 18: Accompanying CRC Patients Session 19: Group Work (5): Randomized Assignment System Exercise (3) Session 20: Group Work (6): Randomized Assignment System Exercise (4)	
Day 6 Session 21: Group Work (7): Sample Size Design Exercise (3) Session 22: Group Work (8): Sample Size Design Exercise (4) Session 23: Summary Presentation (1): Reporting on the Results of the Randomized Assignment System Exercise Session 24: Summary Presentation (2): Report on the Results of the Sample Size Design Exercise	
<b>[Course requirements]</b> None	
<b>[Evaluation methods and policy]</b> Evaluation is based on the content of the reports and presentations created in practicums. Class participation (attendance etc.) will also be taken into account.	
Continue to 臨床研究実地研修 I (CB限定) (4) ↓↓↓	

未更新					
Course number P-PUB01 8H147 PB90					
<b>Course title (and course title in English)</b>	臨床研究実地研修II (CB限定) Clinical Research Training II	<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Program-Specific Professor, TANAKA SHIROU Kyoto University Hospital Professor, Morita Satoshi Kyoto University Hospital Senior Lecturer, Uozumi Ryuuji Kyoto University Hospital Assistant Professor, ABE HIROYASU Kyoto University Hospital Program-Specific Assistant Professor, NAKAKURA Akiyoshi National Cerebral and Cardiovascular Center OOMAE KATSUHIRO National Cerebral and Cardiovascular Center ASAKURA KOUKO		
<b>Target year</b>	1st year students or above	<b>Number of credits</b> 2	<b>Year/semesters</b> 2020/Intensive, year-round		
<b>Days and periods</b>	Intensive	<b>Class style</b>	Practical training	<b>Language of instruction</b>	Japanese and English
<b>[Overview and purpose of the course]</b> This training facilitates a hands-on understanding of how the statistical thinking acquired in the Clinical Statistician Training course can be applied to real-word situations through practical training at a hospital. From this practical experience, students will understand the roles and responsibilities of test statisticians in clinical trials, and will be equipped with the fundamental capabilities (attitude, skills, knowledge) necessary for one to plan, conduct, and report on clinical trials as a test statistician. Clinical Research On-Site Practicum II continues from I, and offers more advanced content. Training will take place at two locations: Kyoto University Hospital and the National Cerebral and Cardiovascular Center. Students are asked to choose the facility they wish to train at in advance. Training at the Kyoto University Hospital mainly comprises planning and conducting clinical trials for the development of innovative new medical technologies (pharmaceuticals, etc.). Training takes place at two locations: Kyoto University Hospital and the National Cerebral and Cardiovascular Center. Details of the training will be published on the website.					
<b>[Course objectives]</b> * Understand the process of planning and conducting clinical trials, the operation and system for carrying out clinical trials, and the roles and areas of responsibility of researchers, research assistants, and test statisticians. * Understand the statistical items that are to be included in clinical trial protocols and obtain the fundamental knowledge and techniques needed in order to contribute to the creation of clinical trial protocols. * Gain fundamental knowledge and skills to plan and carry out a statistical analysis appropriately and summarize the results. * Understand the fundamentals of research ethics and conflicts of interest in clinical trials and the protection of personal data, and learn to contribute to the planning and execution of reliable clinical trials. * Learn to use various explanatory methods and means and the attitudes and methods to convey statistical concepts in clinical trials in a way that is easily understood.					
<b>[Course schedule and contents]</b> Kyoto University Hospital Intensive lectures and practicums will be held over five days between July and September (Planned) (Periods 1-6, 8:45 - 19:45) Continue to 臨床研究実地研修II (CB限定) (3) ↓↓↓					

臨床研究実地研修II (CB限定) (2)	
Day 1: Period 1: Pre-Training Preparation Period 2: Advanced presentation and discussion of assignments Period 3: Standard Operating Procedures Period 4: Introduction to Real Clinical Trials by a Clinician Period 5-6: Protocol Creation and Database Construction	
Day 2 Period 1: Pre-Training Preparation Protocol 2: Presentation and discussion of the results of the protocol practicum Period 3-6: Statistical analysis planning practicum	
Day 3 Period 1: Pre-Training Preparation Period 2: Presentation and discussion of statistical analysis planning Period 3: SAS Program practicum Period 4: Validating the quality of the results of statistical analysis Periods 5-6: Statistical analysis practicum	
Day 4 Period 1: Pre-Training Preparation Period 2: Summary Reports Period 3: Clinical Trial Report Paper Practicum Periods 4-6: Statistical Analysis Report Practicum	
Day 5 Periods 1-2: Pre-Training Preparations Periods 3-4: Statistical Analysis Report Presentation Period 5: Conclusion Period 6: Report Creation	
National Cerebral and Cardiovascular Center This will be held over a total of six days. Held between July and September (Each session lasts for 90 minutes) (9:30-11:00/11:15-12:45/13:45-15:00/15:15-17:00).	
Day 1 Session 1: Training Overview and Explanation, Visit to a Hospital: Purpose and Content of Training Session 2: Cardiovascular Disease Fundamentals (1): The Basics of Cerebrovascular Disease Session 3: Cardiovascular Disease Fundamentals (2): The Basics of Cranial Nerve Disease Session 4: Ethics and Patient Consent	
Day 2 Session 5: Statistical Analysis (1): Basic Matters in Statistical Analysis Session 6: Statistical Analysis (2): Tasks and Procedures in Statistical Analysis Session 7: Statistical Analysis Reports, Summary Reports, and the Publication of Papers Session 8: Statistical Analysis Consultation and Clinical Trial Consultation	
Continue to 臨床研究実地研修II (CB限定) (3) ↓↓↓	

臨床研究実地研修II (CB限定) (3)	
Day 3 Session 9: Data Management for Clinical Trials: The Fundamentals of Data Management Session 10: Data Management for Clinical Trials: Data Management Tasks and Processes Session 11: Group Work (1): Data Management Exercise (1) Session 12: Group Work (2): Data Management Exercise (2)	
Day 4 Session 13: Group Work (3): Data Management Exercise (3) Session 14: Group Work (4): Data Management Exercise (4) Session 15: Group Work (5): Statistical Analysis Exercise (1) Session 16: Group Work (6): Statistical Analysis Exercise (2)	
Day 5 Session 17: Clinical Trial Monitoring Session 18: Clinical Trial Monitoring Field Trip Session 19: Group Work (7): Statistical Analysis Exercise (3) Session 20: Group Work (8): Statistical Analysis Exercise (4)	
Day 6 Session 21: Group Work (9): Statistical Analysis Exercise (5) Session 22: Group Work (10): Statistical Analysis Exercise (6) Session 23: Summary Presentation (1): Data Management Exercise Results Report Session 24: Summary Presentation (2): Statistical Analysis Exercise Results Report	
<b>[Course requirements]</b> Students must have completed Clinical Research Practicum I.	
<b>[Evaluation methods and policy]</b> Evaluation is based on the content of the reports and presentations created in practicums. Class participation (attendance, etc.) will also be taken into account.	
<b>[Textbooks]</b> Not used	
<b>[References, etc.]</b> <b>(Reference books)</b> Other materials will be indicated during practicums.	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b> Indicated during practicums.	
----- Continue to 臨床研究実地研修II (CB限定) (4) ↓ ↓ ↓	

臨床研究実地研修II (CB限定) (4)	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b> Human health science majors are not eligible to participate in this course. *Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course number		P-PUB01 8H144 SB90			
Course title (and course title in English)	統計的推測の基礎・演習 (CB限定) Practicum in Fundamentals of Statistical Inference	Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor,SATO TOSIYA 統計数理研究所 HENMI MASAYUKI Graduate School of Medicine Associate Professor,DOI MASAAKI Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor,IMAI TORU Graduate School of Medicine Assistant Professor,Oniva Masatomo		
Target year	1st year students or above	Number of credits	1	Year/semesters	2020/First semester
Days and periods	木5・6	Class style	Seminar	Language of instruction	Japanese and English
<b>[Overview and purpose of the course]</b> This course focuses on the content of the "Fundamentals of Statistical Inference," and tackles exercises relating to the fundamental points in learning subjects related to statistics. In the first half, we tackle exercises on fundamental points concerning statistical inference in general, and in the second half, we tackle specific statistical inference exercises (estimation, hypothesis testing, and confidence intervals). The overall purpose of the course is to understand and come to grips with each of the topics addressed in "Fundamentals of Statistical Inference" through specific problems, and to teach the fundamental concepts of statistical inference obtained from these. Through exercises in the first half, students will acquire the necessary mathematical skill to study statistics-related subjects, while exercises in the latter half teach methods to apply statistical inference by working on problem sets that are similar to real-world issues as applied to clinical trials, and will understand their utility. Since students of this course are expected to come from various backgrounds, a large number of teaching staff will be assigned and exercises will proceed according to the progress of each student.					
[Practicum Format] (Held in sixth period until June 4, then fifth period from June 11)					
<b>[Course objectives]</b> <ul style="list-style-type: none"><li>Understand the techniques necessary for methods of statistical inference and related methods, and learn how to apply them,</li><li>Learn the meaning and properties of basic statistics and ways to make calculations by making use of them by yourself, and</li><li>Understand the situations in which the fundamentals of statistical inference are required, such as actual clinical trials, and learn to solve basic problems that are important in application.</li></ul>					
<b>[Course schedule and contents]</b> Session 1, April 9: Confirmation of Basic Mathematics and Calculating Probability Session 2, April 16: Basic Properties of Discrete Random Variables Session 3, April 23: Basic Properties of Continuous Random Variables Session 4, April 30: Multiple Random Variables I Session 5, May 14: Multiple Random Variables II Session 6, May 21: Probability Distribution as it Relates to Normal Samples Session 7, May 28: Fundamentals of Statistical Estimation Session 8, June 4: Fundamentals of Statistical Hypothesis Testing I Session 9: Fundamentals of Statistical Hypothesis Testing II					
----- Continue to 統計的推測の基礎・演習 (CB限定) (2) ↓ ↓ ↓					

統計的推測の基礎・演習 (CB限定) (2)	
Session 10, June 18: The Basics of Linear Regression Analysis I Session 11, June 25: The Basics of Linear Regression Analysis II Session 12, July 2: Fundamental Asymptotic Methods I (Limit Theorem, Maximum Likelihood and its Properties) Session 13, July 9: Fundamental Asymptotic Methods II (Tests based on maximum likelihood) Session 14, July 16: Fundamental Asymptotic Methods III (Delta method, methods of estimation other than the maximum likelihood method)	
<b>[Course requirements]</b> This course is limited to those taking the Clinical Statistician Training course.	
<b>[Evaluation methods and policy]</b> Students will be asked to submit answers to exercises in each session. Grades shall be assigned according to the content.	
<b>[Textbooks]</b> Other materials will be introduced during practicums based on progress made.	
<b>[References, etc.]</b> <b>(Reference books)</b> Other materials will be introduced during practicums based on progress made.	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b> <ul style="list-style-type: none"><li>Preparation will not be required when this course is taken together with "Fundamentals of Statistical Inference," which is held on the same day. However, if students are concerned about basic mathematical techniques such as calculus and linear algebra, they are advised to engage in self-study in consultation with their instructor.</li><li>For questions that cannot be solved, students should ask their instructor during or after their seminars, and be sure to solve these before taking repeat exercises. Even if a student solves a question once, it is advisable to attempt it again after a while.</li></ul>	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b> *Please visit KULASIS to find out about office hours.	

未更新					
Course number	P-PUB01 8H146 LB90				
Course title (and course title in English)	メタアナリシス Meta-analysis		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Program-Specific Professor,TANAKA SHIROU	
Target year	1st year students or above		Number of credits	1	Year/semesters
Days and periods	Intensive	Class style	Seminar	Language of instruction	Japanese and English
[Overview and purpose of the course]					
Lectures and practicums on meta-analysis, a statistical method for systematic review, will be held in line with guidance from the textbook titled "Introduction to Meta-Analysis, New Edition." This is an elective course for both CB and MPH.					
[Course objectives]					
<ul style="list-style-type: none"> <li>Learn techniques for the performance of meta-analysis using STATA.</li> </ul>					
[Course schedule and contents]					
<ul style="list-style-type: none"> <li>Lecture and practicum format: As we will perform data analysis using SAS statistical software, please set this up on your own PC. STATA installation will be explained in Session 1. A practicum assistant will be provided by the clinical statistics staff.</li> </ul>					
<p>Session 1, August 6, Period 3: Typical Methods of Meta-Analysis (Chapters 3-6) (Maruo)      Session 2, August 6, Period 4: Typical Methods of Meta-Analysis (Chapters 3-6) (Tanaka, Guan)      Session 3, August 7, Period 3: Typical Methods of Meta-Analysis (Chapters 3-6) (Tanaka, Guan)      Session 4, August 7, Period 4: Typical Methods of Meta-Analysis (Chapters 3-6) (Tanaka, Guan)      Session 5, August 14, Period 3: Multivariate Network Meta-Analysis (Chapters 7, 9-10) (Tanaka, Guan)      Session 6, August 14, Period 4: Multivariate Network Meta-Analysis (Chapters 7, 9-10) (Tanaka, Guan)</p>					
[Course requirements]					
None					
[Evaluation methods and policy]					
Class participation: 50% and Reports: 50%					
[Textbooks]					
Toshiro Tango, "新版メタ・アナリシス入門—エビデンスの統合をめざす統計手法—" (Shinpans Meta-Anarishisu Nyuumon-Ebidensu no Tougou wo Mezasu Toukei Shishou, 'Introductory Meta-Analysis: Methods of Statistics Aimed at Evidence Integration, New Edition') (Asakura Shoten) ISBN: 425412760X					
[References, etc.]					
(Reference books)					
[Study outside of class (preparation and review)]					
If students understand the basic methods of using STATA, they should be able to deal with the practicums without any issue.					
[Other information (office hours, etc.)]					
Human health science majors are not eligible to participate in this course.					
*Please visit KULASIS to find out about office hours.					

未更新					
Course number	P-PUB01 8M001 LJ90				
Course title (and course title in English)	アントレプレナーシップ Entrepreneurship		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Project Professor,TERANISHI YUTAKA Graduate School of Medicine Program-Specific Professor,SUZUKI SHINOBU Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer,YAMAGUCHI TARO Part-time Lecturer,YOSHIKAWA TOMOSADA Part-time Lecturer,YOTSUMOTO KENICHI	
Target year	Professional degree students		Number of credits	2	Year/semesters
Days and periods	月 6	Class style	Lecture	Language of instruction	Japanese
[Overview and purpose of the course]					
Course overview					
<ul style="list-style-type: none"> <li>Emphasis is placed on learning general-purpose business management techniques in the first half of the course. We combine lectures with case study exercises to make use of the thinking styles and basic business management techniques required of entrepreneurs.</li> </ul>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>Lectures and workshops (focusing on the creation of business plans and concepts) will be combined in the second half of the course. We also touch upon characteristics of the industrial structure of the medical and pharmaceutical industry as well as the latest topics in the field.</li> </ul>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>Prioritized themes change each year, and this year, we address two themes: design thinking /business models and venture business development. In the former, students will learn the skills necessary to create business models based on design thinking. In the latter, students will learn venture-specific methods of financing (including venture capital financing, public financial institutions, leasing, industrial finance etc.) and the skills to create business plans, through lectures and exercises.</li> </ul>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>Methods of education and learning</li> <li>This course will involve lectures, case study exercises, and workshops. There will be small group presentations on case study exercises and workshops.</li> </ul>					
[Course objectives]					
<ul style="list-style-type: none"> <li>Acquire skills as a medical entrepreneur by utilizing thinking styles, business management techniques, and industry-related knowledge obtained from this course.</li> <li>Acquire abilities to handle the process right from the search for business seeds all the way through to formulating business development plans.</li> <li>The ultimate aim of this course is to produce and develop talent with the qualities of both entrepreneurs and researchers, and to contribute toward increasing the probability of successful commercialization.</li> </ul>					
[Course schedule and contents]					
<p>Session 1, April 13: Orientation, Entrepreneurship, and Design Thinking      Session 2, April 20: Types of Business Model, Profit Structure, and Customer Strategy      Session 3, April 27: Selecting Optimal Business Models and Strategy (Ethnography)      Session 4, May 11: Short Case Exercise (Using a profit and loss statement)      Session 5, May 18: How to Read Financial Statements (External Lecturer)      Session 6, May 25: Legal, Accounting, and Tax Affairs Relating to Founding a Company (External Lecturer)</p>					
----- Continue to アントレプレナーシップ(2) ↓↓					

アントレプレナーシップ(2)					
-----					
<p>Session 7, June 1: Presentation of Individuals' Business Ideas      Session 8, June 8: Fundraising (External Lecturer)      Session 9, June 15: Development of Science Cafe-Format Ideas (Team-up)      Session 10, June 22: Mid-Term Presentation      Session 11, June 29: A History of Bio Ventures (External Lecturer)      Session 12, July 6: New Business Development (External Lecturer)      Session 13, July 13: The Current State of Industry-Academia Collaboration and University-Led Ventures      Session 14, July 20: Business Model Competition Presentation      Session 15, July 20: Business Model Competition Presentation</p> <p>* Owing to scheduling requirements, we plan to hold Sessions 14 and 15 on the same day (July 20).      * The schedule is subject to change based on the availability of external lecturers.</p>					
[Course requirements]					
This course is mandatory for IP, and an elective for MPH.					
[Evaluation methods and policy]					
The following three points shall be considered and assessed comprehensively:					
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) Class participation (including attendance), frequency of speaking up (presentations during case study exercises, active participation in discussions, etc.)</li> <li>(2) Teamwork</li> <li>(3) Business Model Presentation (or report submission)</li> </ul>					
[Textbooks]					
Other required texts: None. Powerpoint presentations created by the lecturers are used instead of texts. Reference materials will also be presented as appropriate during lectures. Recommended texts: "バイオデザイン", (Baiodezain, 'Biodesign') Stefanos Zenios, Josh McCowen et al. (Yakuji Nippo) "コーポレートファイナンス第6版上・下", (Kooporeeto Fainansu Dai Roku Ban, 'Corporate Finance 6th Ed., Vols. 1&2') Richard Brealey, Stewart Myers (Nikkei BP) "ビジネスモデル・ジェネレーション: ビジネスマネジメント設計書" (Bijinesu Jenereshon: Bijinesu Moderu Sekkeisho, 'Business Generation: Business Model Design Plans') Alex Osterwalder (Shoheisha) "リーン・スタートアップ" (Riiin Sutatoappu 'Lean Startups') Eric Ries (Nikkei BP)					
[References, etc.]					
(Reference books)					
Introduced during class					
[Study outside of class (preparation and review)]					
It is essential for the teams responsible to carry out research while creating their business models.					
[Other information (office hours, etc.)]					
<ul style="list-style-type: none"> <li>The lecture content is well defined. We have a reasonable curriculum. Rather than merely acquiring knowledge, we want students to acquire practical thinking skills that commonly relied on in the business world.</li> </ul>					
----- Continue to アントレプレナーシップ(3) ↓↓					

アントレプレナーシップ(3)					
-----					
<p>This is based on a business model created using the content of lectures by course participants in 2005, which won a business competition sponsored by Nikkan Kogyo Shimbun. The business model created by participants in 2011 was cited in the business introduction at the "CB Forum Osaka 2011" sponsored by the Osaka Chamber of Commerce and Industry and the Osaka NPO Center, and became the subject of Osaka NPO Center business support.</p> <p>People taking this course will be able to take the M021 Summer Intensive Lectures on "Advanced Entrepreneurship" (Introductory Course on Cash Flow Management and Management Accounting using Business Games).</p> <p>Human health science majors are eligible to participate in this course.</p>					
*Please visit KULASIS to find out about office hours.					

未更新

Course number	P-PUB01 8M026 LJ90				
Course title (and course title in English)	メディカル分野技術経営学概論 Introduction to Technology Management in Medical Science			Instructor's name, job title, and department of affiliation	Part-time Lecturer, YAMAMOTO HIROKAZU Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer, IKEDA TAKAFUMI
Target year	Professional degree students	Number of credits	2	Year/semesters	2020/Irregular, First semester
Days and periods	木 6	Class style	Lecture	Language of instruction	Japanese
[Overview and purpose of the course]					
[Course objectives]					
[Course schedule and contents]					
[Course requirements]					
None					
[Evaluation methods and policy]					
[Textbooks]					
[References, etc.]					
(Reference books)					
[Study outside of class (preparation and review)]					
[Other information (office hours, etc.)]					
*Please visit KULASIS to find out about office hours.					

未更新

Course number	P-PUB01 8M024 SJ90				
Course title (and course title in English)	特許法特論・演習（前期） Special Lecture and Practicum for the Patent Law I			Instructor's name, job title, and department of affiliation	Part-time Lecturer, FUJII ATSUSHI
Target year	Professional degree students	Number of credits	2	Year/semesters	2020/Irregular, First semester
Days and periods	水 6	Class style	Lecture	Language of instruction	Japanese
[Overview and purpose of the course]					
I. Course overview					
To create effective intellectual property strategies at research institutes, including universities and among manufacturers, it is essential to gain awareness of and knowledge on the intellectual property of researchers. In other words, while proceeding with an intellectual property strategy, it is insufficient to leave it to the person responsible for intellectual property, and support from the inventor (researcher), as he/she is well versed with the invention, is also indispensable.					
Particularly in the field of life sciences (including medicine, chemistry etc.), the significance of experimental data is extremely high, and its handling can often make a significant difference to intellectual property strategy. In this course, therefore, in addition to basic matters of patent law, we will explain the minimum level of patent practice that researchers should be familiar with.					
II. Course attainment goals (What students can expect to have learned by the end of this course)					
<ul style="list-style-type: none"> <li>In addition to general patent practice, students will learn about patent practices specific to the chemical and bioscience fields, and acquiring the basic knowledge of patents required to effectively protect business activities at research institutions and in companies.</li> <li>Learn the minimum required knowledge to arrive at a smooth understanding with IP experts such as patent attorneys, patent office examiners, and judges.</li> </ul>					
III. Methods of education and learning					
<ul style="list-style-type: none"> <li>Lectures use PowerPoint and web materials</li> <li>Case studies shall be introduced through case materials, including students own preparatory studies</li> </ul>					
[Course objectives]					
In addition to general patent practice, understand patent practices specific to the chemical and bioscience fields, and gain a basic level of knowledge of patents required to effectively protect business activities at research institutions and in companies. Learn the minimum required level of knowledge to arrive at a smooth understanding with IP experts such as patent attorneys, patent office examiners, and judges.					
[Course schedule and contents]					
Session 1, April 8: Overview of Patent Law: Principles of the Patent System and Optimal Patent Strategy					
Session 2, April 15: Categories of invention and the efficacy of patent rights, the patentability of special forms of claim expression commonly used in chemical and bioscience patents (invention of use, product-by-process, function claims), and scope of rights concepts					
Session 3, April 22: What are inventions under Patent Law? Distinguishing between inventions and discoveries in chemistry and bioscience, discovery of a mechanism of action and patentability, the handling of methods of treatment in Japan, the US and Europe, the handling of inventions in regenerative medicine, and the handling of deliverables in clinical trials					
Continue to 特許法特論・演習（前期）(2) ↓↓↓					

## 特許法特論・演習（前期）(2)

Session 4, May 13: Description requirements (1): Description of specifications, requirements for implementation, examples of implementation (handling of experimental data, issues with the quantity or quality of experimental data, identifying measurement conditions, pharmaceutical invention and pharmacological data, optimal sensory evaluation, identification of commercially available materials, production of experimental data), microorganism banks system

Session 5, May 20: Description requirements (2): Description requirements in the scope of patent claims (clarity), points to take note of while drafting claims for chemical or bioscience technologies

Session 6, May 27: Novelty of invention: The relationship between subordinate and superordinate concepts, the relationship between the method of manufacture and invention of a product, the handling of numerically limited inventions, the handling of exceptions to loss of novelty in Japan, the US and Europe, exceptions to loss of novelty and the relationship between PCT applications and US applications

Session 7, June 3: Inventive step in an invention (1): The concept of inventive step in practice, motivations in judging an inventive step, hindering factors, what is hindsight, and the handling of well-known technologies and common general technical knowledge in inventive step judgments

Session 8, June 10: Inventive step in an invention (2): What is the unpredictability of the result of an invention, the concepts of ease of acquisition and obvious to try in chemical and bioscience-related inventions, the concept of selection invention and practical examples

Session 9, June 17: Prior applications: Articles 29 and 39 of the Patent Act, the relationship between superordinate and subordinate concepts, Article 39 and in-house prior application countermeasures

Session 10, June 24: Procedures that are important in practice (1): Procedural amendments and ideas for adding new items, new items and reasons for refusal or inefficacy, issues specific to chemistry and bioscience (numerical limitations, additions or deletions to experimental data etc.)

Session 11, July 1: Procedures that are important in practice (2): The basics and practical usage of special applications (divisional and domestic priority applications), use of the accelerated inspection system, systems for registering extensions to patent rights for pharmaceuticals and agricultural chemicals.

Session 12, July 8: Foreign Patent Strategy: Foreign patent application strategy, Paris Convention priority claims and foreign applications, the practice of PCT filing, and the costs and effects of filing overseas.

Session 13, July 15: Patent efficacy: The use of patent rights, licensing strategies: Licensing fundamentals, licensing practices, basic points in contracts, licenses, and MTAs

Session 14, July 22: Patent Infringement Litigation: The Practice and Current State of Patent Infringement Litigation (1): Overview of Patent Infringement Litigation Session 15, July 29: Patent Infringement Litigation: The Practice and Current State of Patent Infringement Litigation (2): Overview of Practices and Response as a Plaintiff or Defendant in Patent Infringement Litigation.

## [Course requirements]

This course is mandatory for IP, and an elective for MPH.

## [Evaluation methods and policy]

Class participation (including attendance) and Results of Examination after all Sessions.

## [Textbooks]

Handouts will be distributed as texts for each lecture.

The JPO text (2018 Text for Briefings on the Intellectual Property Rights System (for beginners)) shall be

Continue to 特許法特論・演習（前期）(3) ↓↓↓

## 特許法特論・演習（前期）(3)

used as a reference text.

No particular reference books are specified. Please refer to the following materials as examples.

## (Reference books)

- a) 企業実務家のための実践特許法 (Kigyou Jitsumuka no tame no Jissen Tokkyohou, Practical Patent Methods for the Actual Businessperson) (Hideaki Togawa, Chuo Keizaisha)
- b) 特許法 (Tokkyohou, 'Patent Methodology') (Shigeki Chaen, Yuhikaku)
- c) JPO Briefing Session Text JPO Website > Information > Event Information > JPO Briefings and Symposia > Briefing Session Text

## [References, etc.]

## (Reference books)

Introduced during class

## [Study outside of class (preparation and review)]

Students should read the relevant sections of the above JPO text that will be distributed, such as "Section 1: Overview of the Patent System."

## [Other information (office hours, etc.)]

- We recommend that students take "Fundamentals of Intellectual Property Management" alongside this course.

Human health science majors are eligible to participate in this course.

\*Please visit KULASIS to find out about office hours.

Course number	P-PUB01 8M025 SJ90			
Course title (and course title in English)	特許法特論・演習（後期） Special lecture and practicum for the Patent Law II		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Part-time Lecturer, TANAKA JUNYA
Target year	Professional degree students	Number of credits	2	Year/semesters 2020/Irregular, Second semester
Days and periods	水 6	Class style	special lecture	Language of instruction Japanese
<b>[Overview and purpose of the course]</b>				
Class overview • Learn about patent practice through exercises involving the identification of inventions that are a result of research on patent applications and the acquisition of patent rights, while focusing on the fields of chemistry and bioscience (life sciences). Understand the practicalities of patent strategy using specific examples of patent searches and patentability judgments, creation of specifications based on experimental data (invention description), and case studies.				
Methods of education and learning: • Lectures with PowerPoint presentations and exercises involving real examples • Case study lectures using case materials including self-study in advance				
<b>[Course objectives]</b>				
Course attainment goals (What you can expect to have learned by the end of this course) Deeper understanding of patent strategy in practice and knowledge and skills that form the fundamental requirements for such practice through seminars including personal learning and research.				
<b>[Course schedule and contents]</b>				
Session 1, October 7: How to Read and Write Patent Specifications (1): Explanation of how to read and write patent specifications with reference to actual patent specifications Session 2, October 14: How to Read and Write Patent Specifications (2): Explanation of how to read and write patent specifications with reference to actual patent specifications Session 3, October 21: How to Create a Patent Specification (Invention Description) (1): Identification and compilation of the essential parts of an invention based on simulated experimental data and scenarios up to the completion of the invention Session 4, October 28: How to Create a Patent Specification (Invention Description) (2): Identification and compilation of the essential parts of an invention based on simulated experimental data and scenarios up to the completion of an invention Session 5, November 4: How to Create a Patent Specification (Invention Description) (3): Identification and compilation of the essential parts of an invention based on simulated experimental data and scenarios up to the completion of an invention Session 6, November 11: How to Create a Patent Specification (Invention Description) (4): Identification and compilation of the essential parts of an invention based on simulated experimental data and scenarios up to the completion of an invention				
Continue to 特許法特論・演習（後期）(2) ↓ ↓ ↓				

特許法特論・演習（後期）(2)
Session 7, November 18: Key Points Concerning Patents in the field of Life Science (1) Session 8, November 25: Analyzing Patent Specifications (1): Analyze, present, and discuss patent specifications.
Session 9, December 2: Patent Search and Patentability Judgments (1): Choose a patent publication report, carry out a patent search and determine patentability, present, and discuss. Session 10, December 9: Patent Search and Patentability Judgments (2): Choose a patent publication report, carry out a patent search and determine patentability, present, and discuss.
Session 11, December 16: Key Points Concerning Patents in the field of Life Sciences (2) Session 12, January 6: Case Study (1): Discussion of examples of litigation to rescind trial decisions in bioscience and chemistry through individual learning and presentations. Session 13, January 13: Case Study (2): Discussion of examples of litigation to rescind trial decisions in bioscience and chemistry through individual learning and presentations.
Session 14, January 20: Practical Points in Patent Strategy in the field of Life Sciences (2) Session 15, January 27: Case Study (3): Discussion of examples of litigation to rescind trial decisions in bioscience and chemistry through individual learning and presentations.
<b>[Course requirements]</b>
Required course for IP and elective course for MPH. Students are expected to have completed "Advanced Patent Law and Practice (First semester)" in advance.
<b>[Evaluation methods and policy]</b>
Comprehensive evaluation of reports (presentations on topics) and participation in case studies.
<b>[Textbooks]</b>
Other required texts: None. The minimum required materials will be distributed during lectures. Recommended texts include: 特許の知識 (Tokkyo no Chishiki 'Knowledge of Patents') (Kazuhiko Takeda, Diamond Co.) 産業財産権標準テキスト特許編 (Sangyou Zaisan Hyoujyun Tekisuto Tokkyo-Hen 'Industrial Property Standard Text: Patents') (Japan Institute of Invention and Innovation) 知的財産権法文集 (Chiteki Zaisan Kempou Bunshuu 'Intellectual Property Rights Law, Collected Works') (Japan Institute of Invention and Innovation)
<b>[References, etc.]</b>
(Reference books) Introduced during class
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>
In order to give presentations on patent application publications and court judgments among other topics in class, students must study the cases thoroughly before attending class.
Continue to 特許法特論・演習（後期）(3) ↓ ↓ ↓

特許法特論・演習（後期）(3)
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>
• Learn about patent practice through exercises. Please consult with us first if you are unsure. • Those without basic knowledge of patents, please take the Advanced Patent Law and Practice (First semester) first. Human health science majors are eligible to participate in this course. *Please visit KULASIS to find out about office hours.

Course number	P-PUB01 8M004 SJ90			
Course title (and course title in English)	契約実務演習 Business Contract Practice		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Project Professor, ABE SEIJI Part-time Lecturer, SOJOYU ISAMU Graduate School of Medicine Program-Specific Professor SAOTOME CHIKAKO
Target year	Professional degree students	Number of credits	2	Year/semesters 2020/Irregular, Second semester
Days and periods	火 6	Class style	Seminar	Language of instruction Japanese
<b>[Overview and purpose of the course]</b>				
Course overview In practical situations such as intellectual property protection, effective use, and license, practical skill of contracts based on a basic understanding of contract law are required for more effective management, prevention of disputes, and the resolution of disputes. Students learn the basics of contract law, legal research methods, an overview of antitrust law and points to note in collaborative research agreements, patent licensing agreements etc., as well as basic skills for contract negotiations based on cases from the field of drug discovery.				
Methods of education and learning Participation in lectures and exercises				
<b>[Course objectives]</b>				
• Understand the basics of contract law. • Understand the point of contracts from their flow through to negotiation and ultimately to their conclusion. • Understand how to create a simple contract.				
<b>[Course schedule and contents]</b>				
Session 1, October 6 (Abe): Overview of Control Law Session 2, October 13 (Sojo): Intellectual Capital Management and Contracts Session 3, October 20 (Abe): Antitrust Law Session 4, October 27 (Abe): Contracts and Patents Session 5, November 10 (Abe): Confidentiality Agreements Session 6, November 17 (Abe): Material Transfer Agreements (MTAs) Session 7, November 24 (Saotome): Legal Search Session 8, December 1 (Saotome): Negotiation Techniques Session 9, December 8 (Abe): Joint Research and Development Agreements (1) Session 10, December 15 (Abe): Joint Research and Development Agreements (2) Session 11, December 22 (Abe): Joint Research and Development Agreements (3) Session 12, January 5 (Abe): Patent Licensing Agreements (1) Session 13, January 12 (Abe): Patent Licensing Agreements (2) Session 14, January 19 (Abe): Contract Negotiation Exercise (1) Session 15, January 26 (Abe): Contract Negotiation Exercise (2) *The schedule is subject to change based on the availability of external lecturers.				
Continue to 契約実務演習(2) ↓ ↓ ↓				

契約実務演習(2)	
<b>[Course requirements]</b> This course is mandatory for IP, and an elective for MPH. Students preferably have already taken or concurrently take the following courses: "Fundamentals of Intellectual Property Management" and "Advanced Patent Law and Practice."	
<b>[Evaluation methods and policy]</b> Class participation (including attendance), assignment submissions, participation in exercises, and presentations.	
<b>[Textbooks]</b> Other required texts: None. Materials will be provided by teaching staff Recommended textbook: "知つておきたい特許契約の基礎知識," (Shitte Okitai Tokkyo Keiyaku no Kiso Chishiki, Fundamental Knowledge on Patent Contracts Worth Knowing) National Center for Industrial Property Information and Training, Information and Training Center http://www.ipit.go.jp/	
<b>[References, etc.]</b> <b>(Reference books)</b> Introduced during class	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b> Indicated as appropriate.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b> Human health science majors are eligible to participate in this course (please contact us in advance). *Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course number		P-PUB01 8M007 SJ90			
Course title (and course title in English)	知的財産法演習 Practicum for Intellectual Properties Protection Law	Instructor's name, job title, and department of affiliation	Part-time Lecturer,TOMA HIROFUMI Part-time Lecturer,SOJYO ISAMU		
Target year	Professional degree students	Number of credits	2	Year/semesters	2020/Irregular, Second semester
Days and periods	月 6	Class style	Lecture	Language of instruction	Japanese
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
I. Course overview • Students are given an overview of how intellectual property in the fields of chemistry and biosciences (life sciences) is protected and used in Japan with reference to court cases. They also learn about the current state of the field and related issues. • Students get to analyze the essence of and trends visible in past judgments and learn the basic methodologies necessary to protect and utilize intellectual property properly. • Students learn about the current state of intellectual property in the field of life sciences.					
<b>[Course objectives]</b>					
II. Course attainment goals (What you can expect to have learned by the end of this course): • Together with analyzing key issues in important judgments to understand their logical significance, acquire the practical skills necessary to protect intellectual property appropriately through specific case exercises. • By studying the essence of past judgment cases and recent trends, acquire practical capabilities with respect to methods of protection and use of intellectual property specific to the life sciences field. • Further your understanding of the current state of intellectual property in field of life science.					
III. Methods of education and learning • Students will be taught through lectures relying on PowerPoint presentations and discussions and exercises using case materials.					
<b>[Course schedule and contents]</b> Session 1, October 5: Orientation and General Remarks Session 2, October 5: The Importance of Recognizing Inventors Session 3, October 12: Professor Sojyo: Aiming for Intellectual Capital Management Session 4, October 19: Professor Kumagai: The Role of Trial and Appeal Session 5, October 26: How to Read Trial Decisions and Judgments, The Judgment System Session 6, November 2: Litigation rescinding a trial decision (Novelty and inventive step) Session 7, November 9: Litigation rescinding a trial decision (Inventive steps) Session 8, November 16: Litigation rescinding a trial decision (Description requirements, amendments, and corrections) Session 9, November 16: Case Studies (Inventive steps) (Presentation and discussion) Session 10, November 30: Litigation rescinding a trial decision (Applications to register a patent term extension) Session 11, December 7: Patent Infringement Lawsuits (1): Efficacy of Patent Rights, the Technical Scope of Patented Inventions Session 12, December 14: Patent Infringement Lawsuits (2): Doctrine of Equivalence, Defense					
Continue to 知的財産法演習(2) ↓↓↓					

知的財産法演習(2)	
Session 13, December 14: Patent Infringement Lawsuits (3): Indirect Infringements Session 14, January 18: Case Study (Infringement litigation) (Presentation and discussion) Session 15, January 25: Professor Kumagai: The Patent System in General No examination	
*The schedule is subject to change based on the availability of external lecturers.	
<b>[Course requirements]</b> This course is mandatory for IP, and an elective for MPH.	
A basic knowledge of the practice of patent law (patent requirements, inspection criteria, etc.) is recommended. Students should have already taken or should concurrently take the following courses: "Advanced Patent Law and Practice" (first and second semesters).	
<b>[Evaluation methods and policy]</b> Comprehensive assessment will be made based on class participation (including attendance) and submission of assignment reports.	
<b>[Textbooks]</b> Other required texts: None. Necessary materials will be distributed during lectures. Recommended text: "別冊ジャーリスト 特許判例百選 第5版(No.244)" (Bettsban Juriyutsu Tokkyo Hanrei Hyakusen Dai Go Ban, The Jurist: 100 Selected Precedents on Patents' Supplementary Volume, 6th Ed.) (Issued August 2019)	
<b>[References, etc.]</b> <b>(Reference books)</b> Introduced during class	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b> Students should study the judgments to be introduced in lectures in advance and identify relevant issues.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b> • High-level expertise in chemistry, bioscience etc., is not required (technical content shall be explained as necessary). • Note that the lecture schedule is tentative and subject to change. • Consecutive lectures across Periods 5 and 6 shall be held on October 5, November 16, and December 14. Human health science majors are eligible to participate in this course.	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

未更新					
Course number		P-PUB01 8M017 LJ90			
Course title (and course title in English)	知的財産経営学 基礎 Intellectual Property Management in Medical Science		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Program-Specific Professor,SAOTOME CHIKAKO Part-time Lecturer,FUJII ATSUSHI Part-time Lecturer,TANAKA JUNYA	
Target year	Professional degree students	Number of credits	2	Year/semesters	2020/Irregular, First semester
Days and periods	火 6	Class style	Lecture	Language of instruction	Japanese
<b>[Overview and purpose of the course]</b> The course provides basic knowledge of patent and agreement of collaboration between academia and industry in life science area.					
<b>[Course objectives]</b> To learn about management of intellectual property in life science research. To learn about collaboration with industry.					
<b>[Course schedule and contents]</b> 1 April 9 Introduction 2 April 16 What is Intellectual property 3 April 23 Practice of patent 4 May 7 Patent description 5 May 14 Search of prior art (1) 6 May 21 Foreign patent application 7 May 28 Search of prior art (2) 8 June 4 Material Transfer Agreement 9 June 11 Collaborative research 10 June 18 Writing of laboratory notebook 11 June 25 Practice of making invention disclosure document (1) 12 July 2 Topics of patent in life science area 13 July 9 IP Strategy 14 July 16 Practice of making invention disclosure document (2) 15 July 23 Technology transfer and COI					
<b>[Course requirements]</b> Management of Technology and IP:selective, MPH:selective					
<b>[Evaluation methods and policy]</b> Attitude and attendance 40%, Presentation and reports 60%					
Continue to 知的財産経営学 基礎(2) ↓↓↓					

知的財産経営学 基礎(2)
<b>[Textbooks]</b> Not used
<b>[References, etc.]</b> <b>(Reference books)</b> 閇藏 康一『これからの生命化学研究者のためのバイオ特許入門講座』(羊土社) ISBN: 4897063590 廣瀬 隆行『企業人・大学人のための知的財産権入門 ー特許権を中心の一』(東京化学同人) ISBN:4807907565
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b> require preparation and review as appropriate.
<b>(Other information (office hours, etc.))</b> The class is open to students from Graduate School of Human Health Science. *Please visit KULASIS to find out about office hours.

Course number		P-PUB01 8M021 LJ90			
Course title (and course title in English)	アントレプレナーシップ特論 Special Lecture for Entrepreneurship		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Program-Specific Professor,SAOTOME CHIKAKO Graduate School of Medicine Project Professor,TERANISHI YUTAKA Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer,YAMAGUCHI TARO Graduate School of Management Program-Specific Assistant Professor,ICHIIHARA YUICHI	
Target year	Professional degree students	Number of credits	2	Year/semesters	2020/Intensive, First semester
Days and periods	Intensive	Class style	special lecture	Language of instruction	Japanese
<b>[Overview and purpose of the course]</b> The aim of this course is to learn business accounting through the business game. Each group consisting two students runs a manufacturing company, i.e. set up a plant, hire employees, make and sell products, and calculate the profit by making a financial statement. Some accident such as fire also occur.					
<b>[Course objectives]</b> Understand basis of business accounting.					
<b>[Course schedule and contents]</b> 1 August 1 Introduction 2 August 1 Description of rules of the game 3 August 1 Demo game 4-6 August 2 Business game I~III 7 August 2 Lecture of basis of accounting 8 August 2 Business management and investment 9-12 August 5 Business game IV~VII 13 August 5 Making presentation about results of the game 14 August 6 Lecture of management of venture business 15 August 6 Presentation about results of business game					
<b>[Course requirements]</b> MPH elective Attendance of all lecture is needed, because of practice of business game. Taking the Entrepreneurship is recommended.					
<b>[Evaluation methods and policy]</b> Attitude and attendance 40%, Presentation and reports 60%					
----- Continue to アントレプレナーシップ特論(2) ↓↓					

アントレプレナーシップ特論(2)
<b>[Textbooks]</b> Not used
<b>[References, etc.]</b> <b>(Reference books)</b>
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b> Students should understand rules of the game in advance, as we provide a rulebook and show the DVD before lecture.
<b>(Other information (office hours, etc.))</b> The class is open to students from Graduate School of Human Health Science. *Please visit KULASIS to find out about office hours.







# 2020年度人間健康科学系専攻科目及び他部局開講科目(公共政策大学院科目)における社会健康医学系専攻学生の受講について

## ◎人間健康科学系専攻科目

一部の科目を社会健康医学系専攻の学生が受講することを認めています。  
詳細は、KULASISで人間健康科学系専攻のシラバスをご参照ください。

## ◎公共政策大学院科目

以下の科目を社会健康医学系専攻の学生が受講することを認めています。  
詳細は、KULASIS で公共政策大学院のシラバスをご参照ください。

- ・公共政策論 A・B
- ・行政システム
- ・財政システム
- ・CS 予算と政策分析



科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」

推進事業 「公共圏における科学技術・教育研究拠点」

教育プログラム 授業科目

科目ナンバリング G-MED11 8Z069 LB90										
授業科目名 現代社会と科学技術A（政策） <英訳> Research Methods for Policy A				担当者所属・職名・氏名		医学研究科 教授 川上 浩司				
学年	1回生以上	単位数	1	開講年度・開講期	2020・前期	曜時限	木1	授業形態	演習	使用言語
<b>[授業の概要・目的]</b> 本講義は、「政策のための科学」プログラムの選択科目の1つである。 本講義は、現代社会と科学技術Bと一緒にした講義であり、受講者は原則として本講義を先に受講する必要がある。										
<b>[到達目標]</b> 「政策のための科学」プログラムにおいては、科学と社会、政策とを「つなぐ人材」の育成を目指している。この目標のために、様々な関連トピックを取り上げて、講師からの話題提供と、それに基づいた学生間のディスカッションを行い、科学の多様性と社会、政策を考えるための端緒とする。										
<b>[授業計画と内容]</b> 【予定・内容】 第1回[5/14] 大学における学問とは？分野融合・越境のダイナミクス（学際融合教育研究推進センター 準教授 宮野公樹） 第2回[5/21] 科学的方法について（学術情報メディアセンター 教授 小山田耕二） 第3回[5/28]現代社会の問題と政策のための科学的考え方（政策のための科学ユニット 特任教授 カール・ベッカー） 第4回[6/4]社会と科学の関わり方（iPS細胞研究所 準教授 田淵敬一） 第5回・第6回〔6/20〕現場から学ぶ政策のための科学・課題発表（14：45～18：00） 第7回[6/25]科学技術と大学の役割（経済研究所 準教授 関根仁博） 第8回[7/2]高騰する薬剤費と医療保険制度（iPS細胞研究所 特命講師 荒川裕司） 第9回[7/9]持続可能性と人口減少社会のデザイン（こころの未来研究センター 教授 広井良典） 第10回〔7/16〕トランザクション・コストと経済政策（経営管理大学院 教授 末広千尋） 第11回[7/30] 研究プロジェクト中間発表会（参考教員）  * 第5回・6回（6/20）は土曜日の実施となるため留意すること（14：45～18：00）										
<b>[履修要件]</b> 本講義は、現代社会と科学技術と一緒にした講義であり、受講者は原則として本講義を先に受講する必要がある。										
<b>[成績評価の方法・観点]</b> 平常点（出席及び演習への貢献度）、レポート（提出状況及び内容）により総合的に判断する。										
----- 現代社会と科学技術A（政策）(2)へ繋ぐ↓↓ -----										

現代社会と科学技術A（政策）(2)										
[教科書] 使用しない										
[参考書等] (参考書) 授業中に紹介する										
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b> 適宜予習復習を求める。										
<b>(その他（オフィスアワー等）)</b> 面談希望は必ずメールで kawakami.koji.4e@kyoto-u.ac.jpまでご連絡下さい。 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。										

科目ナンバリング G-MED11 8Z068 LB90										
授業科目名 現代社会と科学技術B（政策） <英訳> Research Methods for Policy B				担当者所属・職名・氏名		医学研究科 教授 川上 浩司				
学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2020・後期	曜時限	木4	授業形態	演習	使用言語
<b>[授業の概要・目的]</b> 本講義は、「政策のための科学」プログラムの必修科目の1つ（入門必修科目）である。 本講義は、現代社会と科学技術Aと一緒にした講義であり、受講者は現代社会と科学技術Aの講義から継続した受講が必要である。										
<b>[到達目標]</b> 「政策のための科学」プログラムにおいては、科学と社会、政策とを「つなぐ人材」の要請を目標としている。この目的のために、様々な関連トピックを取り上げて、講師からの話題提供と、それに基づいた学生間のディスカッションを行い、科学の多様性と社会、政策を考えるための端緒とする。										
<b>[授業計画と内容]</b> 【予定・内容】 *講師の都合により日程を変更することがある 第1回[10/1] 値値の対立と合意形成（人間・環境学研究科 教授 佐野亘） 第2回[10/8] 責任ある研究・イノベーションとは何か（大阪大学COデザインセンター 教授 平川秀幸） 第3回[10/15] 研究プロジェクト中間発表会（参考教員） 第4回[10/22] クリティカルシンキングの観点からみた科学技術と社会（文学研究科 準教授 伊勢田哲治） 第5回[10/29] 健康福祉政策と情報の利活用（医学研究科 教授 川上浩司） 第6回[11/5] データ可視化と政策立案（学術メディアセンター 教授 小山田耕二） 第7回[11/12] ビッドコインにおける非中央集権の理想と現実（公共政策大学院 教授 岩下直行）  第8回[11/19] まちづくり・地域づくりとソーシャル・キャビタル（経営管理大学院 農学研究科 特定教授 吉田恭） 第9回[11/26] 日本国直接支払制度の政策評価とその方法（農学研究科 教授 伊藤順一） 第10回 [12/3] 森林の生態系サービスと政策（情報学研究科 教授 大手信人） 第11回 [12/10] 技術の質の評価（工学研究科 教授 富田直秀） 第12回 [12/17] 医療費の増加と医療技術評価（慶應義塾大学経営管理研究科 準教授 後藤勲） 第13回 [12/24] 医療の経済評価：その現状と課題（医学研究科 教授 中山健 第14回[1/7] 移植医療の社会的価値（同志社大学商学部 準教授 瓜生原葉子） 第15回[1/14] 振り返りワークショップ（学際融合教育研究推進センター 準教授 宮野公樹）  第16回[1/21] 研究プロジェクト最終発表会（参考教員）										
<b>[履修要件]</b> 本コースは現代社会と科学技術入門と一緒にした講義であり、受講者は現代社会と科学技術入門の講義から継続した受講が必要である。										
----- 現代社会と科学技術B（政策）(2)へ繋ぐ↓↓ -----										

現代社会と科学技術B（政策）(2)										
[成績評価の方法・観点] 平常点（出席及び演習への貢献度）、レポート（提出状況及び内容）により総合的に判断する。										
[教科書] 使用しない 特になし										
<b>[参考書等]</b> (参考書) 授業中に紹介する										
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b> 特になし										
<b>(その他（オフィスアワー等）)</b> ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。										

科目ナンバリング G-MED11 8Z063 SB90											
授業科目名 <英訳>		科学技術イノベーション政策総合演習（政策 Advanced Seminar on Science, Technology and Innovation Policy）			担当者所属・職名・氏名		医学研究科 教授 川上 浩司				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2020・前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	講義	使用言語	日本語及び英語
<b>【授業の概要・目的】</b> 本講義は、「政策のための科学」プログラムのオリジナル科目の一つ(選択科目I:基軸科目群)である。プログラム1年目に履修することが望ましい。											
<b>【到達目標】</b> 当該分野の先端的な知見を得るとともに、様々な視点から検討する。問題分析や政策提言等のグループワークを通じて、得られた知識の応用力を高めるとともに、各拠点の学生間の知的交流を促進する。											
<b>【授業計画と内容】</b> 科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」基礎的研究・人材育成拠点(京都大学・大阪大学連携、政策研究大学院大学、東京大学、一橋大学、九州大学)合同の合宿セミナー。各拠点およびゲスト講師による講義とともに、共同で問題分析や政策提言等の作成を行うグループワークを行う。夏期休暇中に、2泊3日程度の合宿形式で行われる。											
本年度は9月17日から9月19日に、政策研究大学院大学での実施を予定している。尚、大阪大学にて9月4日に合宿事前ワークショップを開催する。											
<b>【履修要件】</b> プログラム1年目に履修することが望ましい。											
<b>【成績評価の方法・観点】</b> 成果物・提出物により、総合的に判断する。											
<b>【教科書】</b> 使用しない											
<b>【参考書等】</b> (参考書) 特になし											
<b>【授業外学修（予習・復習）等】</b> 特になし											
<b>（その他（オフィスアワー等））</b> 授業外学習については、受講生に対して事前に連絡する。 面談希望は必ずメールでkawakami.koji.4e@kyoto-u.ac.jpまでご連絡。											
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング G-MED11 8Z064 PB90											
授業科目名 <英訳>		研究プロジェクト（政策） Research project			担当者所属・職名・氏名		医学研究科 教授 川上 浩司				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2020・通年不定	曜時限	その他	授業形態	実習	使用言語	日本語及び英語
<b>【授業の概要・目的】</b> 本講義は、「政策のための科学」プログラムの必修科目の一つである。プログラム2年目に履修すること。											
<b>【到達目標】</b> 公共的視点から科学技術と政策や社会とをつなぐ活動や成果物の作成を行うことにより、自らの専攻分野を生かしつつ、プログラムで学んだ知識やスキルを活用する能力を獲得する。											
<b>【授業計画と内容】</b> 科学技術イノベーション政策に関する具体的なトピックと方法論を用いて、「政策のための科学」に関連する個人研究もしくは共同研究のプロジェクトを実施し、小論文・研究レポート（日英可）を作成する。それぞれの研究テーマや進捗に合わせ、プログラム関連教員による個別指導を中心進めること（プロジェクトの内容に関しては、各自の専門の学位論文に関連したもの可）。 1年次に研究計画を策定し、テーマ発表会を行う。 2年次に京都大・大阪大の合同発表会を実施する。 時期については追って説明する。											
<b>【履修要件】</b> 履修前に、所属研究科の指導教員、および、本科目の担当教員に、研究計画等について相談すること。 ※政策のための科学プロジェクト受講者のみ履修可。											
<b>【成績評価の方法・観点】</b> 成果物・提出物により、総合的に判断する。											
<b>【教科書】</b> 研究指導担当教員の指示による。											
<b>【参考書等】</b> (参考書) 研究指導担当教員の指示による。											
<b>【授業外学修（予習・復習）等】</b> 適宜予習復習を求める。											
<b>（その他（オフィスアワー等））</b> 研究指導担当教員の指示による。											
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング G-MED11 8Z065 SB90											
授業科目名 <英訳>		政策のための研究方法論（政策） Research Methods for Policy			担当者所属・職名・氏名		医学研究科 教授 川上 浩司 講師：Becker, Carl Bradley 特任教授 Becker, Carl Bradley				
配当学年	専門職	単位数	2	開講年度・開講期	2020・前期	曜時限	水3	授業形態	演習	使用言語	日本語及び英語
<b>【授業の概要・目的】</b> 本講義は、「政策のための科学」プログラムのオリジナル科目の一つ(選択科目II: イシュー科目群)である。											
社会政策を研究するためには、社会学、心理学、科学史、政治経済などの学問体系を股がらざるを得ない。本演習では、それぞれの学問領域の研究方法論を土台に、情報の検索・収集・分析から、論理構造や政策アリまで、学会発表を含め、高度な論文の研究法と書き方を目指して指導する。本演習によって、院生は信憑性と注目度の高い情報を直ぐに探し、自分の研究論文の先行研究として位置付けられる様になる。そして論文の論理的構築と標準的形式を理解して、研究論文や出版投稿論文の基礎知識を身に付ける。											
<b>【到達目標】</b> 本演習によって、学生は信憑性と注目度の高い情報を直ぐに探し、それらを自分の研究論文の先行研究として位置付けられるようになる。そして論文の倫理的構成と標準的形成を理解して、卒業論文や出版論文の基礎知識を身に付ける。											
<b>【授業計画と内容】</b> 下記の様な内容を毎週紹介し、それぞれに関する宿題と一緒に添削・訂正する: 1) オリエンテーション: メモの取り方、学術的集中法等 2) 研究テーマの選び方・絞り方・目的と研究題目 3) 論文調査の表現や注意点・中心的概念の定義の種類 4) 基礎文献の特定・確認・検索方法 5) Cini/Web of Scienceによる有用記事+目的の明瞭化 6) 書評で注目される著書の検索 7) 被引用件数で雑誌記事を検索 8) アブストラクトの使い方と書き方 9) アウトライン・目次・論理構造の形成 10) 新聞記事・大字広告(+文献表) 11) アウトライン・目次の実例再検討 12) 英語と日本語の博論・非売品・政府白書から科研・財団報告書 13) 目次の最終構成・文献表作成確認 14) 総まとめ・宿題提出 15) フィードバック											
<b>【履修要件】</b> 論文作成は、数冊の本を読めば出来る作業ではなく、広範囲な文献収集を要するので、計画的な時間配分を心がけられる大学院生を期待する。											
<b>【成績評価の方法・観点】</b> 中間の提出: 10%、学期末レポート試験: 30%、											

政策のための研究方法論（政策）(2)										
毎回の出席と宿題提出: 60%、と計算して評価する。 なお、5回以上授業を欠席した場合、単位は認められない。										
【教科書】 授業中に紹介・配布する。										
<b>【参考書等】</b> (参考書) 高橋昭男『仕事文の書き方』(岩波新書) 小笠原誠『読み書きの技法』(筑摩書房)										
<b>【授業外学修（予習・復習）等】</b> 授業外学修としては、毎回、受講者の研究テーマに関する作文か、図書館やデータベースで資料に基づく調査か、いざれかの作業を必要とする。毎週提出された作文や資料は、次週に返却され、その積み重ねで成果が上がってゆく。またディスカッションの種にもなるので、その予習と提出は欠かせない。										
<b>（その他（オフィスアワー等））</b> ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。										

科目ナンバリング G-MED11 8Z066 SB90										
授業科目名 「医療政策のELSI」 (政策) <英訳> ELSI in Health Policy				担当者所属・職名・氏名 医学研究科 教授 川上 浩司 准教授特任教授 Becker, Carl Bradley						
配当	専門職	単位数	2	開講年度・開講期	2020・後期	曜時限	水4	授業形態	演習	使用言語 日本語及び英語
【授業の概要・目的】										
本演習は「政策のための科学」プログラムのオリジナル科目の一つ (選択科目II : イシュー科目群)である。										
本演習は、倫理・法律・社会学（ELSI）の立場から高齢社会の問題を文化論的に探求する。例えばインフォームド・コンセント（治療選択・自己決定権）やTruth-Telling（告知）、情報の公開・透明性・所有権などを出発点として、公共資源分配と医療保険制度の問題点を提起し、また公共倫理の思考法の問題点も検討する。										
【到達目標】										
マニュアルやルールブックによる絶対唯一の正解ではなく、その文化と状況に応じて最も相応しい倫理行動を探る。頭の訓練を繰り返す。コンフリクトに出遭う時、狭い主観的な見地から、より多元・多様な見解・理解ができるようになることは、本授業の取り上げる問題解決のみならず、今後の人生に於いても有益なスキルになると期待される。										
【授業計画と内容】										
下記の様な内容を毎週紹介し、それぞれに関する宿題と一緒に添削する: 第1回 自己紹介と生年命理の紹介：倫理とは？政策のELSIとは？ 第2回 症例紹介とその分析法・ステークホルダー論 第3回 人口と医療福祉費配分問題 第4回 家庭内暴力・虐待 第5回 重大欠陥新生児 第6回 障害者福祉 第7回 致命的選択/優先順位 第8回 QALYs医療政策 第9回 ACP・AD・POLSTと尊厳死・安楽死・自死 第10回 脳死・臓器移植 第11回 死別と悲嘆のケア 第12回 自己健康管理 第13回 動物実験・研究倫理とCOI 第14回 総まとめ 第15回 フィードバック										
【履修要件】										
特になし										
-----「医療政策のELSI」(政策)(2)へ続く↓↓										

「医療政策のELSI」(政策)(2)										
【成績評価の方法・観点】										
平常点評価 出席40%、中間課題20%、期末課題40%										
【教科書】										
多くのビデオや参考資料を授業中に紹介する										
【参考書等】										
(参考書)										
【授業外学修（予習・復習）等】										
毎回、宿題を提出してもらい、前回の宿題を返却する。 その積み重ねの過程によって、スキルが身に付くので、途中で休んだりすると、次の段階が分からなくなる。 よって、毎回の出席と宿題提出が重要になる。										
【その他（オフィスアワー等）】										
オフィスアワーは毎週の火曜日、及び院生の希望に応じて聞く。 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。										

科目ナンバリング G-MED11 8Z067 SJ90										
授業科目名 科学技術コミュニケーション演習(政策) <英訳> Science, Technology and Communication Seminar				担当者所属・職名・氏名 医学研究科 教授 川上 浩司						
配当	専門職	単位数	2	開講年度・開講期	2020・通常不定	曜時限		授業形態	演習	使用言語 日本語
【授業の概要・目的】										
本講義は「政策のための科学」プログラムの必修科目の1つ（必修科目）である。 「政策のための科学」プログラムにおける研究プロジェクトを進めるうえで必要となる、問い合わせ方、仮説検証に関する方法論、プレゼンテーションスキルの習得等を目的とする。あわせて、受講生におけるディスカッションを通じて、研究に関する批判的思考能力を涵養する。										
【到達目標】										
科学技術を巡る社会的課題を各分野における分析のフレームワークで捉え、政策分析手法によって論理的に論じられることを到達目標とする。受講生におけるディスカッションによって、実践的能力の習得を目指す。										
【授業計画と内容】										
受講生は事前に発表等の準備を行うこと、また、ディスカッションには積極的に参加することを期待する。										
【予定・内容】										
前期・後期に渡り、以下15回を予定する。具体的な日程は、講義開始前に連絡予定。										
◇前期										
第1回 ユニットオリエンテーション (5/14)にて講義概要を説明。 第2回から第3回 問いの立て方・議題検討 課題:各自のテーマの建て方と絞り方を一緒に検討する。 第4回～第7回 先行研究の収集方法・分析法、レビュー 課題:上記を含むプレゼン用意する。										
◇後期										
第8回～第11回 科学的政策分析の手法 課題:研究プロジェクトで用いる論理と分析手法を確認し合う。 第12回～第15回 効果的なプレゼンテーション術 課題:研究の状況をパワーポイントにまとめ、発表の準備を行う。										
【履修要件】										
特になし										
【成績評価の方法・観点】										
中間(2-3回)の発表:計25%、期末発表:15%、毎回の出席と宿題提出:60%、と計算して評価する。 なお、4回以上授業を欠席した場合、単位は認めない。										
-----「科学技術コミュニケーション演習(政策)(2)へ続く↓↓										

科学技術コミュニケーション演習(政策)(2)										
【教科書】										
使用しない										
【参考書等】										
(参考書)										
【関連URL】										
<a href="https://scirex-core.grips.ac.jp/">https://scirex-core.grips.ac.jp/</a>										
【授業外学修（予習・復習）等】										
特になし。										
【その他（オフィスアワー等）】										
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。										

「グローバルヘルス学際融合ユニット」

教育プログラム 授業科目

科目ナンバリング P-PUB01 8Z203 LB90										
授業科目名 グローバルヘルス通論 <英訳> Global health				担当者所属・職名・氏名 医学研究科 教授 中山 健夫 医学研究科 助教 POUDYAL, Hemant						
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2020・後期	曜时限	水3	授業形態	講義	使用言語
<b>[授業の概要・目的]</b>										
*This course is offered by the Global Health Interdisciplinary Unit (GHIU)										
This course includes a wide variety of classes to provide students with insight into the current challenges for global health. Students will be introduced to the socio-cultural, economic, political, and environmental factors that affect the health of populations globally. A series of guest speakers will be drawn from diverse fields to share their expertise.										
<b>[到達目標]</b>										
To gain an understanding of why tackling global health issues is such an important endeavor with the potential to reduce poverty, build stronger economies and promote peace.										
<b>[授業計画と内容]</b>										
後期水曜日3限目 医学部先端科学研究棟1階小セミナー室 Wednesday, 13:00 to 14:30 (3rd period) Medicine Campus, Science Frontier Laboratory, Small Seminar Room 1F										
In principle, we will cover the following topics: 1.Introduction: Why study global health? 2.Understanding the social determinants of health 3.Achieving the health-related Sustainable Development Goals 4.Infectious Disease 5.Non-communicable diseases 6.Sexual and Reproductive Health 7.Global Health and Medical Anthropology 8.The Environment and Health 9.Human Ecology and Global Health 10.Role of Innovation and Technology in Changing People's lives 11.Global Health and Aging 12.Migration and Global Health 13.Natural Disasters and Global Health Challenges 14.Public-Private Partnership in Global Health 15.Feedback										
<b>[履修要件]</b>										
特になし										
<b>[成績評価の方法・観点]</b>										
- Lectures, discussion										
----- グローバルヘルス通論(2)へ続く ↓↓↓										

<b>グローバルヘルス通論(2)</b>
- Class participation (30%)
- Final report (70%)
<b>[教科書]</b>
使用しない There is no official textbook for this course
<b>[参考書等]</b>
(参考書) Skolnik, Richard 『Global Health 101 (3rd ed.)』 (Jones and Bartlett Publisher) Skolnik R (著), 木原 正 (監訳), 木原 雅 (監訳) 『グローバルヘルス : 世界の健康と対処戦略の最新動向』 (メディカル・サイエンス・インナショナル) Additional readings may be suggested when necessary
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b>
Require preparation and review for each class.
<b>(その他（オフィスアワー等）)</b>
Students may contact the instructor by email (medsocio.kyodai@gmail.com)
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。